

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2018 経営学部 授業計画
経営情報学科

經 營 学 部

(学部略号：I)

Faculty of Business Administration

経営情報学科

(学科略号：S)

Department of Business Administration and Information

経営学部（共通）

◎教育研究上の目的

現代企業社会で活躍できる経営に関する基礎的な知識・技能を十分に身につけるとともに、幅広い教養をあわせ持ち、物事を論理的に分析し実践に移すことのできる知的専門職業人を養成する。

経営情報学科

◎教育研究上の目的

企業経営に関する情報の収集、分析、活用のための知識と技能を身につけるとともに、幅広い教養をあわせ持ち、自律的・主体的に企業経営の一翼を担うことのできる実行力ある知的専門職業人を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（経営学）の学位を授与します。

■知識・理解

[DP1] 社会人として必要な教養と知的専門職業人として活躍するための基盤となるマーケティング・経営情報技術などの経営諸科学に関する基礎知識を身につけている。(一般教養・基礎的経営専門知識)

■思考・判断

[DP2] 企業を含む組織における一連の意思決定プロセスにおいて必要となる、
①問題発見能力②問題解決に向け必要となる情報の収集・選別・分析力③それらを踏まえた計画の立案と実施に係る思考力・判断力・実践力を身につけている。(問題発見能力、情報の収集力と分析力、実践力)

■関心・意欲・態度

[DP3] 社会・組織の規範を守り、組織の一員として主体的かつ協働して組織の価値向上に努める態度と意欲を身につけている。(社会規範、多様性の理解、チームワークとリーダーシップ)

[DP4] 企業を含む組織が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけている。(グローバルかつ地域社会への関心、問題解決に取り組む態度、問題解決に必要な知識・スキル修得への意欲)

■技能・表現

[DP5] ビジネス・パーソンとして活躍するための前提となるコミュニケーション能力とICT活用能力を身につけている。(コミュニケーションおよび情報に関するリテラシー)

◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

- ①企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野をもつビジネス・パーソンを育成するため、外国語・数学などの「基礎科目」、人文系・社会系・自然系・地域志向系・教養特別科目の5つの系から構成される「教養科目」、卒業後の人生設計を念頭におき大学4年間で修得すべき「キャリア形成科目」および企業経営に密接に関連する「法律科目群」を配置する。
- ②マーケティングおよびビジネス ITに関する専門知識をステップアップ的に修得するため、1年次から2年次にかけて「専門基礎科目群」を、(1)マーケティングコースおよび(2)ビジネス IT コースのいずれかのコースを選択する2年次からは各「コース固有科目群」を、3年次からをそれぞれ「専門科目」として配置する。

■思考・判断

- ③問題発見能力、情報の収集・選別・分析能力を身につけるため、1年次から2年次にかけて「専門基礎科目群」、2年次からはマーケティングコースおよびビジネス IT コースに関する各「コース固有科目群」をそれぞれ「専門科目」として配置する。
- ④企業経営の意思決定に際して必要となる思考力・判断力・実践力を身につけるため、3年次から理論科目との双方向での同時学修を念頭においた「応用・実践科目群」を「専門科目」として配置する。

■関心・意欲・態度

- ⑤社会規範を順守し、また多様性が理解でき、協調性とリーダーシップといった資質を身につけるため、「法律科目群」および少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。
- ⑥常に企業社会に関心の目を向け、課題解決に自ら進んで取り組み、また課題解決に必要な知識とスキルの修得に意欲をもやす態度・姿勢を身につけるため、少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

■技能・表現

- ⑦企業活動において必須なコミュニケーション能力と情報に関するリテラシーを修得するため、少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

◎アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

- ①経営学部で学ぶ諸科目を修得するために必要な基礎的教養・知識である「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」などの高等学校の教育課程を幅広く修得している。

■思考・判断

- ②「国語」、「英語」の読解力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。
- ③「数学」の解析力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。

■ 関心・意欲・態度

- ④「地理歴史」、「公民」の学修を通じて、現代の企業が抱える多様な諸課題に関心を持ち、経営に関する専門知識と情報スキルの向上に意欲があり、その目標達成に向け、自ら進んで学修することができる。
- ⑤課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。
- ⑥ディプロマ・ポリシーを理解し、本学科への入学を強く希望している。

■ 技能・表現

- ⑦他者との交流を通じて自分自身を成長させることのできるコミュニケーション能力を有している。
- ⑧取得した資格やスポーツの経験などを通じて特定の分野において自慢できる能力や技能を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
ア		
I C T 概論	針尾大嗣	11
イ		
インターネット概論	針尾大嗣	13
インターンシップ基礎	石井三恵	441
エ		
英語 I a	松木園久子	175
英語 I a	山本尚子	176
英語 I a	西谷継治	177
英語 I a	中野華子	179
英語 I b	皆本智美	180
英語 I b	永富真梨	182
英語 I b	ジェフリー ベル	184
英語 I b	グラント パーミンハム	186
英語 I c	松木園久子	188
英語 I c	山本尚子	189
英語 I c	西谷継治	190
英語 I c	中野華子	192
英語 I d	皆本智美	193
英語 I d	永富真梨	195
英語 I d	ジェフリー ベル	197
英語 I d	グラント パーミンハム	199
英語 II a	松井信義	201
英語 II a	中本明子	202
英語 II a	山本尚子	204
英語 II a	谷脇康子	205
英語 II b	ヘドリックⅢ ロイ	206
英語 II b	松井信義	207
英語 II b	有本好一郎	208
英語 II b	梅田尋道	209
英語 II c	松井信義	211
英語 II c	中本明子	212
英語 II c	山本尚子	214
英語 II c	谷脇康子	215
英語 II d	ヘドリックⅢ ロイ	216
英語 II d	松井信義	217
英語 II d	有本好一郎	218
英語 II d	梅田尋道	219
英語コミュニケーション I	アサー ロングス	221
英語コミュニケーション II	アサー ロングス	222
演習 I	針尾大嗣	15
演習 I	堀井千夏	16
演習 I	久保貞也	17
演習 I	武居奈緒子	18
演習 I	栢木紀哉	19
演習 I	鶴坂貴恵	20
演習 I	山本圭三	21
演習 I	牧野幸志	22
演習 I	北村浩	23

科目名	担当者	ページ
演習 I	樋口友紀	24
演習 I	橋本はる美	25
演習 II	堀井千夏	26
演習 II	久保貞也	27
演習 II	武居奈緒子	28
演習 II	針尾大嗣	29
演習 II	栢木紀哉	30
演習 II	鶴坂貴恵	31
演習 II	山本圭三	32
演習 II	牧野幸志	33
演習 II	北村浩	34
エンプロイメントデザイン I	石井三恵	442
エンプロイメントデザイン II	水野武	444

カ

海外語学研修	鳥居祐介	223
海外ビジネスインターンシップ	佐井英子	283
会社法	高田尚彦	35
会社法 I	高田尚彦	37
会社法 II	高田尚彦	39
科学技術教養 (V 1)	西村仁	284
科学技術教養 (V 2)	青笹治	286
科学技術教養 (R 1)	大橋巧	288
科学技術教養 (R 2)	大橋巧	290
科学技術教養 (A 1)	宮本征一	291
科学技術教養 (A 2)	宮本征一	292
科学技術教養 (M 1)	堀江昌朗	293
科学技術教養 (M 2)	諏訪晴彦	294
科学技術教養 (E 1)	片田喜章	296
科学技術教養 (E 2)	片田喜章	297
科学技術教養 (C 1)	伊藤讓	299
科学技術教養 (C 2)	伊藤讓	300
科学技術教養 (T 1)	長島健	301
科学技術教養 (T 2)	島田伸一	303
科学技術教養 I~IV (V 1)	西村仁	305
科学技術教養 I~IV (V 2)	青笹治	307
科学技術教養 I~IV (R 1)	大橋巧	309
科学技術教養 I~IV (R 2)	大橋巧	311
科学技術教養 I~IV (A 1)	宮本征一	313
科学技術教養 I~IV (A 2)	宮本征一	314
科学技術教養 I~IV (M 1)	堀江昌朗	315
科学技術教養 I~IV (M 2)	諏訪晴彦	316
科学技術教養 I~IV (E 1)	片田喜章	318
科学技術教養 I~IV (E 2)	片田喜章	319
科学技術教養 I~IV (C 1)	伊藤讓	321
科学技術教養 I~IV (C 2)	伊藤讓	322
科学技術教養 I~IV (T 1)	長島健	323
科学技術教養 I~IV (T 2)	島田伸一	325
環境と現代社会	井上尚之	327

キ

企業者史 I	佐藤正志	41
--------	------	----

科目名	担当者	ページ
企業簿記	呉 重 和	42
基礎演習	久 保 貞 也	44
基礎演習	針 尾 大 嗣	45
基礎演習	堀 井 千 夏	46
基礎演習	牧 野 幸 志	47
基礎演習	武 居 奈 緒 子	48
基礎演習	樋 口 友 紀	49
基礎演習	橋 本 はる美	50
基礎演習	田 中 祥 司	51
北河内を知る	荻 田 喜 代 一	328
キャリアデザイン	石 井 三 恵	446
キャリアプラン	水 野 武	448
教育課程論	大 野 順 子	467
教育経営論	朝 日 素 明	469
教育原理	小 山 裕 樹	471
教育実習Ⅰ	朝 日 素 明	473
教育実習Ⅱ	朝 日 素 明	474
教育実習Ⅲ	朝 日 素 明	475
教育社会学	大 野 順 子	476
教育心理学	吉 田 佐 治 子	478
教育相談	吉 田 佐 治 子	479
教育方法論	林 茂 樹	480
教職実践演習(中・高)	小 山 裕 樹	482
教師論	朝 日 素 明	484
近代文学から学ぶ	橋 本 正 俊	330

ク

くらしと経済	杉 本 篤 信	331
グローバルな視点から多文化共生を考える	糟 谷 英 之	332
グローバルビジネス	畠 山 俊 宏	52

ケ

経営学	畠 山 俊 宏	53
経営学Ⅰ	畠 山 俊 宏	55
経営学Ⅱ	北 真 収	56
経営学特講Ⅰ	鶴 坂 貴 恵	58
経営管理論	林 正 浩	59
経営管理論	畠 山 俊 宏	61
経営史	佐 藤 正 志	63
経営情報システムⅠ	久 保 貞 也	64
経営情報システムⅡ	栢 木 紀 哉	66
経営統計学	栢 木 紀 哉	67
経営とリスク	久 保 貞 也	68
経済学入門	杉 本 篤 信	69
現代韓国事情	田 中 悟	333
現代ビジネス論	牧 美 喜 男	335

コ

公衆衛生学	小 堀 栄 子	337
コミュニケーション能力開発	橋 本 朗 子	449
コンテンツビジネス	針 尾 大 嗣	70
コンピュータサイエンス	北 村 浩	72

科目名	担当者	ページ
Conflictの表象-20世紀マンガ・アニメの文化誌-	橋 本 正 俊	338

サ

財務諸表論入門	佐 井 英 子	74
---------	---------	----

シ

市場調査実習Ⅰ	山 本 圭 三	76
市場調査実習Ⅱ	山 本 圭 三	77
市場調査入門	牧 野 幸 志	78
市場調査法	山 本 圭 三	79
自然地理学	手代木 功 基	339
社会科・公民科教育法Ⅰ	大 野 順 子	486
社会科・公民科教育法Ⅱ	大 野 順 子	488
社会科・地歴科教育法Ⅰ	井 上 正 英	490
社会科・地歴科教育法Ⅱ	井 上 正 英	491
社会学Ⅰ	武 田 祐 佳	341
社会学Ⅱ	山 本 圭 三	342
就職実践基礎	橋 本 朗 子	343
就職実践基礎	山 岡 亮 太	344
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	345
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	346
生涯スポーツ実習(ゴルフ)	近 藤 潤	224
生涯スポーツ実習	横 山 喬 之	225
商業科教育法	久 井 孝 則	492
消費者行動論	武 居 奈 緒 子	80
情報科教育法	栢 木 紀 哉	494
情報社会論	北 村 浩	81
情報と職業	北 村 浩	83
情報ネットワーク	堀 井 千 夏	85
情報倫理	堀 井 千 夏	87
職業指導Ⅰ	水 野 武	496
職業指導Ⅱ	水 野 武	497
職業能力開発	水 野 武	89
職業能力開発	水 野 武	450
人文地理学	柴 田 陽 一	347
心理学Ⅰ	山 本 雅 代	348
心理学Ⅱ	山 本 雅 代	350

ス

数学基礎Ⅰ	早 石 典 史	227
数学基礎Ⅰ	神 貞 介	228
数学基礎Ⅱ	早 石 典 史	229
数学基礎Ⅱ	神 貞 介	230
数的能力開発	橋 本 朗 子	451
数的能力開発	亀 田 峻 宣	452
数的能力開発	山 岡 亮 太	453
数的能力開発	津 村 忠	454
スポーツ科学実習Ⅰ	横 山 喬 之	231
スポーツ科学実習Ⅱ	横 山 喬 之	233
住まいとデザイン	大 高 和 香	352

科目名	担当者	ページ
セ		
政治学概論Ⅰ	和田 泰一	353
政治学概論Ⅱ	和田 泰一	355
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英一	357
生徒指導論	朝日 素明	498
世界の歴史	村上 司樹	358
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本 正治	359
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田 裕子	360
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野 英一	361
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保 貞也	362
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂 貴恵	363
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	尾山 廣	364
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	居場 嘉教	365
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色 美博	366
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	大田 住吉	367
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木 紀哉	368
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井 信輝	369
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	水野 武	370
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	上野山 裕士	371
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	吉田 佐治子	372
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林 真美	373
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本 正治	374
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田 裕子	375
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野 英一	376
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	久保 貞也	377
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	鶴坂 貴恵	378
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	尾山 廣	379
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	居場 嘉教	380
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	一色 美博	381
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	大田 住吉	382
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	栢木 紀哉	383
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石井 信輝	384
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	水野 武	385
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	上野山 裕士	386
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	吉田 佐治子	387
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	藤林 真美	388
専門基礎演習	久保 貞也	90
専門基礎演習	針尾 大嗣	91
専門基礎演習	堀井 千夏	92
専門基礎演習	牧野 幸志	93
専門基礎演習	武居 奈緒子	94
専門基礎演習	樋口 友紀	95
専門基礎演習	橋本 はる美	96
専門基礎演習	田中 祥司	97
専門日本語Ⅰ	佐々木 成美	235
専門日本語Ⅱ	門脇 薫	236
専門日本語R	佐々木 成美	237
ソ		
ソーシャル・イノベーション実務総論	石井 三恵	389
卒業研究	堀井 千夏	98

科目名	担当者	ページ
卒業研究	久保 貞也	99
卒業研究	武居 奈緒子	100
卒業研究	針尾 大嗣	101
卒業研究	栢木 紀哉	102
卒業研究	鶴坂 貴恵	103
卒業研究	山本 圭三	104
卒業研究	牧野 幸志	105
卒業研究	樋口 友紀	106
タ		
大学教養入門	荻田 喜代一	391
ダイバーシティとコミュニケーション	石井 三恵	393
チ		
地域貢献実践演習	鶴坂 貴恵	395
地域と私	鶴坂 貴恵	396
地域連携教育活動Ⅰ	吉田 佐治子	398
地域連携教育活動Ⅱ	吉田 佐治子	399
チームビルディング	水野 武	400
地誌学	中山 穂孝	401
知的財産管理論	林 正浩	107
中国語を聞くa	小都 晶子	238
中国語を聞くb	小都 晶子	239
中国語を話すa	段 飛虹	240
中国語を話すb	段 飛虹	242
地理学Ⅰ	手代木 功基	402
地理学Ⅱ	柴田 陽一	404
テ		
哲学Ⅰ	貫井 隆	405
哲学Ⅱ	濱 良祐	407
ト		
道徳教育の研究	小山 裕樹	499
特別活動の理論と方法	林 茂樹	501
ニ		
日本語会話Ⅰ	藤原 京佳	244
日本語会話Ⅱ	藤原 京佳	245
日本語会話R	藤原 京佳	246
日本国憲法	大仲 淳介	409
日本語総合Ⅰ	古川 由理子	247
日本語総合Ⅱ	古川 由理子	248
日本語総合R	古川 由理子	249
日本語読解Ⅰ	佐々木 成美	250
日本語読解Ⅱ	佐々木 成美	251
日本語読解R	佐々木 成美	252
日本語能力開発Ⅰ	澤野 加奈	455
日本語能力開発Ⅰ	上島 誠司	456
日本語能力開発Ⅰ	高嶋 藍	457
日本語能力開発Ⅱ	澤野 加奈	458
日本語能力開発Ⅱ	久田 行雄	459

科目名	担当者	ページ
日本語能力開発Ⅱ	高 嶋 藍	460
日本語表現作文 F I	佐々木 成 美	253
日本語表現作文 F II	佐々木 成 美	254
日本語表現作文 R	佐々木 成 美	255
日本語表現法 I	澤 野 加 奈	256
日本語表現法 I	上 島 誠 司	257
日本語表現法 I	高 嶋 藍	258
日本語表現法Ⅱ	澤 野 加 奈	259
日本語表現法Ⅱ	久 田 行 雄	260
日本語表現法Ⅱ	高 嶋 藍	261
日本語文法 F I	佐々木 成 美	262
日本語文法 F II	佐々木 成 美	263
日本語文法 R	佐々木 成 美	264
日本事情 F I	梅 野 将 之	265
日本事情 F II	門 脇 薫	266
日本事情 R I	梅 野 将 之	267
日本事情 R II	門 脇 薫	268
日本の歴史	高 木 純 一	411

ネ

ネットワーク運用管理	堀 井 千 夏	109
------------	---------	-----

ノ

脳の情報処理	寺 内 睦 博	413
--------	---------	-----

ハ

犯罪被害者の支援と法的救済	小 野 晃 正	414
---------------	---------	-----

ヒ

ビジネス IT 演習	久 保 貞 也	111
ビジネスイングリッシュ I	李 孝 聖	269
ビジネスイングリッシュⅡ	李 孝 聖	271
ビジネスインターンシップ I	石 井 三 恵	461
ビジネスインターンシップⅡ	石 井 三 恵	462
ビジネスシミュレーション	久 保 貞 也	112
ビジネス情報処理 I	栢 木 紀 哉	113
ビジネス情報処理 I	藤 木 健 史	115
ビジネス情報処理Ⅱ	橋 本 はる美	117
ビジネス情報処理Ⅱ	藤 木 健 史	119
ビジネス中国語基礎 a	兪 鳴 蒙	273
ビジネス中国語基礎 b	小 都 晶 子	275
ビジネス中国語基礎 c	欒 玉 璽	277
ビジネス中国語基礎 d	小 都 晶 子	278
ビジネスデータ分析	針 尾 大 嗣	121
ビジネスプラン	林 正 浩	123
ビジネスプランニング	林 正 浩	125
ビジネスマナー	奥 田 和 子	416
ビジネスマナー I	奥 田 和 子	463

フ

ブランド戦略	鶴 坂 貴 恵	127
プレゼンテーション論	石 井 三 恵	418

科目名	担当者	ページ
プログラミング	橋 本 はる美	129
プログラミング I	橋 本 はる美	131
プログラミングⅡ	久 保 貞 也	132
プロジェクトマネジメント	北 村 浩	133
プロポーザル・デザイン	北 村 浩	420
文学から学ぶ	橋 本 正 俊	422

へ

ベンチャービジネス論	畠 山 俊 宏	135
------------	---------	-----

ホ

貿易実務	鈴 木 和 巳	137
貿易と金融	杉 本 篤 信	139
法学入門	小 島 俊 朗	423
簿記入門	呉 重 和	140
保健論	吉 川 万 紀	279

マ

マーケティング演習	田 中 祥 司	142
マーケティング概論	鶴 坂 貴 恵	144
マーケティングサイエンス	樋 口 友 紀	146
マーケティング情報解析	樋 口 友 紀	147
マーケティング戦略論	田 中 祥 司	148
マーケティングと歴史	武 居 奈 緒 子	424
マーケティング論	樋 口 友 紀	150
マクロ経済学	杉 本 篤 信	152
マネジメントサイエンス	栢 木 紀 哉	153
マルチメディア処理 I	堀 井 千 夏	154
マルチメディア処理Ⅱ	堀 井 千 夏	156

ミ

ミクロ経済学	岩 坪 加 紋	158
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	425
民法	大 川 謙 蔵	159
民法 I	大 川 謙 蔵	161

メ

メディア戦略論	針 尾 大 嗣	163
メディアと社会	北 村 浩	165

モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥 野 竜 平	427
ものづくりインターンシップ基礎	諏 訪 晴 彦	429
ものづくりインターンシップ実践	奥 野 竜 平	430
ものづくり海外インターンシップ	諏 訪 晴 彦	432

ヤ

役立つ金融知力	陸 川 富 盛	433
---------	---------	-----

ラ

ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	435
-------------	---------	-----

リ

リテールマーケティング	武 居 奈緒子	167
流通システム論	久 保 貞 也	168
流通情報システム論	久 保 貞 也	169
倫理学	有 馬 善 一	436

ロ

労働法	川 谷 道 郎	170
労働法 I	川 谷 道 郎	171
労働法 II	川 谷 道 郎	172

專 門 科 目

科目名	ICT概論	科目名(英文)	Introduction to Information and Communications Technology
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>本講義では、いまやあらゆる産業・業界において重要なビジネス基盤となったインターネットの仕組みとその役割について、マーケティング学と情報通信システム学による文理総合的な解説を行っていく。前半は、企業の経営活動、特にマーケティングとICTとの関係について、中盤は、情報通信と情報サービスの技術的な仕組みについて、後半は、ICTの社会的課題について取り上げる。</p> <p>講義の主な目的は、ICTが単なる日常のコミュニケーションや情報サービスを利用するための道具ではなく、多様化・細分化が進む市場を相手とする企業の経営活動において絶対不可欠な技術であることを初年時の文系学生が理解し、本学科が提供するICT関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義を学ぶことである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科が提供するICT関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義について簡潔に説明できるようになる。 ・日常で利用しているPCやスマートフォンを使った情報サービスがどのように提供されているのか、その仕組みと要素技術について基本的な説明ができる知識を習得する。
授業方法と留意点	<p>教材資料を事前配布し、それをノートとして用いる。講義では、資料解説を中心とする。また定期的にスマートフォン、携帯電話を使った実習も行う。教材資料は、学内ポータルサイトの教材フォルダに上げており、受講生は各自印刷しておく必要がある。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。</p> <p>ITパスポート試験・基本情報技術者試験などIT系の資格を取得するのに関連する科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・講義の目的、進め方 ・日常の中のICT ・経営学としてICTを学ぶことの意義・目的	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
2	ICTとは	主に以下について取り上げる。 ・ICTとは何か ・世の中の情報サービス ・企業の情報システム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	インターネットの歴史	主に以下について取り上げる ・インターネットの起源 ・インターネット通信の特徴 ・インターネット通信と電話の違い	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	ICT時代の消費者市場	主に以下について取り上げる ・高度経済成長時代の消費者ニーズと物作り ・成熟経済時代の消費者ニーズと物作り ・ICTで変わる消費者行動	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	マーケティングとICT	主に以下について取り上げる ・マーケティングの昔と今 ・テレビ広告とスマホ広告 ・ポイントカードと顧客データ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	コンピュータの仕組み	主に以下について取り上げる ・コンピュータの基本構造 ・家庭内ネットワーク(LAN)の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	インターネットの仕組み	主に以下について取り上げる ・インターネットを構成する情報システムの役割と機能 ・パケット通信 ・IPアドレス ・ルータ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	Webサイトの仕組み	主に以下について取り上げる ・Webサイトに繋がる技術的仕組み ・WWW ・ドメイン ・DNS	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	携帯電話通信の仕組み	主に以下について取り上げる ・携帯電話が繋がる仕組み ・無線通信技術各種 ・位置情報システム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	携帯電話とスマートフォン	主に以下について取り上げる ・日本の携帯電話の歴史 ・スマートフォンの誕生 ・ガラケーとは ・携帯電話とスマートフォンの違い	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	ソーシャルメディア	主に以下について取り上げる ・SNSとは何か ・Twitter、LINE、Facebookの特徴と企業の活用事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	ICTの光と影(1)	主に以下について取り上げる ・製造、物流、サービス、教育、医療の質を高めたICT事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	ICTの光と影(2)	主に以下について取り上げる ・ネットいじめ ・炎上事件 ・個人情報流出	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

	14	ICTの社会的課題と対策(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種サイバー犯罪 主に以下について取り上げる <ul style="list-style-type: none"> ・LANの危険性と対策 ・無線通信の危険性と対策 ・スマートフォンの危険性と対策 	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	15	ICTの社会的課題と対策(2)	<ul style="list-style-type: none"> 主に以下について取り上げる <ul style="list-style-type: none"> ・企業のセキュリティ対策 ・日本の情報セキュリティ政策 ・まとめ 	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
関連科目	経営情報システム、メディア戦略論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末テスト(80%)、小テスト・レポート(20%)で評価する。 私語、携帯・スマートフォンの使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価します。			
学生への メッセージ	本講義で紹介するICTや情報サービスは、身近に利用できるものを中心に上げます。教材資料を事前に目を通し、事例として取り上げられているICTや情報サービスを受講前に自ら利用しておいてください。講義の解説内容について十分関心が深まることでしょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(針尾准教授室)			
備考	シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。 【教職科目】教科に関する科目(高等学校 情報) 【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理(実習を含む。) 【履修区分】必修			

科目名	インターネット概論	科目名(英文)	Introduction to the Internet
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>本講義では、いまやあらゆる産業・業界において重要なビジネス基盤となったインターネットの仕組みとその役割について、マーケティング学と情報通信システム学による文理総合的な解説を行っていく。前半は、企業の経営活動、特にマーケティングと ICT との関係について、中盤は、情報通信と情報サービスの技術的な仕組みについて、後半は、ICT の社会的課題について取り上げる。</p> <p>講義の主な目的は、ICT が単なる日常のコミュニケーションや情報サービスを利用するための道具ではなく、多様化・細分化が進む市場を相手とする企業の経営活動において絶対不可欠な技術であることを初年時の文系学生が理解し、本学科が提供する ICT 関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義を学ぶことである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科が提供する ICT 関連科目を経営学の学問的位置付けにおいて学習することの意義について簡潔に説明できるようになる。 ・日常で利用している PC やスマートフォンを使った情報サービスがどのように提供されているのか、その仕組みと要素技術について基本的な説明ができる知識を習得する。
授業方法と留意点	<p>教材資料を事前配布し、それをノートとして用いる。講義では、資料解説を中心とする。また定期的にスマートフォン、携帯電話を使った実習も行う。教材資料は、学内ポータルサイトの教材フォルダに上げており、受講生は各自印刷しておく必要がある。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。</p> <p>I Tパスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			予習	復習
1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・講義の目的、進め方 ・日常の中の ICT ・経営学として ICT を学ぶことの意義・目的	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
2	ICT とは	主に以下について取り上げる。 ・ICT とは何か ・世の中の情報サービス ・企業の情報システム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	インターネットの歴史	主に以下について取り上げる ・インターネットの起源 ・インターネット通信の特徴 ・インターネット通信と電話の違い	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	ICT 時代の消費者市場	主に以下について取り上げる ・高度経済成長時代の消費者ニーズと物作り ・成熟経済時代の消費者ニーズと物作り ・ICT で変わる消費者行動	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	マーケティングと ICT	主に以下について取り上げる ・マーケティングの昔と今 ・テレビ広告とスマホ広告 ・ポイントカードと顧客データ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	コンピュータの仕組み	主に以下について取り上げる ・コンピュータの基本構造 ・家庭内ネットワーク (LAN) の仕組み	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	インターネットの仕組み	主に以下について取り上げる ・インターネットを構成する情報システムの役割と機能 ・パケット通信 ・IP アドレス ・ルータ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	Web サイトの仕組み	主に以下について取り上げる ・Web サイトに繋がる技術的仕組み ・WWW ・ドメイン ・DNS	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	携帯電話通信の仕組み	主に以下について取り上げる ・携帯電話が繋がる仕組み ・無線通信技術各種 ・位置情報システム	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	携帯電話とスマートフォン	主に以下について取り上げる ・日本の携帯電話の歴史 ・スマートフォンの誕生 ・ガラケーとは ・携帯電話とスマートフォンの違い	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	ソーシャルメディア	主に以下について取り上げる ・SNS とは何か ・Twitter、LINE、Facebook の特徴と企業の活用事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	ICT の光と影 (1)	主に以下について取り上げる ・製造、物流、サービス、教育、医療の質を高めた ICT 事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	ICT の光と影 (2)	主に以下について取り上げる ・ネットいじめ ・炎上事件 ・個人情報流出 ・各種サイバー犯罪	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。	復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

	14	ICTの社会的課題と対策(1)	主に以下について取り上げる ・LANの危険性と対策 ・無線通信の危険性と対策 ・スマートフォンの危険性と対策	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。																
	15	ICTの社会的課題と対策(2)	主に以下について取り上げる ・企業のセキュリティ対策 ・日本の情報セキュリティ政策 ・まとめ	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。																
関連科目	経営情報システム、メディア戦略論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>期末テスト(80%)、小テスト・レポート(20%)で評価する。 私語、携帯・スマートフォンの使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価します。</p>																			
学生への メッセージ	<p>本講義で紹介するICTや情報サービスは、身近に利用できるものを中心に取り上げます。教材資料を事前に目を通し、事例として取り上げられているICTや情報サービスを受講前に自ら利用しておいてください。講義の解説内容について十分関心が深まることでしょう。</p>																			
担当者の 研究室等	11号館7階(針尾准教授室)																			
備考	<p>シラバスの内容については、受講生の理解の程度、関心に合わせて適時調整する。 【教職科目】教科に関する科目(高等学校 情報) 【施行規則に定める科目区分】コンピュータ及び情報処理(実習を含む。) 【履修区分】必修</p>																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略 2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析 <p>これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業のITマーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に高度なデータ解析技術を習得していく。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア（特にソーシャルメディア）を用いた企業の競争戦略の基本的考え方を身につける。 ・代表的な多変量解析法およびそれらを活用したデータ分析力ならびに、そのためのSPSS操作方法を習得する。 																		
授業方法と留意点	<p>【おすすめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークによる資料作成、発表が中心（グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備） ・前半は、企業のWebCMを制作、後半は、メディア戦略理論の学習を行う。 ・他学年ゼミ生を含めた合同演習（年2回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ生間での交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>主に以下の内容に取り組む。</p> <p>前期：ウェブCM制作と企業のウェブ戦略 後期：SPSSを用いた多変量解析</p> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	出席状況、参加姿勢（発言、資料準備）、提出物																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 針尾准教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	経営分野で活用する情報技術をテーマとした演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な実践的な情報活用能力や技術を習得していくことが目的である。演習 I では、その基礎となる技術や知識を学んでいく。																		
到達目標	卒業研究に向けて、その土台となる技術や知識を習得する。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式で実施し、グループ討論を交えながら課題についての資料収集や分析、発表などを行う。資料はホームページを通じて PDF ファイルで随時配布する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。</p> <p>(1) 情報化社会におけるインターネットの活用技術 (2) ネットビジネスを取り巻く情報技術の基礎知識 (3) 効果的なプレゼンテーション方法</p> <p>加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p> <p>[事前学習] 各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと (各 30 分)。</p> <p>[事後学習] 当該演習終了後、自らの考えをまとめておき、発表およびレポートの作成に備えること (各 1 時間)。</p>																		
関連科目	基礎演習、専門基礎演習、演習 II、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (授業への参加意欲、課題の提出状況、発表内容) により総合的に評価する。授業への参加態度が悪い者、課題が未提出な者、発表しない者については適宜減点する。																		
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けて欲しい。																		
担当者の研究室等備考	11 号館 8 階 堀井教授室																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 演習 I では、プレゼンテーションの実習と各自が興味のある分野についての自学自習の実践などを行う。調査の仕方や計画の立て方、PDCA サイクルの回し方などを実践的に学び、主体性を持った学習者の素養を磨く。																		
到達目標	演習 I では次の事柄を目標とする。 (1) 興味のある事柄に関する情報収集を適切に行える (2) プレゼンテーションを時間通りに行える (3) 自ら学習する目的を立てられる																		
授業方法と留意点	授業は学生参画型であり、予習・復習は必須である。自発的に学ぶ姿勢で出席すること。 前期はプレゼンテーションを行う。聴講者は質問することで授業に参加する。 後期は各自が主体的に計画を立てて学び、その学びのプロセスを共有する。 また、見学会や講演会などを随時、企画していく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は、各自でテーマを決め、プレゼンテーションを行う。後期は、個人、グループのいずれかで学習するテーマを決め、学習計画を立てる。そして、学習計画に沿って学びを実施し、PDCA サイクルを回しながら主体性のある学びの姿勢を構築する。 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容 70%、その他 30%																		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。																		
担当者の研究室等	久保准教授室 (11 号館 7 階)																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	近年の成熟市場環境下における企業間競争の激化によって、マーケティングの重要性がますます高まっています。この演習では、企業の存続・成長にとって必要不可欠なマーケティングについて研究します。マーケティングは、身近な学問なので、どこからでも課題の研究が始められます。この演習を通じて、マーケティングの基本的知識とマーケティングを学ぶことの楽しさを理解してもらいたいと思います。		
到達目標	マーケティングの理論と実践面での活用を目指します。		
授業方法と留意点	演習で与えられた問題・課題について、真摯に取り組み、充実した大学生活にしていきましょう。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	マーケティング、マーケティングの基本的概念について学習します。ケーススタディのアプローチ。ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	消費行動	武居 奈緒子
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業態度、授業への参加度・貢献度などにより総合的に評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室		
備考			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	高度情報化社会と言われる社会への ICT (情報伝達技術) の積極的な導入によって、産業や生活環境がどのように変化してきたのかを考え、これからの ICT の在り方について探っていく。コンピュータやインターネットに代表される ICT が、生活のあらゆる場面で取り入れられるようになり、生活が豊かになるとともに、情報セキュリティなどの新たな課題も生じてきている。ICT の特徴について理解した上で、社会の様々な分野でどのように取り入れられ活用されているのかを学びながら、新しい活用の可能性を見出していく。																
到達目標	経営情報学の分野に関連する文献や資料を使ったゼミでの活動を通して、基礎的な知識・技能の修得を目指す。また、プログラム課題の制作を通して、プログラミングに求められる論理的思考ができるようになることを目指す。ゼミ活動に積極的に参加することはもちろん、他のゼミ生と積極的に討論する姿勢を身につける。																
授業方法と留意点	主にパソコンを使った実習形式で進めて行く。同じゼミに属する学生同士でグループを作って、他のゼミ生と協力しながら講義や実習で学んだことの理解を深める。活動としては、経営情報学の分野に関係のある文献や資料を読みながら、文章を読み解く力、まとめ上げる力の修得を目指すとともに、プレゼンテーションを通して、高いコミュニケーション能力を身につけることを目指す。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営情報学の分野に関連した文献や資料を読みながら、文章を読み解く力、考えをまとめる力の修得を目指すとともに、プログラム課題の制作やプレゼンテーションを通して ICT に関する基礎的な知識・技能を身につける。 週 1 回のゼミの時間だけでなく、各自で自習学習を進めるのはもちろんのこと、他のゼミ生と協力しながら作業することも必要になる。また、工場見学などの学外での活動では、他のゼミ生と協力しながら計画の実現を目指す。 加えて、経営情報学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。																
関連科目	演習 II、卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	レポート課題、プログラム課題、作成した成果物等 (60%)、演習への取組姿勢 (40%) 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響する。																
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。知識・技能の修得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等	11号館 8階 (栢木教授室)																
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらう場合がある。																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>マーケティングのゼミである。 マーケティングの基礎的知識をしっかりと身につけることが大切であり、その定着を目指す。 そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらおう。 これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。 さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身につけることを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>①マーケティングの基礎的知識がしっかりと身につく。 ②フィールドワークを通じて、マーケティングの知識を応用できる力が身につく。 ③チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。 ④コミュニケーション能力の向上を図り、主体性が身に付く。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義と実習、グループ・個人発表とそれに対する質疑応答の両形式で進める。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ] マーケティング論の定着と応用</p> <p>[内容] ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。 グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。 マーケティングの基礎的な知識を課題を通じて検討する。 フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常の取組姿勢、学習状況、報告内容、レポートなどにより総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>11号館7階 鶴坂教授室</p>																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】 基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。 ゼミ学習を有効なものにするのもしないもの、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。 これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください。</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	本ゼミでは、大きく2つのテーマに沿って学習していく。1つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう1つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。																		
到達目標	正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。																		
授業方法と留意点	テキスト等の読解 (要約の報告、それをもとにした全体での議論) データ収集や分析の実習 論文やレポートの書き方についての指導 学生の希望があれば学外でのフィールドワークも設ける																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】 社会学一般および社会調査の基礎知識 今後の研究の土台となる知識の獲得を目指す。</p> <p>【方法】 担当者による報告、全体での議論</p> <p>【事前・事後課題】 適宜指示する</p> <p>【補足】 演習内では、社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (出席、発言、資料) 50%、提出物 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室																		
備考	「物事をじっくり考える」姿勢をもち、積極的に参加してほしい。																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理学を学ぶゼミである。演習 I では、基本的な心理学の知識を身につける。教科書の内容をまとめて、発表し、質疑応答を行う。経営に関する消費者心理、組織の中の人間関係などの基礎を学ぶことを目的とする。
到達目標	経営における心理の基礎知識を身につけ、心理学の研究法について学ぶ。その後、自分自身でテーマを探し、心理学の研究手法を身につける。
授業方法と留意点	演習 I では、心理学の基礎知識を身につける。前期は心理学の概論書を使って担当者と一緒に演習を行う。演習の方法は、毎回担当者が PP による資料を作成し、発表と討論を行う。後期は専門書の内容をまとめて PP で発表と討論を行なう。反転授業などを積極的に行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業テーマ・内容：経営における消費者心理、社会における人間関係、交渉術、説得テクニックなどについて 方法：担当者がパワーポイントを用いてプレゼンを行う。出席者は必ず質問か発言を行う。 事前・事後課題：事前に予習、事後に復習をする。 さらに、経営学、心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。
関連科目	「市場調査入門」や「経営統計学」を受講しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミニマムエッセンス 社会心理学	和田実	北大路書房
	2	男と女の対人心理学	和田実	北大路書房
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習 I へは遅刻せずに出席することを評価対象の最低条件とする。演習中の発表 (50%)、授業への積極的参加度 (30%)、授業課題 (20%) の評価などで総合的に判断する。反転授業などを行います。
学生へのメッセージ	演習 I には必ず遅刻せずに出席し、積極的に発言すること。アクティブ・ラーニングを取り入れているので、主体的に活動すること。
担当者の研究室等	11 号館 7 階 牧野(幸)准教授室
備考	牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術 (プログラミングなど) は必要としないが、確率統計の知識は必要となる。また、プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPoint などが普通に使える必要がある。人としての心理を大切にすることをゼミであるので、“時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、スマホなどを触らない” など人としての最低限のマナーは必ず守ること。ゼミは、アクティブ・ラーニングの活動です。主体的に発言すること。授業中の課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバックをする。

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>本授業では、学生による主体的な学習活動を支援し、課題の発掘・解決等に取り組む実践的な基礎力を育成する。</p> <p>進め方として、課題の設定、情報の収集・解釈、汎用的な問題解決の手法について、グループと個人の活動により、個人の『気づき』を導く。自ら役割を進め、周りとのコミュニケーションや共創をとおして、提案およびその価値をいかに発信するのか、主体的な情報発信の行動を支援する。企業、地域、個人等の課題を体感し、どのような叡智の集約を進めるのが効果的なのか、汎用手法の適用と柔軟な発想で取り組めるよう、グループディスカッションの活性化を図る授業運営を行う。</p>																
到達目標	<p>インターネットやソーシャルメディアの活用を図る業界・企業等の事例研究をとおして、主体的な情報形成を支援するリテラシーとスキルを育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の発見 汎用的な視点、自己の視点を識別してオリジナリティの伴う課題設定ができる。 2. 情報の収集・解釈 課題を提案に結びつけるために必要な情報の調査・編集の方法論を身につける。 3. 価値の生成 アウトプット (結果) を整理し、アウトカム (成果) としてまとめて、プレゼンテーションでメッセージをとして表現する。 																
授業方法と留意点	<p>個人ワークと課題分野ごとのグループワーク効果的にを組み合わせ、かつ授業外の自主的な活動をエッセンスとして加味した活動を進める。テーマとして、主要業界におけるビジネス IT や Web マーケティングに関する活動 (前期)、個別企業における事業創造やインターネットの新しい利用事例調査 (後期) を行う。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前後期共通テーマ コミュニケーション基礎力の向上を目指し、ビジネス IT や Web マーケティングに関する文献・新聞・発表資料等を題材に、指定文献 (1 冊) から汎用視点を学ぶ。 2. 前期 経営情報のテーマを指定し、情報の収集・解釈、価値の生成 (課題向け提案) について、グループ・個人発表 (2~3 回) を行い、かつ個人の『気づき』を導く。 3. 後期 各自注力したいテーマ (候補) を探索し、今後の提案のために、ディスカッションをとおして、グループ・個人発表 (計 3 回) を行い、個人の問題意識の視点を得る。 <p>経営情報に係るテーマとして、①e-commerce (ネット商取引)、②サービスデザイン、③ソーシャルマーケティング、④社会、組織、個人の課題と ICT から新規性あるものを定める。</p> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>平常の学習態度 (30%)、課題の提出内容・準備状況 (40%)、クラスへの貢献度 (30%) による総合評価を行う。具体的には、出席状況、個人・グループの発表 (指定全回数) とプレゼンテーション資料等の提出、グループワークでの貢献度 (自分の役割の遂行、同僚学生への意見発信等の協力状況、発表等の準備状況)、ディスカッション、積極的・建設的な発言等の授業への参画内容で評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>受け身の授業参画は、十分得るものがなく、周りとのコミュニケーションを図り触れ合う重要性を認識すること。グループワークは、自分のアイデアを主張すればいいことでもないことに留意し、自分のグループでの立ち位置、クラスでの相対的なポジショニングを考えながら、主体的に課題に接しつつ、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。</p> <p>自発的に取り組み、自分の取り組み状況・姿勢が、教員と周りのメンバーに伝わるように工夫を図ってください。具体的な方法については、授業の中で、ガイダンスを実施するので、参考にすること。</p>																
担当者の研究室等	11 号館 7 階 (北村教室)																
備考	<p>初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業回数の 1/3 を超える欠席者、評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。</p> <p>学部ゼミ室、10 号館 (情報処理室、学部 PC 室) を利用する。1~2 回 (半期) 梅田キャンパスでのグループワーク等も実施する。また、『デザイン思考 (Design Thinking)』共創型手法、クラウドサービス、SNS ツール等の活用により、活動を効果的に進める。</p>																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>本ゼミでは、マーケティングを基本的なテーマとして扱います。 ゼミではマーケティングの基礎知識や、マーケティングデータを用いた各種分析手法の習得を目指します。 また、マーケティング戦略についての考察や事例研究の実施なども必要に応じて実施します。 その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱いますので、講義中、時間外を問わず、やりたいことがある場合は積極的に意見するようにして下さい。</p>																		
到達目標	4年生時の卒業論文作成を見据え、必要となるであろう様々なマーケティング知識、マーケティングデータ分析技術の習得を目指します。																		
授業方法と留意点	ゼミ生を中心として、教科書のまとめや発表、演習を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>本ゼミでは、マーケティングおよびマーケティングデータの分析をテーマとして扱います。 演習 I では、マーケティングにおける基礎知識と、パソコンによる演習を通じて、基礎的なデータの分析方法を習得します。 随時ゼミ生中心にまとめや発表を行いますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。 また、研究に関連する不正防止のための研究倫理の習得に努めます。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 樋口准教授室																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>演習では、ICT とその活用について学ぶ。社会における ICT の利活用について事例を中心に勉強する。また、Excel を使ったデータの集計や分析、簡単なプログラミングに取り組み、基本的な情報活用能力を習得し、ICT を活用したビジネスの効率化、ICT を活用した課題解決の可能性について考える。</p> <p>ICT 活用について知識を習得し、実践に活用できる情報活用力を身につけることを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>ICT について興味を持ち、事例から学んで知識を習得する。</p> <p>情報を活用する力を身につける。</p> <p>情報発信の方法を習得する。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義形式とパソコンを使う演習形式で行い、数回発表（個人、グループ）の機会を持つ。</p> <p>授業には必ず出席すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) 社会における情報技術の事例に関する資料を使って、以下の手法を練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読んで考えをまとめる ・レポートを作成する ・資料を作成し、発表する ・発表を聞いて質問を考える <p>(2) パソコンに関する知識・技能を習得するために、以下について学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術発展の経緯を知る ・データの集計、分析を行う ・プログラミングをする <p>(事前学習) その都度指示をする</p> <p>(事後学習) 授業の振り返りをし、新しい用語や新たに興味をわいた点をメモし、自分なりに調べてまとめる (30 分)</p>																		
関連科目	プログラミング I																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題提出状況、授業の取り組み姿勢などを総合して評価する。																		
学生へのメッセージ	真面目に、積極的に取り組んでほしいです。																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 (橋本講師室)																		
備考																			

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	経営分野で活用する情報技術をテーマとした演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な実践的な情報活用能力や技術を習得していくことが目的である。演習 II では、演習 I を土台として、さまざまな最新のテーマについて知識や技術を学んでいく																		
到達目標	卒業研究に向けて、その土台となる技術や知識を習得する。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式で実施し、グループ討論を交えながら課題についての資料収集や分析、発表などを行う。資料はホームページを通じて PDF ファイルで随時配布する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。</p> <p>(1) ネットビジネスのプランニングと試作システム (2) インターネットと WEB 統合技術 (3) 実践的なプレゼンテーション方法</p> <p>加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p> <p>[事前学習] 各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと (各 30 分)。</p> <p>[事後学習] 当該演習終了後、自らの考えをまとめておき、発表およびレポートの作成に備えること (各 1 時間)。</p>																		
関連科目	基礎演習、専門基礎演習、演習 I、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (授業への参加意欲、課題の提出状況、発表内容) により総合的に評価する。授業への参加態度が悪い者、課題が未提出な者、発表しない者については適宜減点する。																		
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けてほしい。																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室																		
備考																			

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。</p> <p>演習 II の前半では、正確な文章の書き方、構成的データの扱い方、および、表現について実習形式で学ぶ。後半は、研究テーマに関する調査や課題設定、および、その解決策の検討や実習を行い、協調作業の重要性や研究活動の意義を学ぶ。作業計画を立てて、進捗を管理し、状況に応じて調整しながら目標を達成する実践的活動も行う。日頃から経営や情報に関する情報収集に努め、ディスカッションでの発言を増やすことが重要である。</p>																		
到達目標	<p>演習 II での目標は以下のとおりです。</p> <p>(1) 正確な意見表明ができる文章能力の修得 (2) 社会貢献を意識した課題の設定 (3) 研究倫理の必要性の理解</p>																		
授業方法と留意点	<p>地域での実践や外部の評価を受けることを念頭に置いて、調査活動や製作活動を行う。また、活動の内容を正確に伝えるための文章力やプレゼンテーション能力の充実を図る。</p> <p>卒業研究のテーマにつなげる学習を展開し、専門科目への興味を高めることも目的に含まれる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習 II では、卒業研究で取り扱うテーマを選定したり、実践的な課題に挑戦するための技術的な学習のためにグループによる輪読やプログラミング実習、および、発表を行う。研究の技術を身に付けた上で、卒業研究を遂行するために必要となる専門知識の修得を目指す。個人、グループにわかれて、卒業研究のテーマを選定し、研究の背景・意義・計画について、発表、議論を行う。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容や活動内容 70%、その他 30%</p>																		
学生へのメッセージ	<p>ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>久保准教授室 (11 号館 7 階)</p>																		
備考																			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	マーケティングについて、理論面と実態面の両側面から理解を深めることを目的とする。2回生で習得した専門用語、概念をさらに深化させていくとともに、実態分析にも力をそそいでいく。			
到達目標	マーケティングの応用面での知識を深めていくことを目指します。			
授業方法と留意点	演習で与えられた問題・課題について、真摯に取り組み、充実した大学生活にしていきたいと思います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	マーケティング、企業の成功要因について分析します。ケーススタディのアプローチ。ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業内で指示する。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業態度、授業への参加度・貢献度などにより総合的に評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室			
備考				

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。</p> <p>1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略</p> <p>2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析</p> <p>これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業のITマーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に高度なデータ解析技術を習得していく。</p>																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの関心業界における企業のメディア戦略について説明できる 卒業研究テーマの設定と方法を明確にする 																			
授業方法と留意点	<p>【おすすめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークによる資料作成、発表が中心（グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備） 前半は、企業のWebCMを制作、後半は、メディア戦略理論の学習を行う。 他学年ゼミ生を含めた合同演習（年2回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。 																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>主に以下の内容に取り組む。</p> <p>前期：企業によるコミュニケーション戦略の事例学習</p> <p>後期：卒業研究に向けた基礎調査・学習</p> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。</p>																			
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	出席状況、参加姿勢（発言、資料準備）、提出物																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等	11号館7階 針尾准教授室																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。</p>																			

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	演習Ⅰで修得した知識・技能を活用しつつ、高度情報化社会と言われる社会へのICT(情報伝達技術)の積極的な導入による産業や生活環境の変化について考察し、これからのICTの在り方を探っていく。活動としては、卒業研究に結び付く研究テーマを決定し、研究テーマに関する事例研究、課題設定、解決方法の提案を行う。類似の研究テーマを持つ学生同士でグループを形成し、グループによる共同活動を通して、より深い洞察力と客観的な視点を身につけることを目指す。																		
到達目標	社会人となるための準備段階として、様々なテーマについて自主的に判断し、行動できることを目指す。また、データ分析などを通して、伝えたいことを論理的に説明・表現できるようになることを目指す。さらに、他のゼミ生との活動を通して、互いの知識・経験を高めあうことで、自己実現のための力を身につける。																		
授業方法と留意点	パソコンを使った実習形式を中心とした活動を行う。同じゼミに属する学生同士でグループを構成し、他のゼミ生と協力しながら講義や実習で学んだことの活用方法について討論を行う。活動としては、卒業研究に繋げるテーマを見つけ出し、他のゼミ生との協同学習やプレゼンテーションを通して、高いコミュニケーション能力を身につけることを目指す。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に結び付く研究テーマを決定し、研究テーマに関する事例研究、課題設定、解決方法の提案を行う。類似の研究テーマを持つ学生同士でグループを形成し、グループによる共同活動を通して、より深い洞察力と客観的な視点を身につけることを目指す。加えて、経営情報学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。																		
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新・明解 Java 入門 (明解シリーズ)</td> <td>柴田望洋</td> <td>SBクリエイティブ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新・明解 Java 入門 (明解シリーズ)	柴田望洋	SBクリエイティブ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新・明解 Java 入門 (明解シリーズ)	柴田望洋	SBクリエイティブ																
2																			
3																			
評価方法(基準)	レポート課題、演習での成果物等(60%)、演習への取組姿勢(40%) 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響する。																		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。知識・技能の修得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。																		
担当者の研究室等	11号館8階(栢木教授室)																		
備考	教科書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらおう場合がある。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>マーケティングのゼミである。 マーケティングを応用できる力の醸成を目指す。 そのために、グループ研究を行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングをさらに発展させていく。 これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。 また、卒業研究にむけたテーマの選定や卒業研究の手順等も学ぶ。 学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身に着けることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>マーケティングの応用ができる。 自分の関心のある研究テーマを設定する。 チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。 コミュニケーション能力の向上を図り、主体性が身に付く。</p>																
授業方法と留意点	<p>講義と実習、グループ・個人発表とそれに対する質疑応答の両形式で進める。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ【マーケティングの応用、展開】</p> <p>前期では、マーケティング戦略について事例を用いて学ぶ。並行して、グループ研究を進めていく。 夏休み前にはグループ研究を終え、発表を行う。</p> <p>後期は、卒業研究の進め方を学び、卒業研究のテーマを選定し、先行研究など文献研究を進めていく。</p> <p>前期、後期ともフィールドワークを別途行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>平常の取組姿勢、学習状況、報告内容、レポートなどにより総合的に評価する。</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>11号館7階 鶴坂教授室</p>																
備考	<p>【学生へのメッセージ】 基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。 これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください。</p>																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	本ゼミでは、大きく2つのテーマに沿って学習していく。1つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう1つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。																		
到達目標	正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。																		
授業方法と留意点	テキスト等の読解(要約の報告、それをもとにした全体での議論) データ収集や分析の実習 論文やレポートの書き方についての指導 学生の希望があれば学外でのフィールドワークも設ける																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】 仕事・労働・職業に関する社会学的研究 古典研究</p> <p>【方法】 担当者による報告、全体での議論</p> <p>【事前・事後課題】 適宜指示する</p> <p>【補足】 社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、演習Ⅰに継続して指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への参加状況(出席、発言、資料)50%、提出物50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室																		
備考	卒業研究において自らの関心に基づいた研究を存分におこなえるよう、十分な知識を獲得したい。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理学を学ぶゼミである。演習Ⅱでは、心理学の研究手法と専門知識を身につける。文献の内容をまとめて、発表しながら、討論を行う。経営に関する消費者心理、マーケティングにおける心理的効果などの基礎を学ぶことを目的とする。			
到達目標	演習Ⅱでは自分でテーマを決め、文献を購読し、その後、実際に心理学の手法と専門知識を習得することを目標とする。			
授業方法と留意点	PPによる発表形式で行う。演習Ⅱでは、経営に関する心理の専門知識を身につける。前期は自分で文献を選んで購読し、発表する。発表者以外は、討論に参加する。後期は経営と心理に簡単な研究計画を立て、実施してみる。反転授業などを積極的にを行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業テーマ・内容：経営における心理とマーケティング実践 方法：文献を購読し、その内容をまとめて発表する。研究手法についても学ぶ。 事前・事後課題：事前に予習、事後に復習 さらに、経営学、心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。			
関連科目	「市場調査入門」、「市場調査」、「消費者行動論」などを受けていることが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習Ⅱへは遅刻せず出席することを評価対象の最低条件とする。演習中の発表(50%)、授業への積極的参加度(30%)、授業課題(20%)の評価などで総合的に判断する。反転授業などを行います。			
学生へのメッセージ	演習Ⅱには必ず遅刻せず、出席し、積極的に参加すること。			
担当者の研究室等	11号館7階 牧野(幸)准教授室			
備考	牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術(プログラミングなど)は必要としないが、確率統計の知識は必要となる。また、プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどが普通に使える必要がある。何よりも人としての心理を大切にすることを、"時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、スマホを触らない"など人としての最低限のマナーは必ず守ること。 授業中の課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバックをする。			

科目名	演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎		

授業概要・目的	<p>高付加価値を目指す『IT サービス』ビジネスの提案に取り組む。ネットとリアルを効果的に組み合わせ、価値創造に向けた実践法を学習します。テーマとして、①IoT (Internet of Things) & IoM (Internet of Me) ②FinTech ③位置情報とパーソナルデータのマーケティング利活用 ④法人事業向け Instagram&Twitter の提案活動を試みる。</p> <p>進め方として、課題の設定、情報の収集・解釈、汎用的な問題解決の手法について、グループと個人の活動により、個人の『気づき』を導く。自ら役割を進め、周りとのコミュニケーションや共創をとおして、提案およびその価値をいかに発信するのか、主体的な情報発信の行動を支援する。企業、地域、個人等の課題を体感し、どのような叡智の集約を進めるのが効果的なのか、汎用手法の適用と柔軟な発想で取り組めるよう、グループディスカッションのコンスタントな活性化を図る授業運営を行う。</p>																
到達目標	<p>本授業では、学生による主体的な学習活動を支援し、課題の発掘・解決等に取り組む実践的な基礎力の向上を目指す。インターネットやソーシャルメディアの利活用を図る業界・企業等の事例研究をとおして、主体的な情報形成を支援するリテラシーとスキルを一定以上の品質を狙って育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の発見 汎用的な視点、自己の視点を識別してオリジナリティの伴う課題設定ができる。 2. 情報の収集・解釈 課題を提案に結びつけるために必要な情報の調査・編集の方法論を身につける。 3. 価値の生成 アウトプット (結果) を整理し、アウトカム (成果) としてまとめて、プレゼンテーションで価値を伴うメッセージとして表現する。 																
授業方法と留意点	<p>個人ワークと課題分野ごとのグループワーク効果的にを組み合わせ、かつ授業外のグループフィールドワーク、個人の自主的な活動をエッセンスとして加味した活動を進める。テーマとして、主要業界におけるビジネス IT や Web マーケティングに関する活動 (前期)、個別企業における事業創造やインターネットの新しい事例調査 (後期) を行う。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前後期共通テーマ コミュニケーション基礎力の向上を目指し、ビジネス IT や Web マーケティングに関する文献・新聞・発表資料等を題材に、指定文献 (1冊) から汎用視点を学ぶ。 2. 前期 経営情報のテーマを指定し、情報の収集・解釈、価値の生成 (課題向け提案) について、グループ・個人発表 (3~4回) を行い、かつ個人の『気づき』を導く。 3. 後期 各自注力したいテーマ (候補) を探索し、今後の提案のために、ディスカッションをとおして、グループ・個人発表 (計5回) を行い、個人の問題意識の視点を導く。 <p>経営情報に係るテーマとして、①e-commerce (ネット商取引)、②サービスデザイン、③ソーシャルマーケティング、④社会、組織、個人の課題と ICT から新規性あるものを定める。卒業研究のテーマ候補・分野について、ディスカッションを行いつつ、先行研究 (文献、論文等) の情報収集を後期行う。また、授業外のグループフィールドワークにおいて、企業訪問や他大学ゼミとの交流等の機会も設定する。</p> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>平常の学習態度 (30%)、課題の提出内容・準備状況 (40%)、クラスへの貢献度 (30%) による総合評価を行う。具体的には、出席状況、個人・グループの発表 (指定全回数) とプレゼンテーション資料等の提出、グループワークでの貢献度 (自分の役割の遂行、同僚学生への意見発信等の協力状況、発表等の準備状況)、ディスカッション、積極的・建設的な発言等の授業への参画内容で評価する。また、インターシップや就職活動で外出する際、大学への連絡および進捗報告を行うことも学習態度の一項目として含まれる。</p>																
学生へのメッセージ	<p>受け身の授業参画は、十分得るものがなく、周りとのコミュニケーションを図り触発し合う重要性を認識すること。グループワークは、自分のアイデアを主張すればいいことでもないことに留意し、自分のグループでの立ち位置、クラスでの相対的なポジションを考えながら、主体的に課題に接しつつ、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。</p> <p>自発的に取り組み、自分の取り組み状況・姿勢が、教員と周りのメンバーに伝わるように工夫を図ってください。具体的な方法については、授業の中で、ガイダンスを実施するので、参考にすること。</p>																
担当者の研究室等	11号館7階 (北村教授室)																
備考	<p>初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業回数の1/3を超える欠席者、評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。</p> <p>学部ゼミ室、10号館 (情報処理室、学部 PC 室) を利用する。2~3回 (半期) 梅田キャンパスでのグループワーク、外部機関の関係者との学習交流等も実施する。また、『デザイン思考 (Design Thinking)』共創型手法、クラウドサービス、SNS ツール等の利活用により、活動を効果的に進める。</p> <p>個人の希望に応じて、外部 (梅田など京阪神の都心) で企業と接する活動や研究テーマ関連の業界イベントに参画する機会を設ける。</p>																

科目名	会社法	科目名(英文)	Corporate Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	会社法Ⅰでは、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	事前に教科書 p.1~p.5 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
2	会社法総論	会社の概念、会社の種類、会社法総則。	事前に教科書 p.5~p.19 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
3	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	事前に教科書 p.20~p.36 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
4	株式(1)	株式総説、株主名簿。	事前に教科書 p.37~p.45 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
5	株式(2)	株式の譲渡、自己株式。	事前に教科書 p.45~p.52 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
6	株式(3)	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	事前に教科書 p.52~p.60 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
7	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	事前に教科書 p.60~p.66 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
8	株式会社の機関(1)	株式会社の機関総説。	事前に教科書 p.66~p.69 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
9	株式会社の機関(2)	株主総会、種類株主総会。	事前に教科書 p.69~p.83 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
10	株式会社の機関(3)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会。	事前に教科書 p.83~p.106 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
11	株式会社の機関(4)	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	事前に教科書 p.106~p.114 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
12	株式会社の機関(5)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	事前に教科書 p.114~p.127 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
13	株式会社の機関(6)	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	事前に教科書 p.127~p.146 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
14	計算、定款の変更	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更。	事前に教科書 p.147~p.160 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
15	解散、清算、会社法Ⅰまとめ	解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算、会社法Ⅰ総括。	事前に教科書 p.160~p.164 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。

関連科目	会社法Ⅱ、民法、企業論、企業簿記。
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎(第3版)	加藤徹・相原隆・伊勢田道仁編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(80%)。 その他講義中の発言なども加味する(20%)。
----------	---

学生への メッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の 研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	会社法 I	科目名 (英文)	Corporate Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	会社法 I では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験 (法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など) の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	事前に教科書 p.1~p.5 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
2	会社法総論	会社の概念、会社の種類、会社法総則。	事前に教科書 p.5~p.19 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
3	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	事前に教科書 p.20~p.36 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
4	株式 (1)	株式総説、株主名簿。	事前に教科書 p.37~p.45 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
5	株式 (2)	株式の譲渡、自己株式。	事前に教科書 p.45~p.52 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
6	株式 (3)	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	事前に教科書 p.52~p.60 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
7	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	事前に教科書 p.60~p.66 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
8	株式会社の機関 (1)	株式会社の機関総説。	事前に教科書 p.66~p.69 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
9	株式会社の機関 (2)	株主総会、種類株主総会。	事前に教科書 p.69~p.83 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
10	株式会社の機関 (3)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会。	事前に教科書 p.83~p.106 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
11	株式会社の機関 (4)	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	事前に教科書 p.106~p.114 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
12	株式会社の機関 (5)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	事前に教科書 p.114~p.127 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
13	株式会社の機関 (6)	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	事前に教科書第 p.127~p.146 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
14	計算、定款の変更	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更。	事前に教科書 p.147~p.160 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
15	解散、清算、会社法 I まとめ	解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算、会社法 I 総括。	事前に教科書 p.160~p.164 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。

関連科目 会社法 II、民法、企業論、企業簿記。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新会社法の基礎 (第3版)	加藤徹・相原隆・伊勢田道仁編	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 原則として、定期試験の結果によって評価する (80%)。その他講義中の発言なども加味する (20%)。

学生への メッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の 研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	会社法Ⅱ	科目名(英文)	Corporate Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	会社法Ⅱでは、会社法Ⅰで習得した知識をもとに、組織再編を中心に会社法の講義を行います。株式会社の合併・分割・事業譲渡について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	株式会社の機関についての理解を前提として、具体的な会社再編の方法・手続・問題点などを理解する。 そのうえで、実際の会社再編事例を分析・検討し、理解する。 その際には、必ず、条文を参照すること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	事前に教科書 p.1~p.5 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。
2	会社法Ⅰまとめ(1)	会社法総論、株式会社の設立について、会社法Ⅰのまとめ。	事前に教科書 p.5~p.36 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
3	会社法Ⅰまとめ(2)	株式、新株予約権について、会社法Ⅰのまとめ。	事前に教科書 p.37~p.66 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
4	会社法Ⅰまとめ(3)	株式会社の機関、計算について、会社法Ⅰのまとめ。	事前に教科書 p.66~p.164 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
5	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	事前に教科書 p.165~p.183 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
6	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	事前に教科書 p.184~p.194 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
7	組織再編(1)	組織再編総説	事前に配布する補足資料を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
8	組織再編(2)	合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化。	事前に教科書 p.195~p.206 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
9	組織再編(3)	会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	事前に教科書 p.207~p.213 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
10	組織再編(4)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え。	事前に教科書 p.213~p.216 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
11	組織再編(5)	株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え。	事前に前回の授業の復習をしておくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
12	組織再編(6)	事業譲渡・事業の譲受け	事前に教科書 p.216~p.219 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
13	組織再編(7)	組織変更の意義、株式会社から持分会社への組織変更、持分会社から株式会社への組織変更。	事前に教科書 p.219~p.221 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
14	外国会社・雑則	外国会社、会社の解散命令、公告。	事前に教科書 p.222~p.230 を読んでおくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	
15	会社法Ⅱまとめ	会社法Ⅱ総括	事前に会社法Ⅱで学習したことを見直しておくこと。 事後に配布レジュメを見直して講義内容を復習すること。	

関連科目 会社法Ⅰ、民法、企業論、企業簿記。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎(第3版)	加藤徹・相原隆・伊勢田道仁編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(80%)。 その他講義中の発言も加味する(20%)。
学生への メッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の 研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	企業者史 I	科目名 (英文)	History of Entrepreneurs I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	江戸期から第2次大戦後にかけて活躍した大阪の代表的な企業家を取り上げ、彼らの企業経営の特質について紹介します。彼らの活動や理念が、現在の大阪の企業文化のあり方にどう影響しているのか、また大阪の経済や企業を元気にするために彼らから何を学べばよいのか、考えます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握する能力をつけていきます。
授業方法と留意点	講義形式の授業。資料を配付して説明します。板書事項をノートにとりながら、まとめてください。また、授業内容の理解を深めるために、経営者に関するさまざまな視聴覚教材 (ビデオ等) を多く利用しますので、しっかり鑑賞してください。
科目学習の効果 (資格)	企業経営に関する基本事項を歴史的視点から学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	江戸時代の大坂 (1)	全国経済の形成と「天下の台所」	江戸時代の経済構造について予習し、講義後にまとめる。
	2	江戸時代の大坂 (2)	大坂商人の活躍と「家訓」・住友、淀屋	大坂の代表的な商人について調べ、講義後にまとめる。
	3	明治期大阪の工業発展と企業家	明治期から大阪経済を牽引した紡績業の発展とアジアとの関連性について	明治期における大阪経済発展の概要について予習し、講義後にまとめる。
	4	都市化の進展と企業家 (1)	阪急の発展と小林一三	小林一三の経営行動について予習し、講義後にまとめる。
	5	都市化の進展と企業家 (2)	小林一三の経営理念	「宝塚歌劇団」の文化的な役割について予習し、講義後にまとめる。
	6	都市化の進展と企業家 (3)	「電気の時代」と松下幸之助	松下幸之助の人物像について予習し、講義後にまとめる。
	7	都市化の進展と企業家 (4)	松下幸之助の「水道哲学」と「適正価格」論	「水道哲学」について予習し、講義後にまとめる。
	8	都市化の進展と企業家 (5)	余暇と娯楽・吉本せい	大阪における芸能の発展について予習し、講義後にまとめる。
	9	都市化の進展と企業家 (6)	ウイスキーの国産化: 鳥井信治郎と竹鶴政孝	鳥井信治郎と竹鶴政孝に関して年譜を事前に調べ、講義内容を踏まえてまとめる。
	10	都市化の進展と企業家 (7)	サントリーのマーケティング戦略	「マーケティング」について予習し、講義後にまとめる。
	11	戦後大阪の企業家 (1)	「食足世平」: 安藤百福 (日清食品)	安藤百福の人物像について予習し、講義後にまとめる。
	12	戦後大阪の企業家 (2)	中内ダイエーの流通革命	ダイエーの企業史について予習し、講義後にまとめる。
	13	戦後大阪の企業家 (3)	ダイエーの挫折	「消費社会」に関する議論について調べ、講義後にまとめる。
	14	戦後大阪の企業家 (4)	企業の文化事業戦略: サントリー・佐治敬三	企業の文化活動について調べ、講義後にまとめる。
	15	まとめ		練習問題

関連科目	現代日本経営史
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験結果 (90%)、講義への積極的な取り組み姿勢・態度 (10%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	講義内容に関して不明な点や疑問点は、遠慮せずに質問してください。なお、紹介する参考文献にはできるだけ目をとおして、より理解を深めていただきたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階 (佐藤教授室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	企業簿記	科目名 (英文)	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果 (資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
17	有価証券・固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
22	決算③	試算表の作成1	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
23	決算④	試算表の作成2	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)

	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版	渡辺正直 ほか	実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験の結果により評価する。			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(呉研究室)			
備考				

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	久保准教授室 11号館7階																		
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点で評価する。具体的には、授業への参加 (50%) とその他 (課題への取組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容など) (50%) により評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	グローバルビジネス	科目名 (英文)	Global Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では、教員による講義を通じて国際経営論の様々な分野の基本的な内容について学習します。企業の海外進出は活発に行われており、多国籍企業で活躍できる人材になるためには国際経営論に関する基礎的知識を習得することは不可欠です。本講義の目的は、経営機能の国際化のメカニズムや海外直接投資の理論について理解することです。
到達目標	国際経営論の理論に基づいて多国籍企業の活動を説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。
科目学習の効果 (資格)	多国籍企業の経営行動を分析する能力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。?	シラバスを事前に読んでおくこと。
2	国際経営とは何か	国際経営論の概要、海外進出の理由について解説します。	教科書の第1章を読んでおくこと。
3	海外直接投資の理論	海外直接投資の理論について解説します。	教科書の第2章を読んでおくこと。
4	多国籍企業による国際競争の歴史	多国籍企業の発展の歴史について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと。
5	多国籍企業の組織デザイン	国際経営組織について解説します。	教科書の第4章を読んでおくこと。
6	トランスナショナル経営	トランスナショナル経営について解説します。	教科書の第5章を読んでおくこと。
7	海外子会社の経営	海外子会社の経営について解説します。	教科書の第6章を読んでおくこと。
8	国際マーケティング (1)	国際マーケティングについて解説します。	教科書の第7章を読んでおくこと。
9	国際マーケティング (2)	国際マーケティングについて解説します。	第8回の内容を復習しておくこと。
10	ものづくりの国際拠点展開	海外生産、知識移転について解説します。	教科書の第8章を読んでおくこと。
11	研究開発の国際化	研究開発の国際化について解説します。	教科書の第9章を読んでおくこと。
12	国際的な人的資源管理	国際人的資源管理について解説します。	教科書の第10章を読んでおくこと。
13	国際パートナーシップ	国際パートナーシップについて解説します。	教科書の第11章を読んでおくこと。
14	日本企業のさらなる国際化のために	オープン・イノベーションや多国籍企業のCSRについて解説します。	教科書の第12章を読んでおくこと。
15	まとめ	学んできた内容の復習を行います。	これまでの学習内容を復習しておくこと。

関連科目 経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての国際経営	中川功一・林正・多田 和美・大木清弘	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	期末試験 100%で評価します。
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	11号館8階 畠山研究室
備考	講義資料は配布しませんので、各自で印刷して持参してください。講義資料の保存場所は初回の講義で説明します。

科目名	経営学	科目名(英文)	Business Administration
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北 真収, 畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>前期：本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて経営学の様々な分野の基本的な内容について学習します。本講義で学ぶ内容は、企業論、経営戦略論、経営組織論等の経営学の個別の専門分野を深く学習するための基礎となります。</p> <p>後期： 経営学の基本について戦略論を中心に講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。</p>
到達目標	<p>前期：企業システム、経営戦略、経営組織等に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>後期：経営とは何か、何が課題なのかなど、現実在即して経営への疑問を広く理解することが目標です。</p>
授業方法と留意点	<p>前期：講義と問題演習を中心に授業を進めます。</p> <p>後期：事例を紹介しながら経営知識を講義します。特に、学習課題については発言を求めて理解を促進します。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>前期：経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験</p> <p>後期：経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
2	企業と経営	企業と経営の概要について解説します。	事前：教科書の第1部第1章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
3	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について解説します。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
4	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について解説します。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
5	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて解説します。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
6	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について解説します。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
7	全社戦略(1)	全社戦略の概要やドメインについて解説します。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
8	全社戦略(2)	成長のための戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
9	事業戦略	事業戦略や競争戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
10	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
11	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について解説します。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
12	企業組織の諸形態(1)	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について解説します。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
13	企業組織の諸形態(2)	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について解説します。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
14	経営のグローバリゼーション	経営の国際化、グローバリゼーションについて解説します。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
15	まとめ	学んできた内容の復習を行います。	事前：これまでの学習内容を復習しておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
16	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと
17	戦略とは何か	経営戦略、企業ドメインについて説明します	事前 自分自身の戦略は何ですか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
18	資源論	見えざる資産などについて説明します	事前 ブランド価値がどのように築かれるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
19	基本戦略	差別化、コストリーダーシップ、集中の戦略を説明します	事前 差別化はなぜ行われるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
20	戦略の失敗	シーズとニーズについて説明します	事前 失敗を防ぐにはどうするか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
21	スタートアップ	先発優位について説明します	事前 スターバックスはどのようにして創業し、成長したのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
22	新市場創出	オープン化について説明します	事前 明太子と言えなぜ福岡なのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること

	23	リユース市場創出	標準化について説明します	事前 古本がどのようにして身近なものになったのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	24	海外展開	普及のきっかけについて解説します	事前 きっかけは、偶然、訪れるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	25	企業再生 1	意識改革について解説します	事前 意識をどのようにして変えればよいのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	26	企業再生 2	外部からのトップリーダーについて解説します	事前 赤字企業を黒字化するには何を見直せばよいのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	27	サービスマネジメント 1	顧客満足について説明します	事前 旅館のおもてなしで重要なことは何か 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	28	サービスマネジメント 2	サービスの種類について解説します	事前 銀行の顧客満足で重要なことは何か 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	29	組織文化	経営・製品理念について解説します	事前 理念はどんな働きをするのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること																
	30	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと																
関連科目	前期：企業論、経営組織論、経営戦略論 後期：経営管理論、経営組織論、経営戦略論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本</td> <td>経営能力開発センター</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本	経営能力開発センター	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本	経営能力開発センター	中央経済社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ケースに学ぶ経営学</td> <td>東北大学経営学グループ</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テキストブック 経営戦略</td> <td>北 真取</td> <td>岡山大学出版会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ケースに学ぶ経営学	東北大学経営学グループ	有斐閣	2	テキストブック 経営戦略	北 真取	岡山大学出版会	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ケースに学ぶ経営学	東北大学経営学グループ	有斐閣																	
2	テキストブック 経営戦略	北 真取	岡山大学出版会																	
3																				
評価方法 (基準)	前期：期末試験 100%で評価します。 後期：期末試験 60%、課題レポートなど 40%で評価します。																			
学生への メッセージ	前期：予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んでください。 後期：代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。																			
担当者の 研究室等	前期：11号館8階 島山研究室 後期：11号館8階 北 真取研究室（相談時は事前に連絡してください）																			
備考	前期：講義資料は配布しませんので、各自で印刷して持参してください。講義資料の保存場所は初回の講義で説明します																			

科目名	経営学 I	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	晶山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて経営学の様々な分野の基本的な内容について学習します。本講義で学ぶ内容は、企業論、経営戦略論、経営組織論等の経営学の個別の専門分野を深く学習するための基礎となります。			
到達目標	企業システム、経営戦略、経営組織等に関する基本的な知識を習得する。			
授業方法と留意点	講義と問題演習を中心に授業を進めます。			
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	2	企業と経営	企業と経営の概要について解説します。	事前：教科書の第1部第1章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	3	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について解説します。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	4	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について解説します。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	5	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて解説します。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	6	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について解説します。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	7	全社戦略 (1)	全社戦略の概要やドメインについて解説します。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	8	全社戦略 (2)	成長のための戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	9	事業戦略	事業戦略や競争戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	10	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について解説します。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	11	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について解説します。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	12	企業組織の諸形態 (1)	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について解説します。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	13	企業組織の諸形態 (2)	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について解説します。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	14	経営のグローバル化	経営の国際化、グローバル化について解説します。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
	15	まとめ	学んできた内容の復習を行います。	事前：これまでの学習内容を復習しておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
関連科目	企業論、経営組織論、経営戦略論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本	経営能力開発センター	中央経済社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケースに学ぶ経営学	東北大学経営学グループ	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 100%で評価します。			
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館8階 晶山研究室			
備考	講義資料は配布しませんので、各自で印刷して持参してください。講義資料の保存場所は初回の講義で説明します。			

科目名	経営学Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北 真取
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	経営学の基本について戦略論を中心に講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。
到達目標	経営とは何か、何が課題なのかなど、現実即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。特に、学習課題については発言を求めて理解を促進します。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	シラバスを事前に読んでおくこと
2	戦略とは何か	経営戦略、企業ドメインについて説明します	事前 自分自身の戦略は何ですか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
3	資源論	見えざる資産などについて説明します	事前 ブランド価値がどのように築かれるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
4	基本戦略	差別化、コストリーダーシップ、集中の戦略を説明します	事前 差別化はなぜ行われるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
5	戦略の失敗	シーズとニーズについて説明します	事前 失敗を防ぐにはどうするか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
6	スタートアップ	先発優位について説明します	事前 スターバックスはどのようにして創業し、成長したのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
7	新市場創出	オープン化について説明します	事前 明太子とえばなぜ福岡なのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
8	リユース市場創出	標準化について説明します	事前 古本がどのようにして身近なものになったのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
9	海外展開	普及のきっかけについて解説します	事前 きっかけは、偶然、訪れるのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
10	企業再生 1	意識改革について解説します	事前 意識をどのようにして変えればよいのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
11	企業再生 2	外部からのトップリーダーについて解説します	事前 赤字企業を黒字化するには何を見直せばよいのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
12	サービスマネジメント 1	顧客満足について説明します	事前 旅館のおもてなしで重要なことは何か 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
13	サービスマネジメント 2	サービスの種類について解説します	事前 銀行の顧客満足で重要なことは何か 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
14	組織文化	経営・製品理念について解説します	事前 理念はどんな働きをするのか 事後 講義内容を復習し、事前課題を振り返ること
15	まとめ	学んできた内容の要約と補足を行います	これまでの学習内容を復習しておくこと

関連科目	経営管理論、経営組織論、経営戦略論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック 経営戦略	北 真収	岡山大学出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 60%、課題レポートなど 40%で評価します。			
学生への メッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 北 真収研究室 (相談時は事前に連絡してください)			
備考				

科目名	経営学特講 I	科目名 (英文)	Up-to-date Topics of Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵、久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	IoT 時代を迎え、経営情報学は新たな局面を迎えている。そこで本授業は、IoT 時代の経営情報学の本質や有効性を、実践例を交えながら学ぶ機会を提供することを目的としている。 IoT の到来により、企業経営だけでなく、まちづくりや教育現場などでも、効果的な ICT 利用が求められている。さらに企業経営においては、これまで以上に IT、ICT を活かした戦略構築など、新たな課題が生まれており、経営情報学のさらなる発展が期待される場所である。 上記のことをふまえて、本授業では、各界で活躍するビジネス・パーソンをお招きし、今後の IoT 時代について考察する。																																																																		
到達目標	①IoT について理解を深める。 ②IoT が社会に与える影響を理解する。 ③IoT によって創出される可能性について理解する。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は、経営情報学科の教員が毎回交代し、ゲストスピーカーをお招きするなどして講義をするオムニバス授業である。 ゲストスピーカー等の詳細は未定のため、確定次第通知する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	情報系各種資格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 担当：高尾裕二 経営学部長</td> <td>この講義が登場した時代背景と本学部の学生が卒業時に求められている IT 系人材としての素養について示し、本講義の中で学び取るべきことについて伝える。授業による学習効果を測定するために事前アンケートを実施する。</td> <td>【事前学習】ICT の現状を自分なりにまとめておく。 【事後学習】学んだことをまとめる。</td> </tr> <tr><td>2</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 担当：高尾裕二 経営学部長	この講義が登場した時代背景と本学部の学生が卒業時に求められている IT 系人材としての素養について示し、本講義の中で学び取るべきことについて伝える。授業による学習効果を測定するために事前アンケートを実施する。	【事前学習】ICT の現状を自分なりにまとめておく。 【事後学習】学んだことをまとめる。	2	未定			3	未定			4	未定			5	未定			6	未定			7	未定			8	未定			9	未定			10	未定			11	未定			12	未定			13	未定			14	未定			15	未定		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 担当：高尾裕二 経営学部長	この講義が登場した時代背景と本学部の学生が卒業時に求められている IT 系人材としての素養について示し、本講義の中で学び取るべきことについて伝える。授業による学習効果を測定するために事前アンケートを実施する。	【事前学習】ICT の現状を自分なりにまとめておく。 【事後学習】学んだことをまとめる。																																																																
2	未定																																																																		
3	未定																																																																		
4	未定																																																																		
5	未定																																																																		
6	未定																																																																		
7	未定																																																																		
8	未定																																																																		
9	未定																																																																		
10	未定																																																																		
11	未定																																																																		
12	未定																																																																		
13	未定																																																																		
14	未定																																																																		
15	未定																																																																		
関連科目	情報系科目、および、経営戦略系科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点 (毎回のレポート等) 70%、グループワークなど 30%																																																																		
学生へのメッセージ	経営情報学の最先端を学ぶための良い機会です。積極的に受講して下さい。																																																																		
担当者の研究室等	鶴坂貴恵 11号館7階 久保貞也 11号館7階																																																																		
備考																																																																			

科目名	経営管理論	科目名(英文)	Business Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	【授業概要・目的】 実際に起こった事例などを参考に、実務界における経験者による、「人材」・「経営」・「技術」・「知的財産」・「情報」・「コミュニケーション」の視点から、社会人に必要な知識の習得(社会人基礎力)と自らの見識を広める。
到達目標	【到達目標】 専門性の高い知識だけでなく、社会現象を経営的視点で捉えられる人材の育成 社会人として必要とされる最低限の知識(常識)の習得と問題発見、課題解決のための知恵の醸成。
授業方法と留意点	毎回講義資料を配付します。積極的に講義内容に関する質問、意見等をして下さい。
科目学習の効果(資格)	卒業後、ビジネスパーソンとして求められる基本的・実践的な経営知識を習得すると共に、業務を通じ自己表現を図り、社会人として戦略的・主体的に挑戦する意欲が醸成される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「社会人(企業人)への扉」	講座ガイダンス 社会へ巣立つための心構え	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	2	「企業人としての基礎知識」	知識社会で活躍する人材とは	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	3	「企業経営(1)」	企業とは 株式会社の機能 株式・株主とは	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	4	「企業経営(2)」	新規事業 グローバル経営戦略	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	5	「企業経営(3)」	経営環境分析 コーポレートガバナンス事例 企業不祥事	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	6	「企業組織と経営管理」	組織構造(事業部制・プロジェクト制・マトリックス組織) Balanced Scorecard	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	7	「戦略的組織と企業業績」	CASE分析 戦略的組織 (職能別組織・製品別組織・機能別組織) CASE分析 国際グローバル化戦略 組織(集約型組織・分散型組織)	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	8	「技術経営管理(1)」	知的財産の基本知識 知的財産法 企業における知財活用	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	9	「技術経営管理(2)」	知的財産権の効力 知的資産経営	新聞(全国紙:社会欄・産業欄)に目を通すこと。 解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	10	「企業財務(1)」	企業財務の視点 企業財務諸表の構造	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	11	「企業財務(2)」	株価から見た企業業績 企業金融市場と株式	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	12	「社会常識・資産形成」	物価動向と個人消費 個人資産形成 ビジネス法務	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	13	「リーガルマネジメント」	重大製品事故と技術者倫理	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	14	「プレゼンテーション能力」	コミュニケーションのとり方 プレゼンテーションの成功とは	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
	15	「経済動向と企業経営」	消費税の徳見と企業経営・消費者に及ぼす影響について(ディスカッション)	事前:次回テーマに関する内容について新聞記事やネット記事に目を通すこと。 事後:解らない点は、講義アンケートにて質問をすること
関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のアンケートの質問に対する回答(出席確認を含む)[50%] 期末最終レポート[50%]			
学生への メッセージ	現在、起こっている事例を参考に、自身の専門分野にとらわれない、将来企業人の一員となるために必要な産業界(実務)の知識を習得してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考				

科目名	経営管理論	科目名(英文)	Business Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	経営管理論は、企業経営の現場から生まれた実践的な学問です。本講義では、経営管理論とはどのような学問であるのか、経営管理論にはどのような分野があるのか等について講義します。講義を通じて経営管理論が生まれた歴史的背景やその理論の発展について理解することを目的とします。
到達目標	①経営管理論に関する主要な理論を理解する。 ②経営管理論の理論に基づいて企業のマネジメントを説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。理解を深めるために適宜、演習、小テストを実施します。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
2	企業の特徴	企業とはどのような特徴を持った組織であるのか解説します。	事前：教科書の第2章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
3	株式会社の特徴と仕組み	所有と経営の分離などの株式会社に関する主要な概念について解説します。	事前：教科書の第4章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
4	テイラーと科学的管理法	科学的管理法の内容や誕生した背景について解説します。	事前：教科書の第6章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
5	小テスト①	2回から4回の内容で小テストを実施します。	事前：2回から4回の講義内容を復習しておくこと。	事後：小テストの内容を復習しておくこと
6	ヘンリー・フォードとフォードイズム	自動車の大量生産を実現したフォード・システムについて解説します。	事前：教科書の第7章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
7	ファヨールと管理過程論	ファヨールの管理過程論について解説します。	事前：教科書の第8章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
8	メイヨーと人間関係論	メイヨーの人間関係論について解説します。	事前：教科書の第9章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
9	行動科学と統合理論(1)	フォレット、リッカート、アージリスの理論について解説します。	事前：教科書の第10章1節から3節を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
10	行動科学と統合理論(2)	マズローの欲求段階説、マグリガーのX理論・Y理論、ハーズバーグの動機づけ・衛生理論について解説します。	事前：教科書の第10章4節から6節を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
11	近代管理論からコンティンジェンシー理論へ	バーナードの組織論、サイモンの意思決定論、コンティンジェンシー理論、組織間関係論について解説します。	事前：教科書の第11章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
12	組織とは何か(1)	組織の特徴、伝統的組織論について解説します。	事前：教科書の第12章1節から2節を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
13	組織とは何か(2)	新古典的理論、近代組織論について解説します。	事前：教科書の第12章3節から4節を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと?
14	小テスト②	6回から13回の内容で小テストを実施します。	事前：6回から13回の講義内容を復習しておくこと	事後：小テストの内容を復習しておくこと
15	基本的な組織形態	経営組織の種類について解説します。	事前：教科書の第13章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
16	さまざまな組織形態	職能部門制組織と事業部制組織、ブランド・マネージャー制とプロジェクト組織、マトリックス組織、戦略的事業単位、情報革命について解説します。	事前：教科書の第14章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
17	経営戦略論(1)	経営戦略の体系と理論について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
18	経営戦略論(2)	全社戦略について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
19	経営戦略論(3)	全社戦略について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
20	経営戦略論(4)	事業戦略について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
21	経営戦略論(5)	機能別戦略について解説します。?	事前：教科書の第15章を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
22	小テスト③	15回から21回の内容で小テストを実施します。	事前：15回から21回の講義内容を復習しておくこと	事後：小テストの内容を復習しておくこと
23	企業の国際化(1)	国際貿易の理論と為替について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
24	企業の国際化(2)	国際経営戦略について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
25	企業の国際化(3)	カントリーリスクについて解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
26	企業の国際化(4)	カントリーリスクに関する演習を行います。	事前：25回の講義内容を復習しておくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
27	企業の国際化(5)	海外生産と技術移転について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
28	企業の国際化(6)	技術移転に関する演習を行います。	事前：27回の講義内容を復習しておくこと	事後：講義内容を復習しておくこと
29	企業の国際化(7)	新興国ビジネスについて解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと	事後：講義内容を復習しておくこと

	30	企業の国際化 (8)	新興国ビジネスに関する演習を行います。	事前：29回の講義内容を復習しておくこと 事後：講義内容を復習しておくこと
関連科目	経営学、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト経営学[第3版]	井原久光	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 60%、小テスト①10%、小テスト②15%、小テスト③15%で評価します。			
学生への メッセージ	予習・復習を行い、積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館8階 晶山講師室			
備考	小テストの成績は、オフィスアワー等の時間を利用して希望する学生に対して個別に通知します。			

科目名	経営史	科目名(英文)	Business History
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 正志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	江戸期から第2次大戦後にかけて活躍した大阪の代表的な企業家を取り上げ、彼らの企業経営の特質について紹介します。彼らの活動や理念が、現在の大阪の企業文化のあり方にどう影響しているのか、また大阪の経済や企業を元気にするために彼らから何を学べばよいのか、考えます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握する能力をつけていきます。
授業方法と留意点	講義形式の授業。資料を配付して説明します。板書事項をノートにとりながら、まとめてください。また、授業内容の理解を深めるために、経営者に関するさまざまな視聴覚教材(ビデオ等)を多く利用しますので、しっかり鑑賞してください。
科目学習の効果(資格)	企業経営に関する基本事項を歴史的視点から学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	江戸時代の大坂(1)	全国経済の形成と「天下の台所」	江戸時代の経済構造について予習し、講義後にまとめる。
2	江戸時代の大坂(2)	大坂商人の活躍と「家訓」・住友、淀屋	大坂の代表的な商人について調べ、講義後にまとめる。
3	明治期大阪の工業発展と企業家	明治期から大阪経済を牽引した紡績業の発展とアジアとの関連性について	明治期における大阪経済発展の概要について予習し、講義後にまとめる。
4	都市化の進展と企業家(1)	阪急の発展と小林一三	小林一三の経営行動について予習し、講義後にまとめる。
5	都市化の進展と企業家(2)	小林一三の経営理念	「宝塚歌劇団」の文化的な役割について予習し、講義後にまとめる。
6	都市化の進展と企業家(3)	「電気の時代」と松下幸之助	松下幸之助の人物像について予習し、講義後にまとめる。
7	都市化の進展と企業家(4)	松下幸之助の「水道哲学」と「適正価格」論	「水道哲学」について予習し、講義後にまとめる。
8	都市化の進展と企業家(5)	余暇と娯楽・吉本せい	大阪における芸能の発展について予習し、講義後にまとめる。
9	都市化の進展と企業家(6)	ウイスキーの国産化:鳥井信治郎と竹鶴政孝	鳥井信治郎と竹鶴政孝に関して年譜を事前に調べ、講義内容を踏まえてまとめる。
10	都市化の進展と企業家(7)	サントリーのマーケティング戦略	「マーケティング」について予習し、講義後にまとめる。
11	戦後大阪の企業家(1)	「食足世平」:安藤百福(日清食品)	安藤百福の人物像について予習し、講義後にまとめる。
12	戦後大阪の企業家(2)	中内ダイエーの流通革命	ダイエーの企業史について予習し、講義後にまとめる。
13	戦後大阪の企業家(3)	ダイエーの挫折	「消費社会」に関する議論について調べ、講義後にまとめる。
14	戦後大阪の企業家(4)	企業の文化事業戦略:サントリー・佐治敬三	企業の文化活動について調べ、講義後にまとめる。
15	まとめ		練習問題

関連科目	現代日本経営史
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験結果(90%)、講義への積極的な取り組み姿勢・態度(10%)
学生へのメッセージ	講義内容に関して不明な点や疑問点は、遠慮せずに質問してください。なお、紹介する参考文献にはできるだけ目をとおして、より理解を深めていただきたい。
担当者の研究室等	11号館8階(佐藤教授室)
備考	

科目名	経営情報システム I	科目名 (英文)	Management Information Systems I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	組織の経営において、経営情報システムはもっとも重要な要素の一つである。現在の情報社会を構築し、また、発展させ続けているのは情報システムを効果的に活用している組織や公的団体などである。 本講義では、経営情報システムの利点に関する基本的な知識や発展の経緯を学ぶとともに、最新の技術動向についても紹介する。
到達目標	(1) 経営情報システムの重要性を説明できる (2) 経営情報システムを支える技術について知識を持っている (3) 経営情報システムの構築と運用における課題について説明できる
授業方法と留意点	プロジェクターを使いながら、事例や理論について説明する。学生が講義中に最新動向を調べたり、グループによるディスカッション、ディベートなども行う。
科目学習の効果 (資格)	企業経営において情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まる。 IT パスポートをはじめとする情報処理技術者試験を受験する援助となる。 中小企業診断士試験を受験する援助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			予習	復習
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、情報社会と経営情報システム	予習：シラバスを読んでおく	復習：ディスカッションの準備
2	経営情報システムの知名度	ディスカッション テーマ「情報システムを見たことありますか？」	予習：ディスカッションの準備	復習：ディスカッションで出た意見のまとめ
3	ものづくりと経営情報システム	生産情報、生産管理システム、品質管理	予習：なし	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
4	「最強」の販売員と経営情報システム	POS、需要予測、在庫管理	予習：最近の購買行動を振り返る	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
5	生活の豊かさと経営情報システム	医療情報、自治体情報システム、RESAS	予習：RESAS を触る	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
6	経営情報システムの科学	シミュレーション、モデリング	予習：シミュレーション、モデリングと名のつくものを調べる	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
7	経営情報システムの限界	集合知、人工知能、ビッグデータ	予習：IT の負の面を調べる	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
8	ディベートに向けたディスカッション	グループワーク、発想支援、事例解説	予習：ディスカッションの準備	復習：ディスカッションで出た意見の分類
9	経営情報システムのこれからの価値	ディベート テーマ「経営情報システムは必要か否か？」 実務者の解説やコメント (事例解説になる可能性あり)	予習：ディベートの準備	復習：ディベートで出た意見の分類
10	経営情報システムを活性化させる組織	ナレッジマネジメント、BPR、SNS、プロジェクト管理	予習：組織的な IT 利用の例を調べる	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
11	経営情報システムの開発現場	開発事例の紹介、SE の役割、設計技法	予習：SE の実態を調べる	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
12	経営情報システムとお金の関係	会計情報システム、原価管理、ネットワーク	予習：会計システムの現状を調べる	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
13	サイバー犯罪と経営情報システム	サイバーテロ、情報セキュリティ、クラウド	予習：サイバー犯罪について調べる	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
14	経営情報システムを駆使できる人材へ	CIO、e-ラーニング、資格情報、国の方針など	予習：経営情報に関する資格や職業を調べる	復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す
15	まとめ	講義に関する質問への回答	予習：これまでの授業内容をまとめる	

関連科目 経営情報システムII、プログラミング、ビジネスデータ分析、ビジネス IT 演習、ビジネスシミュレーション、流通情報システム

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 (60%)、課題やレポート (20%)、授業への参加度 (20%) により総合的に評価する。
私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく対処するので注意すること。

学生への メッセージ	学科の名称の「経営情報」が入った科目です。経営情報システムの重要性や面白さ、奥深さに触れて、多様な科目に興味を持ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	11号館7階（久保准教授室）
備考	必要に応じて資料を配布します。 事前・事後の学習課題については授業冒頭にMoodleやミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。

科目名	経営情報システムⅡ	科目名(英文)	Management Information Systems II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	企業経営において、情報システムの活用は業務遂行に欠かせない要素の一つとなっている。本科目では、経営情報システムⅠで学習した情報システムに関する知識を活かしながら、コンピュータを使った実習を通して、簡単なデータベースの設計・開発を行う。
到達目標	データベースの設計・管理の基本について理解し、コンピュータを使用して簡単なリレーショナルデータベースを設計、開発するための知識・技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	配付資料を中心に演習形式で授業を行い、適宜プロジェクターを使用しながら解説する。パソコンを使って演習課題を解くことで理解を深める。
科目学習の効果(資格)	企業経営で情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まると共に、システムの設計・開発に関する技能を修得できる。中小企業診断士試験を受験する援助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、経営情報システムⅠの復習、データベースの基本	配付資料を読んでおく(30分)
2	システム開発の技術(1)	システム開発のプロセス、システム開発モデル	開発のプロセスについて調べる(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
3	システム開発の技術(2)	要求分析と業務分析の手法	要求分析および業務分析とはどのようなものかを考える(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
4	システム開発の技術(3)	業務分析演習	演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
5	情報システム設計演習(1)	情報システムの開発環境	開発環境について調べる(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
6	情報システム設計演習(2)	データベースのテーブル作成	テーブルについて調べ、演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
7	情報システム設計演習(3)	データベースのリレーション作成	リレーションについて調べ、演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
8	情報システム設計演習(4)	データベースのフォーム作成1	フォームについて調べ、演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
9	情報システム設計演習(5)	データベースのフォーム作成2	演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
10	情報システム設計演習(6)	データベースのレポート作成	レポートについて調べ、演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
11	情報システム設計演習(7)	データベースのマクロ作成	マクロについて調べ、演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
12	情報システム設計演習(8)	データベースのメニューフォーム作成、システム利用マニュアルの作成・提出	演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
13	情報システム設計演習(9)	プレゼンテーション資料の作成・提出、システム作業報告書の作成	演習課題に解答する(60分) 配付資料を読んでおく(30分)
14	情報システム設計演習(10)	プレゼンテーション相互評価、システム作業報告書の作成・提出	システムの問題点を自己分析する(60分) 作業報告書の作成(30分)
15	全体のまとめ・学力診断テスト	全体復習と確認テスト	全体復習の内容を整理しておく(120分)

関連科目 経営情報システムⅠ、プログラミング、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	演習による成果物(50%)、レポート課題(10%)、小テスト(30%)、授業への取組姿勢(10%)をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	システムの企画・設計・評価など、演習を中心に行うのでできるだけ欠席しないようにしてください。 授業の中で生じた疑問等の自己解決に努めるなど、積極的な参加を心がけて下さい。
担当者の研究室等	11号館8階(栢木教授室)
備考	必要に応じて資料を配布する。

科目名	経営統計学	科目名(英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈して活用するための基礎的な知識と技術を身につけることができる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、パソコンを使った演習により理解を深める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトのExcelを使って課題を解くことで理解を深める。
科目学習の効果(資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	事前配布資料を読んでおく(30分)
2	統計学の基礎的発想(1)	変数、尺度水準	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
3	統計学の基礎的発想(2)	標本空間と事象、確率分布	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
4	統計資料の整理(1)	統計資料の収集と読み方	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
5	統計資料の整理(2)	統計資料のまとめ方、提示の方法	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
6	データの集計(1)	代表値について、平均値、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
7	データの集計(2)	度数分布、ヒストグラム、標準化	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
8	前半のまとめ・学力診断テスト1	前半部分のまとめと確認テスト	前半部分の内容を見直しておく(60分)
9	データの集約(1)	クロス表とクロス集計	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
10	データの集約(2)	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
11	データの相関関係(1)	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
12	データの相関関係(2)	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答(60分) 事前配布資料を読んでおく(30分)
14	後半のまとめ・学力診断テスト2	後半部分のまとめと確認テスト	後半部分の内容を見直しておく(60分)
15	統計学の応用	統計的検定・推定について、全体復習	全体復習の内容を整理しておく(120分)

関連科目 数学基礎Ⅰ、数学基礎Ⅱ、ビジネス情報処理Ⅱ、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 講義内の課題(40%)、小テスト(50%)、授業への取組姿勢(10%)をもとに総合的に評価する。私語、スマートフォンの使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。

学生へのメッセージ 経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。

担当者の研究室等 11号館8階(栢木教授室)

備考 必要に応じて資料を配布する。

科目名	経営とリスク	科目名(英文)	Business and Risk
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	リスクマネジメントは、経営活動において発生するリスクを組織的にマネジメントし、ハザード(危害)の発生、損失などを回避、もしくは、低減させる重要なマネジメント手法です。リスクは変化の激しい現代社会における重要な課題であり、リスクの評価手法、マネジメント体制の構築、その運用、および、個人単位でのリスクマネジメント意識の向上などが含まれます。これらについて、事例や手法を多く学ぶことで、実践力の高い専門職業人としての土台を築きます。
到達目標	この講義によって以下の事柄を修得できることを目標とします。 (1) リスクの定義を理解している (2) リスクを多面的に評価することができる (3) リスクへの対応について組織面、人間行動の両面から提案ができる
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜、スライドや映像資料を提示するとともに、外部講師による事例紹介やグループディスカッションなども実施する予定である。 また、必要に応じてインターネットから企業情報、事例などを収集してディスカッションの資料作成を行う。
科目学習の効果(資格)	経営におけるリスクマネジメントの必要性の理解と自立的な対応の心構え 中小企業診断士の基礎知識

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の狙い、進め方、採点方法など	予習：シラバスを読んでおく。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
2	リスクマネジメントとは何か	リスクマネジメントの事例紹介	予習：リスクマネジメントの事例を調べる。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
3	リスクマネジメントの必要性	リスクマネジメントのメリット、コストバランスなど	予習：実際のリスクマネジメントの費用対効果を考える。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
4	リスクマネジメントの実際	部分最適型から全体最適型への変化について	予習：バイト先などのリスク管理について調査する。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
5	リスクの捉え方	リスクの定義、評価方法など	予習：身近にあるリスクの評価をする。 復習：授業で習った言葉をインターネットやテレビで探す。
6	リスクマネジメントの基礎概念(1)	リスクマネジメントの定義、基本計画など	復習：受講内容の実例を探す。
7	リスクマネジメントの基礎概念(2)	対策の実施、モニタリング、危機管理など	復習：受講内容の実例を探す。
8	リスクマネジメントの体制	推進体制の構築、設計の前提について	復習：マネジメント体制を自ら検討する。
9	リスクマネジメントのモニタリングと教育	モニタリングと自己評価、教育方法、評価方法、育成の視点など	復習：教育方法の比較検討を行う。
10	事例紹介	外部講師、もしくは、映像資料などによる事例紹介	復習：これまで受講した内容との関係性の分析を行う。
11	ディスカッション	リスクマネジメント担当部署としてのロールプレイ	予習：ディスカッションテーマに関する情報収集を行う。
12	事業継続計画	BCPとは何か、災害時の事業継続について	予習：震災時の実例を調べる。
13	リスクマネジメントの実務(1)	現場でのリスクマネジメントについて	復習：効果的なリスクマネジメントの検討を行う。
14	リスクマネジメントの実務(2)	今すぐ始められるリスク管理法について	予習：リスクマネジメントの関連図書を読む。
15	まとめ	本講義のまとめ	予習：講義内容の振り返りを行う。

関連科目	システム監査、情報倫理、企業倫理、情報法に関する科目
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期テスト60%、レポートや発表等40%で評価する。
学生へのメッセージ	リスクマネジメントは組織の安定的な事業遂行のために重要な考え方であり、管理技術でもあります。経営におけるリスク管理の概念を理解し、これからの社会で期待される人材として求められる判断力を磨いて欲しいと思います。
担当者の研究室等	11号館7階久保准教授室
備考	事前・事後の学習課題については授業冒頭にMoodleやミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。

科目名	経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	日本を含め世界経済はダイナミックな変化の過程にある。例えば、先進国の経済成長率が鈍化する一方、新興国は世界経済の動力源として機能しつつある。ここで重要なのは、これらは私たちのくらしと決して無縁ではなく、むしろ私たちはこれら経済問題を積極的に理解し、自らの力で対処しなければならない、ということである。本講義では、経済に関する考え方や事例を私たちの身近なものから取り上げ説明し、できるだけ学生と対話しながら進めたい。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果(資格)	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、「くらしと経済」で何を考え学ぶのかを解説する。新聞の読み方についても解説する。	復習すること
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章を予習復習のこと
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章を予習復習のこと
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章を予習復習のこと
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章を予習復習のこと
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章を予習復習のこと
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章を予習復習のこと
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	教科書第7章を予習復習のこと
10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章を予習復習のこと
11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章を予習復習のこと
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章を予習復習のこと
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章を予習復習のこと
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章を予習復習のこと
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章を予習復習のこと

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	中間試験(50%)+期末試験(50%)+発言点をもとに評価する。中間・期末双方の試験を受験しなければ評価の対象とならない。私語は減点の対象となる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本准教授室)
備考	

科目名	コンテンツビジネス	科目名(英文)	Content Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>本講義では、ICTの急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のメディア・コンテンツ業界（放送、映画、出版、音楽、ゲーム）の産業構造とビジネスモデル、および、メディア・コンテンツを自社のマーケティング政策に組み込む製造・サービス業界（食品、アルコール飲料、コスメ、外食等）の企業による取り組み事例について、産業論とマーケティング論の観点から解説する。</p> <p>本講義の目的は、ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な理解を行い、さらに製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新動向を学ぶことである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な論述ができる。 製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新事例をあげ、ビジネスモデルとICT利用の特徴を説明できる。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の理解状況や時の話題に応じて変更する場合もある。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
		1	イントロダクション	主に以下について解説する。
授業計画	2	メディア・コンテンツ業界の産業構造と市場概観	主に以下について解説する。 ・メディア・コンテンツ産業とは ・メディア・コンテンツ産業の市場規模 ・産業の情報化	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	3	メディア・コンテンツ業界の動向(1) 放送業界	主に以下について解説する。 ・テレビ放送の仕組み ・放送業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	4	メディア・コンテンツ業界の動向(2) 映画業界その1	主に以下について解説する。 ・映画の仕組み ・映画業界のビジネスモデル ・資金調達法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	5	メディア・コンテンツ業界の動向(3) 映画業界その2	主に以下について解説する。 ・ハリウッド映画と日本映画の違い ・ハリウッド映画のマーケティング戦略など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	6	メディア・コンテンツ業界の動向(4) 出版業界	主に以下について解説する。 ・出版の仕組み ・出版業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	7	メディア・コンテンツ業界の動向(5) 音楽業界	主に以下について解説する。 ・楽曲販売の仕組み ・音楽業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	8	メディア・コンテンツ業界の動向(6) ゲーム業界	主に以下について解説する。 ・ゲーム開発と販売の仕組み ・ゲーム業界のビジネスモデル ・ハードとソフト ・スマホゲームなど	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	9	メディア・コンテンツ化する業界(1) 食品業界	主に以下について解説する。 ・食品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	10	メディア・コンテンツ化する業界(2) アルコール飲料業界	主に以下について解説する。 ・アルコール飲料メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	11	メディア・コンテンツ化する業界(3) 自動車業界	主に以下について解説する。 ・自動車メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	12	メディア・コンテンツ化する産業(4) 外食サービス業界	主に以下について解説する。 ・外食サービス企業の取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	13	メディア・コンテンツ化する業界(5) 時計業界	主に以下について解説する。 ・時計製造メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	14	コンテンツビジネスの課題	主に以下について解説する。 ・知的財産権等関連法 ・著作権管理技術 ・人材育成など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
	15	まとめ	――	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

関連科目	インターネット概論、メディア戦略論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末テスト (80%)、小テスト・レポート (20%) で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。</p>			
学生への メッセージ	<p>経営学科、経営情報学科（マーケティングコース、ビジネス IT コース）の経営系、情報系の両分野学生のいずれもが関心を持つであろう産業・業界・企業を取り上げ、それぞれの産業構造、ビジネスモデル、最新動向について解説する。就職活動に向けた業界研究を行うつもりで受講するとよいでしょう。</p>			
担当者の 研究室等	1 1 号館 7 階（針尾准教授室）			
備考				

科目名	コンピュータサイエンス	科目名(英文)	Computer Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>コンピュータサイエンスの基本概念『3層(3 Tier)モデル』を学習する。情報システムの構成要素として、①ユーザーインターフェース ②アプリケーション ③データの役割を理解する。同モデルにかかわる、API 開発、オープンデータやソーシャルデータのアクセス等による課題解決手法を学ぶ。システム構成要素の役割、クラウドサービスによるシステム稼働環境(開発環境・実行環境)を理解し、アプリケーションやデータの利活用をどのような手順で進めるのかの理解を図る。</p> <p>情報分野の最上位の応用科目として、授業運営を進める。後述の履修の前提条件を満たす者を対象とする科目である。これまでに、ビジネスITコースでの実践科目を習得したスキル上位者が対象である。ICTの基礎と実践学習とソフトウェアの操作が習熟していない者は、授業の内容をよく精査した上で履修するかを判断すること。(初学者の履修を推奨しない。)</p>
到達目標	<p>クラウドサービス利用時に、オープンデータのアクセス、APIアプリケーション開発の手順、ダウンロードデータ形式・構造の基本が理解できる。履修に際しては、Webブラウザ利用、Office等形式のファイルアクセス、Windowsシステム操作、APIの概観を理解していることが必須である。</p> <p>仮想プロジェクトは、顧客(エンドユーザー企業)、提案企業(プロジェクトメンバー)によるITサービスやアプリケーション開発にかかわる案件を指定するケーススタディとして取り組む。</p> <p>主対象はビジネスIT専攻で、「マネジメントサイエンス」の履修済の者で、本科目と同時期に開講される「コンピュータサイエンス」をあわせて受講することで、より効果的な学習を進めることが期待できる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は、講義、個人での実習課題、グループワーク(4~5名)から構成される。システム環境での実習課題については、サンプルのカスタマイズ等で個人で完結させる。必要に応じて、授業外の相応の時間と自宅のシステム環境でもインターフェースを確保して、自習で課題を完成させる。積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。</p>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> クラウドサービス(Google/Amazon/IBM等)環境でのAPI開発の概観が理解できる。 統合開発支援ツール(MS Visual Studio、オープンソース Eclipse)のGUI開発の概観が理解できる。 オープンデータ/ソーシャルデータのAPI連携の基礎知識が身につく。 エントリーレベルのITベンダー資格(例、AWSソリューションアーキテクト)を将来の実務経験により視野に入れることが可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> 授業ガイダンス 『3層(3 Tier)モデル』の基礎 自宅システム環境の構築手順 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題、自宅システム環境の構築
2	スタンドアロンシステム	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的なアプリ開発 システム稼働環境 C言語 コンパイラとライブラリー 実習課題 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題、自宅システム環境の構築
3	データの構造	<ul style="list-style-type: none"> データの記述法・形式 データの単位(bit, byte) バイナリーコード 標準入出力 実習課題 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
4	アプリケーション開発・実行手順	<ul style="list-style-type: none"> IDE(統合開発環境) 変数と演算子 関数と制御 『互換性』とは 実習課題 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
5	アプリケーションの要件定義	<ul style="list-style-type: none"> 『要件定義』とは 『仕様』とは ユーザー要求とシステム仕様 グループワーク課題・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
6	アプリケーションのモデル化	<ul style="list-style-type: none"> 『モデル化』とは モデル化の方法・手順 統一モデリング言語(UML: Unified Modeling Language) グループワーク課題・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
7	アプリ開発モデル化ツール	<ul style="list-style-type: none"> UML支援ツール 要件定義図の作成 アプリケーションのモデル化 グループワーク課題・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
8	オープンデータの概観	<ul style="list-style-type: none"> 『オープンデータ』とは何か データアクセスの方法・適用事例 構造化データと非構造化データ 実習課題 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
9	オープンデータの利用	<ul style="list-style-type: none"> データ利用ポータル(省庁ポータルアクセス、NII提供ダウンロード) データ利用ポータル(海外機関) 実習課題 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
10	クラウドサービスの概観	<ul style="list-style-type: none"> 『クラウドサービス』とは何か クラウドサービスの標準規格 グループワーク課題・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
11	クラウドサービスのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> 商用クラウドアクセス 認証(ユーザー、アプリ) クラウド利用の考慮点 グループワーク課題・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題、指定するクラウドWebサイトで、テスト用アカウントの作成
12	クラウドアプリケーション利用	<ul style="list-style-type: none"> オープンデータ利用(統計データ/金融市場データ) オープンデータ分析(Watson Analytics) 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題、指定するクラウドWebサイトで、テスト用アカウントの作成

			・実習課題																	
	13	クラウドアプリケーションのモデル化	・クラウドAPI (地図、音声) ・クラウド版 IDE Node-RED ・グループワーク課題・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題、未消化課題の完成・提出、教科書																
	14	クラウドアプリケーションの開発	・クラウドAPI (IoT等) ・ソーシャルデータ分析 (自動応答、文脈分析) ・グループワーク課題・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題、未消化課題の完成・提出、教科書																
	15	まとめ	・総合課題 ・総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題																
関連科目	IT実践スキルの基礎が身につけていることが必須で、「プログラミング」、「ICT概論」の履修を既に完了していることが、履修の前提条件である。これらの条件を満たさず、学習を効果的に進めることは、極めて困難と考えられるため、履修登録に際しては冷静に判断すること。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初めての Watson API の用例と実践プログラミング</td> <td>井上 研一</td> <td>リックテレコム</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初めての Watson API の用例と実践プログラミング	井上 研一	リックテレコム	2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	初めての Watson API の用例と実践プログラミング	井上 研一	リックテレコム																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>～マシンコードからクラウドまで～ 必携 ICT ガイドブック</td> <td>清野 克行</td> <td>ラトルズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アルゴリズムの絵本-プログラミングが好きになる 9つの扉</td> <td>アंक</td> <td>翔泳社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Cの絵本 第2版</td> <td>アंक</td> <td>翔泳社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	～マシンコードからクラウドまで～ 必携 ICT ガイドブック	清野 克行	ラトルズ	2	アルゴリズムの絵本-プログラミングが好きになる 9つの扉	アंक	翔泳社	3	Cの絵本 第2版	アंक	翔泳社			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	～マシンコードからクラウドまで～ 必携 ICT ガイドブック	清野 克行	ラトルズ																	
2	アルゴリズムの絵本-プログラミングが好きになる 9つの扉	アंक	翔泳社																	
3	Cの絵本 第2版	アंक	翔泳社																	
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、小レポートの提出 (15%)、月次等テストの累計 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人・グループ課題 (毎回および不定期、授業内での提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的・建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。月次等テストは毎月および不定期の考査で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進捗を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。																			
学生へのメッセージ	最新のビジネス IT 手法に関する、講義、システム実習、グループディスカッション・発表の内容を総合的に学習します。クラウド環境の API 開発、オープンデータアクセスをとおして、コンピュータサイエンスの基本概念『3層 (3 Tier) モデル』の理解に努めます。クラウドサービスによるソフトウェアや多形式データの活用法にかかわる実践の機会を提供します。自助努力で課題作成を進め、自ら完成させることが基本です。主体的に課題に接しつつ、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。																			
担当者の研究室等	11号館7階 (北村教授室)																			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。																			

科目名	財務諸表論入門	科目名 (英文)	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>会計情報は、債権者や投資家など特定の人々へのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会計の目的、役割を理解する。 ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。 ・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料を配布して講義形式で行うが、基本的に毎回、練習問題の解答やレポート課題が課されることに留意する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。 ・組織(主として企業)に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用である。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題①の見直し
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題②の見直し
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題③の見直し
5	会計情報の内容(1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題④の見直し
6	会計情報の内容(2)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題⑤の見直し
7	会計情報の内容(3)	貸借対照表 資産について	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題⑥の見直し
8	会計情報の内容(4)	貸借対照表 負債について	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題⑦の見直し
9	会計情報の内容(5)	貸借対照表 純資産について	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題⑧の見直し
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習 今までの配布資料、練習問題の復習 事後学習 まとめテストの見直し
11	会計情報の内容(6)	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題⑨の見直し
12	会計情報の内容(7)	損益計算書 費用の認識と測定	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題⑩の見直し

	13	会計情報の内容（８）	損益計算書 営業損益、経常損益、純損益	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題① の見直し
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、 BATIC、公認会計士、税理士、国税専門 官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 当日の配布資料、練習問題② の見直し
	15	まとめ	講義の復讐とまとめ 質問の受付	事前学習 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書 きにする。 事後学習 試験に備え、今までの復習
関連科目	経営学、企業簿記			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加と課題の提出（３０％）、確認テスト（２０％）、定期テスト（５０％）			
学生への メッセージ	毎回授業に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	佐井研究室（１１号館８階）			
備考				

科目名	市場調査実習 I	科目名 (英文)	Practice in Marketing Research I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三、西岡 暁廣、樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習 I では、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票・コードブックを完成させるまでの作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。計量的なデータを用いた論文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。出席が大前提になるため、よほどの事情がない限り欠席は認めない。
科目学習の効果 (資格)	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目 (G 科目) である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の全体的な流れ、授業の進め方など	配布資料に基づく予習
	2	基本的な統計量	平均値・中央値・分散・標準偏差	配布資料等を用いた復習と予習
	3	2変数間の関係を探る	相関係数・クロス表・平均の差	配布資料等を用いた復習と予習
	4	推測統計の考え方	推測統計の基本的な発想	配布資料等を用いた復習と予習
	5	統計的仮説検定	カイ2乗検定、相関係数の検定、T検定	配布資料等を用いた復習と予習
	6	多変量解析 1	分散分析、重回帰分析	配布資料等を用いた復習と予習
	7	多変量解析 2	主成分分析	配布資料等を用いた復習と予習
	8	調査テーマ・サブテーマの検討 1	問いと仮説の設定	各自で問いや仮説を検討する
	9	調査テーマ・サブテーマの検討 2	問いと仮説の設定	各自で問いや仮説を検討する
	10	調査項目・質問文案の検討 1	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	各自で質問項目・質問文案を検討する
	11	調査項目・質問文案の検討 2	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	各自で質問項目・質問文案を検討する
	12	調査項目・質問文案の検討 3	質問項目、質問文案の全体での調整	質問項目・質問文の修正案を検討する
	13	データ収集方法・作業分担の検討	調査対象者・サンプリング方法の選定	配布資料等を用いた復習と予習
	14	プリテスト	仮調査票を用いたプリテストと調査票の修正	調査票の修正案を作成
	15	調査票・コードブックの作成	調査票・コードブックを完成させる	調査票・コードブックの修正案を作成

関連科目	市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学 I、社会学 II、情報社会論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み度 20%、課題等 80%
-----------	-----------------------

学生へのメッセージ	特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。
-----------	---

担当者の研究室等	山本：11号館7階 山本准教授室 樋口：11号館8階 樋口准教授室 西岡：11号館6階 非常勤講師控室
----------	---

備考	
----	--

科目名	市場調査実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice in Marketing Research II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三、西岡 暁廣、樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。市場調査実習Ⅱでは、調査票の配布・回収、データセットの作成、データ分析、報告書の執筆といった作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。計量的なデータを用いた論文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。出席が大前提になるため、よほどの事情がない限り欠席は認めない。
科目学習の効果(資格)	社会調査を実施する際の全過程を体験する。「社会調査士」資格取得に必要な科目(G科目)である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実査	調査票の配布・回収	調査票配布・回収時の諸注意点について学習しておく
2	データ入力・コーディング1	データの入力とコーディング	データ入力方法等について学習しておく
3	データ入力・コーディング2	データの入力とコーディング	データ入力方法等について学習しておく
4	エラーチェック	入力ミスのチェック、ロジカルエラーチェック	エラーチェック方法等について学習しておく
5	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法1	SPSSを用いて単純集計、クロス表、カイ2乗検定をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習、自らの仮説に基づいた実践
6	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法2	SPSSを用いて相関係数の検定、T検定をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習、自らの仮説に基づいた実践
7	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法3	SPSSを用いて分散分析、重回帰分析をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習、自らの仮説に基づいた実践
8	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法4	SPSSを用いて主成分分析、尺度構成をおこなう	テキスト・配布資料を用いた予習と復習、自らの仮説に基づいた実践
9	基礎集計	基礎集計項目の検討、基礎集計表の作成	基礎集計表の作成
10	データ分析と仮説の再検討1	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
11	データ分析と仮説の再検討2	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
12	データ分析と仮説の再検討3	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析
13	データ分析と仮説の再検討4	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	仮説検証のためのデータ分析・報告書執筆
14	報告書執筆1	分析結果をまとめた報告書の作成	報告書の執筆
15	報告書執筆2	報告書の完成	報告書の執筆

関連科目 市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、情報社会論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業への取り組み度 20%、期末レポート 80%

学生へのメッセージ 特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。

担当者の研究室等 山本：11号館7階 山本講師室
樋口：11号館8階 樋口准教授室
西岡：11号館6階 講師控室

備考

科目名	市場調査入門	科目名(英文)	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	社会調査の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。
到達目標	社会調査の基礎を理解する。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自、ノートを取る。授業中にグループワークや作業をすることもある。第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。 グループ・ワークや討論などのアクティブ・ラーニングを取り入れているので、授業中の課題には積極的に取り組むこと。
科目学習の効果(資格)	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち【A】社会調査の基本的事項に関する科目】に対応。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要について。	授業の流れについて理解する。
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
6	量的調査と質的調査—それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
7	官庁統計1—官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何かがあるか。統計法とは何か。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
8	官庁統計2—官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
9	量的調査1—統計学と質問紙調査(1)	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
10	量的調査2—統計学と質問紙調査(2)	質問紙調査の方法について。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
11	量的調査3—質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	簡単な質問紙調査を体験する。
12	質的調査1—聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	簡単な聞き取り調査を体験する。
13	質的調査2—参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
14	質的調査3—ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	教科書の該当部分を読んで予習する。 資料を読んで復習する。

関連科目 . 「市場調査法」、「市場調査実習Ⅰ・Ⅱ」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業態度と授業内課題(10%)と定期試験(90%)の割合で、総合的に判断する。

学生へのメッセージ 市場調査を含む社会調査全般について学ぶ講義です。アクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。

担当者の研究室等 . 11号館7階(牧野(幸)准教授室)

備考 他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ、携帯電話など電子機器の使用など)はすべて禁止とします。
事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
以上のことを承知して受講すること。
提出課題については、授業中に解説してフィードバックを行う。

科目名	市場調査法	科目名 (英文)	Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。
到達目標	調査研究の全体的な流れを理解する。質問紙調査をおこなう際の諸問題を理解する。
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義が中心であるが、実習形式での学習も適宜おこなう。
科目学習の効果 (資格)	社会調査の全体的な流れが理解できる。 「社会調査士」資格取得に必要な科目 (B 科目) である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか。	配布資料を用いた復習と予習
	2	社会調査の全体的な流れ	研究の企画から報告書の執筆までの流れ	配布資料を用いた復習と予習
	3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	配布資料を用いた復習と予習
	4	調査を始める (2)	調査方法の種類	配布資料を用いた復習と予習
	5	調査票を作成する (1)	ワーディング	配布資料を用いた復習と予習
	6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	配布資料を用いた復習と予習
	7	調査票を作成する (3)	調査票全体の設計	配布資料を用いた復習と予習
	8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	配布資料を用いた復習と予習
	9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、標本数の決定	配布資料を用いた復習と予習
	10	調査の実施 (3)	サンプリングの諸方法	配布資料を用いた復習と予習
	11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	配布資料を用いた復習と予習
	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	配布資料を用いた復習と予習
	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	配布資料を用いた復習と予習
	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	配布資料を用いた復習と予習
	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	配布資料を用いた復習

関連科目 社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、市場調査入門、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、市場調査実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 授業への参加度 10%、提出物 30%、および定期試験 60%

学生へのメッセージ 社会調査の知識は、今やどこに行っても必要とされるものです。関心のある学生はぜひ受講して下さい。

担当者の研究室等 11号館7階 山本准教授室

備考

科目名	消費者行動論	科目名(英文)	Consumer Behavior
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	近年、マーケティングの中で、消費行動研究の重要性が高まっています。この講義では、マーケティングの視点から、消費行動について基本的知識を身につけて体系的な理解を与えることを目的としています。日常の消費行動も、マーケティング的にみると新しい発見があるかもしれません。
到達目標	消費行動論の基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義が中心ですが、企業と消費行動の関連を追及していきます。
科目学習の効果(資格)	消費行動をマーケティング的発想で考えることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	消費者行動論の全体像を示します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	マーケティングとは	マーケティングの内容について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	マーケティング志向	企業のマーケティング志向について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	マーケティングと消費行動	マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	消費行動の心理学的アプローチ	消費者行動を心理学的に考察していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	消費行動の社会学的アプローチ	消費者行動を社会的に考察していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動とプロセス	消費者の購買意思決定過程について、考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	顧客満足	企業の顧客満足への対応について取り上げます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	STPアプローチと消費行動	消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	高付加価値化と消費行動	高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	市場細分化と消費行動	市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	製品ライフサイクルと消費行動	製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	消費行動の歴史の変遷	消費行動の歴史の変遷過程をマクロの視点から考察していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	情報社会論	科目名(英文)	Information Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	メディアは社会に変革をもたらしてきた。メディアとして、言葉、文字、印刷、映像、デジタルテクノロジーの栄枯盛衰があったが、本授業では、デジタルテクノロジーを対象にする。どのようにメディアが、ヒトの認識行動にどのように効果と影響を与えるのかを考える。情報化社会の進展の中で、デジタルテクノロジーの進化に伴って、これまでのビジネスや個人の活動が変容したり、新サービスが導かれたり、また様々な社会課題が生じてきた。特に、インターネットやソーシャルメディアの普及によって、時空の短縮や質の向上をもたらす活動が可能になり、社会での価値観の多様化がより進む状況に、いかにメディアに向き合って行動するのかを学習する。
到達目標	メディアは、どのような特徴を持ち、組織や個人がいかに価値を導くのかを理解する。デジタルテクノロジーの進化により普及するメディアの効果や影響を考察し、テクノロジー活用による社会課題解決を導く行動指針を理解することを目指す。 学内 WebBox 教材フォルダの授業補助資料を授業前にプリントし、授業に臨むこと。履修者の理解等に応じて、進め方やテーマを適宜見直し変更する。
授業方法と留意点	授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表(5~6名/グループ)から構成される。毎回、グループワーク・発表(プレゼンテーション)を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。
科目学習の効果(資格)	・新聞やWebが提供する情報メディア関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『メディア』とは何か ・メディアの変遷	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
2	メディア小史	・「メディアはメッセージ」か？ ・20世紀までの伝統的メディア(活字/映像、紙/電子、アナログ) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	メディアと社会の関係	・ヒトの五感の拡張 ・社会 個人、組織、ステークホルダー、コミュニティ ・メディアと社会変容 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	テクノロジーの役割によるメディアの変化	・インターネットの出現 ・コミュニケーション手段 ・メディア特性の潮流(パーソナル/双方向/マルチ) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	情報の視点からのメディア	・情報の視座 ・マイクロ・マクロループ(micro-macro loop) ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	情報の伝達とメディア	・情報の伝達 ・ブロードキャスト(broadcast) ・ナローキャスト(narrowcast) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	インターネットの台頭	・www(world wide web) セマンティック・ウェブ(semantic web) ・機能 検索エンジン、ポータル ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	インターネットの特性	・ネットワーク効果 ・メトカーフの法則(Metcalfe's law) ・ネットワークの価値と社会的影響 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	メディアの技術標準と市場の関係	・『技術標準』とは何か ・技術のオープン性と独自性 ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	情報の連結とメディア	・情報の結びつき ・弱い連結と強い連結 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	ソーシャルメディアの利用の浸透	・SNS(Social Network Services) ・SNS浸透と個人の役割の変化 ・手段のコモディティ化 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	IoT	・IoT(Internet of Things) ・すべてがネットにつながる社会 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
13	IoE	・IoT(Internet of Everything) ・ヒト~モノ~コト連携の相乗効果 ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
14	IoM	・IoM(Internet of Me) ・コグニティブコンピューティング(cognitive computing) ・グループワーク、個人発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
15	まとめ	総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ソーシャルマシン M2M から IoT へつながりが生む新ビジネス	ピーター・センメルハック	KADOKAWA/アスキー・メディアワークス
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンギュラリティは近い[エッセンス版] 人類が生命を超越するとき	レイ・カーツワイル	NHK 出版
	2	シェアリングエコノミー	アルン・スンドララジャン	日経 BP 社
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、個人レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト (毎回、不定期)、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	授業中の講義を聞くだけでは、十分得るものがなく、周りとのコミュニケーションを図ることで触発し合う重要性を認識すること。グループワークは、自分のアイデアを主張すればいいことでもないことに留意し、自分のグループでの立ち位置、クラスでの相対的なポジショニングを考えながら、主体的に課題に接しつつ、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	情報と職業	科目名(英文)	Information and Career
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>テクノロジー進化に伴う、ビジネス人材の価値観の動向、その期待されるスキルの質的転換の動向を考察する。ICTの普及によって、従来のビジネスモデルや社会システムは変容している。情報の利活用により、組織再編や個人活動の差進を促進するテクノロジーの影響力がいっそう高まっている。</p> <p>本授業では、①ICTの適用により、組織・個人にどのような影響や変革をもたらされているか、②情報化社会でのビジネス人材の役割、価値観、行動指針はいかにあるべきか、③情報産業（プロバイダー企業、ユーザー企業）のプレイヤー変化に伴って、ビジネス人材市場がどのように変化するかを学ぶ。</p>
到達目標	<p>情報化の急速な進展が社会、組織・個人、その関係をいかに変えてきたか、また、情報産業（プロバイダー企業、ユーザー企業）の立場から、変化するビジネス人材の役割、情報化に伴う人材市場の動向の説明、主要業界の動向の理解ができる。本授業では、個人の行動指針を考察するために、①正規雇用と非正規雇用の就業環境、②仕事にかかわるICT（人工知能、サービスロボット等）普及が及ぼす人材要件への影響、③ビジネス構造、職業観の変化の視点からの考察ができることを目指す。</p> <p>学内WebBox教材フォルダの授業補助資料を授業前にプリントし、授業に臨むこと。履修者の理解等に応じて、進め方やテーマを適宜見直し変更する。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表（5～6名/グループ）から構成される。毎回、グループワーク・発表（プレゼンテーション）を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。</p>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やWebが提供する「情報と職業」関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 ・教員免許（情報）取得のための必修科目として履修可。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンス ・『情報』とは何か ・情報化社会の変化 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
2	情報化社会の進展と変化するビジネス人材	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会のビジネス人材の要件 ・高等教育の情報と職業 ・ビジネス人材に期待されるスキル ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	新テクノロジーの台頭と人材市場の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる新事業の変遷 ・人工知能/サービスロボットの浸透に伴う人材市場の動向 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	変わる仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・産業・業界の構造変化 ・人工知能/サービスロボットの適用による『土業』『仲介業』の変化 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	考察『将来なくなるとされるヒトの仕事』	<ul style="list-style-type: none"> ・人口統計調査の解釈 ・国際研究 将来なくなると予想される職業ランキングの調査報告 ・個人発表（プレゼンテーション） 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	『人手不足』の正しく理解	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の人材配置ポートフォリオ ・『人手不足』の局所性 ・人手不足の実態 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	ヒトとシステムの関係性	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の量・質 ・ヒトとシステムの関係再構築 ・サービスレベル合意 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	ヒトとシステムの競争と共創	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTができること/ヒトしかできないこと ・職人技を再現するICT ・ヒトとシステムの共創モデル ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	組織の価値観と個人の価値観	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の人材配置の方針 ・個人の職業観・労働観 ・労働・人材関連白書の調査報告 ・個人発表（プレゼンテーション） 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	『働き方改革』の理念	<ul style="list-style-type: none"> ・『働き方改革』の政策 ・働き方の日米比較 ・働き方をめぐる企業の事例 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	『働き方改革』の企業での運用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・『働き方改革』以前（裁量型労働、フレックス勤務等） ・経団連の指針と企業の運用状況 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	『働き方改革』を支援するテクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な働き方のICT支援 ・モバイルワーク ・ヴァーチャル・コミュニケーション ・フレキシブル・コラボレーション ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
13	これからの個人の価値観と行動指針	<ul style="list-style-type: none"> ・個人に期待される役割 ・ビジネス人材の行動指針 ・知識創造とキャリア観 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

	14	新テクノロジー時代のキャリアパス再考	<ul style="list-style-type: none"> ・個人発表（プレゼンテーション） ・人材育成 企業内研修、自己啓発 ・多様な働き方 日米企業の事例 ・キャリアパスの再考 ・グループワーク、個人発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・総括 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロボットの脅威 一人の仕事がなくなる日	マーティン・フォード	日本経済新聞出版社
	2	人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの	松尾 豊	KADOKAWA/中経出版
	3	IT 人材白書 多様な文化へ踏み出す覚悟	情報処理推進機構 IT人材育成本部	情報処理推進機構
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、個人レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト (毎回、不定期)、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	授業中の講義を聞くだけでは、十分得るものがなく、周りとのコミュニケーション図ることで触発し合う重要性を認識すること。グループワークは、自分のアイデアを主張すればいいことでもないことに留意し、自分のグループでの立ち位置、クラスでの相対的なポジショニングを考えながら、主体的に課題に接しつつ、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	情報ネットワーク	科目名(英文)	Information Networks
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、社会、産業の重要なインフラストラクチャーであり、さまざまな分野で欠かせないコンピュータネットワークについて学習する。特に、ネットワークを構成する基本的な技術を整理し、どのようにして相互にデータのやりとりができるのか、それらの技術がどのように活用されているのかについて平易に解説する。また、LANやインターネットはもとより、携帯電話や衛星通信などについても、最新の技術動向やトピックスを交え、ネットワークの面白さ、奥深さについて議論する。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶ。
授業方法と留意点	この授業は講義が中心であり、適宜演習形式を取り入れていく。資料はホームページを通じてPDFファイルで毎回配布する。初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。専門科目「ネットワーク運用管理」を履修する予定の場合は、必ずこの科目を予め受講すること。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	データ通信の仕組み	データ通信の種類とその利用方法	なし	練習課題(1)を解く(1時間)
2	伝送技術と伝送システム	変調方式と多重化方式、データを伝送する代表的な手順	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(2)を解く(1時間)
3	交換システム	交換システム(回線交換とパケット交換)	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(3)を解く(1時間)
4	通信プロトコル	通信プロトコルの役割、ネットワークアーキテクチャ	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(4)を解く(1時間)
5	LANのネットワーク構成	ネットワークの種類と特長	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(5)を解く(1時間)
6	LANのプロトコル	LANを利用した通信の仕組み、OSI(Open Systems Interconnection)参照モデル	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(6)を解く(1時間)
7	LANの構成要素	ハブ、ルーター、Macアドレス、Macフレーム	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(7)を解く(1時間)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(8)を解く(1時間)
9	無線LAN	無線LANの種類と特徴	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(9)を解く(1時間)
10	電子メール(1)	電子メールの仕組み、メールクライアントとメールサーバ	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(10)を解く(1時間)
11	電子メール(2)	メールヘッダーの役割、DNSサーバ、メールセキュリティ	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(11)を解く(1時間)
12	情報社会のセキュリティ(1)	情報セキュリティの基本	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(12)を解く(1時間)
13	情報社会のセキュリティ(2)	ハッキングとクラッキング	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(13)を解く(1時間)
14	コンピュータウイルス	コンピュータウイルスの特徴と被害	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(14)を解く(1時間)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習: 練習課題(15)を解く(1時間)

関連科目	ネットワーク運用管理、情報処理関連の基礎科目
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業中の課題(20%)、小テスト(20%)、期末試験(60%)により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の1/3回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者(寝る、喋る等)は欠席扱いとする。
学生への	ネットワークは、多くの技術的要素を含んでいるため難しいと思われるが、本講義では、ネットワークの仕組みやその使われ方を分かりやすく

メッセージ	説明する。前回までの授業内容をよく理解しておくこと。
担当者の 研究室等	11号館8階 堀井教授室
備考	

科目名	情報倫理	科目名(英文)	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得する。
授業方法と留意点	この授業は、講義とグループワークをセットで行う。講義を受けた後に事例研究を行い、グループワークで課題を発見する。次に、この課題に対する倫理観、防止・対応策を考え、レポートとしてまとめる。授業のなかでは、この内容を2回に分けて発表し、全体討論を行う。また、最終回には、情報倫理についての理解度を確認するテストを実施する。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	情報セキュリティとサイバー犯罪	<ul style="list-style-type: none"> 情報倫理の必要性 不正アクセス・なりすまし 情報の改ざん クラウドサービスのリスク ネットウィルス・マルウェア レポート課題(講義内容穴埋め) 	事前学習: なし 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
2	事例研究(1)	<ul style="list-style-type: none"> グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題(グループワークによる討論・まとめ) 	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
3	ソーシャルメディアと情報	<ul style="list-style-type: none"> ネット時代のコミュニケーション ブログ・SNS・電子メール 拡散と炎上 ネット依存・誹謗・中傷 ソーシャルゲーム レポート課題(講義内容穴埋め) 	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
4	事例研究(2)	<ul style="list-style-type: none"> グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題(グループワークによる討論・まとめ) 	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
5	個人情報管理とプライバシー保護	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の漏えい プライバシー侵害 組織と個人の守秘義務 レポート課題(講義内容穴埋め) 	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
6	事例研究(3)	<ul style="list-style-type: none"> グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題(グループワークによる討論・まとめ) 	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
7	発表と全体討論	<ul style="list-style-type: none"> 提示テーマの資料作成および発表 	事前学習: 発表準備(2時間) 事後学習: なし
8	E-commerce(電子商取引)	<ul style="list-style-type: none"> 電子決済・取引 個人情報のためのネット認証 ネット広告 ネットオークション・ショッピング 売買トラブル(悪徳商法・詐欺) レポート課題(講義内容穴埋め) 	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
9	事例研究(4)	<ul style="list-style-type: none"> グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題(グループワークによる討論・まとめ) 	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
10	企業における情報倫理	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスと法令遵守 事業と内部統制の両立 ITシステムと企業倫理 レポート課題(講義内容穴埋め) 	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
11	事例研究(5)	<ul style="list-style-type: none"> グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題(グループワークによる討論・まとめ) 	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
12	科学技術と情報倫理・知的財産権	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産の侵害 著作物と著作権 参考文献と引用 マルチメディアコンテンツの複製 レポート課題(講義内容穴埋め) 	事前学習: 次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
13	事例研究(6)	<ul style="list-style-type: none"> グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題(グループワークによる討論・まとめ) 	事前学習: グループワークに向けて要点を整理しておく(30分) 事後学習: レポート課題を完成する(1時間)
14	発表と全体討論	<ul style="list-style-type: none"> 提示テーマの資料作成および発表 	事前学習: 発表準備(2時間) 事後学習: なし
15	まとめと理解の確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> 総括 確認テスト 	事前学習: レポート課題の復習(2時間) 事後学習: なし

関連科目	情報処理関連の基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
	2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
	3			
評価方法 (基準)	平常点(出席態度、レポート課題)40%、発表(レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容)40%、理解の確認テスト20%を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	この授業では、グループワークでの討論、提出課題の作成、発表など出席しなければ達成できないことが非常に多くあります。必ず、毎回授業に参加すること。			
担当者の 研究室等	11号館8階 堀井教授室			
備考				

科目名	職業能力開発	科目名(英文)	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>【目的】社会生活およびビジネスに必要な社会的基礎力の向上を目指す。社会人・職業人に求められる社会的基礎力<論理的な思考力、新しいアイデアを生み出す発想力、チームワーク力>の向上を目指す。</p> <p>【概要】日本の産業の変遷の視点からビジネスパーソンに求められる能力の変化について理解し、その能力の獲得方法について考える。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の産業の変遷を理解する ビジネスにおいて求められる力を理解し、その獲得のために行動変容を起こせるようになる チームで成果物を創出する 自らのやる気の源泉を考えられるようになる
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて講義を行う。授業ではグループワークを多用するので能動的に自ら考えて答えを出すように心掛けてください。
科目学習の効果(資格)	ビジネス社会で必要な能力を習得し、活用することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。 職業の定義を知る 	事後学修:講義の内容、進行方法を理解する
2	日本の職業指導の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 日本の作業の変遷と求められた能力の変化を知る 	事後学修:配布レジュメを熟読し、日本の産業の変遷について復習すること
3	情報編集能力を磨こう	情報編集能力を高めるワーク	事後学修:学んだことを日常生活で活用してみる
4	グループワークの提示	<ul style="list-style-type: none"> グループワークのインストラクション グループの工程管理を考える 	事後学修グループで課題に取り組むこと
5	日本の就職活動について	<ul style="list-style-type: none"> 日本の就職活動の歴史的経緯を知る 日本標準職業分類・産業分類について 	事後学修:配布レジュメを熟読する
6	営業力向上計画	「営業力とは何か」について個々で考える	事後学修:配布資料を熟読する
7	取材力向上計画	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングマインドを理解する 取材力向上を意識したワークを実施する 	事後学修:学んだことを日常生活で活用してみる
8	グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> 講義④の課題のグループ発表 	発表の準備をしておく
9	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ①	<ul style="list-style-type: none"> ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る 	事後学修:講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考える
10	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ②	<ul style="list-style-type: none"> ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る 	事後学修:講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考える
11	問題解決の事例を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 実社会で起こった問題の解決事例とその対処について知る 	事後学修:講義で扱った内容以外でも実ビジネスの事例を収集すること
12	グループで創出する①	グループで課題に取り組み、課題解決策を考える	事後学修:グループでの取り組みを内省すること
13	グループで創出する②	グループで課題に取り組み、課題解決策を考える	事後学修:グループでの取り組みを内省すること
14	内省する技術	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学生生活を振り返って今後活かす方法を知る 	事前学修:今までの学生生活を振り返り、他者に伝えられるようにまとめておく
15	講義のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 講義の振り返り 	提出物等、出し忘れが無いか確認すること

関連科目 キャリア能力の向上を目指す科目と連動する。自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業での提出物(40%)、グループワーク(20%)、期末レポート(40%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。皆さんの就業力を伸ばす方法を一緒に考えましょう。

担当者の研究室等 7号館3階キャリア教育推進室 水野研究室

備考 講義に関する質問には積極的に対応します。

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	久保准教授室 11号館7階																
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的な能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的な能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5◎		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。																
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営情報学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	経営分野における情報技術をテーマとして取り組んできた演習 I および演習 II の内容を踏まえて、卒業研究では、高度情報化社会の実モデルを研究テーマとして一つ取り上げ、このテーマを題材に情報収集(サーベイ)や問題解決の演習を行っていく。最終的にはこの結果を卒業論文としてまとめ、プレゼンテーションやディスカッションの場を利用して情報発信能力を高めていく		
到達目標	演習 I および演習 II を土台として卒業研究を実施し、この結果を卒業論文としてまとめる。		
授業方法と留意点	卒業論文の作成と就職活動について個別に指導していく。卒研究生は不正防止のための研究倫理を十分に踏まえた上で卒業論文を作成すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習 I および演習 II で取り組んだ問題をさらに専門的な視点から解析する。この結果を卒業論文としてまとめる。また、卒業論文の内容を卒業研究報告会で発表する。卒業論文作成に当たっては、不正防止のための研究倫理について指導・教育する。 事前学習では、毎回必要となる知識の習得に努め、卒業論文の完成に向けて要点を整理しておくこと (各 30 分)。また、事後学習では、研究の進捗内容をまとめておき、卒業論文の作成に備えること (各 1 時間)。		
関連科目	基礎演習、専門基礎演習、演習 I、演習 II		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業論文 (80%) および卒論発表 (20%) の内容により総合的に評価する。ただし、卒業論文は経営学部のルーブリックに基づいて評価する。また、卒業論文について中間提出に間に合わない者、担当教員の添削を受けない者については適宜減点する。		
学生へのメッセージ	卒業研究は卒業要件に関係するため、卒業論文の制作や提出に遅れが生じないように注意すること。		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 卒業研究において、大学4年間で学んだ知識や技術に裏付けられた主張を示し、研究論文、または、卒業制作としてまとめる。 ゼミでは、研究という最高の知的活動を通じて、人としての成長を遂げることを目的としている。			
到達目標	卒業研究においては以下の到達目標を設定する。 (1) 研究テーマに対する説明責任を果たす (2) QCDを意識したプロジェクト管理を行える (3) 研究倫理を十分に理解した研究活動の実施			
授業方法と留意点	適宜、全員進捗状況を報告する。中間報告、経過報告での議論とブラッシュアップを重視すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	大学における学びの集大成として、卒業研究もしくは卒業制作をおこなう。演習Ⅰ・演習Ⅱを通じて身に付けた専門知識を体系化し、自らが定めたテーマに関して研究を進める。研究、制作の成果は、卒業研究発表会において報告し、卒業研究論文を作成する。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究論文の内容 (中間報告、発表会、報告書のすべてを満たしていることが条件) 研究内容 70%、ルーブリックによる評価 10%、その他 20%			
学生へのメッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。			
担当者の研究室等	久保准教授室 (11号館7階)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	4年間の集大成である卒業論文を作成していくことを目的とします。			
到達目標	完成度の高い卒業論文の作成を目指します。			
授業方法と留意点	進捗状況をゼミで発表してもらいます。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業論文を作成し、提出するまでについて指導します。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学部のルーブリック評価にしたがって卒業研究発表を行い、評価する。評価は、総合的に判断する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>演習では、主に以下の2つの内容について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業のマーケティング活動におけるメディア戦略 2. コンピュータとデータ解析ソフトを使った消費者行動・心理情報の分析 <p>これらの学習を通じて、インターネットや情報端末を使った企業のITマーケティングに関する取り組み及びネットワーク技術に詳しくなり、同時に、高度なデータ解析技術を習得していく。</p>																		
到達目標	<p>・卒業論文の作成</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自が定めたテーマについて研究し、その発表を行う 2) 卒業論文を執筆する 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各自の卒業研究テーマについて取り組む。 なお卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえて卒業論文を執筆すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>ルーブリックおよび卒業研究成果報告会における発表内容をもとに評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>就職活動と合わせて計画的にすすめてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>11号館7F 針尾准教授室</p>																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	経営情報学の分野に関するテーマでの研究活動をさらに突き詰め、卒業論文としてまとめる。テーマは個別に設定し、個人の責任のもとで研究を進める。定期的にゼミの中で研究経過を相互に報告し、意見交換しながら卒業論文を完成させる。		
到達目標	社会人になるための準備として、自らの判断で意思決定し行動できるようになることを目指す。また、研究内容について、知識・理解を深め、論理的に説明できるようになることを目指す。活動では、他のゼミ生とも協力しながら、相互に高め合うことを目指す。並行して行う就職活動では、自分の将来について目標を持って取り組む。		
授業方法と留意点	研究経過を定期的に報告することで、進捗状況を自己管理しながら計画的に研究を進める。他のゼミ生の意見を参考にしながら、相互に協力し合い、他のゼミ生の知識・経験を高めることにも協力する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	各自が定めた研究テーマに基づいて、文献調査を行いながら研究内容を絞り込み、卒業論文にまとめる。その際、演習Ⅰ・Ⅱを通じて身につけた専門知識を取り入れながら、各自工夫しながら計画的に研究を進める。就職活動も伴うため、効率良い作業を求める。 なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。		
関連科目	演習Ⅰ、演習Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	レポート課題 (10%)、卒業研究に関するルーブリック評価 (60%)、プレゼンテーション (20%)、演習への取組姿勢 (10%) 演習が中心となるため、欠席・遅刻は演習内容や成績評価に影響します。		
学生へのメッセージ	ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。知識・技能の修得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。		
担当者の研究室等	11号館8階 (栢木教室)		
備考	教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介する。 必要に応じて書籍を購入してもらおう場合もある。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	マーケティングのゼミである。 これまでの学びの集大成を、卒業研究を通じて行う。 プレゼンテーションを通じて、プレゼンテーション能力を養う。																		
到達目標	卒業研究を通じて、調査研究の一連のステップを学ぶ。 自分の伝えたいことを、正しく伝える技術を身に着ける。 これまで学んだことの集大成とした卒業研究を仕上げる。																		
授業方法と留意点	個人指導及び卒業研究内容のゼミでの発表。発表に対する質疑応答を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ] マーケティング論を活用した卒業研究の制作</p> <p>[内容] 卒業研究テーマを設定し、適切な順序にもとづき卒業研究を進め、学士レベルの研究を行う 中間発表、および最終報告を行うにあたり、自分が行った卒業研究の内容を正しく伝える。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業研究の取組み姿勢 20%、内容 (学部共通のルーブリック評価を活用します) 60%、プレゼンテーション (中間・終了) 20%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂教授室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。</p>																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本ゼミにおける目標は、社会学に関するさまざまな知識を習得することと、各自で卒業論文を仕上げることである。本ゼミでは、3年次までの学習内容をふまえて、各自の関心に基づいた研究テーマを選択する。それぞれの研究テーマに沿って、もっとも適切な研究方法を選択し、それに基づいて分析をおこなう。分析を通して新たな知見を得て、それをまとめるかたちで論文を仕上げていく。			
到達目標	独力で論文が書ける。必要なデータを独力で収集できる。			
授業方法と留意点	ゼミ生は、それぞれの研究の進捗状況を授業時間内に報告する。ゼミ生は、報告に対して教員や他のゼミ参加者などから出される意見を手がかりに、よりよいものに仕上げていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	3年次までの学習内容などに基づき、卒業論文を完成させる。自身が設定した問題に関連する文献を幅広く参照すること、それをふまえて独自の分析をおこない、得られた知見をまとめて論文に仕上げる。 なお、卒業論文の作成にあたっては、配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。受講生は修得した研究倫理を十分にふまえて卒業論文を作成する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	研究の着眼点、研究方法の適切さ、分析と成果のまとめ方の正確さ、卒業論文内容および報告内容			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室			
備考	他のゼミ生の報告内容から自分自身の研究のヒントを得ることもあるので、発表担当以外の日にも参加すること。無断欠席は厳禁とする。			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理学を学ぶゼミである。卒業研究では、各自の興味に応じて研究テーマを決定し、卒業研究を実施していく。研究をまとめ、論文の書き方を学ぶことを目的とする。		
到達目標	卒業研究では、経営における心理、消費者心理、人間関係などに関するテーマを自分で決め、前期は研究計画を立てる。後期は、テーマに関する研究を実験、調査、面接などの手法を用いて実施していく。そして、卒業論文をまとめる。		
授業方法と留意点	卒業研究では、毎回担当者が卒業研究の途中経過の発表を行う。発表者以外の人は討論に積極的に参加する。6月くらいにはテーマを決定し、9月には卒業研究を実施していく。そして、10月より本文を作成し、1月には卒業研究を発表する。反転授業などを積極的に行う。アクティブ・ラーニングを用いて発表形式で討論を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ・内容：経営における心理、人間関係、消費者心理、マーケティングなど</p> <p>方法：各自のテーマの文献を購読し、研究計画を立て、研究を進める。</p> <p>事前・事後課題：事前に予習、事後に復習</p> <p>なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p>		
関連科目	「消費者行動論」や「マーケティング」と関連する。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業論文は学部のルーブリック評価基準を用いて評価する。授業への積極的参加度(30%)、卒業研究の中間発表(20%)、卒論発表会での発表の評価(20%)、卒業研究の評価(30%)を総合的に判断する。自分の研究を計画的に行い、卒業研究をまとめ、最後に発表を行うこと。		
学生へのメッセージ	必ず出席し、卒業研究を着実に進めること。		
担当者の研究室等	11号館7階 牧野(幸)研究室		
備考	<p>牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。特別な情報の技術(プログラミングなど)は必要としないが、確率統計の知識は必要となる。また、プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどが普通に使える必要がある。何よりも人としての心理を大切にすることをゼミであるので、“時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、スマホを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。卒業研究はアクティブ・ラーニングの場でもあるので、積極的に主体的に活動すること。</p> <p>授業中の課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバックをする。</p>		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>本ゼミでは、マーケティング及びマーケティング・リサーチを基本的なテーマとして扱います。卒業研究では、演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。各自で選択した卒業論文のテーマにより、必要に応じて資料調査、調査票の設計やデータ収集、分析及び計算、考察を通して卒業論文を作成してゆくこととなります。</p> <p>これまで以上に各自の責任が大きくなっていくため、卒業に向けてしっかりスケジュールをたて、計画的に作業を進めてください。また、卒業論文のテーマ選択は基本的に各自の興味を優先するため、普段の生活の中でもマーケティングを意識しておくよう、努めてください。</p>																		
到達目標	<p>演習Ⅰ・Ⅱでは卒業論文作成時に必要となる、マーケティング及びマーケティング・リサーチ技術を習得してきました。これらの知識、技術を用いて卒業論文を完成させることが卒業研究の目標となります。</p> <p>また、卒業論文の完成に向け、適宜必要な知識を学習してもらいます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。</p> <p>テーマについては、学生自身で興味のある内容を選択してもらうこととなります。選択したテーマについて、どのように卒業論文をまとめあげていくかについては、教員による指導や、ゼミ生同士の話し合いを通して模索していきます。</p> <p>また、適宜ゼミ内での学生による卒論発表を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>卒業研究では、卒業論文の完成に向け、個別指導が中心となります。</p> <p>同時に、ゼミ内での卒業論文進捗発表などを適宜実施します。</p> <p>年度末にはゼミ生全員に各自の卒業論文をプレゼンテーションしてもらいますので、そのつもりで各自責任をもって作成に取り組むこと。また、設定された締切等は守るように努めること。</p> <p>研究に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも、引き続き努めます。これを踏まえて卒業論文を作成してください。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ループリック評価を前提に、出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	就職活動など各自の事情については考慮しますので、必ず連絡をするようにしてください。																		
担当者の研究室等	11号館8階 (樋口研究室)																		
備考																			

科目名	知的財産管理論	科目名(英文)	Intellectual Properties Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	【授業概要・目的】 戦略的且つ、組織的な研究開発の推進により創出される企業の新たな価値(知の潜在成長力)である知的財産権の活用方法、管理体系について学ぶ。
到達目標	近年、知的財産の戦略的な創造と活用が企業経営の機能として占める意義がますます高まっている。効率的な研究開発プロセスにより高収益体質のビジネスモデルを作り上げるためには、知的財産を成長戦略の軸として活用することが必要不可欠である。本講座では知的財産の代表格である特許権の他、著作権、製品企画・販売戦略に必要な商標権、コンテンツビジネスに係わる価値(知財権)の戦略的活用法の基礎知識を会得する。
授業方法と留意点	毎回講義での Case Method により理解を深める。 特許庁HPに掲載の「知的財産権制度入門」をダウンロードし参考とすること。
科目学習の効果(資格)	将来企業人の一員となるために必要な産業界(実務)の知識を習得してください。 企業内専門職としての必要知識の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「知的財産制度－知財権の種類と機能」	知的財産の種類 事例研究	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
3	「知的財産制度－知財権の法的保護」	知財戦略の仕組み ライセンス戦略の基本	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
4	「知的資産の流出防止と企業戦略」	知財戦略の基本 ニーズ志向での知財活用	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
5	「開発における知的財産の市場調査」	知的活用での知財戦略 差別化戦略における留意点	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
6	「知的財産の分析手法」	営業秘密(不正競争防止方) 職務発明	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
7	「知的財産の経済的価値評価」	知財価値評価説明のための財務基礎知識 知財価値評価	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
8	知的財産ビジネスの基礎(1)	知的財産権調査の考え方	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
9	知的財産ビジネスの基礎(2)	知的財産権の法的効力	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
10	知的財産ビジネスの基礎(3)	「販売戦略に係る商標権編」	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
11	知財法務・訴訟の基礎(1)	特許侵害	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
12	知財法務・訴訟の基礎(2)	「特許権編・事例研究」	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
13	知財法務・訴訟の基礎(3)	「著作権編・事例研究」	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
14	知財法務・訴訟の基礎(4)	知財出願実務の考え方 ライセンス契約・実務の考え方 契約事例研究	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。
15	国際技術ライセンスの基礎	国際ライセンス条約 国際標準規格	事前:次回講義内容の要点について事前にネット情報等を調べて置くこと。 事後:解らない点は講義アンケートにて質問すること。

関連科目	民法 I 民法 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			静岡学術出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のアンケート質問事項への回答状況 (出席確認を含む) [50%] 期末最終レポート課題 [50%]			
学生への メッセージ	将来企業人の一員となるために必要な産業界 (実務) の知識を習得してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考				

科目名	ネットワーク運用管理	科目名(英文)	Network Operations and Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、ネットワークの運用・管理に関する基礎知識を学び、社会にとって必要不可欠なインターネットを用いたコミュニケーションを題材にクライアント/サーバシステムの仕組みやプロトコルなどについて理解を深めていく。更には、プログラミング演習を行い、動的なネットワークコミュニケーションを実現するための技術を習得する。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶ。
授業方法と留意点	この授業の前半は講義形式、後半は演習形式で行う。資料はホームページを通じてPDFファイルで毎回配布する。初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。また、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講を決めて欲しい。なお、この科目を履修する際は必ず事前に「情報ネットワーク」を受講しておくこと。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験や基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	ネットワーク管理の基本	ネットワークコミュニケーション、ネットワークの運用と管理の基本事項	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(1)を解く(1時間)
2	TCP(1)	クライアント/サーバシステム、TCPの特徴と役割	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(2)を解く(1時間)
3	TCP(2)	TCPとUDP	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(3)を解く(1時間)
4	IP(1)	IPの役割、IPパケット	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(4)を解く(1時間)
5	IP(2)	IPアドレス、IPヘッダー、ICMP、チェックサム	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(5)を解く(1時間)
6	Webブラウザの仕組み	Webクライアント/サーバシステム、HTTPプロトコル	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(6)を解く(1時間)
7	Webブラウザの拡張機能	プラグイン・インタフェース、Cookie管理、暗号化・認証	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(7)を解く(1時間)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半の復習と小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(8)を解く(1時間)
9	ホームページの基礎知識	HTMLによるホームページ作成の基本技術	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(9)を解く(1時間)
10	JavaScriptプログラミング(1)	プログラミング環境の設定、操作手順、イベントハンドラ	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(10)を解く(1時間)
11	JavaScriptプログラミング(2)	関数、条件分岐	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(11)を解く(1時間)
12	JavaScriptプログラミング(3)	繰り返し処理、クッキー情報の活用	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(12)を解く(1時間)
13	PHPプログラミング(1)	PHPプログラミングの基本、フォーム	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(13)を解く(1時間)
14	PHPプログラミング(2)	配列関数、おみくじ機能	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(14)を解く(1時間)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半の復習と小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分)	事後学習：練習課題(15)を解く(1時間)

関連科目 情報ネットワーク、情報処理関連の基礎科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業中の課題(20%)、小テスト(20%)、期末試験(60%)により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の1/3回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者(寝る、喋る等)は欠席扱いとする。

学生への メッセージ	この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに授業を行っていく。このため、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講を決めて欲しい。
担当者の 研究室等	11号館8階 堀井教授室
備考	

科目名	ビジネス IT 演習	科目名 (英文)	Practice in Business IT
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	情報社会の重要なビジネススタイルである IT を駆使したビジネスについて、特にネットショップに着目して、その設計、構築、さらに運用に関する演習を行う。具体的には、実際のネットショップの分析を行い、次に、仮想店舗のコンセプトの提案、商品ページの設計、ウェブサイト全体のデザインを実習する。さらに、契約、決済などを現在の法制度に基づいて検討するとともに、コンテンツマネジメントシステムの利用を前提とした構築実習を行う。
到達目標	この講義によって以下の事柄を達成することが目標です。 (1) ネットショップを構成する技術の説明ができる (2) ネットショップの企画からページ作りまでを一貫して行うことができる (3) ネットショップの運営に際しての法的な課題について概説できる
授業方法と留意点	演習は毎時間、情報処理室で行う。演習課題を実行しながら、現在のネット環境の理解を進める。グループでの討論や協働作業、および発表も含むため、積極的な授業参加を心がけて欲しい。
科目学習の効果 (資格)	情報技術を活用した経営の総合的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本演習の狙い、評価方法についてなど	事前：シラバスを読んでおくこと 事後：興味のある回の内容についてキーワードを調べる
2	既存ネットショップの分析 (1)	実在するネットショップを調査し、傾向を分析する。	事前：ネットショップの事例を探しておく 事後：事例を追加し傾向を確認する
3	既存ネットショップの分析 (2)	ネットショップの必要事項を把握する。	事前：各自が構築を目指すネットショップのイメージを考える 事後：経営の比較手法を確認する
4	コンセプトの検討	構築するネットショップのコンセプトを明確にする。	事前：仮想店舗のラフイメージを作る 事後：既存のネットショップに対する位置付けを確認する
5	商品群の企画	ネットショップのコンセプトに適した商品のデータを集める。	事前：数多くの商品データの収集方法を検討する 事後：授業中に得た収集方法を試す
6	商品ページのデザイン	商品を提示する際の画面デザイン、説明文の規定などを検討する。	事前：商品ページのデザインを分析しておく 事後：作成したデザインと実例を比べる
7	ウェブサイトの設計	商品群を魅力的に見せるための構成方法の検討を行う。	事前：使いやすいと思われるサイトの特徴を書き出す 事後：情報のまとめ方、アクセスしやすいウェブサイトの要件を調べる
8	取引書類の検討	免責事項、配送基準などの契約書類を作成する。	事前：実際の取引書類 (ページ) を3つ読む 事後：現在の法制度と契約書類の記載内容を見比べる
9	CMS 実習	コンテンツマネジメントの利用方法を学ぶ。	事前：現在の CMS の利用可能性の把握 事後：CMS を利用している実例を見る
10	構築実習 (1)	ネットショップの内容を CMS に登録する。	事前：CMS の利用方法の予習 事後：CMS サービスの実例を見る
11	構築実習 (2)	ネットショップの内容を CMS に登録する。	事前：CMS の利用方法の確認 事後：課題の修正
12	グループ発表	各自が構築したネットショップを相互評価する。	事前：発表資料の作成 事後：既存のネットショップとの比較
13	キャンペーン計画	ネットショップの活性化を考慮したイベントの企画を行う。	事前：実在のネットショップのキャンペーンを調べる 事後：他のグループの企画を分類する
14	最新技術動向	これからのネットショップに用いられる技術動向の検討	事前：インターネット技術の最新動向の調査 事後：技術動向の分類
15	本演習のまとめ	本演習で学んだことの振り返り	事前：本演習で作成した課題の見直し 事後：ノートをまとめる

関連科目	プログラミング、マルチメディア処理 I・II、情報ネットワーク
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期テスト 50%、レポートや発表等 50%で評価する。
-----------	------------------------------

学生へのメッセージ	この演習では、情報技術をいかに効果的に活用して新しいビジネスを立ち上げるかを体験しようと思っています。プログラミングが苦手でも大丈夫ですので、楽しく受講してください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館7階久保准教授室
----------	--------------

備考	事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。
----	--

科目名	ビジネスシミュレーション	科目名(英文)	Business Simulation
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	シミュレーションとはコンピュータを用いて現象をモデル化して実験する方法です。コンピュータの発展にともなって地球規模のシミュレーションも行えるようになってきました。この授業ではシミュレーションの基礎を学び、その上でビジネスの現場でシミュレーションがどのように使えるかについて学びます。
到達目標	この授業での到達目標は次のとおりです。 (1) シミュレーションを構成する要素が説明できる (2) シミュレーションの有効性と限界を説明できる (3) ビジネスにおけるシミュレーションモデルの提案ができる
授業方法と留意点	毎回、コンピュータを用いた体験を含めた学習を行う。課題を多く出すため、授業への出席は必須である。授業内ではシミュレーションの活用についてのグループディスカッションやシミュレーション自体を製作する演習なども行う。
科目学習の効果(資格)	基本情報処理技術者や中小企業診断士などの情報技術と経営の実践に関する知識

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	この授業の進め方、必要とする関連知識の説明	事前：シラバスを読む 事後：関連知識のキーワードを調べる
2	身近にあるシミュレーション	実は体験してきているシミュレーションの発見、何をシミュレートしているのかを知る	事前：シミュレーションの意味を調べる 事後：身近なシミュレーション例を探す
3	意思決定のプロセス	分枝限定法による場合分けの手順を知る	事前：意思決定について過去に習った内容を見直す 事後：購買行動について分枝限定法を試す
4	確率分布とシミュレーション	事象を確率分布で表す利点を知る	事前：確率分布の例を探す 事後：他の授業で習った確率分布を確認する
5	顧客行動のシミュレーション	顧客の購買を意思決定と確率でモデル化する	事前：顧客行動のパターン化の例を調べる 事後：データ分析からモデルを作る方法を考える
6	人工知能は賢いのか？	人工知能の仕組みを知る	事前：人工知能に関連するニュースを調べる 事後：AI機能を実装しているものを試す
7	社会のシミュレーション	社会の動きをモデル化する方法を知り、分析できる限界について考える	事前：社会の動きに関連する研究例を調べる 事後：社会科学が対象としているものを確認する
8	自然現象のシミュレーション	複雑系シミュレーションのグラフィックスを体験する	事前：複雑系の意味を調べる 事後：自然の世界に存在する複雑系モデルを探す
9	システムダイナミクス	プログラムを用いない社会実験の可能性について学ぶ	事前：システムダイナミクスの例を探す 事後：システムダイナミクスのソフトウェアを体験してみる
10	モデリング演習	ビジネス上の現象をモデル化する	事前：これまで習ったことを見直す 事後：モデリングを対象とした研究を調べる
11	シミュレーション構築演習	任意の方法でシミュレーションを作る	事前：シミュレートしたいものを複数用意する 事後：シミュレーションを試す
12	グループ発表	作成したシミュレーションの説明	事前：プレゼンテーションの準備を行う 事後：聴講した発表についてまとめる
13	グループ発表	作成したシミュレーションの説明	事前：プレゼンテーションの準備を行う 事後：聴講した発表についてまとめる
14	この世はシミュレーションなのか？	この世の法則がなぜ数学で表されてしまうのかについてディスカッション	事前：ディスカッションのための資料を読む 事後：ディスカッションで出てきた他者の意見をまとめる
15	本授業のまとめ	授業で習ったことの体系化を行う	事前：これまで習ったことの確認 事後：ノートをまとめる

関連科目	経営統計学、マネジメントサイエンス、経営情報システム I
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 40% 授業中の課題 40% 発表などの成果物 20%
----------	--

学生へのメッセージ	シミュレーションはビジネスでも日常生活でも使える有用な手法です。コンピュータの利便性を活かせるシミュレーションについて理解して、経営情報学の面白さに触れて下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
----------	---------------

備考	事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。
----	--

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果 (資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコンの概要と日本語変換	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
4	パソコンの活用 (1)	ファイル管理、フリーソフトの活用	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
5	パソコンの活用 (2)	アプリケーションの利用	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
6	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
7	文書作成 (2)	文書のスタイル、図表の挿入	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を復習しておく (60分) タイピング練習 (5分)
9	文書作成応用 (1)	文書作成のための応用技術	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
10	文書作成応用 (2)	さまざまな文書の作成	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
11	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
12	プレゼンテーション (2)	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
13	プレゼンテーション応用 (1)	スライド作成のポイント、テーマ別スライド作成 1	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
14	プレゼンテーション応用 (2)	テーマ別スライド作成 2、プレゼンテーション相互評価	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
15	全体のまとめ	総復習	全体の内容を復習しておく (120分) タイピング練習 (5分)

関連科目	I C T 概論、ビジネス情報処理 II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、レポート課題 (20%)、小テスト (30%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
-----------	--

学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11号館8階(栢木教授室)
備考	

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	EFG
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果 (資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコンの概要と日本語変換	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	2	インターネットの活用とセキュリティ (1)	インターネット環境と情報検索	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	3	インターネットの活用とセキュリティ (2)	インターネットの光と影	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	4	パソコンの活用 (1)	ファイル管理、フリーソフトの活用	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	5	パソコンの活用 (2)	アプリケーションの利用	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	6	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	7	文書作成 (2)	文書のスタイル、図表の挿入	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を復習しておく (60分) タイピング練習 (5分)
	9	文書作成応用 (1)	文書作成のための応用技術	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	10	文書作成応用 (2)	さまざまな文書の作成	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	11	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	12	プレゼンテーション (2)	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	13	プレゼンテーション応用 (1)	スライド作成のポイント、テーマ別スライド作成 1	タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	14	プレゼンテーション応用 (2)	テーマ別スライド作成 2、プレゼンテーション相互評価	タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	15	全体のまとめ	総復習	全体の内容を復習しておく (120分) タイピング練習 (5分)

関連科目	ICT概論、ビジネス情報処理II
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、レポート課題 (20%)、小テスト (30%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
-----------	--

学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部事務室)
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要な情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、Excel を用いた表計算の応用、ビジネスデータの分析に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。パソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excelの基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容を復習しておく(30分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
2	表計算(1)	表の作成・編集、罫線の作成・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
3	表計算(2)	グラフの作成	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
4	表計算(3)	印刷設定、基本的な関数の利用	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
5	表計算応用(1)	相対参照と絶対参照、応用的な関数の利用	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
6	表計算応用(2)	Excelの応用利用	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
7	データベースの利用	Excelデータベース	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)	
9	データ分析の基礎	代表値について、データの整理	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
10	データ分析の応用(1)	Excelを活用した様々な分析1	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
11	データ分析の応用(2)	Excelを活用した様々な分析2	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
12	データ分析の応用(3)	Excelを活用した様々な分析3	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
13	ソフトウェアの統合的活用(1)	ソフトウェア間のデータ共有	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
14	ソフトウェアの統合的活用(2)	論文やレポート作成に必要な技術	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめと確認テスト	後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)	

関連科目	ICT概論、ビジネス情報処理Ⅰ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、小テスト (50%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11号館8階(橋本研究室)
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	EFG
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要な情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、Excel を用いた表計算の応用、ビジネスデータの分析に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。パソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excelの基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容を復習しておく(30分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
2	表計算(1)	表の作成・編集、罫線の作成・編集	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
3	表計算(2)	グラフの作成	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
4	表計算(3)	印刷設定、基本的な関数の利用	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
5	表計算応用(1)	相対参照と絶対参照、応用的な関数の利用	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
6	表計算応用(2)	Excelの応用利用	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
7	データベースの利用	Excelデータベース	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)	
9	データ分析の基礎	代表値について、データの整理	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
10	データ分析の応用(1)	Excelを活用した様々な分析1	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
11	データ分析の応用(2)	Excelを活用した様々な分析2	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
12	データ分析の応用(3)	Excelを活用した様々な分析3	タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく(30分)	
13	ソフトウェアの統合的活用(1)	ソフトウェア間のデータ共有	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
14	ソフトウェアの統合的活用(2)	論文やレポート作成に必要な技術	タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分)	
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめと確認テスト	後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分)	

関連科目	ICT概論、ビジネス情報処理Ⅰ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の演習課題 (40%)、小テスト (50%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部事務室)
備考	

科目名	ビジネスデータ分析	科目名(英文)	Business Data Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	統計学は、入手したデータから有用な情報を得るために量的データを要約する方法を学ぶ学問である。経営分野では、企業経営におけるリスクの評価や意思決定を支援するためのデータ解析の手法として用いられており、生産、財務、マーケティングなど、その応用範囲は広い。本講義では、統計学の基礎的知識を持つ学生を対象に、統計学の応用としてコンピュータを用いた統計解析に重点を置き学んでいく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを使った基本的な統計分析を行うことができる。 ・データ解析のためのソフトウェア（SPSS）の基本的な操作方法を身につける。
授業方法と留意点	データ解析のためのソフトウェア（SPSS）と教材データを用いて統計解析を行う。定期的に小テストを実施する。本講義では、コンピュータの基本的使い方（起動、シャットダウン、ファイル保存等）と統計学の基礎については説明しない。そのため情報処理系の講義、経営統計学といった関連講義で学ぶ程度の知識は身につけておく必要が有る。
科目学習の効果（資格）	社会調査士

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の概要、統計学の基礎カテスト	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
2	記述統計（1）	SPSSの基本操作 グラフ・表作成	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
3	記述統計（2）	標準統計量の算出 変数の加工 2変数の関係を探る方法	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
4	相関と回帰（1）	相関分析を使って2変数の関係を探る 相関係数	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
5	相関と回帰（2）	回帰分析を使って売り上げを予測する 回帰係数 R二乗決定係数 多重共線性の問題	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
6	確率分布（1）	確率と確率分布の基本的考え方	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
7	確率分布（2）	離散的確率分布（正規分布、カイ二乗分布、t分布）	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
8	前半内容のまとめと中間テスト	前半内容のまとめとテスト	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
9	前半内容のまとめと中間テスト		予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
10	検定（1）	検定の考え方と手順	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
11	検定（2）	分散、比率の検定、独立性の検定、適合度の検定	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
12	推定（1）	推定の考え方と手順	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
13	推定（2）	平均、平均差、比率の推定	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
14	多変量解析に向けて	多変量解析と応用事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	
15	後半内容のまとめと総復習	後半内容のまとめと総復習	予習：事前に配布した資料に目を通し、コンピュータ操作手順を理解しておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。	

関連科目 経営統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間・期末テスト(各50%)にて評価する。 私語、携帯の使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意してください。			
学生への メッセージ	社会調査士の資格取得に必要な科目です。この講義を理解するには経営統計学の知識が必要となります。しっかり勉強しておいて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館7階(針尾准教授室)			
備考	各回で使用するデータは、基本的に前回において受講生が加工したものを使用します。従って欠席した場合は、各自で欠席回の分析作業を進めておかなければなりません。			

科目名	ビジネスプラン	科目名(英文)	Business Plan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 実践的講義として、バーチャル・シミュレーションにより、ベンチャー企業設立プランニング・企業設立に至るまでの演習を行う。 企業等への学外ヒアリング調査を実施する（企業現場への訪問）。 プレゼン発表（審査会）により、ベンチャー企業経営者としての実務を体験する。</p> <p>将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指す。</p>
到達目標	<p>企業における戦略的経営手法、リスクマネジメントの考え方・戦法について学ぶ。 技術戦略の基本的考え方・立案方法・事業化プロセスの実例など、技術の役割について学ぶ。</p>
授業方法と留意点	<p>チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション（演習）を行う。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「起業とは」	講座ガイダンス 起業家醸成の必要性	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
2	起業を取り巻く経済（国際）・経営環境の変化と起業促進の必要性	イノベーション（起業家創出） 起業家の起点 Venture Support（海外との比較）	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
3	起業家の目指すべき方向性とその役割	起業家・社会システム ベンチャー事例研究	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
4	経営的視点と意思決定	企業（法人経営）とは 株式（株主）とは 企業組織と経営管理	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
5	市場環境分析能力	事業構想（起業準備）	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
6	事業ドメインの設定と知財戦略	経営機能構造の設計	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
7	起業成長に必要な収益モデリング	財務分析 資金調達（株式資本・自己金融・外部資金） 企業設立手続き	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
8	事業プランニング演習（1）	チーム別ディスカッション	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
9	事業プランニング演習（2）	チーム別ディスカッション	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
10	事業プランニング演習（3）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
11	事業プランニング演習（4）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
12	事業プランニング演習（5）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
13	事業プランニング演習（6）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
14	事業プランニング演習（7）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
15	事業プレゼン審査会	相互評価ディスカッション	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。

関連科目	「ビジネスインターンシップ I・II」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	実習における取組姿勢 [50%]、チーム別プレゼン発表 [50%] により評価する。			
学生への メッセージ	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考				

科目名	ビジネスプランニング	科目名(英文)	Business Planning
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 実践的講義として、バーチャル・シミュレーションにより、ベンチャー企業設立プランニング・企業設立に至るまでの演習を行う。 企業等への学外ヒアリング調査を実施する（企業現場への訪問）。 プレゼン発表（審査会）により、ベンチャー企業経営者としての実務を体験する。</p> <p>将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指す。</p>
到達目標	<p>企業における戦略的経営手法、リスクマネジメントの考え方・戦法について学ぶ。 技術戦略の基本的考え方・立案方法・事業化プロセスの実例など、技術の役割について学ぶ。</p>
授業方法と留意点	<p>チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション（演習）を行う。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「起業とは」	講座ガイダンス 起業家醸成の必要性	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
2	起業を取り巻く経済（国際）・経営環境の変化と起業促進の必要性	イノベーション（起業家創出） 起業家の起点 Venture Support（海外との比較）	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
3	起業家の目指すべき方向性とその役割	起業家・社会システム ベンチャー事例研究	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
4	経営的視点と意思決定	企業（法人経営）とは 株式（株主）とは 企業組織と経営管理	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
5	市場環境分析能力	事業構想（起業準備）	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
6	事業ドメインの設定と知財戦略	経営機能構造の設計	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
7	起業成長に必要な収益モデリング	財務分析 資金調達（株式資本・自己金融・外部資金） 企業設立手続き	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
8	事業プランニング演習（1）	チーム別ディスカッション	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
9	事業プランニング演習（2）	チーム別ディスカッション	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
10	事業プランニング演習（3）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
11	事業プランニング演習（4）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
12	事業プランニング演習（5）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
13	事業プランニング演習（6）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
14	事業プランニング演習（7）	チーム別ディスカッション ヒアリング調査	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。
15	事業プレゼン審査会	相互評価ディスカッション	事前：チーム内での自刃の分担課題について調べておくこと。 事後：チーム内でのディスカッションによる方針について再度調査確認すること。

関連科目	「ビジネスインターンシップ I・II」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	実習における取組姿勢 [50%]、チーム別プレゼン発表 [50%] により評価する。			
学生への メッセージ	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考				

科目名	ブランド戦略	科目名(英文)	Brand Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	マーケティング論のなかでも近年はブランドに注目が集まっている。我々の生活を見渡しても、商品としてのブランド、企業のブランド、地域のブランドなど多様である。本授業がブランドがなぜここまで注目を浴びる存在となったのかを明らかにし、ブランドの種類や機能、ブランド価値を向上させるためのマーケティング戦略について具体的事例を交えながら解説する。マーケティング論におけるブランドの意義やブランド戦略を理解することを目的とする
到達目標	ブランドの働きなどブランドに関する基本的知識が身に付く。 組織のマーケティング戦略と「ブランド」を関係づけて考察する能力が身に付く。 「ブランド」価値を高める戦略について多角的に分析、評価、構築することができるようになる。
授業方法と留意点	講義が中心だが、一部グループワークを行う。
科目学習の効果(資格)	ブランド・マネジメント能力が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	マーケティングにおける製品戦略	マーケティング論の復習を行い、マーケティングにおけるブランドの位置づけを行う。	【事前学習】 マーケティングの復習をする 【事後学習】 講義内容の要点を整理する
2	製品開発とブランド	ブランドが本当に必要となのかを考えてみる。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
3	ブランドの登場	ブランドの起源と歴史、ブランドの種類、構成要素(ブランド名、ロゴ、シンボル、キャラクター、パッケージ、スローガン等)からブランドをとらえる	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
4	ブランドの価値と機能	ブランドの価値の評価、育成、マーケティング活動への活用をブランドが持つ機能から考える。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
5	ブランド・イメージ	ブランド・イメージの重要性とどのように形成されるかを学ぶ。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
6	サービスのブランド戦略	サービス提供組織のブランド戦略について解説する。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
7	ブランドと経験価値	経験価値の概念をブランドに導入して考察する。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
8	ブランド構築と組織能力	ブランド価値を生み出す仕組みとブランディングの枠組みを解説し、ブランド構築に必要な組織能力について検討する。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
9	ブランド・マネジメント組織の現状と課題	ブランド・マネージャー制の解説とその現状と課題について検討する。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書をつかって復習する。
10	ブランド戦略の実際 演習1	これまでの復習を行い、演習のための解説を行う。	【事前学習】 これまでのノートの整理。 【事後学習】 演習のための準備。
11	ブランド戦略の実際 演習2	ゲストスピーカーより、ブランディングについてお話をいただく。	【事前学習】 キーワードについて調べる。 【事後学習】 講義の要点整理
12	ブランド戦略の実際 演習3	ブランド戦略のための議論をグループで行う。	【事前学習】 戦略構築の私案を考える。 【事後学習】 グループでの意見を整理する。
13	ブランド戦略の実際 演習4	グループ単位で議論したものをプレゼンテーション資料としてまとめる。	【事前学習】 グループ内で役割分担をし、担当部分をこなす。 【事後学習】 発表の準備
14	ブランド戦略の実際 演習5	成果発表	【事前学習】 発表の練習 【事後学習】 他の班の発表内容と比較し、自分のグループの発表内容のよい点、改善点を考える。
15	ブランドの統合的理解	組織のマーケティング活動のなかのブランドの果たす意義を確認し、今後、ブランドが果たす役割はどのように変わるのかを検討する。	【事前学習】 これまでの要点整理。 【事後学習】 試験のための準備。

関連科目	マーケティング論 マーケティング演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	製品・ブランド戦略	青木 幸弘	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 (60%) レポート・発表・小テスト・ふりかえりシート (40%)			
学生への メッセージ	日ごろ、身近にあるブランドを意識しながら授業に積極的に参加されたい。またブランド関係のニュースや記事などにも触れてほしい。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂教授室			
備考				

科目名	プログラミング	科目名(英文)	Programming
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	久保 貞也, 橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、プログラミングに必要なアルゴリズムの基本と C 言語のプログラムを学習する。難易度は、プログラミングが初めての段階を対象としている。アルゴリズムを考えて、フローチャートを理解し、C 言語で簡単なプログラミングが作成できることを目的とする。
到達目標	(1) アルゴリズムを考えてフローチャートが書ける (2) C 言語の文法が理解できる (3) プログラミング言語を独習できる知識が身につく
授業方法と留意点	教材は、毎回 PDF ファイルで教材フォルダに用意する。 授業の前半で解説を行い、後半は演習を行う。 毎回の出席と課題提出が必須である(欠席したら自習して追いつく必要がある)。
科目学習の効果(資格)	基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について	事前：シラバスを確認 (20分)	事後：授業内容見直し (30分)
2	プログラミングの理解 (1)	アルゴリズムを考える	事前：「アルゴリズム」について調べる (30分)	事後：授業内容見直し (30分)
3	プログラミングの理解 (2)	フローチャートを作成する	事前：「フローチャート」について調べる (30分)	事後：授業内容見直し (30分)
4	Cによるプログラミング	プログラミングの準備	事前：これまでの復習 (20分)	事後：授業内容見直し (30分)
5	整数の計算	数値の表示、文字%の表示、整数値のいろいろな表示、整数の四則計算	事前：「変換指定子」について調べる (20分)	事後：授業内容見直し (30分)
6	実数の計算	実数、実数値の表示、実数値のいろいろな表示、実数値の四則計算	事前：「実数の表示」について予習する (30分)	事後：授業内容見直し (30分)
7	変数	型、変数、代入、変数の初期化	事前：「変数」について調べる (30分)	事後：授業内容見直し (30分)
8	代入	小テストの実施 キーボードからの変数入力	事前：これまでの復習 (30分)	事後：授業内容見直し (30分)
9	分岐 (1)	if 文、条件を表す式	事前：moodle のクイズに回答 (20分)	事後：授業内容見直し (30分)
10	分岐 (2)	if 文の入れ子、ブロック	事前：moodle のクイズに回答 (20分)	事後：授業内容見直し (30分)
11	繰り返し (1)	while 文、while 文の特徴	事前：moodle のクイズに回答 (20分)	事後：授業内容見直し (30分)
12	繰り返し (2)	do 文、do 文の特徴	事前：moodle のクイズに回答 (20分)	事後：授業内容見直し (30分)
13	繰り返し (3)	for 文、for 文の特徴	事前：moodle のクイズに回答 (20分)	事後：授業内容見直し (30分)
14	配列	配列、配列要素、添字、配列の初期化	事前：「配列」について調べる (30分)	事後：これまでの授業内容見直し (60分)
15	前半のまとめ	これまでのまとめ	事前：これまでの内容の確認 (60分)	事後：テスト勉強 (60分)
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

関連科目 プログラミング II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験 50%、授業中の課題 50%
学生への メッセージ	事前学習については、授業計画を確認して、予習してください。 事後学習では、わからないところを解決してください。欠席した場合は、必ず教材フォルダの PDF ファイルをダウンロードして自習して追いついてください。友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(橋本講師室)
備考	Windows 操作 (キーボード入力、テキストのコピー&ペースト、ファイルの扱い) がスムーズにできると、授業に取り組みやすいのでパソコンに慣れていない人は、「ミカタイプ」や「すし打」等でタイピング練習をしておいてください。

科目名	プログラミング I	科目名 (英文)	Programming I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	この授業では、プログラミングに必要なアルゴリズムの基本とC言語のプログラムを学習する。難易度は、プログラミングが初めての段階を対象としている。アルゴリズムを考えて、フローチャートを理解し、C言語で簡単なプログラミングが作成できることを目的とする。
到達目標	(1) アルゴリズムを考えてフローチャートが書ける (2) C言語の文法が理解できる (3) プログラミング言語を独習できる知識が身につく
授業方法と留意点	教材は、毎回PDFファイルで教材フォルダに用意する。 授業の前半で解説を行い、後半は演習を行う。 毎回の出席と課題提出が必須である(欠席したら自習して追いつく必要がある)。
科目学習の効果(資格)	基本情報技術者試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について	事前：シラバスを確認(20分) 事後：授業内容見直し(30分)
2	プログラミングの理解(1)	アルゴリズムを考える	事前：「アルゴリズム」について調べる(30分) 事後：授業内容見直し(30分)
3	プログラミングの理解(2)	フローチャートを作成する	事前：「フローチャート」について調べる(30分) 事後：授業内容見直し(30分)
4	Cによるプログラミング	プログラミングの準備	事前：これまでの復習(20分) 事後：授業内容見直し(30分)
5	整数の計算	数値の表示、文字%の表示、整数値のいろいろな表示、整数の四則計算	事前：「変換指定子」について調べる(20分) 事後：授業内容見直し(30分)
6	実数の計算	実数、実数値の表示、実数値のいろいろな表示、実数値の四則計算	事前：「実数の表示」について予習する(30分) 事後：授業内容見直し(30分)
7	変数	型、変数、代入、変数の初期化	事前：「変数」について調べる(30分) 事後：授業内容見直し(30分)
8	代入	小テストの実施 キーボードからの変数入力	事前：これまでの復習(30分) 事後：授業内容見直し(30分)
9	分岐(1)	if文、条件を表す式	事前：moodleのクイズに回答(20分) 事後：授業内容見直し(30分)
10	分岐(2)	if文の入れ子、ブロック	事前：moodleのクイズに回答(20分) 事後：授業内容見直し(30分)
11	繰り返し(1)	while文、while文の特徴	事前：moodleのクイズに回答(20分) 事後：授業内容見直し(30分)
12	繰り返し(2)	do文、do文の特徴	事前：moodleのクイズに回答(20分) 事後：授業内容見直し(30分)
13	繰り返し(3)	for文、for文の特徴	事前：moodleのクイズに回答(20分) 事後：授業内容見直し(30分)
14	配列	配列、配列要素、添字、配列の初期化	事前：「配列」について調べる(30分) 事後：これまでの授業内容見直し(60分)
15	前半のまとめ	これまでのまとめ	事前：これまでの内容の確認(60分) 事後：テスト勉強(60分)

関連科目	プログラミングII
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験 50%、授業中の課題 50%
----------	---------------------

学生へのメッセージ	事前学習については、授業計画を確認して、予習してください。 事後学習では、わからないところを解決してください。欠席した場合は、必ず教材フォルダのPDFファイルをダウンロードして自習して追いついてください。友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階(橋本講師室)
----------	---------------

備考	Windows操作(キーボード入力、テキストのコピー&ペースト、ファイルの扱い)がスムーズにできると、授業に取り組みやすいのでパソコンに慣れていない人は、「ミカタイプ」や「すし打」等でタイピング練習をしておいてください。
----	--

科目名	プログラミングⅡ	科目名(英文)	Programming II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>プログラミングはコンピュータを有効に使うための重要な知識になります。また、アルゴリズムの設計は経営にも役立つ論理的思考力の養成につながります。</p> <p>本授業ではC言語の基礎知識を持っていることを前提にして、グラフィカルインタフェースの利用やマルチメディア機能の活用を目指したプログラミング演習を行います。</p>																																																																		
到達目標	<p>この授業の到達目標は以下のとおりです。</p> <p>(1) プログラミングの構成要素を説明できる</p> <p>(2) アルゴリズムの設計方法を使うことができる</p> <p>(3) 最近のプログラミング環境の利点を理解している</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>毎回の授業は、前回までの授業内容の理解を前提として進めるため、欠席や遅刻はしないこと。欠席するとそれ以降の授業の理解は困難となる。授業の中でグループ単位でプログラムの制作実習を行います。お互いに助け合いながら楽しんでプログラムを作って下さい。</p> <p>プログラミングはアートでもあり、プロジェクトでもあります。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	基本情報技術者試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、基礎知識の確認</td> <td>シラバスを読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>プログラミングの基礎知識(1)</td> <td>ヘッダファイル、変数宣言、返却値などの復習</td> <td>自習できる環境を整える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>プログラミングの基礎知識(2)</td> <td>if、then、switchなどの分岐の復習</td> <td>C言語の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>プログラミングの基礎知識(3)</td> <td>for、do、whileなどのループの復習</td> <td>C言語の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アルゴリズム設計の実習</td> <td>動きをアルゴリズムで記述する練習</td> <td>授業中に指示されたサイトで復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>GUIプログラミング(1)</td> <td>ウィンドウシステムのプログラミングの基礎を学ぶ</td> <td>自習環境で試す</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>GUIプログラミング(2)</td> <td>イベントドリブンの使い方を知る</td> <td>自習環境で試す</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>GUIプログラミング(3)</td> <td>オブジェクト指向のクラスの意味を知る</td> <td>自習環境で試す</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>APIプログラミング</td> <td>APIの仕組みを知る</td> <td>自習環境で試す</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビジュアルプログラミング言語</td> <td>ビジュアルプログラミングの利点を学ぶ</td> <td>自習環境で試す</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>制作課題の説明</td> <td>グループで取り組む課題について設計を行う</td> <td>グループでの自習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>グループワーク(1)</td> <td>ペアプログラミングの実習を行う</td> <td>グループでの自習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループワーク(2)</td> <td>デバッグの実習を行う</td> <td>グループでの自習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表会</td> <td>制作課題について情報共有する</td> <td>他のグループの発表内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>本授業のまとめ</td> <td>習ったことの体系化を行う</td> <td>ノートをまとめる</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、基礎知識の確認	シラバスを読む	2	プログラミングの基礎知識(1)	ヘッダファイル、変数宣言、返却値などの復習	自習できる環境を整える	3	プログラミングの基礎知識(2)	if、then、switchなどの分岐の復習	C言語の復習	4	プログラミングの基礎知識(3)	for、do、whileなどのループの復習	C言語の復習	5	アルゴリズム設計の実習	動きをアルゴリズムで記述する練習	授業中に指示されたサイトで復習する	6	GUIプログラミング(1)	ウィンドウシステムのプログラミングの基礎を学ぶ	自習環境で試す	7	GUIプログラミング(2)	イベントドリブンの使い方を知る	自習環境で試す	8	GUIプログラミング(3)	オブジェクト指向のクラスの意味を知る	自習環境で試す	9	APIプログラミング	APIの仕組みを知る	自習環境で試す	10	ビジュアルプログラミング言語	ビジュアルプログラミングの利点を学ぶ	自習環境で試す	11	制作課題の説明	グループで取り組む課題について設計を行う	グループでの自習	12	グループワーク(1)	ペアプログラミングの実習を行う	グループでの自習	13	グループワーク(2)	デバッグの実習を行う	グループでの自習	14	発表会	制作課題について情報共有する	他のグループの発表内容をまとめる	15	本授業のまとめ	習ったことの体系化を行う	ノートをまとめる
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、基礎知識の確認	シラバスを読む																																																																
2	プログラミングの基礎知識(1)	ヘッダファイル、変数宣言、返却値などの復習	自習できる環境を整える																																																																
3	プログラミングの基礎知識(2)	if、then、switchなどの分岐の復習	C言語の復習																																																																
4	プログラミングの基礎知識(3)	for、do、whileなどのループの復習	C言語の復習																																																																
5	アルゴリズム設計の実習	動きをアルゴリズムで記述する練習	授業中に指示されたサイトで復習する																																																																
6	GUIプログラミング(1)	ウィンドウシステムのプログラミングの基礎を学ぶ	自習環境で試す																																																																
7	GUIプログラミング(2)	イベントドリブンの使い方を知る	自習環境で試す																																																																
8	GUIプログラミング(3)	オブジェクト指向のクラスの意味を知る	自習環境で試す																																																																
9	APIプログラミング	APIの仕組みを知る	自習環境で試す																																																																
10	ビジュアルプログラミング言語	ビジュアルプログラミングの利点を学ぶ	自習環境で試す																																																																
11	制作課題の説明	グループで取り組む課題について設計を行う	グループでの自習																																																																
12	グループワーク(1)	ペアプログラミングの実習を行う	グループでの自習																																																																
13	グループワーク(2)	デバッグの実習を行う	グループでの自習																																																																
14	発表会	制作課題について情報共有する	他のグループの発表内容をまとめる																																																																
15	本授業のまとめ	習ったことの体系化を行う	ノートをまとめる																																																																
関連科目	プログラミングⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末試験 50%、授業中の課題 50%																																																																		
学生へのメッセージ	プログラミングができるようになると経営情報の学びがさらに面白くなります。積極的に予習、復習をして自らが深く学んで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	久保准教授室(11号館7階)																																																																		
備考	事前・事後の学習課題については授業冒頭にMoodleやミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。																																																																		

科目名	プロジェクトマネジメント	科目名(英文)	Project Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>プロジェクトマネジメントの体系・標準(PMBOK)、ITサービスマネジメント標準(ITIL)等のビジネスITの国際標準の方法論を学習する。仮想プロジェクトのケーススタディに取り組み、グループ提案活動により、実践的に理解を図る。グループにおける個人の役割・ポジショニングを定めたロールプレイの手法を採用する。ITプロジェクトマネジメントの視点に加え、経営マネジメント視点の導入も考慮したプロジェクト計画、顧客企業向け提案の疑似体験により、マネジメントの重要な視点を学ぶ。</p> <p>仮想プロジェクトとして、顧客(エンドユーザー企業)、提案企業(プロジェクトメンバー)によるITサービスやアプリケーション開発にかかわる案件を記したケーススタディにグループで取り組む。ITサービスの提案・開発マネジメントを行う立場で、プロジェクトメンバーの役割を演じプロジェクトをグループとして進める実践機会を共有する。</p> <p>主対象はビジネスIT専攻で、「マネジメントサイエンス」の履修済の者で、本科目と同時期に開講される「コンピュータサイエンス」をあわせて受講することで、より効果的な学習を進めることが期待できる。</p>
到達目標	プロジェクトマネジメントの体系・標準PMBOK、ITサービスマネジメント標準ITILで示される考え方、マネジメント方法論の視点、プロジェクト計画・提案の概観が理解できる。実践的な学習をとおして、ビジネスIT提案の活動(プリセールス)を行う場合のマネジメントの視点、方法と手順、実プロジェクト活動の実践(ポストセールス)の概観が理解できる。
授業方法と留意点	プロジェクトマネジメントのケーススタディ(体験型)を行います。ITビジネスの仮想プロジェクトのケーススタディに取り組み、プロジェクトリーダー・メンバーとして、提案活動を行っていただきます。特に、提案グループ(4~5名)の中で具体的な役割を定め、個人の責務を果たすロールプレイ(初回授業でガイダンス)の体験をとおして、マネジメントの方法論をマクロ&ミクロ両面から学びます。グループの中で自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトマネジメント知識体系の国際標準PMBOK(Project Management Body of Knowledge)の基礎が網羅的に理解できる。 PMBOKにもとづくプロジェクトマネジメント・プロフェッショナル資格(PMP: Project Management Professional)を将来の実務経験により視野に入れることが可能である。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> 授業ガイダンス 『プロジェクト』とは 『ロールプレイ』とは 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	2	プロジェクトマネジメントの概観	<ul style="list-style-type: none"> 『プロジェクトマネジメント』とは プレイヤー 顧客(エンドユーザー企業)、提案企業(プロジェクトメンバー)、ステークホルダー 『ロールモデル』とは グループワーク 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	3	プロジェクトマネジメントの体系・標準	<ul style="list-style-type: none"> 『PMBOK (Project Management Body of Knowledge)』の基礎 マネジメント体系の標準 グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	4	プロジェクト・スコープ	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの目的的理解・共有 プリセールスとポストセールス 提案活動の5W1H グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	5	プロジェクト提案メニュー	<ul style="list-style-type: none"> 提案するサービス サービスの規模・品質 提案体制とメンバー構成・役割 グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	6	プロジェクトマネジメント視点の導入	<ul style="list-style-type: none"> 『WBS (Work Breakdown Structure)』の基礎 顧客要求の可視化 提案サービスの見積り グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	7	プロジェクト提案プロセス	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト資源(ヒト、モノ、カネ、情報)とマネジメント手法・体制 提案メニューの文書化 計画書&提案書の作成 グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	8	経営マネジメント視点の導入	<ul style="list-style-type: none"> 経営方針と提案コンセプトの同期 『KPI (重要業績評価指標)』とは ステークホルダーとの合意形成 グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	9	プロジェクト計画のレビュー	<ul style="list-style-type: none"> 『ROI (投資対効果)』とは リスクマネジメント リスクのインパクト分析と定量化(試算) グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	10	プロジェクト提案顧客との合意形成	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の期待~契約条項のギャップ サービスレベル管理 『SLA (サービスレベル合意)』とは グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	11	プロジェクト提案サービスのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ITサービスマネジメント標準 『ITIL (Information Technology Infrastructure Library)』の基礎 グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	12	提案活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> プリセールス活動(契約前) 顧客企業向けIT企業の提案 グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	13	プロジェクト活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ポストセールス活動(契約後) 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題

			<ul style="list-style-type: none"> 顧客企業プロジェクトでのプロジェクトの進捗管理&問題管理 グループワーク&ロールプレイ 	
	14	開発タイプとマネジメント方法論	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的開発（ウォーターフォール・モデル） 近年の開発（アジャイルモデル） マネジメントの視点 グループワーク&ロールプレイ 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 総合課題 総括 	教科書の指定する章・節の予復習、指定する課題
関連科目	主対象はビジネス IT 専攻の者で、「マネジメントサイエンス」の履修を既に完了していることが、履修の前提条件である。これらの条件を満たさず、学習を効果的に進めることは、極めて困難と考えられるため、履修登録に際しては冷静に判断すること。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プロジェクトマネジメント標準 PMBOK 入門 第6版対応版	広兼 修	オーム社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プロセスデザインアプローチ 誰も教えてくれない「プロジェクトマネジメント」	芝本 秀徳	日経 BP 社
	2	ITIL 入門 IT サービスマネージメントの仕組みと活用	野村総合研究所システムコンサルティング事業本部	ソーテック社
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、小レポートの提出 (15%)、月次等テストの累計 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人・グループ課題 (毎回および不定期、授業内での提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的・建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。月次等テストは毎月および不定期の考査で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	実践型のプロジェクトマネジメントについて、講義、グループワーク、ロールプレイの機会を共有します。IT ビジネスの仮想プロジェクトのケーススタディに取り組み、プロジェクトリーダー・メンバーとして、グループ提案活動を行います。特に、提案チームの中で役割を定め、責務を果たすロールプレイの体験をとおして、マネジメントの方法論をマクロ&ミクロ両面から学びます。グループの中で自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	ベンチャービジネス論	科目名(英文)	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	晶山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	経済発展においてイノベーションはきわめて重要です。イノベーションの創出には、ベンチャー企業をはじめとする企業だけではなく、政府や自治体による支援策も重要な役割を果たしています。本講義では、イノベーションの担い手であるベンチャー企業の経営とイノベーションの創出を支援する機関の役割について解説し、ベンチャー企業の経営やベンチャー企業の支援策等について学習します。
到達目標	1. ベンチャー企業の経営者が自ら起業し、事業を発展させてきたプロセスを理解する。 2. 政府や自治体がベンチャー企業の育成のためにどのような政策を行っているか理解する。 3. 地域における産学連携を通じたイノベーションの創出の取り組みについて理解する。
授業方法と留意点	教員による講義と実務家による講義を中心に授業を進めます。 尚、実務家講師に失礼にならないよう受講マナーには注意してください。
科目学習の効果(資格)	起業したいと考えている学生、ベンチャー企業の創業支援に携わりたいと考えている学生は、実務家からベンチャー企業の経営や創業支援、産学連携の実態について学ぶことができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 【4月12日】	本講義のガイダンスを行います。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
2	日本におけるベンチャーの概況 【4月19日】	日本におけるベンチャー企業の発展の歴史や現状について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
3	イノベーションと起業家 【4月26日】	イノベーションのプロセス、イノベーションを創出する起業家について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
4	イノベーションと経営戦略 【5月10日】	イノベーションと経営戦略の関係について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
5	ベンチャー企業のマネジメント(1) 【5月17日】	ベンチャー企業の経営について学習します。 (株式会社フィードテイルー 代表取締役 大石裕一氏)	事前：フィードテイルーの事業内容を調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
6	ベンチャー企業のマネジメント(2) 【5月24日】	ベンチャー企業の経営について学習します。 (株式会社クロスアンビション 代表取締役 CEO 村林暁氏)	事前：クロスアンビションの事業内容を調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
7	専門職のマネジメント 【5月31日】	専門職事務所の経営と労働法について学習します。 (総合事務所ネクスト 所長 特定社会保険労務士 小西勝氏)	事前：総合事務所ネクストの事業内容、社会保険労務士の役割について調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
8	NPOのマネジメント 【6月7日】	NPO法人の経営について学習します。 (特定非営利活動法人週刊ひがしおおさか代表 前田寛文氏)	事前：「週刊ひがしおおさか」の活動を調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
9	日本のベンチャー支援政策 【6月14日】	日本で実施されているベンチャー支援政策について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
10	ベンチャーキャピタル 【6月21日】	ベンチャー企業の資金調達手段の一つであるベンチャーキャピタルについて解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
11	産業クラスター 【6月28日】	産業クラスターにおけるベンチャー企業の重要性について解説します。	事前：講義資料を読んでおくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
12	ベンチャー企業の資金調達 【7月5日】	ベンチャー企業の資金調達における政府系金融機関の役割について学習します。 (日本政策金融公庫大阪創業支援センター 上席所長代理 向笠大樹氏)	事前：日本政策金融公庫の事業内容について調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
13	ベンチャー企業の創業支援 【7月12日】	ベンチャー企業の創業支援について学習します。 (中小企業基盤整備機構 震災復興支援部 復興支援課 担当課長 長坂泰之氏)	事前：中小企業基盤整備機構の事業内容について調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
14	産学連携によるイノベーションの創出 【7月19日】	大阪における産学連携の支援について学習します。 (大阪府商工労働部 中小企業支援室 ものづくり支援課 産学官連携推進グループ 総括主査 椿野将氏)	事前：ものづくりビジネスセンター大阪(MOBIO)の事業内容について調べておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。
15	まとめ 【7月26日】	学んできた内容の復習を行います。	事前：これまでの学習内容を復習しておくこと。 事後：講義内容を復習しておくこと。

関連科目	ビジネスプランニング、経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イノベーション・マネジメント入門	一橋大学イノベーション研究センター	日本経済新聞社
	2			

	3		
評価方法 (基準)	出席率が80%以上のうえ、期末試験100%で評価します。		
学生への メッセージ	ベンチャー企業の経営者やベンチャー企業を支援する機関の方から直接お話を伺うことのできる貴重な機会です。予習・復習を行い、積極的に授業に参加してください。		
担当者の 研究室等	11号館8階 畠山研究室		
備考	講義資料は配布しませんので、各自で印刷して持参してください。講義資料の保存場所は初回の講義で説明します。尚、実務家講師の資料は授業で配布します。		

科目名	貿易実務	科目名(英文)	Trading Business
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 和巳
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	①貿易は広く世界を相手にする非常に魅力のある分野である。 ②言葉・文化・法律・通貨制度が全く違う未知なる国、相手方との交渉であり、常にリスクが存在するといえる。 ③この異なるものとの商取引のルールを知り、専門用語を学び取得することが、貿易実務の学習です。 ④更に、経済・金融のグローバル化が学生達の現在・将来の生活環境にどのような影響を及ぼすのか、彼ら・彼女らに考える機会をも提供する。
到達目標	貿易・国際金融全体を理解できる人材を育成する。
授業方法と留意点	①各授業でテーマ毎のプリント配布。 ②課題を与え、グループディスカッションを行うこともある。 ③授業終了時に、学んだこと・興味を持った点・疑問・先週一週間で「貿易」に関するニュース・記事は？を指定用紙に学生に記入依頼し、回収後次の授業で再度説明あるいは答える。
科目学習の効果(資格)	①貿易実務検定への挑戦 ②国際金融市場、外国為替市場の基本を学ぶことで、貿易に与える影響を把握する ③就職活動に役立つ実力をつける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、 貿易とは何かを考える、 貿易実務で何を学ぶか	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイントの復習
	2	貿易とは何か？	貿易はなぜ必要なのか？ 現在の経済と貿易、等	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイントの復習
	3	貿易専門用語(1)	貿易実務専門用語 (1) 日本語・英語	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に英語専門用語復習
	4	貿易専門用語(2)	貿易実務専門用語 (2) 日本語・英語	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に英語専門用語復習
	5	貿易(商品貿易、売買)における「商流」、「物流」と「金融」(1)	「商流」：取引先の選択 市場調査、信用調査、取引関係の形成 輸出入取引の交渉、等 (1)	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に「商流」全体像の把握と専門用語復習
	6	貿易(商品貿易、売買)における「商流」、「物流」と「金融」(2)	「商流」：取引先の選択 市場調査、信用調査、取引関係の形成 輸出入取引の交渉、等 (2)	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に輸出入取引交渉の把握と専門用語復習
	7	貿易取引の手段 信用状 (1)	信用状、外国為替手形、船積書類、等 (1)	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に信用状取引全体像把握と専門用語復習
	8	貿易取引の手段 信用状 (2)	信用状、外国為替手形、船積書類、等 (2)	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に外国為替手形を含む書類の重要性把握と専門用語復習
	9	貿易をめぐる国際的枠組み	IMFを中心とする国際通貨体制 プレト ンウッズ体制、GATT、等	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に国際通貨体制全体像把握と専門用語復習
	10	直接投資の増大と貿易	世界的に拡大する直接投資、貿易構造の 変遷、等	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に貿易構造変遷全体像把握
	11	国際金融とは 「リスクの多様性？」	国際金融取引の特色、異種通貨の売買— 外国為替取引の発生、リスクの多様性、	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、

	「国際間には中央銀行が存在しない？」	等 為替の意義、原理、仕組み、 外国為替の意義、外国為替取引の特質、 等	学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に外国為替の重要性把握と専門用語復習																
	12 外国為替市場 固定相場と変動相場 外国為替リスク管理 「トヨタの為替リスク管理は？」 外国為替相場の決定理論	外国為替市場の構成者、外国為替相場の発生、等 先物相場と先物為替予約、先物相場の決まり方、為替リスク管理の意義と種類 為替相場は需要と供給の均衡点で決まってくるが、為替の需要と供給は、どのように決定されるのだろうか、等	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、特に外国為替リスク管理の重要性把握と専門用語復習																
	13 アジア通貨危機	1997年7月2日 タイ 管理為替制度の放棄？発生要因、 日本の金融機関への影響	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、アジア通貨危機の根本原因とその影響の理解																
	14 カントリーリスク	「日本企業とカントリーリスク」、 「カントリーリスクの定義」	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、カントリーリスクへの理解																
	15 2008年末金融危機	サブプライムローン問題・リーマンショック、等と貿易への影響	事前学習課題： ・一週間の「貿易」に関するニュース・記事を読み、 学生のコメント提出 事後学習課題： ・本講義での学習内容の重要ポイント、リーマンショックと貿易の関係性と影響の把握																
関連科目	グローバルビジネス、金融論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	定期試験60%、小テスト20%、授業参加度20%																		
学生への メッセージ	<p>学生諸君が生まれる少し前の1995年の春頃に日本は急激な円高・ドル安の進行に見舞われ、対ドルの為替レートが85円前後の円高になった。その結果、国内産業の海外移転が始まり「産業の空洞化」が一層進行した。</p> <p>このような時代を含め日本が現在までどのような道を歩んだのかを貿易及び大きな枠組みの国際金融の世界での出来事を通じて知ることが出来る。</p> <p>2017年1月に誕生した共和党のトランプ米大統領は米第一主義を唱え、保護主義貿易へ向かいつつあり、大きな懸念が世界中に広がっています。</p> <p>貿易、国際金融、及びグローバルビジネス分野に今まで以上の不確実性が高まりつつある現在、それぞれの分野の一つでも興味のある学生諸君に受講を勧めたい。</p>																		
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師控え室																		
備考																			

科目名	貿易と金融	科目名(英文)	Trade and Finance
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義のテーマは、貿易構造の決定要因、国際金融市場の役割、外国為替市場取引の仕組みを理解することである。そして、海外との関わりにおいてどのような影響を受けるのかを理解し、分析することを目的とする。																																																																		
到達目標	経済の国際的側面を理論的に理解し、説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに従った講義形式。必要に応じてプリントなどを配布。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公務員試験・経済学検定試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グローバル経済論とは</td> <td>国際経済の現状</td> <td>テキストを事前に読む、配布プリントを復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際貿易の基本構造(1)</td> <td>貿易の発生する理由、比較生産費説</td> <td>テキストの第1章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国際貿易の基本構造(2)</td> <td>ヘクシャー=オーリン理論</td> <td>テキストの第1章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国際貿易の基本構造(3)</td> <td>産業内貿易、その他の貿易理論、</td> <td>テキストの第1章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>国際貿易システム</td> <td>WTO、自由貿易協定</td> <td>テキストの第2章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経常収支とマクロ経済(1)</td> <td>国際収支表、経常収支、資本収支</td> <td>テキストの第3章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経常収支とマクロ経済(2)</td> <td>資金過不足と貯蓄・投資バランス、双子の赤字</td> <td>テキストの第3章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テスト</td> <td>前半のまとめ</td> <td>前半の講義内容を復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>為替レートの理論(1)</td> <td>外国為替市場、為替レートの変動による影響</td> <td>テキストの第3章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>為替レートの理論(2)</td> <td>購買力平価説</td> <td>テキストの第3章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>為替レートの理論(3)</td> <td>アセットアプローチ</td> <td>テキストの第3章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>為替レートの理論(4)</td> <td>ファンダメンタルズとバブル、為替レート変動のリスク</td> <td>テキストの第3章</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>金融のグローバル化と国際通貨システム(1)</td> <td>ブレトンウッズ体制、ドル本位制</td> <td>テキストの第4章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>金融のグローバル化と国際通貨システム(2)</td> <td>デリバティブ取引、国際金融市場のこれから</td> <td>テキストの第4章の予習、復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>_____</td> <td>_____</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	グローバル経済論とは	国際経済の現状	テキストを事前に読む、配布プリントを復習	2	国際貿易の基本構造(1)	貿易の発生する理由、比較生産費説	テキストの第1章の予習、復習	3	国際貿易の基本構造(2)	ヘクシャー=オーリン理論	テキストの第1章の予習、復習	4	国際貿易の基本構造(3)	産業内貿易、その他の貿易理論、	テキストの第1章の予習、復習	5	国際貿易システム	WTO、自由貿易協定	テキストの第2章の予習、復習	6	経常収支とマクロ経済(1)	国際収支表、経常収支、資本収支	テキストの第3章の予習、復習	7	経常収支とマクロ経済(2)	資金過不足と貯蓄・投資バランス、双子の赤字	テキストの第3章の予習、復習	8	中間テスト	前半のまとめ	前半の講義内容を復習	9	為替レートの理論(1)	外国為替市場、為替レートの変動による影響	テキストの第3章の予習、復習	10	為替レートの理論(2)	購買力平価説	テキストの第3章の予習、復習	11	為替レートの理論(3)	アセットアプローチ	テキストの第3章の予習、復習	12	為替レートの理論(4)	ファンダメンタルズとバブル、為替レート変動のリスク	テキストの第3章	13	金融のグローバル化と国際通貨システム(1)	ブレトンウッズ体制、ドル本位制	テキストの第4章の予習、復習	14	金融のグローバル化と国際通貨システム(2)	デリバティブ取引、国際金融市場のこれから	テキストの第4章の予習、復習	15	まとめ	_____	_____
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	グローバル経済論とは	国際経済の現状	テキストを事前に読む、配布プリントを復習																																																																
2	国際貿易の基本構造(1)	貿易の発生する理由、比較生産費説	テキストの第1章の予習、復習																																																																
3	国際貿易の基本構造(2)	ヘクシャー=オーリン理論	テキストの第1章の予習、復習																																																																
4	国際貿易の基本構造(3)	産業内貿易、その他の貿易理論、	テキストの第1章の予習、復習																																																																
5	国際貿易システム	WTO、自由貿易協定	テキストの第2章の予習、復習																																																																
6	経常収支とマクロ経済(1)	国際収支表、経常収支、資本収支	テキストの第3章の予習、復習																																																																
7	経常収支とマクロ経済(2)	資金過不足と貯蓄・投資バランス、双子の赤字	テキストの第3章の予習、復習																																																																
8	中間テスト	前半のまとめ	前半の講義内容を復習																																																																
9	為替レートの理論(1)	外国為替市場、為替レートの変動による影響	テキストの第3章の予習、復習																																																																
10	為替レートの理論(2)	購買力平価説	テキストの第3章の予習、復習																																																																
11	為替レートの理論(3)	アセットアプローチ	テキストの第3章の予習、復習																																																																
12	為替レートの理論(4)	ファンダメンタルズとバブル、為替レート変動のリスク	テキストの第3章																																																																
13	金融のグローバル化と国際通貨システム(1)	ブレトンウッズ体制、ドル本位制	テキストの第4章の予習、復習																																																																
14	金融のグローバル化と国際通貨システム(2)	デリバティブ取引、国際金融市場のこれから	テキストの第4章の予習、復習																																																																
15	まとめ	_____	_____																																																																
関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学、ベンチャーファイナンス、グローバルビジネス、経済発展論Ⅰ、Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グローバル・エコノミー</td> <td>岩本 武和</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グローバル・エコノミー	岩本 武和	有斐閣アルマ	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	グローバル・エコノミー	岩本 武和	有斐閣アルマ																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	中間テスト40% 定期試験40% 平常点(レポート、小テストなど)20%																																																																		
学生へのメッセージ	現在の日本経済を理解するには、不可欠の知識となるであろう。普段から、新聞やテレビを通じて、現実の経済の動向には興味を持っておくこと。また、マクロ経済学、ミクロ経済学の理解が必要なので、並行して履修して下さい。																																																																		
担当者の研究室等	11号館6階(杉本研究室) sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp																																																																		
備考																																																																			

科目名	簿記入門	科目名 (英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉 重和
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果 (資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
17	有価証券・固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
22	決算③	試算表の作成1	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
23	決算④	試算表の作成2	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45分)。
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45分)。
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)

	30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30分)
関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 三訂版	渡辺正直 ほか	実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験の結果により評価する。			
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(呉研究室)			
備考				

科目名	マーケティング演習	科目名(英文)	Practice in Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	これまで学んできたマーケティングに関する知識を活用しながらケース課題に取り組むことで実践的なマーケティングを身に付けることを目的とします。 本授業ではグループでケース課題に取り組み、議論や発表を通してマーケティングへの理解を深めます。
到達目標	・ケース課題に取り組むことで実践的なマーケティングを遂行する能力が身につきます。 ・考え方の異なるメンバーと相互理解を深めることでコミュニケーション能力を高めることができます。
授業方法と留意点	・グループワークと講義で構成します。 ・ケース課題毎にレポート提出を求めます。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行っていただきます。グループのメンバーと協力して取り組んでください。
科目学習の効果(資格)	実践的なマーケティングを遂行する能力が身につきます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義 I	マーケティングの概要についての復習を行う。	【事前学習】 マーケティング論の復習を行うこと。 【事後学習】 マーケティング戦略構築から実行までの流れを理解する グループのメンバー間で連絡がとれるようにしておくこと。
2	講義 II	消費者行動の概要について復習を行う。	【事前学習】 消費者行動論の復習を行うこと。 【事後学習】 消費者の視点からマーケティング戦略を理解する。
3	事例研究 I 問題読解	事例を考察する上で必要な理論の解説をした上で、事例の内容の理解を図る。	【事前学習】 事例の読解 【事後学習】 授業内容の整理
4	事例研究 I 議論とグループ案の検討	事例で求められている間についてグループで議論し、グループ案を取りまとめる。	【事前学習】 課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】 グループ案のとりまとめを完了させる。
5	事例研究 I グループ案の発表	グループ毎に発表し、互いに発表を評価する。	【事前学習】 発表の準備 【事後学習】 他のグループとの比較を通して振り返りを行う。
6	事例研究 II 問題読解	事例を考察する上で必要な理論の解説をした上で、事例の内容の理解を図る。	【事前学習】 事例の読解 【事後学習】 授業内容の整理
7	事例研究 II 議論とグループ案の検討	事例で求められている間についてグループで議論し、グループ案を取りまとめる。	【事前学習】 課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】 グループ案のとりまとめを完了させる。
8	事例研究 II グループ案の発表	グループ毎に発表し、互いに発表を評価する。	【事前学習】 発表の準備 【事後学習】 他のグループとの比較を通して振り返りを行う。
9	事例研究 III 問題読解	事例を考察する上で必要な理論の解説をした上で、事例の内容の理解を図る。	【事前学習】 事例の読解 【事後学習】 授業内容の整理
10	事例研究 III 議論とグループ案の検討	事例で求められている間についてグループで議論し、グループ案を取りまとめる。	【事前学習】 課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】 グループ案のとりまとめを完了させる。
11	事例研究 III グループ案の発表	グループ毎に発表し、互いに発表を評価する。	【事前学習】 発表の準備 【事後学習】 他のグループとの比較を通して振り返りを行う。
12	事例研究 IV 問題読解	事例を考察する上で必要な理論の解説をした上で、事例の内容の理解を図る。	【事前学習】 事例の読解 【事後学習】 授業内容の整理
13	事例研究 IV 議論とグループ案の検討	事例で求められている間についてグループで議論し、グループ案を取りまとめる。	【事前学習】 課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】 グループ案のとりまとめを完了させる。
14	事例研究 IV グループ案の発表	グループごとに発表をし、相互に評価をする。	【事前学習】 発表の準備 【事後学習】 他のグループとの比較を通して振り返りを行う。
15	まとめ	全体的なまとめと評価を行う。	【事前学習】 これまでの発表を振り返る。 【事後学習】

				全体を通しての成果と反省についてまとめる。
関連科目	マーケティング、消費者行動論、リテールマーケティングなどマーケティングコース科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その都度指示します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その都度指示します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート (50%)、グループワークの成果物・発表 (50%)			
学生への メッセージ	積極的にグループワークに参加することで力がつきます。そのためには課題に真摯に取り組む姿勢が求められます。			
担当者の 研究室等	田中祥司研究室			
備考				

科目名	マーケティング概論	科目名(英文)	Introduction to Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。各々がマーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになることを到達目標とする。
到達目標	1) マーケティング論の基礎的な知識を習得する。 2) マーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになる。
授業方法と留意点	講義とグループワークを織り交ぜて授業を行う。課題の考察・検討・発表では、積極的に参加してもらいたい。
科目学習の効果(資格)	マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング活動を身近に理解できるようになる。マーケティング論的な発想ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	マーケティングの本質とは	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
2	マーケティングの4P	マーケティングを考えるとときの基本となる4Pについて学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
3	STP	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
4	顧客満足とは	顧客満足とは何か。満足を得るための組織とはどのようなものかを考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
5	市場での競争と自社の存在意義	戦略構築のために自社の置かれている状況を把握する意義、手法について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
6	競合他社について考える	競合他社と自社との関係から戦略構築を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 回次の中間テストに備える
7	中間テスト 製品のマネジメント	製品開発プロセスやライフサイクルからマネジメントを考える	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
8	ブランドとは	ブランドの意義を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
9	ブランドのマネジメント	強いブランドを構築するための戦略について考える	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
10	流通チャネルとは	製品を顧客が手にするまでの流通チャネルの果たす役割について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
11	流通チャネルのマネジメント	流通チャネルをいかにコントロールしていくのかなど戦略について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
12	営業とは	日本特有の人的販売である営業の果たす役割や、理想の営業とは何かを考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
13	価格設定の考え方	価格設定の基本的な考え方を学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
14	価格のマネジメント	価格に関する戦略について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
15	顧客とのコミュニケーション	顧客との双方方向のコミュニケーションによって関係を構築する意義やそれを活用した戦略について考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 これまでの復習をし期末テストに備える

関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、マーケティング戦略論、リテール・マーケティング、消費者行動論などマーケティングコース科目
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マーケティング	恩蔵直人	日経文庫
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マーケティングをつかむ	黒岩健一郎	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内課題40% (小テスト、中間テスト、ミニツブーパーなど)、期末試験60%			
学生への メッセージ	日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかに関心を持って講義に臨んでもらいたい。 教科書は必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂教授室			
備考				

科目名	マーケティングサイエンス	科目名(英文)	Marketing Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	近年、ビジネスにおいてマーケティングは欠かすことのできないツールとなった。商品を生産すれば売れた時代とは違い、現在では多様化する消費者ニーズに的確に対応することが、企業にとって市場で生き残っていくためのカギとなっている。本講義では、マーケティング戦略を立案する上で必要不可欠となるデータの扱い方および分析手法を学習する。各種分析手法について、実際にデータを使いながら、より実践的に学んでゆく。また、講義内容についてより理解を深めるため、各自で分析テーマを計画し、分析を実行してもらおう。市場の動向を読むための技術を身につけることは非常に重要である。
到達目標	マーケティングにおける各種の分析手法について学習し、分析を通して現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。
授業方法と留意点	教員からの講義の他に、講義内容に関連した実際の問題について学生自身にも考え、発表してもらおう。これは、学生の発想力と創造力を伸ばすためでもある。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方など	配布プリントの復習
2	二次データの整理	二次データの整理方法とデータ読み取り エクセルによる基礎分析	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
3	データ分析(1)	エクセルを使用したマーケティング分析手法について	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
4	データ分析(2)	相関分析 無相関検定 独立性の検定	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
5	データ分析(3)	平均値差による検定 分散分析	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
6	データ分析(4)	回帰分析 重回帰分析	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
7	データ分析(5)	重回帰分析 要因分析 数量化Ⅰ類	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
8	データ分析(6)	時系列分析 指数平滑法	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
9	データ分析(7)	判別分析 数量化Ⅱ類	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
10	データ分析(8)	クラスター分析 コレスポンデンス分析	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
11	データ分析(9)	移動平均法 決定木分析	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
12	分析演習(1)	これまでの講義内容をふまえ、各自でデータ分析を実行する	事前学習：前回講義の復習 事後学習：テーマを計画し、適切な分析手法を選択することができるように、講義内容について復習し、情報収集を心がけること。
13	分析演習(2)	設計した分析内容を発表資料としてまとめる	事前学習：引き続き、計画テーマについて分析 事後学習：考案した分析テーマの内容について、プレゼンテーションができるように掘り下げて考える。また、分析に必要な情報を収集し、まとめること。
14	分析演習とプレゼンテーション	考案・設計したリサーチ内容をプレゼンテーションする。また、他の学生の考案したリサーチ内容について分析と考察を行う。	事前学習：プレゼンテーションの準備 事後学習：半年間の復習
15	講義まとめ	授業に関する質問に回答します。	事前学習：半年間の内容を復習し、質問事項があればまとめておくこと。 事後学習：半年間の復習をしておく。

関連科目	マーケティング情報解析
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	講義内課題 70%、期末試験 30%
----------	--------------------

学生へのメッセージ	日ごろ自分達がどのように考え、どういった商品を購入しているかを思い浮かべつつ、講義に臨んでもらいたい。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館8階、樋口研究室
----------	--------------

備考	学生の理解度により、適宜講義内容を変更する場合がある。
----	-----------------------------

科目名	マーケティング情報解析	科目名(英文)	Marketing Information Analysis
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	近年、マーケティング戦略の立案などに際し、市場調査が頻繁に利用されている。市場調査により収集されたマーケティング・データは、企業意思決定において様々な形で利用される。ただし、これらのデータはそのままの形では有効に利用することが難しい。よって、種々の分析手法をもって、まずは有益な情報に変換されることとなる。本講義では、このようなマーケティング・データを扱うためのデータ分析手法について、多変量解析を中心に学習する。
到達目標	マーケティング・リサーチの手法とデータの扱い方を習得することで、各種マーケティング上の課題に対処する力を身につける。
授業方法と留意点	本講義ではExcel、SPSSを利用する。この点を理解の上履修すること。 また、毎回の講義中に、講義内容に関連する課題を課す。
科目学習の効果(資格)	「社会調査士」の資格取得のため必須科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティング・リサーチとデータ分析の関係について	事後学習：配布プリントの復習
2	リサーチの流れとデータの役割	マーケティング・リサーチの基本知識、実行手順などについて	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
3	基礎統計	記述統計、グラフなど	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
4	仮説検定(1)	無相関検定	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
5	仮説検定(2)	カイ二乗検定	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
6	仮説検定(3)	平均値の差による検定	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
7	多変量解析(1)	回帰・重回帰分析	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
8	多変量解析(2)	重回帰分析を使用した需要予測	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
9	多変量解析(3)	時系列解析手法	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
10	多変量解析(4)	分散分析・数量化理論Ⅰ類	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
11	多変量解析(5)	SPSSを使用した多変量解析の計算手法	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
12	多変量解析(6)	判別分析・数量化理論Ⅱ類	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
13	多変量解析(7)	クラスター分析・相関分析	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
14	多変量解析(8)	主成分分析・因子分析	事前学習：前回講義の復習 事後学習：配布プリントの復習
15	講義まとめ	半年間の講義のまとめと復習、質問への対応など	事前学習：講義全体を復習し、質問したい事項があればまとめておくこと 事後学習：講義全体の復習

関連科目	経営統計学、ビジネスデータ分析、市場調査法、市場調査実習
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	講義内課題 70%、期末試験 30%
----------	--------------------

学生へのメッセージ	講義内容の復習を各自で出来るだけ行うこと。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	11号館8階、樋口研究室
----------	--------------

備考	学生の理解度などにより、適宜講義内容を変更する場合がある。
----	-------------------------------

科目名	マーケティング戦略論	科目名(英文)	Marketing Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「戦略」という視点からマーケティングを捉え、学んでいきます。ビジネス社会で役立つマーケティング戦略論の考え方について学びます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング戦略の考え方について理解する。 ・身近な事例をマーケティング戦略に結び付けて考えることができる。
授業方法と留意点	講義が中心ですが、理解を深めるためにグループワークも取り入れます。
科目学習の効果(資格)	リテール・マーケティング(販売士)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	競争環境をとらえる	競争環境とは何か。いかに対処すべきかを考察します	【事前学習】マーケティング論の復習、教科書第1章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
2	市場環境をとらえる	消費者行動の理解を図ります。	【事前学習】教科書第2章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
3	流通環境をとらえる	小売業者や卸売業者の役割、インターネットの影響などを考えます。	【事前学習】教科書第3章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
4	市場機会の探索と評価	事業機会を探し出し、評価するための枠組みを紹介します。	【事前学習】教科書第4章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
5	需要多様性への対応	探しだされた市場機会への対応方法について考察します。	【事前学習】教科書第5章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
6	価値提供と競争優位	競争相手に対して有利な立場に立てるようなやり方で顧客に価値を提供するための枠組みについて考察します。	【事前学習】教科書第6章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
7	新製品開発戦略	新製品開発課程とマーケティング戦略構築とを関連づけて考察します。	【事前学習】教科書第7章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
8	製品ライフサイクルとマーケティング戦略	製品ライフサイクルの各段階でどのようなマーケティング施策を必要とするかを考えます。	【事前学習】教科書第8章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
9	製品戦略	提供価値と提供方法をどのような製品で実現し、どのようなサービスを付加するのかを考えます。	【事前学習】教科書第9章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
10	ブランド戦略	ブランディングについて考えます。	【事前学習】教科書第10章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
11	価格戦略	価格設定に影響を与える要因や価格の使い分けなどについて考えます。	【事前学習】教科書第11章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
12	プロモーション戦略	消費者とのコミュニケーションを図る方法であるプロモーション手段の組み合わせなどを考察します。	【事前学習】教科書第12章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
13	流通チャネル戦略	標的市場に提供価値を届けるための最適な流通チャネルの選択と管理について考察します。	【事前学習】教科書第13章の読解 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える。
14	事例研究1	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】事例を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする。
15	事例研究2	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】学習範囲を復習し期末テストに備える。

関連科目 マーケティング概論、消費者行動論、リテールマーケティング

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣
2				
3				

評価方法(基準) 平常点(ミニッツペーパー、中間レポート、発表等) 40%
期末テスト 60%

学生への メッセージ	教科書の予習、復習を図ることで、マーケティング知識の定着が図れます。将来、仕事でマーケティングを活かしたい人はしっかりと学んでください。
担当者の 研究室等	田中祥司研究室
備考	

科目名	マーケティング論	科目名(英文)	Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	樋口 友紀
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近年、ビジネスにおいてマーケティングは欠かすことのできないツールとなった。商品を生産すれば売れた時代とは違い、現在では多様化する消費者ニーズに的確に対応することが、企業にとって市場で生き残っていくためのカギとなっている。本講義では、マーケティングの基本について学習する。前半では、なぜマーケティングが必要であるのか、どのように行えば良いのか、その手法と実際を紹介する。後半では、マーケティング戦略の立案などに際し、欠かすことのできないマーケティング・データの分析手法や理論について学習する。
到達目標	マーケティングの基本的知識修得と、その活用を目指す。
授業方法と留意点	講義が中心となるが、積極的に意見や質問を述べること。
科目学習の効果(資格)	マーケティング基礎知識の習得や、基礎的なデータ分析の手法を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	マーケティングの基礎	マーケティングの基本的な知識を学ぶ	レジュメの予習・復習等
3	戦略1-製品-	製品戦略について	レジュメの予習・復習等
4	戦略2-価格-	価格戦略について	レジュメの予習・復習等
5	流通とマーケティング-	マーケティングに深く関係する流通の基礎について学ぶ	レジュメの予習・復習等
6	戦略3-チャネル-	流通チャネル戦略について	レジュメの予習・復習等
7	戦略4-プロモーション-	プロモーション戦略について	レジュメの予習・復習等
8	戦略5-インターネット-	インターネットを用いたマーケティング戦略について	レジュメの予習・復習等
9	戦略6-各種戦略について-	その他のマーケティング戦略について	レジュメの予習・復習等
10	戦略7-サービス-	サービス・マーケティングについて	レジュメの予習・復習等
11	戦略8-ブランドとは-	ブランドについて、基本的な知識を学習する	レジュメの予習・復習等
12	戦略9-ブランド戦略-	マーケティングにおけるブランド戦略について学ぶ	レジュメの予習・復習等
13	モバイル・ニュービジネス設計	モバイルを用いた新たなビジネスを考案する	レジュメの予習・復習等
14	モバイル・ニュービジネス設計と考察	モバイルを用いた新たなビジネスを考案し、プレゼンテーションする	レジュメの予習・復習等
15	中間まとめ	前半部分のまとめ	レジュメの予習・復習等
16	マーケティング・リサーチとは	マーケティング・リサーチについて概説する	レジュメの予習・復習等
17	リサーチの流れとデータ分析	マーケティングリサーチの基本知識、実行手順について	レジュメの予習・復習等
18	一次データの収集	一次データの収集方法と質問票の設計、入力について	レジュメの予習・復習等
19	基礎統計	基礎統計について学習する	レジュメの予習・復習等
20	仮説検定 無相関検定	各種の仮説検定手法について学ぶ	レジュメの予習・復習等
21	カイ二乗検定 相関係数	各種の仮説検定手法およびデータ同士の関係性について学ぶ	レジュメの予習・復習等
22	平均値差の検定	各種の仮説検定手法について学ぶ	レジュメの予習・復習等
23	多変量解析(1)	回帰分析・重回帰分析	レジュメの予習・復習等
24	多変量解析(2)	重回帰分析による予測	レジュメの予習・復習等
25	多変量解析(3)	時系列分析・数量化理論Ⅰ類	レジュメの予習・復習等
26	多変量解析(4)	分散分析	レジュメの予習・復習等
27	多変量解析(5)	判別分析・数量化Ⅱ類	レジュメの予習・復習等
28	多変量解析(6)	クラスター分析 コレスポンデンス分析	レジュメの予習・復習等
29	多変量解析(7)	主成分分析・因子分析	レジュメの予習・復習等
30	講義まとめ	講義全体のまとめ	レジュメの予習・復習等

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義内課題 70%、期末試験 30%で評価
学生への メッセージ	各回の授業中に資料を配布する。講義はパワーポイントを使用する。 課題作成や発表時にパソコンを使用する (WORD、PowerPoint、SPSS など)。 講義内容の復習を各自で出来るだけ行うこと。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階、樋口研究室
備考	学生の理解度などにより、適宜講義内容を変更する場合がある。

科目名	マクロ経済学	科目名(英文)	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では、国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお、ミクロ経済学では、経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。
到達目標	マクロ経済学の理論を通して、日本経済の問題を理解、説明できる。
授業方法と留意点	教科書を中心に行うが、適宜、新聞やTVで取り上げられたトピックも用いる。
科目学習の効果(資格)	公務員試験・経済学検定試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？ マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。
	2	GDPとは何だろうか？(1)	付加価値、三面等価の原則	テキスト第1章を読んでおくこと。
	3	GDPとは何だろうか？(2)	GDPの範囲、GNI(GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第1章を読んでおくこと。
	4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(1)	ケインズ型の消費関数	テキスト第2章を読んでおくこと。
	5	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(2)	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第2章を読んでおくこと。
	6	設備投資と在庫投資(1)	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第3章を読んでおくこと。
	7	設備投資と在庫投資(2)	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第3章を読んでおくこと。
	8	金融と株価(1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第4章までを復習しておくこと。
	9	金融と株価(2)	株価の決定理論、トービンのq	テキスト第4章を読んで復習しておくこと。
	10	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、貨幣需要関数、	テキスト第5章を読んでおくこと。
	11	貨幣の需要と供給(2)	貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利率の決定	テキスト第5章を復習しておくこと。
	12	乗数理論とIS-LM理論(1)	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第6章を予習しておくこと。
	13	乗数理論とIS-LM理論(2)	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、IS-LM分析	テキスト第6章、7章を読んでおくこと。
	14	財政赤字と国債	財政政策の意義、日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第8章を読んでおくこと。
	15	インフレと失業	インフレとデフレ、失業率	テキスト第9、10章を読んでおくこと。

関連科目	ミクロ経済学、貿易と金融
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学入門	福田慎一、照山博司	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 75% 平常点(レポート提出,小テストなど) 25%
学生へのメッセージ	授業中は私語厳禁、携帯電話の利用禁止。 テキストやノートでの復習は必ずすること。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本研究室) sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp
備考	

科目名	マネジメントサイエンス	科目名(英文)	Management Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス(経営科学、オペレーションズ・リサーチ)とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、日程計画、線形計画法、待ち行列や意思決定理論を中心とした基本的な知識と技法(解法)について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓等を用いた数値計算で最適解を見つけることができる。
授業方法と留意点	配布資料を中心に手法や理論を解説し、ゲームやシミュレーション形式の例題を用いた演習を通して理解を深める。課題に取り組む中で、経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			次回の内容を確認し、配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、マネジメントサイエンスの概要	
2	在庫管理(1)	在庫管理の考え方、最適発注量	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
3	在庫管理(2)	発注システム、将来を見据えた在庫管理の方法	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
4	グラフ理論	グラフ理論の考え方、最適な経路を見つける方法	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
5	日程計画(1)	日程計画の考え方、作業を効率よく進める方法	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
6	日程計画(2)	PERTによる日程計画、作業の進捗管理	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
7	待ち行列理論	待ち行列の基礎、到着時間とサービス時間の分布	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	テストの解説を見直しておく(60分)
9	線形計画法(1)	線形計画法の考え方、問題の定式化と図式解法	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
10	線形計画法(2)	シンプレックス法による最適解法、出荷・輸送計画を事例とした演習	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
11	整数計画法	整数計画法の考え方、人員の最適配置計画	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
12	決定理論(1)	決定理論の考え方、複数候補からの意思決定	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
13	決定理論(2)	不確実性下の意思決定(ミニマックス原理など)	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
14	決定理論(3)	ゲーム理論(囚人のジレンマ、安定マッチングなど)	授業中に課した練習問題に解答する(30分) 事前配付資料の該当箇所を読んでおく(60分)
15	全体のまとめ	全体のまとめと経営学分野における実用例	全体の学習内容を見直しておく(60分)

関連科目 数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(40%)、授業中の課題(30%)、小テスト(30%)により総合的に評価する。
私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。

学生へのメッセージ 高度な数学は使いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、8割以上の出席が必要です。毎回、数値を扱うので電卓(関数電卓でなくてよい)を持参してください。また、授業の最初から聞かないと理解できませんので、遅れないようにしてください。

担当者の研究室等 11号館8階(栢木教室)

備考 必要に応じて資料を配布する。

科目名	マルチメディア処理 I	科目名 (英文)	Multimedia Processing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。さらに、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学び、情報技術を駆使した多彩な表現力について修得する。
授業方法と留意点	初回到授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。 マルチメディア処理 I IIはマルチメディア処理 Iを履修していないと合格しない。マルチメディア処理 I IIの履修を予定している者は、必ずこの科目を履修すること。
科目学習の効果(資格)	CG検定, 画像処理検定, マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	マルチメディアを用いた応用技術	ガイダンス、CG 映画、ビデオゲーム、マルチメディア通信応用システム、仮想現実感	事前学習：なし 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間)
2	基本的なシーンファイルの設定	座標系、カメラと照明の設定	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間)
3	CGの基本演習	CG 作成手順、簡単な立体形状の作成、CG 画像の実例紹介	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間)
4	マルチメディアと人間の知覚特性	恒常現象、図の認識、錯覚、図と地	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間)
5	視覚特性と聴覚特性	両眼立体視、図の動き、色の見え、聴覚効果	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間)
6	物体の移動・回転・縮小・拡大	移動・回転・縮小・拡大の設定と見え方	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間)
7	色彩表現	加法混色、減法混色、RGB/XYZ 表示系、マンセル表色系	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間)
8	講義のまとめと小テスト	講義前半のまとめと小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間)
9	色彩演習	立体の色彩表現	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間)
10	2次元画像処理の基礎	画像の標本化と量子化、2値化処理、濃淡、陰線・陰面消去	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間)
11	合成と変換	平滑化、鮮鋭化、モザイク処理、コントラストの変換、特殊効果	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間)
12	立体の表現方法	ステレオ画像処理、時分割メガネ方式、ステレオペア方式	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間)
13	基本的な立体形状の作成	基本的な立体形状の作成方法	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(13)を解く(1時間)
14	物体の質感	さまざまな物体の質感	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(14)を解く(1時間)
15	講義のまとめと小テスト	講義後半のまとめと小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(15)を解く(1時間)

関連科目 マルチメディア処理 II、情報処理関連の基礎科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者 (寝る、喋る等) は欠席扱いとする。
学生への メッセージ	この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室
備考	

科目名	マルチメディア処理II	科目名(英文)	Multimedia Processing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井 千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。更に、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学び、情報技術を駆使した多彩な表現力について修得する。
授業方法と留意点	マルチメディア処理I IIは、マルチメディア処理Iを修得していなければ合格できない。履修するには必ず確認すること。またこの授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、経営情報学科の主要な情報処理科目を履修していない経営学科の学生は受講しないように。 初回到授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。
科目学習の効果(資格)	CG検定、画像処理検定、マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	模様と凹凸表現	質感とテクスチャ	事前学習：なし 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間)
2	CG演習(1)	質感の変更、テクスチャマッピング、パンプマッピング	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間)
3	カメラとライティング	ワールド座標とローカル座標、座標変換、透視変換	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間)
4	CG演習(2)	カメラや光源の種類の設定	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間)
5	モデリング	モデリング手法	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間)
6	レンダリング	レンダリング手法	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間)
7	講義のまとめと小テスト	講義前半のまとめと小テスト	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間)
8	CG演習(3)	複雑な立体形状の作成	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間)
9	立体表現の応用	スweep表現、曲線表現(スプライン曲線、ベジェ曲線)	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間)
10	CG演習(4)	正多面体、半多面体、トーラス図形、CG文字の作成	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間)
11	CGアニメーション	アニメーションの原理、映画などで利用されているCGの実例紹介	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間)
12	CG演習(5)	CGアニメーションの作成	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間)
13	講義のまとめと小テスト	講義後半のまとめと小テスト	事前学習：作品制作に必要な準備をしておく(30分) 事後学習：練習課題(13)を解く(1時間)
14	作品制作(1)	作品制作とまとめ	事前学習：作品制作に必要な準備をしておく(30分) 事後学習：練習課題(14)を解く(1時間)
15	作品制作(2)	作品制作とまとめ	事前学習：作品制作に必要な準備をしておく(30分) 事後学習：練習課題(15)を解く(1時間)

関連科目 マルチメディア処理I、情報処理関連の基礎科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題 (10%)、小テスト (20%)、最終課題 (10%)、期末試験 (60%) により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者 (寝る、喋る等) は欠席扱いとする。
学生への メッセージ	マルチメディア処理 I I を履修する場合は、マルチメディア処理 I を事前に修得していること。マルチメディア処理 I I だけを受講しても合格しない。履修する際には注意すること。またこの授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室
備考	

科目名	ミクロ経済学	科目名(英文)	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	現代経済学の理論は、体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。そのうち、ミクロ経済学は、もつとらしい仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論である。本講義では、ミクロ経済学を現実事象と照らし合わせながら説明する。
到達目標	経済主体の意思決定や市場について理解すること
授業方法と留意点	講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。理解度を重視して進めるので、講義計画の変更もある。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、発言することを求める。発言は評価の対象である。
科目学習の効果(資格)	TV や新聞、インターネットから無造作に流される経済的事象を自らで整理し、自らで判断するための初歩的な能力が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	需要の理論	市場需要曲線、曲線のシフト要因、消費者余剰	事前に第2章を読んでおくこと。復習も行うこと。
3	消費者行動の理論(1)	最適消費点	事前に第3章を読んでおくこと。復習も行うこと。
4	消費者行動の理論(2)	需要曲線の導出、曲線のシフト要因再考	事前に第3章を読んでおくこと。復習も行うこと。
5	供給の理論(1)	限界費用、供給量の決定、供給曲線、生産者余剰	事前に第4章を読んでおくこと。復習も行うこと。
6	供給の理論(2)	右上がりの限界費用曲線、市場供給曲線、供給曲線のシフト要因	事前に第4章を読んでおくこと。復習も行うこと。
7	限界概念と微分	限界概念と微分との関係について説明する。	予習はできないが、復習をしっかりと行うこと。
8	需給曲線と弾力性	需要と供給の弾力性、弾力性を左右する要因	事前に第5章を読んでおくこと。復習も行うこと。
9	ここまでのまとめと中間テスト	これまでのまとめと中間試験を行う	事前に復習を行っておくこと。
10	市場の理論	さまざまな市場構造、社会的余剰、効率性、分配の公正性、市場の失敗	事前に第6章を読んでおくこと。復習も行うこと。
11	需要と供給で解く経済問題	需給曲線を用い経済問題を考える	事前に第7章を読んでおくこと。復習も行うこと。
12	余剰分析で解く経済問題	余剰を用い経済問題を考える	事前に第8章を読んでおくこと。復習も行うこと。
13	市場の失敗(1)	外部効果、公共財	事前に第9章を読んでおくこと。復習も行うこと。
14	市場の失敗(2)	情報の非対称性	事前に第10章を読んでおくこと。復習も行うこと。
15	市場の失敗(3)	独占市場	事前に第11章を読んでおくこと。復習も行うこと。

関連科目	くらしと経済、マクロ経済学、金融論、企業金融論 等
------	---------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	中間試験(40%)と期末試験(60%)で評価する。なお、詳細は初回講義で述べる。
----------	--

学生へのメッセージ	経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	民法	科目名(英文)	Civil Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものである。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための規範であり、特に財産と家族の問題を扱っている。財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、そこから具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	民法全般、および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する。 法律科目であるので、六法(書籍の一種)が必要。六法を入手する予定のない方は受講しないこと(学習内容を理解することができないため)。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	全体の復習をしておくこと。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。
------	------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法入門	小川・西内・大川	一学舎
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	講義中に復習テストを行い、評価に加える予定(初回に確認します)。 小テストに加え、定期試験での評価の予定(初回に確認します)。
----------	--

学生へのメッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
-----------	--

担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民法 I	科目名 (英文)	Civil Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものである。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための規範であり、特に財産と家族の問題を扱っている。財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、そこから具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	民法全般、および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要。六法を入手する予定のない方は受講しないこと（学習内容を理解することができないため）。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	予習・復習として、教科書の関連する部分を確認しておくこと。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	全体の復習をしておくこと。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。
------	------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法入門	小川・西内・大川	一学舎
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中に復習テストを行い、評価に加える予定（初回に確認します）。 小テストに加え、定期試験での評価の予定（初回に確認します）。
----------	--

学生へのメッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
-----------	--

担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	メディア戦略論	科目名(英文)	Media Strategy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、企業のマーケティング政策における ICT の活用戦略（メディア戦略）の策定、各種広告技術、戦術的 ICT 運用、広告・集客・販売・顧客維持に向けた企業の取り組み事例について解説を行っていく。その際、情報ネットワーク時代における消費者の購買行動様式や企業の競争環境について理解しておくことが必要であることから、消費者行動論、競争戦略論の代表モデルについても取り上げる。 講義の主な目的は、受講生が、メディア戦略についての基本的な考え方、技術的な仕組み及び企業における最新の取り組みを理解することである。
到達目標	・メディア戦略についての基本的な考え方、技術的な仕組み、および事例ベースでのメディア活用戦略を理解し、説明できるようになる。 ・消費者行動モデル、競争戦略の基本的考え方について説明できるようになる。
授業方法と留意点	教材資料を事前配布し、それをノートとして用いる。講義では、資料解説を中心とする。また定期的にスマートフォン、携帯電話を使った実習も行う。教材資料は、学内ポータルサイトの教材フォルダに上げており、受講生は各自印刷しておく必要がある。
科目学習の効果(資格)	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 ITパスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	これからのマーケティング	主に以下について解説する。 ・ICT が変えた競争のルール ・経営における ICT の位置付け ・ICT 時代の消費者と消費行動 ・ICT マーケティング	_____
2	マーケティングの戦略策定	主に以下について解説する。 ・マーケティング環境分析 ・マーケティング戦略策定 ・マーケティング活動の PDCA サイクル	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	ICT マーケティングの基本フレームワーク	主に以下について解説する。 ・マーケティング環境 ・マーケティング戦略 ・マーケティングチャネル	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	消費者行動	主に以下について解説する。 ・現代消費者の消費行動と ICT 環境 ・消費者行動の分析モデル	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	広告（1）	主に以下について解説する。 ・ネット広告の種類 ・ネット広告の仕組み、運用 ・事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	広告（2）	主に以下について解説する。 ・モバイル/SNS 広告の仕組み、運用 ・ネット広告・モバイル/SNS 広告の問題 ・事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	集客と販売（1）	主に以下について解説する。 ・最新事例の解説	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	集客と販売（2）	主に以下について解説する。 ・最新事例の解説	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	CRM	主に以下について解説する。 ・CRM とは ・顧客データベース ・エンゲージメント	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	マーケットリサーチ（1）	主に以下について解説する。 ・これからのマーケットリサーチ ・ソーシャルリスニング ・事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	マーケットリサーチ（2）	主に以下について解説する。 ・顧客データの管理運用と分析 ・データサイエンティストの役割	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	ICT マーケティングの戦略策定（1）	主に以下について解説する。 ・統合型マーケティング・コミュニケーション戦略 ・ネットビジネスにおける競争戦略の考え方	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	ICT マーケティングの戦略策定（2）	主に以下について解説する。 ・最新事例の解説	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	ICT マーケティングの問題	主に以下について解説する。 ・サイバーリスクについて	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	まとめ	_____	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。

					と。
関連科目	ICT 概論、経営情報システム、コンテンツビジネスなど				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	<p>期末テスト (80%)、小テスト・レポート (20%) で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。</p>				
学生への メッセージ	<p>経営情報学科の学生である以上、企業経営における情報システムの最新動向については、常に関心を向けておく姿勢が必要です。特に本講義では、君たちに身近なウェブサービス、ソーシャルメディアを取り上げます。受講にあたっては、事前に講義資料で取り上げられる予定のメディアサービスを体験しておいてください。それを前提として講義を進めます。</p>				
担当者の 研究室等	1 1 号館 7 階 (針尾准教授室)				
備考					

科目名	メディアと社会	科目名(英文)	Media and Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	メディアは社会に変革をもたらしてきた。メディアとして、言葉、文字、印刷、映像、デジタルテクノロジーの栄枯盛衰があったが、本授業では、デジタルテクノロジーを対象にする。どのようにメディアが、ヒトの認識行動にどのように効果と影響を与えるのかを考える。情報化社会の進展の中で、デジタルテクノロジーの進化に伴って、これまでのビジネスや個人の活動が変容したり、新サービスが導かれたり、また様々な社会課題が生じてきた。特に、インターネットやソーシャルメディアの普及によって、時空の短縮や質の向上をもたらす活動が可能になり、社会での価値観の多様化がより進む状況に、いかにメディアに向き合って行動するのかを学習する。
到達目標	メディアは、どのような特質を持ち、組織や個人にいかに関与するのかを理解する。デジタルテクノロジーの進化により普及するメディアの効果や影響を考察し、テクノロジー活用による社会課題解決を導く行動指針を理解することを目指す。 学内 WebBox 教材フォルダの授業補助資料を授業前にプリントし、授業に臨むこと。履修者の理解等に応じて、進め方やテーマを適宜見直し変更する。
授業方法と留意点	授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表(5~6名/グループ)から構成される。毎回、グループワーク・発表(プレゼンテーション)を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。
科目学習の効果(資格)	・新聞やWebが提供する情報メディア関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『メディア』とは何か ・メディアの変遷	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
2	メディア小史	・「メディアはメッセージ」か？ ・20世紀までの伝統的メディア(活字/映像、紙/電子、アナログ) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	メディアと社会の関係	・ヒトの五感の拡張 ・社会 個人、組織、ステークホルダー、コミュニティ ・メディアと社会変容 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	テクノロジーの役割によるメディアの変化	・インターネットの出現 ・コミュニケーション手段 ・メディア特性の潮流(パーソナル/双方向/マルチ) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	情報の視点からのメディア	・情報の視座 ・マイクロ・マクロループ(micro-macro loop) ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	情報の伝達とメディア	・情報の伝達 ・ブロードキャスト(broadcast) ・ナローキャスト(narrowcast) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	インターネットの台頭	・www(world wide web) セマンティック・ウェブ(semantic web) ・機能 検索エンジン、ポータル ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	インターネットの特性	・ネットワーク効果 ・メトカーフの法則(Metcalfe's law) ・ネットワークの価値と社会的影響 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	メディアの技術標準と市場の関係	・『技術標準』とは何か ・技術のオープン性と独自性 ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	情報の連結とメディア	・情報の結びつき ・弱い連結と強い連結 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	ソーシャルメディアの利用の浸透	・SNS(Social Network Services) ・SNS浸透と個人の役割の変化 ・手段のコモディティ化 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	IoT	・IoT(Internet of Things) ・すべてがネットにつながる社会 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
13	IoE	・IoT(Internet of Everything) ・ヒト~モノ~コト連携の相乗効果 ・個人発表(プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
14	IoM	・IoM(Internet of Me) ・コグニティブコンピューティング(cognitive computing) ・グループワーク、個人発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
15	まとめ	総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ソーシャルマシン M2M から IoT へつながりが生む新ビジネス	ピーター・センメルハック	KADOKAWA/アスキー・メディアワークス
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンギュラリティは近い[エッセンス版] 人類が生命を超越するとき	レイ・カーツワイル	NHK 出版
	2	シェアリングエコノミー	アルン・スンドララジャン	日経 BP 社
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、個人レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト (毎回、不定期)、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	授業中の講義を聞くだけでは、十分得るものがなく、周りとのコミュニケーションを図ることで触発し合う重要性を認識すること。グループワークは、自分のアイデアを主張すればいいことでもないことに留意し、自分のグループでの立ち位置、クラスでの相対的なポジショニングを考えながら、主体的に課題に接しつつ、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	リテールマーケティング	科目名(英文)	Retail Marketing
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	マーケティングとは、企業の対市場活動です。このようにマーケティングを捉えると、マーケティングの領域は幅広くなります。この講義では、その中でも、小売業に焦点を当て、リテールマーケティングの基本的知識を身につけ、基本的概念・分析枠組みについて理解を深めることを目的とします。
到達目標	リテールマーケティングの基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式で進めます。
科目学習の効果(資格)	小売業をマーケティングの視点から考察することができます。 リテールマーケティング(販売士)検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	リテールマーケティングの全体像を示します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
2	マーケティングとは?	マーケティングについて、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
3	流通とは(1)	流通の役割について、考察していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
4	流通とは(2)	流通の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
5	小売業とは(1)	小売業の内容と役割について考えていきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
6	小売業とは(2)	小売業の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
7	小売業の革新	小売業の革新的行動について、考えていきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
8	百貨店のマーケティング	百貨店のマーケティング戦略について考えていきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
9	スーパーのマーケティング(1)	スーパーのマーケティング戦略について、取り上げます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
10	スーパーのマーケティング(2)	スーパーのマーケティング戦略の具体的な事例を取り上げて、検討していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
11	コンビニエンス・ストアのマーケティング	コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略について、考察してきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
12	アウトレットモールのマーケティング	アウトレットモールのマーケティング戦略について、考察してきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
13	ナショナルブランドとプライベートブランド	ナショナルブランドとプライベートブランドの相違点について、考えていきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
14	流通系列化	流通系列化の現実的問題について考えていきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代商業学 新版	高嶋克義	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 期末テストの成績70%、授業内課題30%

学生へのメッセージ 授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。

担当者の研究室等 11号館8階(武居教授室)

備考

科目名	流通システム論	科目名(英文)	Distribution Systems
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>流通は消費と生産を結びつける活動であり、流通によって社会経済の動きが活性化する。以前は企業の生産活動と販売活動の周辺にある物流活動は支援的な業務と見られていた。しかし、情報社会の進展と合わせて物流活動の重要性が高まり、現在ではモノやサービスを届ける活動や戦略が経営活動で大きな意味を持つようになった。</p> <p>本講義では重要性を増している流通システムとそれを支える情報システムについて、基礎的な理論から実際の実例までを取り扱う。そして、地域活性化や情報社会でのモノ以外の流通についても解説を行う。</p>
到達目標	<p>(1) 身近にある流通システムの概要を説明できる</p> <p>(2) 経営戦略としての流通の重要性を理解できる</p> <p>(3) 物流システムの要素を説明できる</p> <p>(4) 流通システムにおける情報技術の必要性を理解できる</p>
授業方法と留意点	<p>授業では受講生が主体的に学ぶために質問力の養成を図る。サブテーマ3回のうち1回を反転授業として受講生の予習を前提としたグループディスカッションを計画している。積極的な授業参加と主体的な学習を期待します。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>・販売士検定3級試験の流通関連の知識</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方 ・受講者の自己紹介	事前：シラバスを読んでくる 事後：課題提出日の確認
2	身近にある流通(1)	・コンビニエンスストア ・ファーストフード	事前：授業内容に関連するストアを調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
3	身近にある流通(2)	・ショッピングセンター ・アウトレットパーク	事前：授業内容に関連するショッピングセンターを調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
4	身近にある流通(3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る
5	人が動く流通(1)	・購買行動 ・出店計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
6	人が動く流通(2)	・町おこし(観光政策) ・都市計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
7	人が動く流通(3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る
8	物流システム(1)	・物流センター ・配送計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
9	物流システム(2)	・共同配送 ・個別配送	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
10	物流システム(3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る
11	情報と流通システム(1)	・情報技術と流通システム ・流通システムの情報インフラ	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
12	情報と流通システム(2)	・ロジスティクスシステム ・Web流通システム	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
13	情報と流通システム(3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る
14	ケーススタディ	・事例紹介 ・外部講師(調整によって変更あり)	事前：事例に関する予習 事後：事例に関する復習
15	本講義のまとめ	総復習	事前：ノートのまとめ 事後：必要な部分の復習

関連科目 「経営情報システムⅠ」、「経営情報システムⅡ」、「ビジネスシミュレーション」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験(50%)、授業中の課題やレポート(20%)、反転授業やグループディスカッションでの発表(30%)
学生へのメッセージ	流通情報システムは「経営情報」によって大きく飛躍した分野です。身近にもたくさんの事例がありますから、興味を持って楽しみながら学びましょう。
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	事前・事後学習課題について授業の冒頭に Moodle やミニッツペーパーなどで確認を行うので、遅刻せず出席すること。

科目名	流通情報システム論	科目名(英文)	Distribution Information Systems
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎		

授業概要・目的	<p>流通は消費と生産を結びつける活動であり、流通によって社会経済の動きが活性化する。以前は企業の生産活動と販売活動の周辺にある物流活動は支援的な業務と見られていた。しかし、情報社会の進展と合わせて物流活動の重要性が高まり、現在ではモノやサービスを届ける活動や戦略が経営活動で大きな意味を持つようになった。</p> <p>本講義では重要性を増している流通システムとそれを支える情報システムについて、基礎的な理論から実際の実例までを取り扱う。そして、地域活性化や情報社会でのモノ以外の流通についても解説を行う。</p>
到達目標	<p>(1) 身近にある流通システムの概要を説明できる</p> <p>(2) 経営戦略としての流通の重要性を理解できる</p> <p>(3) 物流システムの要素を説明できる</p> <p>(4) 流通システムにおける情報技術の必要性を理解できる</p>
授業方法と留意点	授業では受講生が主体的に学ぶために質問力の養成を図る。サブテーマ3回のうち1回を反転授業として受講生の予習を前提としたグループディスカッションを計画している。積極的な授業参加と主体的な学習を期待します。
科目学習の効果(資格)	・販売士検定3級試験の流通関連の知識

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方 ・受講者の自己紹介	事前：シラバスを読んでくる 事後：課題提出日の確認
2	身近にある流通(1)	・コンビニエンスストア ・ファーストフード	事前：授業内容に関連するストアを調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
3	身近にある流通(2)	・ショッピングセンター ・アウトレットパーク	事前：授業内容に関連するショッピングセンターを調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
4	身近にある流通(3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る
5	人が動く流通(1)	・購買行動 ・出店計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
6	人が動く流通(2)	・町おこし(観光政策) ・都市計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
7	人が動く流通(3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る
8	物流システム(1)	・物流センタ ・配送計画	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
9	物流システム(2)	・共同配送 ・個別配送	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
10	物流システム(3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る
11	情報と流通システム(1)	・情報技術と流通システム ・流通システムの情報インフラ	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
12	情報と流通システム(2)	・ロジスティクスシステム ・Web流通システム	事前：授業内容のキーワードについて調べる 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す
13	情報と流通システム(3)	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る
14	ケーススタディ	・事例紹介 ・外部講師(調整によって変更あり)	事前：事例に関する予習 事後：事例に関する復習
15	本講義のまとめ	総復習	事前：ノートのまとめ 事後：必要な部分の復習

関連科目 「経営情報システムⅠ」、「経営情報システムⅡ」、「ビジネスシミュレーション」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験(50%)、授業中の課題やレポート(20%)、反転授業やグループディスカッションでの発表(30%)

学生へのメッセージ 流通情報システムは「経営情報」によって大きく飛躍した分野です。身近にもたくさんの事例がありますから、興味を持って楽しみながら学びましょう。

担当者の研究室等 11号館7階 久保准教授室

備考 事前・事後学習課題について授業の冒頭に Moodle やミニッツペーパーなどで確認を行うので、遅刻せず出席すること。

科目名	労働法	科目名(英文)	Labor Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。 この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、同じ場面でも、使用者としての立場か、労働者としての立場かによって、事実の評価や取りうる手段が異なる場合があります。労働という事象をとらえると、使用者も労働者もその主たる当事者であることを理解し、その関係を規律する法律の基本的知識を理解することが目標です。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。 また、企業経営にとって労働者は不可欠でし、労使関係を規律する法律を学ぶことは、実際の経営に有益と考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	教科書第1章(2頁から10頁)
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	教科書第2章(11頁から44頁)
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲 ・労働者派遣法 ・パートタイム労働者、外人労働者問題	教科書第6章(94頁から115頁)
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	教科書第6章(94頁から115頁)
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	教科書第7章(116頁から132頁)
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	教科書第10章の1、2(163頁から177頁)
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	教科書第10章の3、4(178頁から188頁)
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	教科書第11章(189頁から220頁)
9	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	教科書第9章(146頁から162頁)
10	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み	教科書第12章(222頁から245頁)
11	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	教科書第13章(246頁から261頁)
12	基本的労働条件④	・休暇	教科書第14章(262頁から283頁)
13	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	教科書第15章(284頁から308頁)
14	変容する労働市場	・就業形態の多様化 ・事業者の多様化	教科書第22章、23章(425頁から477頁)
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと。

関連科目	法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法[第5版](有斐閣アルマ)	浅倉むつ子 ほか	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選[第9版]		有斐閣
	2	労働法[第11版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
	3			

評価方法(基準)	原則として学期末テストの成績の点数によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらったことがありますが、それらは加点事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
----------	--

学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
-----------	---

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	労働法Ⅰ	科目名(英文)	Labor Law I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。 この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、同じ場面でも、使用者としての立場か、労働者としての立場かによって、事実の評価や取りうる手段が異なる場合があります。労働という事象をとらえると、使用者も労働者もその主たる当事者であることを理解し、その関係を規律する法律の基本的知識を理解することが目標です。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。 また、企業経営にとって労働者は不可欠でし、労使関係を規律する法律を学ぶことは、実際の経営に有益と考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	教科書第1章(2頁から10頁)
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	教科書第2章(11頁から44頁)
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲 ・労働者派遣法 ・パートタイム労働者、外人労働者問題	教科書第6章(94頁から115頁)
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	教科書第6章(94頁から115頁)
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	教科書第7章(116頁から132頁)
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	教科書第10章の1、2(163頁から177頁)
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	教科書第10章の3、4(178頁から188頁)
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	教科書第11章(189頁から220頁)
9	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	教科書第9章(146頁から162頁)
10	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み	教科書第12章(222頁から245頁)
11	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	教科書第13章(246頁から261頁)
12	基本的労働条件④	・休暇	教科書第14章(262頁から283頁)
13	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	教科書第15章(284頁から308頁)
14	変容する労働市場	・就業形態の多様化 ・事業者の多様化	教科書第22章、23章(425頁から477頁)
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと。

関連科目	法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法[第5版](有斐閣アルマ)	浅倉むつ子 ほか	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選[第9版]		有斐閣
	2	労働法[第11版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
	3			

評価方法(基準)	原則として学期末テストの成績の点数によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらっていますが、それらは加点事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
----------	--

学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
-----------	---

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	労働法Ⅱ	科目名(英文)	Labor Law II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分かれるといわれています。この授業では、団体的労働関係法に属し、労働者、使用者と並ぶ重要な主体である労働組合について規定している労働組合法の内容を概観します。
到達目標	勤労者の団結する権利は憲法28条によって保障されています。労働組合の組織率が低下しており、争議行為も減少している現在においても、「労働者が使用者との交渉において対等の立場にたつことを促進することにより労働者の地位を向上させること」、「労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ること」を目的とする労働組合は、なお重要な地位を占めているということが出来ます。そうした、労働組合の意義、内容、問題点を理解することをこの授業では目標としています。 また、労働者に就労の機会を保障し、労働者の雇用の安定を図り、失業した労働者の労働関係への復帰を促進することを目的とする法律の内容を認識することも目標となります。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	団体的労働関係法の歴史と現状	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点 ・労働法の意義、性格	教科書第1, 2章(2頁から44頁)
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	教科書第17章(330頁から349頁)
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	教科書第19章の1, 2(369頁から380頁)
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の効力	教科書第19章の3(381頁から387頁)
5	労働協約②	・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	教科書第19章の3(381頁から387頁)
6	労働者の団体行動①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・争議行為と賃金	教科書第20章の1, 2(388頁から398頁)
7	労働者の団体行動②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	教科書第20章の3(398頁から401頁)
8	労働者の団体行動③	・使用者の争議対抗行為	教科書第20章の1から3(388頁から401頁)
9	労働者の団体行動④	・法律による争議権の制限 ・労働争議の調整	教科書第20章の4(402頁から404頁)
10	組合活動	・組合活動の法的保障 ・就業時間中の組合活動 ・企業施設利用の組合活動 ・組合活動に対する便宜供与	教科書第17章(330頁から349頁)
11	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の主体	教科書第18章(350頁から368頁)
12	不当労働行為②	・不当労働行為の成立要件	教科書第18章(350頁から368頁)
13	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	教科書第5章(82頁から92頁)、第18章(350頁から368頁)
14	雇用保障	・雇用保障の意義と体系 ・職業紹介、募集 ・職業訓練 ・失業防止、雇用安定と失業者救済	教科書第21章(406頁から424頁)
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を捕捉したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目 法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法(第5版)	(有斐閣アルマ)	浅倉むつ子 ほか
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法[第11版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
2	労働判例百選[第9版]		有斐閣	
3				

評価方法(基準) 原則として学期末テストの成績の点数(100%)によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらうことがありますが、それらは加点事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。

学生へのメッセージ 現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。

担当者の研究室等

備考

基礎科目

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
	2	Unit 1 Cross-Cultural Understanding (1)	強く発音される語を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	3	Unit 1 Cross-Cultural Understanding (2)	文の主語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	4	Unit 2 Foods (1)	語順のまま理解する	テキストの予習と単語の学習
	5	Unit 2 Foods (2)	動詞の目的語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	6	Unit 3 Foreign Language Learning (1)	消える t と d を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	7	Unit 3 Foreign Language Learning (2)	動詞の目的語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
	9	Unit 4 Sports (1)	似た音に注意して聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	10	Unit 4 Sports (2)	補語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	11	Unit 5 Fashion (1)	n でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	12	Unit 5 Fashion (2)	何の代わりかを見抜く (代名詞)	テキストの予習と単語の学習
	13	Unit 6 Living Things (1)	弱い can を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	14	Unit 6 Living Things (2)	「to+ 動詞」を理解する (不定詞)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AMBITIONS: Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 初級編	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション、プリント教材</td> <td>授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Personal Correspondence (1)</td> <td>私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Personal Correspondence (2)</td> <td>私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Biography (1)</td> <td>伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Biography (2)</td> <td>伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Events & Festivals (1)</td> <td>情報入手のポイント</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Events & Festivals (2)</td> <td>情報入手のポイント/ 未来形</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Events & Festivals (3)</td> <td>情報入手のポイント/ 未来形</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Directions & Locations (1)</td> <td>道順の指示/ 前置詞(場所)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Directions & Locations (2)</td> <td>道順の指示/ 前置詞(手段・道具)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Directions & Locations (3)</td> <td>歴史と観光に関する文/ 前置詞(手段・道具)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Occupations (1)</td> <td>職業に関する文/ 代名詞</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Occupations (2)</td> <td>職業に関する文/ 代名詞</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Occupations (3)</td> <td>求人広告の読み方/ 再帰代名詞</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト、復習</td> <td>まとめテスト及びこれまでの内容の復習</td> <td>テキストのこれまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習	2	Personal Correspondence (1)	私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形(1)	テキストの予習と単語の学習	3	Personal Correspondence (2)	私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形(2)	テキストの予習と単語の学習	4	Biography (1)	伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形(1)	テキストの予習と単語の学習	5	Biography (2)	伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形(2)	テキストの予習と単語の学習	6	Events & Festivals (1)	情報入手のポイント	テキストの予習と単語の学習	7	Events & Festivals (2)	情報入手のポイント/ 未来形	テキストの予習と単語の学習	8	Events & Festivals (3)	情報入手のポイント/ 未来形	テキストの予習と単語の学習	9	Directions & Locations (1)	道順の指示/ 前置詞(場所)	テキストの予習と単語の学習	10	Directions & Locations (2)	道順の指示/ 前置詞(手段・道具)	テキストの予習と単語の学習	11	Directions & Locations (3)	歴史と観光に関する文/ 前置詞(手段・道具)	テキストの予習と単語の学習	12	Occupations (1)	職業に関する文/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習	13	Occupations (2)	職業に関する文/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習	14	Occupations (3)	求人広告の読み方/ 再帰代名詞	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習																																																																
2	Personal Correspondence (1)	私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Personal Correspondence (2)	私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	Biography (1)	伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	Biography (2)	伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	Events & Festivals (1)	情報入手のポイント	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	Events & Festivals (2)	情報入手のポイント/ 未来形	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	Events & Festivals (3)	情報入手のポイント/ 未来形	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	Directions & Locations (1)	道順の指示/ 前置詞(場所)	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	Directions & Locations (2)	道順の指示/ 前置詞(手段・道具)	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Directions & Locations (3)	歴史と観光に関する文/ 前置詞(手段・道具)	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Occupations (1)	職業に関する文/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Occupations (2)	職業に関する文/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	Occupations (3)	求人広告の読み方/ 再帰代名詞	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Power-Up English (Basic)</td> <td>JACET リスニング研究会</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Power-Up English (Basic)	JACET リスニング研究会	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Power-Up English (Basic)	JACET リスニング研究会	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけること。積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと、しっかりメモをとることが大切です。解らないことがあれば、必ず質問して下さい。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書前文
	2	Unit 1: AI gives 'objective' advice for daily decision	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 1-6 単語:NO. 1-30 事後:前回単語不合格者再提出
	3	Unit 2: Finland to pay unemployed basic monthly income of \$587	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 7-12 単語:NO. 21-50 事後:前回単語不合格者再提出
	4	Unit 3: Chef helping spread washyoku school lunches	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 13-19 単語:NO. 41-70 事後:前回単語不合格者再提出
	5	Unit 4: Oxfam: 8 men as rich as half the world	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 20-24 単語:NO. 61-90 事後:前回単語不合格者再提出
	6	Unit 5: Shrine in Tokyo accepts e-money offerings	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 25-30 単語:NO. 81-110 事後:前回単語不合格者再提出
	7	教科書 Unit 1-5 テスト	Unit 1~5 までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
	8	中間試験解説及び評	演習	事前:単語:NO. 101-130 事後:前回単語不合格者再提出
	9	Unit 6: Reading classes may become a past thing	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 31-36 単語:NO. 121-150 事後:前回単語不合格者再提出
	10	Unit 7: Japan to help farmers obtain food safety certificates for 2020	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 37-42 単語:NO. 141-170 事後:前回単語不合格者再提出
	11	Unit 8: Study: Baby brain scans may reveal autism risk	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 43-48 単語:NO. 161-190 事後:前回単語不合格者再提出
	12	Unit 9: Tax-sharing services app to be tested	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 49-54 単語:NO. 181-210 事後:前回単語不合格者再提出
	13	Unit 10: Hometown flavors big business in Tokyo	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P. 55-60 単語:NO. 201-230 事後:前回単語不合格者再提出
	14	教科書 Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	事前:Unit 6-10 復習 単語:NO. 221-248 事後:前回単語不合格者再提出
	15	教科書 Unit 6-10 テスト	Unit 6~10 までの内容について小テストを行う。	事前:Unit 6-10 テスト勉強 事後:前回単語不合格者再提出
関連科目	他の英語科目			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World : English through Newspaper 2018	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、自己紹介</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 I'm a Big Fan (1)</td> <td>Be 動詞 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1 I'm a Big Fan (2)</td> <td>Be 動詞 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2 He's Kissing Her (1)</td> <td>現在進行形 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2 He's Kissing Her (2)</td> <td>現在進行形 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3 I Don't Have Any Money (1)</td> <td>現在形・肯定文と否定文 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3 I Don't Have Any Money (2)</td> <td>現在形・肯定文と否定文 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)</td> <td>現在形・疑問文 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)</td> <td>現在形・疑問文 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>暗唱テスト</td> <td>会話をペアで暗唱</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)</td> <td>代名詞 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)</td> <td>代名詞 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6 Be Careful! (1)</td> <td>命令文 (1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 6 Be Careful! (2)</td> <td>命令文 (2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト・復習</td> <td>これまでの内容の復習とまとめのテスト</td> <td>これまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習	2	Unit 1 I'm a Big Fan (1)	Be 動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習	3	Unit 1 I'm a Big Fan (2)	Be 動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習	4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習	5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習	6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文 (1)	テキストの予習と単語の学習	7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文 (2)	テキストの予習と単語の学習	8	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習	9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習	10	暗唱テスト	会話をペアで暗唱	テキストの予習と単語の学習	11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習	12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習	13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文 (1)	テキストの予習と単語の学習	14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文 (2)	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習																																																																
2	Unit 1 I'm a Big Fan (1)	Be 動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Unit 1 I'm a Big Fan (2)	Be 動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習																																																																
10	暗唱テスト	会話をペアで暗唱	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Charge</td> <td>Robert Hickling、市川泰弘</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 UNIT 1 の導入 英語の文	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など 英単語集の学習	UNIT 1 の予習 英単語復習、予習
	2	College Life 1 文強勢とポーズ 品詞	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 1 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	3	College Life 2 英語のリズム 自動詞・他動詞	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	4	Hobbies イントネーション 5 文型	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	5	Romance 消える音 1 現在形・過去形	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	6	Transportation 消える音 2 未来を表す表現	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	7	Business 消える音 3 進行形	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	8	前半のまとめ	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	既習範囲の復習、予習 英単語復習、予習
	9	Society つながる音 1 完了形	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 7 既習範囲の復習、予習 英単語の復習、予習
	10	Health つながる音 2 助動詞	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 8 既習範囲の復習、予習 英単語の復習、予習
	11	The Environment つながる音 3 助動詞	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 9 既習範囲の復習、予習 英単語の復習、予習
	12	Medicine 音の同化 1 不定詞	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 10 既習範囲の復習、予習 英単語の復習、予習
	13	Finance 音の同化 2 分詞	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 11 既習範囲の復習、予習 英単語の復習、予習
	14	Shopping 弱形と強形 動名詞	英単語・リスニング・リーディング・グラマー演習	UNIT 12 既習範囲の復習、予習 英単語の復習、予習
	15	前期範囲の総復習	既習範囲の総復習 英単語の復習	前期範囲の総復習 英単語復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-up English <Pre-Intermediate> (総合英語パワーアップ<初級編>)	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み(課題提出・授業への積極的な参加)(60%) 小テスト(40%) 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
担当者の 研究室等	7号館4階 皆本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーに対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、Chapter 1	授業の進め方の説明 リスニング 今回のプレゼンの準備	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	2	Chapter 2	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	3	Chapter 3	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	4	Chapter 4	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	5	Chapter 5	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	6	Chapter 6	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	7	Chapter 7	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	8	Chapter 8	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	9	Chapter 9	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	10	Chapter 10	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明 (ライティング)	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	11	Chapter 11	プレゼンテーション1 ペアワーク (スピーキング) リスニング	事後学習：ライティングの宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる

			リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明(ライティング)	
	12	Chapter 12	プレゼンテーション1 ペアワーク(スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明(ライティング)	事後学習:ライティングの宿題 事前学習:次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	13	Chapter 13	プレゼンテーション1 ペアワーク(スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明(ライティング)	事後学習:ライティングの宿題 事前学習:次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	14	Chapter 14	プレゼンテーション1 ペアワーク(スピーキング) リスニング リーディング プレゼンテーション2 宿題の説明(ライティング)	事後学習:ライティングの宿題 テストの準備
	15	まとめテスト		
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で学ぶ世界遺産	笹島茂、中谷都、油木田美由紀、小杉弥生	三修社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席 授業への参加、貢献(プレゼンテーション、宿題を含む) 期末テスト		40%	30% 30%
学生への メッセージ	世界遺産をトピックとして、日本語でもアクセスできる情報を使いながら、より効果的に英語を学びます。英語で簡単な説明やプレゼンテーションができるようにすることも目的としています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises - Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	25% of Grade on class participation, attendance and attitude 25% of Grade on end-of-unit quizzes 50% of Grade on Review Test (in-class Final Test)
学生への メッセージ	興味をもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DPI◎		

授業概要・目的	Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announcements and business conversations. Understand basic office english.
到達目標	The students can: (1) improve reading skills in English; (2) learn English pronunciation; (3) improve communication skills in English; and (4) improve listening skills in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students will be given reading and writing review exercises. These review exercises must be completed a brought to the the next class. Bring your textbook to every class.
科目学習の効果 (資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction.	Course overview, objectives, learning outcomes, and explanation of assessment	Before class students make sure they have the textbook. After class review.
	2	Occupations and duties.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	3	Introductions, positions and responsibilities.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	4	Finding your way around an office building.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	5	Instructions and processes.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	6	Invitations and preferences.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	7	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	8	Quizz and review.	Listening, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	9	Media	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	10	Travel arrangements.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	11	Requests for information and assistance.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	12	Sales Figures.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	13	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students make sure they have the textbook and review/homework sheets completed and on their desk. After class students should review all the units for the quiz.
	14	Quiz & Review.	Listening, reading and writing.	After class students should review the units.
15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all your work is up to date and has	

				been seen by the teacher.
関連科目	他の英語関係科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham	OXFORD
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Short quizzes 30%, Homework and Preparation for class 20% Written work in class 15% Lisening in class 20% Clear accurate Speaking in class 15%			
学生への メッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be very useful in the future. (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の内容の再確認、夏休みについての作文</td> <td>テキストの前期の内容の再確認、プリント教材を使った課題</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7 Art (1)</td> <td>話の展開を予測する</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 7 Art (2)</td> <td>「動詞+ ing」を理解する (動名詞)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 8 Global Issues (1)</td> <td>強弱のリズムに慣れる</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 8 Global Issues (2)</td> <td>主語が「されること」を理解する (受動態)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9 Japanese Culture (1)</td> <td>t でつながる語句を聞き取る</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 9 Japanese Culture (2)</td> <td>比較を理解する (同等比較・比較級・最上級)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>小テスト、復習</td> <td>小テスト及びこれまでの内容の復習</td> <td>テキストのこれまでの内容の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 10 Human Rights (1)</td> <td>l でつながる語句を聞き取る</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 10 Human Rights (2)</td> <td>後ろからの説明を見抜く (後置修飾)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11 Health & Medical Issues (1)</td> <td>弱い of を聞き取る</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 11 Health & Medical Issues (2)</td> <td>名詞を限定していることを見抜く (関係代名詞)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12 Environmental Issues (1)</td> <td>対比による強調を理解する</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 12 Environmental Issues (2)</td> <td>and がつなぐものを見抜く (並列 1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト、復習</td> <td>まとめテスト及びこれまでの内容の復習</td> <td>テキストのこれまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の内容の再確認、夏休みについての作文	テキストの前期の内容の再確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習	2	Unit 7 Art (1)	話の展開を予測する	テキストの予習と単語の学習	3	Unit 7 Art (2)	「動詞+ ing」を理解する (動名詞)	テキストの予習と単語の学習	4	Unit 8 Global Issues (1)	強弱のリズムに慣れる	テキストの予習と単語の学習	5	Unit 8 Global Issues (2)	主語が「されること」を理解する (受動態)	テキストの予習と単語の学習	6	Unit 9 Japanese Culture (1)	t でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習	7	Unit 9 Japanese Culture (2)	比較を理解する (同等比較・比較級・最上級)	テキストの予習と単語の学習	8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習	9	Unit 10 Human Rights (1)	l でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習	10	Unit 10 Human Rights (2)	後ろからの説明を見抜く (後置修飾)	テキストの予習と単語の学習	11	Unit 11 Health & Medical Issues (1)	弱い of を聞き取る	テキストの予習と単語の学習	12	Unit 11 Health & Medical Issues (2)	名詞を限定していることを見抜く (関係代名詞)	テキストの予習と単語の学習	13	Unit 12 Environmental Issues (1)	対比による強調を理解する	テキストの予習と単語の学習	14	Unit 12 Environmental Issues (2)	and がつなぐものを見抜く (並列 1)	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の内容の再確認、夏休みについての作文	テキストの前期の内容の再確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習																																																																
2	Unit 7 Art (1)	話の展開を予測する	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Unit 7 Art (2)	「動詞+ ing」を理解する (動名詞)	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	Unit 8 Global Issues (1)	強弱のリズムに慣れる	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	Unit 8 Global Issues (2)	主語が「されること」を理解する (受動態)	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	Unit 9 Japanese Culture (1)	t でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	Unit 9 Japanese Culture (2)	比較を理解する (同等比較・比較級・最上級)	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習																																																																
9	Unit 10 Human Rights (1)	l でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	Unit 10 Human Rights (2)	後ろからの説明を見抜く (後置修飾)	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Unit 11 Health & Medical Issues (1)	弱い of を聞き取る	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Unit 11 Health & Medical Issues (2)	名詞を限定していることを見抜く (関係代名詞)	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	Unit 12 Environmental Issues (1)	対比による強調を理解する	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	Unit 12 Environmental Issues (2)	and がつなぐものを見抜く (並列 1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>AMBITIONS: Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 初級編</td> <td>VELC 研究会教材開発グループ</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	AMBITIONS: Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 初級編	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	AMBITIONS: Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 初級編	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の内容の再確認、プリント教材	前期の内容の再確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習
	2	Instructions	取扱説明書を読む上でのポイント/ 命令文	テキストの予習と単語の学習
	3	Health & Physical Condition	健康・医療に関する文 / Yes/No Questions	テキストの予習と単語の学習
	4	Service Requests	用紙に必要な事項を記入する上でのポイント/ 現在完了	テキストの予習と単語の学習
	5	Special Orders	注文書などの読み書きのポイント/ 疑問詞を用いた疑問文	テキストの予習と単語の学習
	6	Money	金銭に関する表現を読む上でのポイント/ how を用いた疑問文	テキストの予習と単語の学習
	7	Public Signs	掲示の読み方/ 助動詞	テキストの予習と単語の学習
	8	Sports	スポーツに関する文を読む上でのポイント/ 助動詞	テキストの予習と単語の学習
	9	History(1)	歴史を読む上でのポイント/ 受動態	テキストの予習と単語の学習
	10	History(2)	歴史を読む上でのポイント/ 受動態	テキストの予習と単語の学習
	11	Sightseeing(1)	旅行に関する表現のポイント/ 原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
	12	Sightseeing(2)	旅行に関する表現のポイント/ 原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
	13	Science(1)	科学関係の文を読む上でのポイント/ 比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
	14	Science(2)	科学関係の文を読む上でのポイント/ 比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-Up English (Basic)	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20%
	全学共通英語課題 B 10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけること。積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと、しっかりメモをとることが大切です。解らないことがあれば、必ず質問して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 11: Earth-size planets found	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.61-66 単語: NO.387-416
	2	Unit 12: Ancient human ancestor stood tall	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.67-72 単語: NO.397-426 事後:前回単語不合格者 再提出
	3	Unit 13: Robots gaining more sophisticated 'emotions'	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.73-78 単語: NO.407-436 事後:前回単語不合格者 再提出
	4	Unit 14: Penguin ancestor may have met T.rex	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.79-84 単語: NO.417-446 事後:前回単語不合格者 再提出
	5	Unit 15: Anime boom in China heats up, unaffected by chilly ties	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.85-90 単語: NO.427-456 事後:前回単語不合格者 再提出
	6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	事前:単語: NO.437-466 事後:前回単語不合格者 再提出
	7	中間テスト	Unit 11~15 までの内容についてテスト	事前:単語: NO.447-476 事後:前回単語不合格者 再提出
	8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	事前:単語: NO.457-486 事後:前回単語不合格者 再提出
	9	Unit 16: How to better utilize limited human resources	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.91-96 単語: NO.467-496 事後:前回単語不合格者 再提出
	10	Unit 17: Moon over the hill at 4.51 billion years old	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.97-102 単語: NO.477-506 事後:前回単語不合格者 再提出
	11	Unit 18: Shinkansen clearers in limelight for miraculous work	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.103-108 単語: NO.487-516 事後:前回単語不合格者 再提出
	12	Unit 19: New insect trap targets harmful species	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.109-114 単語: NO.497-526 事後:前回単語不合格者 再提出
	13	Unit 20 : ADHD a 'brain disorder,' not just bad behavior	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.115-120 単語: NO.507-523 事後:前回単語不合格者 再提出
	14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	事前:教科書 Unit 16~20 までの 復習 事後:前回単語不合格者 再提出
	15	Unit 16-20 テスト	Unit 16~20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Meet the World: English through Newspaper 2018</td> <td>Yasuhiko Wakaari</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World: English through Newspaper 2018	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Meet the World: English through Newspaper 2018	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習 プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
	2	Unit 7 let's Meet at the Station (1)	場所を示す前置詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	3	Unit 7 let's Meet at the Station (2)	場所を示す前置詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	4	Unit 8 How Was Rome? (1)	was/were (1)	テキストの予習と単語の学習
	5	Unit 8 How Was Rome? (2)	was/were (2)	テキストの予習と単語の学習
	6	Unit 9 I Read it in a Magazine (1)	過去形・肯定文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	7	Unit 9 I Read it in a Magazine (2)	過去形・肯定文 (2)	テキストの予習と単語の学習
	8	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (1)	過去形・否定文と疑問文 (1)	テキストの予習と単語の学習
	9	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文 (2)	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習
	10	暗唱テスト	対話文をペアで暗唱	テキストの予習と単語の学習
	11	Unit 11 The Goats Were Dancing (1)	過去進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
	12	Unit 11 The Goats Were Dancing (2)	過去進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
	13	Unit 12 If Animals Could Tali (1)	接続詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	14	Unit 12 If Animals Could Tali (2)	接続詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Charge	Robert Hickling, 市川康弘	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%

学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法説明など	授業内容の復習 Unit 13 の予習
	2	Careers not の短縮形 形容詞・副詞	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 14 の予習
	3	Art be 動詞・助動詞の短縮形 名詞・代名詞	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 15 の予習
	4	Culture 疑問詞の聞き取り 前置詞	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 16 の予習
	5	Population 展開を予測しながら聞く 接続詞	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 17 の予習
	6	Disasters 無声音化・有声音化 いろいろな否定	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 18 の予習
	7	Travel まぎわらしい音の識別 名詞構文・無生物主語構文	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 19 の予習
	8	前半の復習	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習
	9	Sports 数量表現 1 比較表現 1	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 20 の予習
	10	Life 数量表現 2 比較表現 2	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 21 の予習
	11	Entertainment 知っているつもり 関係詞 1: 関係代名詞	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 22 の予習
	12	Language 通じているつもり 関係詞 2: 関係副詞	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 23 の予習
	13	Science アメリカ英語の特徴 1 仮定法 1	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習 Unit 24 の予習
	14	Technology アメリカ英語の特徴 2 仮定法 2	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習
	15	全体の総復習	リスニング・リーディング演習	授業内容の復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Power-up English <Pre-Intermediate> (総合英語パワーアップ<初級編>)</td> <td>JACET リスニング研究会</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学校語彙で学ぶ TOEIC テスト[単語集](The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Power-up English <Pre-Intermediate> (総合英語パワーアップ<初級編>)	JACET リスニング研究会	南雲堂	2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト[単語集](The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Power-up English <Pre-Intermediate> (総合英語パワーアップ<初級編>)	JACET リスニング研究会	南雲堂													
	2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト[単語集](The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	授業への取り組み(課題提出・授業への積極的な参加)(60%) 小テスト(40%) 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	単語力は全ての英語力の基礎となります。少しずつ、定期的に覚えれば、確かな英語力アップにつながります。
担当者の 研究室等	7号館4階 皆本智美研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方の説明 次回のプレゼンの準備 宿題の説明 (Task1 in Research)	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	2	Chapter 1	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	3	Chapter 2	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	4	Chapter 3	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	5	Chapter 4	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	6	Chapter 5	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事前学習：中間テストの準備 事後学習：宿題
	7	中間テスト	中間テスト 宿題答え合わせ	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	8	Chapter 6	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	9	Chapter 7	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	10	Chapter 8	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	11	Chapter 9	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる

	12	Chapter 10	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	13	Chapter 11	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：次のチャプターのプレゼンテーション準備、次のチャプターの単語を調べる
	14	Chapter 12	プレゼンテーション ペアワーク (スピーキング) リスニング リーディング 宿題答え合わせ リーディング	事後学習：宿題 事前学習：期末テストの準備
	15	期末テスト	期末テスト 宿題の答え合わせ	
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で学ぶ世界事情	笹島茂、中谷都、油木田美由紀、大和洋子、Kevin O'Neal	三修社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席 授業への参加、貢献 (プレゼンテーション、宿題を含む) 30%		40%	
	中間、期末テスト		30%	
学生への メッセージ	世界の様々な場所をトピックとして、日本語でもアクセスできる情報を使いながら、より効果的に英語を学びます。英語で簡単な説明やプレゼンテーションができるようにすることも目的としています。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	First semester final test review	Review of First semester final test	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Family & Home	次回の単語テストの予習 テキスト Family Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Eating Out	次回の単語テストの予習 テキスト Restaurant Culture	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Work	テキスト Part-time, Career	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Work Future	次回の単語テストの予習 テキスト Part-time, Career	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Marriage, Family Life	次回の単語テストの予習 テキスト Future Plans	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises - People	次回の単語テストの予習 テキスト Appearances	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises - Sightseeing in Japan	テキスト Where to Visit in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises - Holidays	次回の単語テストの予習 テキスト Japanese & North American Holidays Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - Big Issues	次回の単語テストの予習 テキスト Global Warming, Natural Disasters, etc.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises - Big Issues	テキスト Global Warming, Natural Disasters, etc.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises - Future Plans	次回の単語テストの予習 テキスト Future Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Future Plans	次回の単語テストの予習 テキスト Post Graduation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Class Review	テキスト Text Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review Test (in-class final test) and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for final test

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	25% of Grade on class participation, attendance and attitude 25% of Grade on end-of-unit quizzes 50% of Grade on Review Test (in-class final test)
-----------	--

学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
-----------	---

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announcements and business conversations. Understand and use basic office English.
到達目標	The students can: (1) improve reading skills in English; (2) learn English pronunciation; (3) improve communication skills in English; and (4) improve listening skills in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students will be given reading and writing review exercises. These review exercises must be completed a brought to the the next class. Bring your textbook to every class.
科目学習の効果(資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class make sure you have your text book. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	2	Telephoning & emailing.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class make sure you have your text book and review/homework sheets on their desk. After class students should review the unit and complete the homework review sheet.
	3	Plans for the future.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	4	Review.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	5	Your work and personal history.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	6	Making arrangements for meeting and conferences.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	7	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	8	Arts and media.	Listening and reading.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	9	Promotional campaigns.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	10	Locations, directions and arranging meeting places.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	11	Congratulating team members and well wishing.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	12	Review	Listening, speaking, reading and writing.	Before class students have their text book and review sheets on their desk. After class review the unit and complete the homework review sheet.
	13	The festive season.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class make sure your work is up to date. After class students should prepare for the review quiz.
	14	Quizz and review.	Listening, speaking, reading and writing.	Before class prepare the quiz by reviewing the units covered in class and the review sheets.
15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all you work is up to date and is ready to be seen by the teacher.	

関連科目	他の英語関係科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham	OXFORD
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Short quizzes 30%, Homework and Preparation for class 20% Written work in class 15% Lisening in class including following instructions given in English 20% Clear accurate Speaking in class 15%
学生への メッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be very useful in the future. (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 1. 手紙(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(1. 手紙)の予習
	2	1. 手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	2. ファックス	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	3. 電子メール	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	4. 電話	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	5. 面会の申し入れ	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	6. ホテルの予約	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	7. オフィスの移転通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	8. 支店の開設案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	9. レセプションへの招待	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	10. アンケートの回答依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	11. 資料の送付依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	12. 慶弔	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	13. 会議の通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
		15	1. 手紙～13. 会議の通知	既習範囲の総復習 定期試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	40%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	30%

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさな限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up! 原則、出席率 80%以上の学生を成績評価の対象とする。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前学習課題	事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	事前学習課題：教科書全体に目を通しておくこと	事後学習課題：教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 1 Fashion	名詞	事前学習課題：Unit 1の単語の確認と予習	事後学習課題：Unit 1の単語の復習
3	Unit 2 Companies	代名詞	事前学習課題：Unit 2の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 2の単語の復習
4	Unit 3 Business Trips	自動詞・他動詞・リンキング動詞	事前学習課題：Unit 3の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 3の単語の復習
5	Unit 4 Transportation and commuting	助動詞	事前学習課題：Unit 4の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 4の単語の復習
6	Unit 5 Marketing, Sales and Products	不定詞・動名詞	事前学習課題：Unit 5の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 5の単語の復習
7	Unit 1 から Unit 5 までの復習	名詞、代名詞、動詞、助動詞と不定詞・動名詞	事前学習課題：Unit 1 から Unit 5 までの復習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 1 から Unit 5 までの復習
8	Unit 6 Offices and Supplies	場所・動きを表す前置詞	事前学習課題：Unit 6の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 6の単語の復習
9	Unit 7 Meetings and Presentations	時間を表す前置詞	事前学習課題：Unit 7の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 7の単語の復習
10	Unit 8 Art	形容詞・副詞	事前学習課題：Unit 8の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 8の単語の復習
11	Unit 9 Restaurants and Food	原級・比較級・最上級	事前学習課題：Unit 9の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 9の単語の復習
12	Unit 10 Housing	接続詞(1)	事前学習課題：Unit 10の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題：Unit 10の単語の復習
13	Unit 11 The Environment and Recycling	現在時制と現在進行形	事前学習課題：Unit 11の単語の確認と予習 ATR-CALL 課題	

	14	Unit 6 から Unit 11 までの復習	前置詞、形容詞・副詞、比較、接続詞と現在形	事後学習課題：Unit 11 の単語の復習 事前学習課題：前期の総復習 ATR-CALL 課題	
	15	前期の総括	前期まとめテストと解説	事後学習課題：前期の総復習 事前学習課題：テストの復習 ATR-CALL 課題	
				事後学習課題：テストの復習	
関連科目	他の英語科目				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -		本多吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		西谷 恒志	成美堂
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%				
学生への メッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は毎回携帯すること。				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。				

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション、プリント教材</td> <td>授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Where is the PC room?</td> <td>場所を訪ねる/ 自己紹介</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>What does "term" mean?</td> <td>わからない言葉を探る/ お気に入りの場所の紹介</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>When does Golden Week start?</td> <td>日程を確認する/ 休日の過ごし方</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>I'm a member of the International Exchange Club.</td> <td>クラブ活動を説明する/ 自分の所属クラブの紹介</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>I have a part-time job as a sales clerk.</td> <td>アルバイトについて説明する/ 自分のアルバイトについて書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>What do you think about this program?</td> <td>相手の意見を聞く/ eメール</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>How will you spend your vacation?</td> <td>夏休みの予定について話す/ 自分の夏休みの計画を書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>When is the due date?</td> <td>レポートの締め切りを探る/ スケジュール</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>May I take a bath every night?</td> <td>ホストファミリーのルールを探る/ 手紙の返事を書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Is this the right bus to go downtown?</td> <td>行き先の確認をする</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Do you need some help?(1)</td> <td>外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Do you need some help?(2)</td> <td>外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>It looks like my GPA has improved.</td> <td>成績について話す/ 自分の成績や単位について書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト、復習</td> <td>まとめテスト及びこれまでの内容の復習</td> <td>テキストのこれまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	2	Where is the PC room?	場所を訪ねる/ 自己紹介	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	3	What does "term" mean?	わからない言葉を探る/ お気に入りの場所の紹介	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	4	When does Golden Week start?	日程を確認する/ 休日の過ごし方	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	5	I'm a member of the International Exchange Club.	クラブ活動を説明する/ 自分の所属クラブの紹介	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	6	I have a part-time job as a sales clerk.	アルバイトについて説明する/ 自分のアルバイトについて書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	7	What do you think about this program?	相手の意見を聞く/ eメール	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	8	How will you spend your vacation?	夏休みの予定について話す/ 自分の夏休みの計画を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	9	When is the due date?	レポートの締め切りを探る/ スケジュール	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	10	May I take a bath every night?	ホストファミリーのルールを探る/ 手紙の返事を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	11	Is this the right bus to go downtown?	行き先の確認をする	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	12	Do you need some help?(1)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	13	Do you need some help?(2)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	14	It looks like my GPA has improved.	成績について話す/ 自分の成績や単位について書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
2	Where is the PC room?	場所を訪ねる/ 自己紹介	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
3	What does "term" mean?	わからない言葉を探る/ お気に入りの場所の紹介	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
4	When does Golden Week start?	日程を確認する/ 休日の過ごし方	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
5	I'm a member of the International Exchange Club.	クラブ活動を説明する/ 自分の所属クラブの紹介	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
6	I have a part-time job as a sales clerk.	アルバイトについて説明する/ 自分のアルバイトについて書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
7	What do you think about this program?	相手の意見を聞く/ eメール	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
8	How will you spend your vacation?	夏休みの予定について話す/ 自分の夏休みの計画を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
9	When is the due date?	レポートの締め切りを探る/ スケジュール	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
10	May I take a bath every night?	ホストファミリーのルールを探る/ 手紙の返事を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
11	Is this the right bus to go downtown?	行き先の確認をする	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
12	Do you need some help?(1)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
13	Do you need some help?(2)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
14	It looks like my GPA has improved.	成績について話す/ 自分の成績や単位について書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Campus English</td> <td>田村 雅昭他</td> <td>センゲージラーニング株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Campus English	田村 雅昭他	センゲージラーニング株式会社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Campus English	田村 雅昭他	センゲージラーニング株式会社																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習
	2	肯定文と否定文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	3	平叙文と疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	4	特殊疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	5	命令文と感嘆文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	6	名詞の用法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	7	名詞の用法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
	9	冠詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	10	自動詞と他動詞	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	11	まちがえやすい動詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	12	完了相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	13	進行相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	14	受け身文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリック III ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シラバスの説明 Part 1. What Is Business Psychology</td> <td>授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など</td> <td>Part 1 の予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. The Psychology of the Job Search</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. Rest Assured</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. Working with Robots</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5. It's a Man's World, Part 1</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6. It's a Man's World, Part 2</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7. Me, Myself, and I</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8. Give and Take</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>9. What a Troublemaker: The Office Gossip</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>10. What a Troublemaker: The Office Control Freak</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>11. Handsome Is as Handsome Does</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>12. My Space, Your Space</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Part 3. So You want to Be an Entrepreneur</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>14. Brainstorm</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>1 ~ 14 (手紙～議事録)</td> <td>既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備</td> <td>定期試験(後期末)の準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	シラバスの説明 Part 1. What Is Business Psychology	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Part 1 の予習	2	2. The Psychology of the Job Search	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	3	3. Rest Assured	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	4	4. Working with Robots	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	5	5. It's a Man's World, Part 1	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	6	6. It's a Man's World, Part 2	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	7	7. Me, Myself, and I	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	8	8. Give and Take	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	9	9. What a Troublemaker: The Office Gossip	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	10	10. What a Troublemaker: The Office Control Freak	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	11	11. Handsome Is as Handsome Does	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	12	12. My Space, Your Space	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	13	Part 3. So You want to Be an Entrepreneur	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	14	14. Brainstorm	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	15	1 ~ 14 (手紙～議事録)	既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備	定期試験(後期末)の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	シラバスの説明 Part 1. What Is Business Psychology	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Part 1 の予習																																																																
2	2. The Psychology of the Job Search	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
3	3. Rest Assured	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
4	4. Working with Robots	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
5	5. It's a Man's World, Part 1	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
6	6. It's a Man's World, Part 2	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
7	7. Me, Myself, and I	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
8	8. Give and Take	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
9	9. What a Troublemaker: The Office Gossip	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
10	10. What a Troublemaker: The Office Control Freak	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
11	11. Handsome Is as Handsome Does	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
12	12. My Space, Your Space	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
13	Part 3. So You want to Be an Entrepreneur	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
14	14. Brainstorm	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
15	1 ~ 14 (手紙～議事録)	既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備	定期試験(後期末)の準備																																																																
関連科目	他の英語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>TOEIC Test: Down to Business TOEIC Test形式で学ぶビジネス英語入門</td> <td>本多 吉彦</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TOEIC Test: Down to Business TOEIC Test形式で学ぶビジネス英語入門	本多 吉彦	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	TOEIC Test: Down to Business TOEIC Test形式で学ぶビジネス英語入門	本多 吉彦	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>英和辞典・和英辞典</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英和辞典・和英辞典			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	英和辞典・和英辞典																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 1. 手紙(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(1. 手紙)の予習
	2	1. 手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	2. ファックス	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	3. 電子メール	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	4. 電話	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	5. 面会の申し入れ	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	6. ホテルの予約	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	7. オフィスの移転通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	8. 支店の開設案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	9. レセプションへの招待	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	10. アンケートの回答依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	11. 資料の送付依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	12. 慶弔	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	13. 会議の通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
		15	1. 手紙～13. 会議の通知	既習範囲の総復習 定期試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	40%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	30%

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up! 原則、出席率 80%以上の学生を成績評価の対象とする。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど</td> <td>授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明</td> <td>教科書の予習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など)</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>家族、ペットについての文章を通して動詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>趣味についての文章を通して主語+動詞への学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>食物についての文章を通して疑問詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間試験</td> <td>試験後、答え合わせを行い弱点を復習</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>道案内についての文章を通して助動詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>日本文化についての文章を通して助動詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>観光案内についての文章を通して時制の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>E-mail についての文章を通して数字の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>9-14回の復習とまとめ</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>期末試験の準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記	2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記																																																																
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Forerunner to Power-Up English</td> <td>JACET リスニング研究会</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIB
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などについて説明する。	教科書と辞書を持参する
	2	William's Notting Hill	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	3	William's Notting Hill	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	4	Surreall, but Nice	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	5	Surreall, but Nice	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	6	A Goddess	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	7	Review	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	8	Midterm Exam	これまでの復習を併せて行う。	Midterm Exam の準備
	9	A Goddess	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	10	Birthday Party	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	11	Birthday Party	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	12	A Date with Anna	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	13	A Date with Anna	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	14	Review	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Notting Hill New Format Edition	R. Curtis	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 「失敗は一種の教育である。思考とは何であるかを知っている人間は、成功からも失敗からも多くを学ぶ。」 ジョン・デューイ
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 14. 議事録(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(14. 議事録)の予習
	2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	19. 引合い(1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	20. 引合い(2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
		15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	豊田 暁 他
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	40%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	30%

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(= easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさな限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up! 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前学習課題	事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の重要ポイントの復習(品詞、5文型など)	事前学習課題:教科書全体に目を通しておくこと リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 12 Business Profile	過去時制	事前学習課題:Unit 12の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 12の単語の復習
3	Unit 13 Schedules	未来	事前学習課題:Unit 13の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 13の単語の復習
4	Unit 14 Computers and the Internet	現在完了時制・過去完了時制	事前学習課題:Unit 14の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 14の単語の復習
5	Unit 15 Industry and Manufacturing	能動態と受動態	事前学習課題:Unit 15の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 15の単語の復習
6	Unit 16 Making Arrangements	接続詞(2)	事前学習課題:事後学習課題:Unit 16の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 16の単語の復習
7	Unit 12からUnit 16までの復習	過去形・未来形、完了形、態と接続詞	事前学習課題:Unit 12からunit 16までの復習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 12からunit 16までの復習
8	Unit 17 Business Culture	否定文	事前学習課題:事後学習課題:Unit 17の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 17の単語の復習
9	Unit 18 Recruitment	疑問文・疑問詞・付加疑問文	事前学習課題:Unit 18の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 18の単語の復習
10	Unit 19 Entertaining and Socializing	関係代名詞・関係副詞	事前学習課題:Unit 19の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 19の単語の復習
11	Unit 20 Education	後置修飾	事前学習課題:Unit 20の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 20の単語の復習
12	Unit 21 Banking	仮定法	事前学習課題:Unit 21の単語の確認と予習 リングボルト課題	

				ATR-CALL 課題 事後学習課題：Unit 21 の単語の復習
	13	Unit 22 Health	話法	事前学習課題：Unit 22 の単語の確認と予習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：Unit 22 の単語の復習
	14	Unit 17 から Unit 22 までの復習	否定文、疑問文、関係詞、後置修飾、仮定法と話法	事前学習課題：後期の総復習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：後期の総復習
	15	後期の総括	後期まとめテストと解説	事前学習課題：テストの復習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：テストの復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は携帯すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の内容の確認、プリント</td> <td>前期の内容の確認、プリント教材を使った課題</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>I don't know which to choose.</td> <td>ゼミ決定を相談する/ ゼミ決定の理由を書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>He got a job with a copy machine company.</td> <td>就職活動について話す/ 自分の職業適性について書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>How do you make them laugh?</td> <td>学園祭での模擬店/ お茶の入れ方の手順を書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>it is a celebration day for kids.</td> <td>日本文化を紹介する/ 日本の祝日</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>What is your favorite dish at the cafeteria?</td> <td>学食のメニューについて話す/ 自分の好きな(嫌いな)メニューについて書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>What is Christmas like in your country?</td> <td>クリスマスの過ごし方/ クリスマスカードを書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Your e-mail is full of garbled text.</td> <td>メールの文字化けについて話す/ 新年のあいさつ、メール</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>I'd like to talk about my research (1)</td> <td>ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>I'd like to talk about my research (2)</td> <td>ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>That's why I applied for the position.</td> <td>人事面接を受ける/ 自分のアピールポイントを書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Who's your date?</td> <td>バレンタインデーの過ごし方/ ラブソングの歌詞</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Why don't you plan a farewell party?</td> <td>追い出しコンパを企画する/ 追い出しコンパの計画を書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>I have set three goals for myself.</td> <td>目標を決める/ 自分の来年度の目標を書く</td> <td>事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト、復習</td> <td>まとめテスト及びこれまでの内容の復習</td> <td>テキストのこれまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の内容の確認、プリント	前期の内容の確認、プリント教材を使った課題	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	2	I don't know which to choose.	ゼミ決定を相談する/ ゼミ決定の理由を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	3	He got a job with a copy machine company.	就職活動について話す/ 自分の職業適性について書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	4	How do you make them laugh?	学園祭での模擬店/ お茶の入れ方の手順を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	5	it is a celebration day for kids.	日本文化を紹介する/ 日本の祝日	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	6	What is your favorite dish at the cafeteria?	学食のメニューについて話す/ 自分の好きな(嫌いな)メニューについて書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	7	What is Christmas like in your country?	クリスマスの過ごし方/ クリスマスカードを書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	8	Your e-mail is full of garbled text.	メールの文字化けについて話す/ 新年のあいさつ、メール	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	9	I'd like to talk about my research (1)	ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	10	I'd like to talk about my research (2)	ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	11	That's why I applied for the position.	人事面接を受ける/ 自分のアピールポイントを書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	12	Who's your date?	バレンタインデーの過ごし方/ ラブソングの歌詞	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	13	Why don't you plan a farewell party?	追い出しコンパを企画する/ 追い出しコンパの計画を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	14	I have set three goals for myself.	目標を決める/ 自分の来年度の目標を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の内容の確認、プリント	前期の内容の確認、プリント教材を使った課題	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
2	I don't know which to choose.	ゼミ決定を相談する/ ゼミ決定の理由を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
3	He got a job with a copy machine company.	就職活動について話す/ 自分の職業適性について書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
4	How do you make them laugh?	学園祭での模擬店/ お茶の入れ方の手順を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
5	it is a celebration day for kids.	日本文化を紹介する/ 日本の祝日	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
6	What is your favorite dish at the cafeteria?	学食のメニューについて話す/ 自分の好きな(嫌いな)メニューについて書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
7	What is Christmas like in your country?	クリスマスの過ごし方/ クリスマスカードを書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
8	Your e-mail is full of garbled text.	メールの文字化けについて話す/ 新年のあいさつ、メール	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
9	I'd like to talk about my research (1)	ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
10	I'd like to talk about my research (2)	ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
11	That's why I applied for the position.	人事面接を受ける/ 自分のアピールポイントを書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
12	Who's your date?	バレンタインデーの過ごし方/ ラブソングの歌詞	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
13	Why don't you plan a farewell party?	追い出しコンパを企画する/ 追い出しコンパの計画を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
14	I have set three goals for myself.	目標を決める/ 自分の来年度の目標を書く	事前: テキストの予習 事後: 語句を中心とした復習																																																																
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Campus English</td> <td>田村 雅昭他</td> <td>セングージラーニング株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Campus English	田村 雅昭他	セングージラーニング株式会社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Campus English	田村 雅昭他	セングージラーニング株式会社																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習
	2	不定詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	3	動名詞と分詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	4	関係詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	5	形容詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	6	副詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	7	前置詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
	9	接続詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	10	間接疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	11	仮定法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	12	仮定法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	13	まちがえやすい語順	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	14	まちがえやすい否定表現	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題A 20% 全学共通英語課題B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シラバスの説明 Part 1. What Is Business Psychology</td> <td>授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など</td> <td>Part 1の予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. The Psychology of the Job Search</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. Rest Assured</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. Working with Robots</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5. It's a Man's World, Part 1</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6. It's a Man's World, Part 2</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7. Me, Myself, and I</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8. Give and Take</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>9. What a Troublemaker: The Office Gossip</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>10. What a Troublemaker: The Office Control Freak</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>11. Handsome Is as Handsome Does</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>12. My Space, Your Space</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Part 3. So You want to Be an Entrepreneur</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>14. Brainstorm</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>1～14(手紙～議事録)</td> <td>既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備</td> <td>定期試験(後期末)の準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	シラバスの説明 Part 1. What Is Business Psychology	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Part 1の予習	2	2. The Psychology of the Job Search	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	3	3. Rest Assured	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	4	4. Working with Robots	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	5	5. It's a Man's World, Part 1	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	6	6. It's a Man's World, Part 2	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	7	7. Me, Myself, and I	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	8	8. Give and Take	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	9	9. What a Troublemaker: The Office Gossip	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	10	10. What a Troublemaker: The Office Control Freak	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	11	11. Handsome Is as Handsome Does	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	12	12. My Space, Your Space	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	13	Part 3. So You want to Be an Entrepreneur	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	14	14. Brainstorm	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	15	1～14(手紙～議事録)	既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備	定期試験(後期末)の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	シラバスの説明 Part 1. What Is Business Psychology	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Part 1の予習																																																																
2	2. The Psychology of the Job Search	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
3	3. Rest Assured	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
4	4. Working with Robots	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
5	5. It's a Man's World, Part 1	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
6	6. It's a Man's World, Part 2	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
7	7. Me, Myself, and I	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
8	8. Give and Take	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
9	9. What a Troublemaker: The Office Gossip	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
10	10. What a Troublemaker: The Office Control Freak	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
11	11. Handsome Is as Handsome Does	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
12	12. My Space, Your Space	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
13	Part 3. So You want to Be an Entrepreneur	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
14	14. Brainstorm	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
15	1～14(手紙～議事録)	既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備	定期試験(後期末)の準備																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>TOEIC Test: Down to Business TOEIC Test形式で学ぶビジネス英語入門</td> <td>本多 吉彦</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TOEIC Test: Down to Business TOEIC Test形式で学ぶビジネス英語入門	本多 吉彦	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	TOEIC Test: Down to Business TOEIC Test形式で学ぶビジネス英語入門	本多 吉彦	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>英和辞典・和英辞典</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英和辞典・和英辞典			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	英和辞典・和英辞典																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 14. 議事録(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(14. 議事録)の予習
	2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	19. 引合い(1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	20. 引合い(2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
		15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	40%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	30%

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさな限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up! 原則、出席率 80%以上の学生を成績評価の対象とする。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱ d	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などについて説明する。	教科書と辞書を持参する
	2	She's gone	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	3	She's gone	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	4	She's back	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	5	She's back	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	6	Rude Awakening	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	7	Review	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	8	Midterm Exam	これまでの復習を併せて行う。	Midterm Exam の準備
	9	Rude Awakening	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	10	Like Me Again	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	11	Like Me Again	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	12	The Right Decision	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	13	The Right Decision	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	14	Review	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成・単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。
	15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Notting Hill New Format Edition	板倉 敏一郎他	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 「失敗は一種の教育である。思考とは何であるかを知っている人間は、成功からも失敗からも多くを学ぶ。」 ジョン・デューイ
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語コミュニケーション I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロンゲル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ディスカッションのトピックを読みながら、読解力、語彙力、作文力の強化を図る。
到達目標	本文を通じて英語読解力の向上を図るだけでなく、それに対する自分の意見を英作する演習を行う。自らの考えをしっかりと持ち、それを発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	本授業では、本文読解を通して、リーディング力、語彙力、文法力を磨く。また本文に対する自分の意見を英語で発信する力も磨く。
科目学習の効果 (資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class introduction	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
	9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
	14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
-----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロンゲル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ディスカッションのトピックを読みながら、読解力、語彙力、作文力の強化を図る。
到達目標	本文を通じて英語読解力の向上を図るだけでなく、それに対する自分の意見を英作する演習を行う。自らの考えをしっかりと持ち、それを発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	本授業では、本文読解を通して、リーディング力、語彙力、文法力を磨く。また本文に対する自分の意見を英語で発信する力も磨く。
科目学習の効果(資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Class introduction	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
	9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
	14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
	15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この研修は、語学力 (英語力) の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等、詳細は、募集ガイダンスで周知する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。 								
授業方法と留意点	<p>(以下は8月出発の場合。春出発の場合の日程は、ガイダンスで確認してください。)</p> <p>4月 募集ガイダンス (日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施 (全3回)</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p><研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬 (予定)</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬 (予定)</p> <p>9月下旬～10月上旬 (予定) 成果報告会</p>								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航に関する基本的なガイダンス ・英語多読・英会話など、学内の教材や設備でできる英語学習 (ガイダンス時に説明) ・インターネット上でたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておく。 <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はもちろん、授業外でも、講師やスタッフ、ホストファミリーなどに自分から英語で話してコミュニケーションをすすめる。 <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート。 								
関連科目									
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									
評価方法 (基準)	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート (30%) 研修先での成績 (70%)								
学生へのメッセージ	ちがう学年、学部の学生と、切磋琢磨しながら成長できます。 海外研修は、自分の中のリーダーシップの芽生えが実感できるチャンスです。								
担当者の研究室等	国際交流センター								
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。 ・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今学期・年度は受講できない場合もあります。 								

科目名	生涯スポーツ実習（ゴルフ）	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人とのコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。</p>																																																																		
到達目標	<p>①健康の保持増進ができる ②運動技能を向上させることができる ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：[A]</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>事前ガイダンス（90分）と集中授業4日間（午前、午後、最終日は午後のみ）合わせて5日間で行う。 5日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。</p>																																																																		
科目学習の効果（資格）	<p>ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前ガイダンス</td> <td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td> <td>事後：ゴルフの概要を確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゴルフの基礎知識</td> <td>ゴルフのルール、マナーについて</td> <td>事前：ルールの再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴルフの基礎技術（1）</td> <td>グリップ、スウィング</td> <td>事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゴルフの基礎技術（2）</td> <td>打球練習場での練習 アイアン</td> <td>事前：前日の技術練習のポイント再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゴルフの基礎技術（3）</td> <td>アプローチ、パター練習</td> <td>事後：技術の反復練習 ルールの再確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゴルフの応用技術（1）</td> <td>打球練習場での練習 ドライバー</td> <td>事前：前日までの技術練習のポイント再確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゴルフの応用技術（2）</td> <td>ミニラウンド</td> <td>事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ゴルフの実践</td> <td>ラウンド（9H）</td> <td>事前：ラウンドのイメージトレーニング 事後：授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	事後：ゴルフの概要を確認	2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる	3	ゴルフの基礎技術（1）	グリップ、スウィング	事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる	4	ゴルフの基礎技術（2）	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる	5	ゴルフの基礎技術（3）	アプローチ、パター練習	事後：技術の反復練習 ルールの再確認	6	ゴルフの応用技術（1）	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認	7	ゴルフの応用技術（2）	ミニラウンド	事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる	8	ゴルフの実践	ラウンド（9H）	事前：ラウンドのイメージトレーニング 事後：授業内容を実習ノートにまとめる	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	事後：ゴルフの概要を確認																																																																
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる																																																																
3	ゴルフの基礎技術（1）	グリップ、スウィング	事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる																																																																
4	ゴルフの基礎技術（2）	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる																																																																
5	ゴルフの基礎技術（3）	アプローチ、パター練習	事後：技術の反復練習 ルールの再確認																																																																
6	ゴルフの応用技術（1）	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認																																																																
7	ゴルフの応用技術（2）	ミニラウンド	事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる																																																																
8	ゴルフの実践	ラウンド（9H）	事前：ラウンドのイメージトレーニング 事後：授業内容を実習ノートにまとめる																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ、Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	態度点50%、技能点25%および実習ノート25%を総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1階 近藤研究室																																																																		
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス（半ズボンの場合はハイソックス着用）、運動靴（スパイク類は禁止） ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。 雨天でも行いますので、着替えは多めに準備すること、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツ科学実習で修得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある)。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ニュースポーツなど) ※これら種目の他に、集中授業としてゴルフ実習を開講するが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修はできない。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	事前:スポーツ科学実習Ⅰの復習 事後:選択種目の予習
	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	事前:選択種目の事前確認 事後:授業内容の振り返り
	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	事前:選択種目のルール確認 事後:授業内容の振り返り
	4	各コース別実技	基礎技術練習	前回まで学習した基礎技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	5	各コース別実技	基礎技術練習	前回まで学習した基礎技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	6	各コース別実技	攻防技術練習	前回まで学習した基礎技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	7	各コース別実技	攻防技術練習	前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	8	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	9	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	10	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	11	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	12	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	13	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	14	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	15	各コース別実技	ゲーム(ブルーピンク・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 と応用技術の確認 事後:全授業の総括

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、活動点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
----------	--

学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1F 体育館事務室に来ること。
担当者の 研究室等	体育館 1 F 体育館事務室
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早石 典史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	事前に第1章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	事前に第1章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	事前に第2章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	事前に第2章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	事前に第3章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	事前に第3章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	事前に第3章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	事前に第3章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	事前に第4章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	事前に第4章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
11	連立1次方程式(3)	・消去法	事前に第4章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	事前に第5章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	事前に第5章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
14	確率(1)	・確率の計算	事前に第6章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	事前に第6章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習、小テスト 30 点及び期末テスト 70 点として、総合的に判断、評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	3号館3階(数学準備室)
------------	--------------

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神 貞介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	高校の初年度級の数学的知識の復習を出発点として、経営系の学生にとって、最低限必要な数学的素養を確実に身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	事前：第1章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	事前：第1章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	事前：第2章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	事前：第2章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	事前：第3章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	事前：第3章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	事前：第3章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	事前：第3章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	事前：第4章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	事前：第4章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
11	連立1次方程式(3)	・消去法	事前：第4章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	事前：第5章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	事前：第5章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
14	確率(1)	・確率の計算	事前：第6章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	事前：第6章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の演習、小テスト：40% 期末テスト：60%
-----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早石 典史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	事前に第7章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	事前に第7章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	事前に第7章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	事前に第7章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	事前に第7章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	事前に第8章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	事前に第8章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	事前に第9章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	事前に第9章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	事前に第9章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	事前に第9章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	事前に第10章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	事前に第10章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	事前に第10章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	事前に第10章の間に目を通し、課題レポート返却後にその復習をする。

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 演習、小テスト30点及び期末テスト70点として、総合的に判断、評価する。

学生へのメッセージ どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館3階(数学準備室)

備考

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神 貞介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。			
到達目標	1次関数、2次関数の復習を出発点として、数列、簡単な微積分の計算などを習得することを目標とする。			
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。			
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	事前：第7章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	事前：第7章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	事前：第7章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	事前：第7章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	5	無理関数	・逆関数 ・定義域	事前：第7章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	事前：第8章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	事前：第8章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	事前：第9章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	事前：第9章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	事前：第9章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	事前：第9章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	事前：第10章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	事前：第10章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	事前：第10章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
	15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	事前：第10章の例題を解く。 事後：授業中に解いた問題を復習。
関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業中の演習、小テスト：40% 期末テスト：60%			
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。			
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)			
備考				

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある)。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ラグビー、ニュースポーツなど) ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。

科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
-------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを予習 事後: 本実習の理解を深める
2	体力測定①	屋外種目	事前: 種目の確認と準備 事後: 測定記録に関する評価と検討
3	体力測定②	体育館種目	事前: 種目の確認と準備 事後: 測定記録に関する評価と検討
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	事前: 選択種目の事前確認 事後: 授業内容の振り返り
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	事前: 選択種目のルール確認 事後: 授業内容の振り返り
6	各コース別実技	基礎技術練習	事前: 前回学習した基礎技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
7	各コース別実技	基礎技術練習	事前: 前回学習した基礎技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
8	各コース別実技	攻防技術練習	事前: 前回学習した基礎技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
9	各コース別実技	攻防技術練習	前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前: 前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前: 前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前: 前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前: 前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後: 授業内容の振り返り
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前: 前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後: 全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
----------	---

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。
-----------	--

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。

科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
-------------	--------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前:スポーツ科学実習Ⅰの復習 事後:選択種目の予習
	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	事前:選択種目の事前確認 事後:授業内容の振り返り
	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	事前:選択種目のルール確認 事後:授業内容の振り返り
	4	各コース別実技	基礎技術練習	前回まで学習した基礎技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	5	各コース別実技	基礎技術練習	前回まで学習した基礎技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	6	各コース別実技	攻防技術練習	前回まで学習した基礎技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	7	各コース別実技	攻防技術練習	前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後:授業内容の振り返り
	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	事前:前回まで学習した基礎技術・攻防技術の確認と応用技術の確認 事後:全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
----------	---

学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1F 体育館事務室へ来ること。
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の換え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語F II	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
3	ビジネス日本語2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
4	ビジネス日本語3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
5	ビジネス日本語4 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
6	ビジネス日本語5 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
7	ビジネス日本語6 書く	ビジネス文書の書き方	復習・課題
8	ビジネス日本語7 書く	Eメールの書き方	復習・課題
9	ビジネス日本語8	履歴書の書き方	復習・課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	復習・課題
11	日本の会社1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
12	日本の会社2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
13	日本の会社3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
15	総復習・確認テスト	総復習	復習

関連科目	専門日本語F I
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	授業の参加度(10%)、課題(30%)、テスト(60%)により総合的に判断する。
----------	--

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。(事前・事後学習1時間)
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがあります。
----	---------------------------------------

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の換え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	中国語を聞く a	科目名 (英文)	Chinese Listening a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力、話す力を身につける。
授業方法と留意点	日本語訳を見て中国語を話す練習もする。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第一課 自我介绍 (2) 会話・練習問題	5. 為什麼 6. 因為～所以～ 7. 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第二課 我的家庭 (1) 本文・文法	1. 在～長大的 2. 考大学/考上大学 3. 才 4. 除了～以外	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
4	第二課我的家庭 (2) 会話・練習問題	5. 当 (老師) 6. 忙得要命 7. 很少+動詞フレーズ 8. 发短信	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第1回単元テスト	第一課・第二課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
6	第三課 我的一天 (1) 本文・文法	1. 上 (廁所) 2. 「一節」と「第一節」 3. 「分」と「分鐘」 4. 我家離學校比較遠。 5. 一个多小时	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
7	第三課 我的一天 (2) 会話・練習問題	6. 我在減肥。 7. 看看電視, 聽聽音樂。 8. 我起得很早, 睡得不太晚。 9. 雖然～, 但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第四課 請假 (1) 本文・文法	1. 如果～的話 2. 請假 3. 前置詞「向」 4. 請	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
9	第四課 請假 (2) 会話・練習問題	5. 別 6. 前置詞「對」 7. 替	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第2回単元テスト	第三課・第四課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
11	第五課 約會 (1) 本文・文法	1. 叫你久等了 2. 星期六還是星期天? 3. 你看几点合適?	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
12	第五課 約會 (2) 会話・練習問題	4. 那就星期天? 5. 反正我沒什麼事兒。	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第六課 快要考試了 (1) 本文・文法	1. 今年夏天比往年来得早 2. 熱起來	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
14	第六課 快要考試了 (2) 会話・練習問題	3. 一放假, 就動身 4. 趁	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第3回単元テスト	第五課・第六課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語を話す a」
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。事前・事後の学習に各 60 分要する。
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館3階 小都研究室
----------	-------------

備考	一年生の「ビジネス中国語基礎 a c」あるいは「ビジネス中国語基礎 b d」を履修したうえ、「中国語を聞く a」を履修するのが望ましい。
----	--

科目名	中国語を聞く b	科目名 (英文)	Chinese Listening b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	前期の「中国語を聞く a」に続き、読む・聴く・話す・書く―四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験 4 級レベルに達することを旨とする。
到達目標	「中国語を聞く a」で学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。
授業方法と留意点	日本語を見て中国語を話す練習もする。事前・事後の学習に各 60 分要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第七課 中国的大学生活 (2) 会話・練習問題	5 一邊～, 一邊～ 6 当家教 7 由 8 面臨着	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第八課 中国菜 (1) 本文・文法	1 根据～不同, ～也不一樣 2 以～為主 3 雖然～, 但是～	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
4	第八課 中国菜 (2) 会話・練習問題	4 愛+動詞 5 一提到～, 就～ 6 即	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第 1 回単元テスト(筆記と口頭)	第七課・第八課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
6	第九課 中国的人口 (1) 本文・文法	1 也就是說 2 使 3 每+数量詞	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
7	第九課 中国的人口 (2) 会話・練習問題	4 動詞+起來 5 可是～, 却～ 6 尽管～, 但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第十課 中国的家庭 (1) 本文・文法	1 誰～誰～ 2 帰 3 在～上	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
9	第十課 中国的家庭 (2) 会話・練習問題	4 把 5 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第 2 回単元テスト(筆記と口頭)	第九課・第十課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
11	第十一課 中国人的交際 (1) 本文・文法	1 可見 2 誰也不白吃 3 彼	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
12	第十一課 中国人的交際 (2) 会話・練習問題	4 即使～, 也～ 5 等 6 該我了	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第十二課 漢語的外來語 (1) 本文・文法	1 譯自 2 動詞+到	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
14	第十二課 漢語的外來語 (2) 会話・練習問題	3 動詞+成 4 对～來說	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第 3 回単元テスト(筆記と口頭)	第十一課・第十二課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語を話す b」
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。予習と復習の学習に 1 時間ずつ要する。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7 号館 3 階 小都研究室
----------	----------------

備考	「中国語を聞く a」を履修したうえ、「中国語を聞く b」を履修するのが望ましい。
----	--

科目名	中国語を話す a	科目名 (英文)	Chinese Speaking a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	基礎的な文法・文型及びビジネス用の語彙を学ぶ。また、即戦力となるよう、基本文型を使ったビジネス中国語会話の練習を行う。			
到達目標	出張先での宿泊や両替などの日常会話と、会議や商談などビジネスでよく使われるフレーズを学習し、きれいな発音と表現力を鍛える。			
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。毎回、単語小テストを行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課の文法 ・文型「・・・是…的」 ・前置詞「从」 ・助動詞「要」 第1課会話「中国の税関にて」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第1課の単語を覚える。 授業後、p.5～p.7の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
	2	会話「中国の税関にて」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第1課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.8～p.10 を解答する。
	3	第2課の文法 ・前置詞「把」 ・結果補語 第2課会話「ホテルに泊まる」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第2課の単語を覚える。 授業後、p.16～p.17の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
	4	会話「ホテルに泊まる」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第2課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.18～p.20 を解答する。
	5	第3課の文法 ・助動詞「得」 ・存在を表す「有」 ・文型「不但…而且…」 第3課会話「部屋でのインターネット」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第3課の単語を覚える。 授業後、p.25～p.26の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
	6	会話「部屋でのインターネット」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第3課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.27～p.29 を解答する。
	7	復習チェックシート1 会話練習	第1～3課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する。	事前に「復習チェックシート1」を解答する。 授業後、p.30～p.34の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
	8	単元テスト1 第5課の文法 ・値段の言い方 ・文型「是…還是…」 ・方位連語「名詞+上」 第5課会話「両替」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第5課の単語を覚える。 授業後、p.39～p.40の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
	9	会話「両替」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第5課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.40～p.43 を解答する。
	10	第6課の文法 ・「一下」の使い方 ・構造助詞「得」と程度補語 第6課会話「スケジュール」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第6課の単語を覚える。 授業後、p.49～p.50の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
	11	会話「スケジュール」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第6課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.50～p.52 を解答する。
	12	第7課の文法 ・不定を表す疑問詞の使い方 ・使役文 ・「請」の使い方 第7課会話「取引先の方と面談する」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第7課の単語を覚える。 授業後、p.57～p.58の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
	13	会話「取引先の方と面談する」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第7課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.58～p.61 を解答する。
	14	復習チェックシート2 会話練習	第5～7課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する。	事前に「復習チェックシート2」を解答する。 授業後、p.62～p.66の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
15	単元テスト2 第9課の文法 ・文末助詞「？」 ・文型「一…就…」 第9課会話「取引先の方と面談する」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第9課の単語を覚える。 授業後、p.71～p.73の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。	

関連科目	「中国語を聞く a」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語を話す	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 40%、単元テスト 60%で評価する。			
学生への メッセージ	口から自然と中国語が出てくるように、頑張りましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	中国語を話す b	科目名 (英文)	Chinese Speaking b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	基礎的な文法・文型及びビジネス用の語彙を学ぶ。また、即戦力となるよう、基本文型を使ったビジネス中国語会話の練習を行う。
到達目標	出張先での宿泊や両替などの日常会話と、会議や商談などビジネスでよく使われるフレーズを学習し、きれいな発音と表現力を鍛える。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。毎回、単語小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	(第9課) 会話「取引先の方と面談する」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第9課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.73～p.75 を解答する。
2	第10課の文法 ・前置詞「向」 ・文型「無論…還是…」 第10課会話「工場を視察する」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第10課の単語を覚える。 授業後、p.80～p.82の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
3	会話「工場を視察する」を練習する。	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第10課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.82～p.84 を解答する。
4	第11課の文法 ・文型「一方面…一方面…」 ・前置詞「対」 ・副詞「再」 第11課会話「商談」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第11課の単語を覚える。 授業後、p.89～p.90の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
5	会話「商談」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第11課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.90～p.92 を解答する。
6	復習チェックシート3 会話練習	第9～11課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する。	事前に、「チェックシート3」を解答する。 授業後、p.93～p.98の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
7	単元テスト1 第13課の文法 ・助詞「過」 ・文型「如果…的話」 第13課会話「価格の交渉」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第13課の単語を覚える。 授業後、p.102～p.104の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
8	会話「価格の交渉」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第13課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.104～p.106 を解答する。
9	第14課の文法 ・文型「太…了」 第14課会話「歓迎会」	教員の説明を理解し、日本語や英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第14課の単語を覚える。 授業後、p.110～p.112の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
10	会話「歓迎会」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第14課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.112～p.115 を解答する。
11	第15課の文法 ・前置詞「由」 ・前置詞「為」 第15課会話「挨拶する」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第15課の単語を覚える。 授業後、p.121～p.123の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
12	会話「挨拶する」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、第15課の会話文を覚える。 授業後、練習問題 p.123～p.126 を解答する。
13	第16課の文法 ・文型「快…了」 ・文型「有…形容词」 第16課会話「万里の長城を遊覧する」	英語と比較しながら中国語の発音、文法や語順、基本文型を習得する。	事前に、第16課の単語を覚える。 授業後、p.131～p.132の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
14	復習チェックシート4	第13～16課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する。	事前に、「復習チェックシート4」を解答する。 授業後、練習問題 p.132～p.134 を解答する
15	単元テスト2 会話「万里の長城を遊覧する」を練習する	会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言うことで、訳す力、話す力を高める。	事前に、「第16課の会話文を覚える。 授業後、p.135～p.140の練習問題に出ている文や文法を覚えているかどうか再度確認する。

関連科目	「中国語を聞く b」
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語を話す	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			

	3		
評価方法 (基準)	小テスト 40%、単元テスト 60%で評価する。		
学生への メッセージ	口から自然と中国語が出てくるように、頑張りましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」		

科目名	日本語会話F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N：DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成(残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,DP7〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語読解F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。

科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく
--------------	--------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解F II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語読解F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解F I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。

科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく
-------------	--------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,DP8〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文F II
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語表現作文F II	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP8○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果 (資格)	レポートが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文F I
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、レポート (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	資料収集の方法 フィードバック	文献の検索について学ぶ 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
	15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階（非常勤講師室）
----------	----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	DE
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポート計 3 回の提出は必須。場合によっては再提出も求める。このうち 1 回でも提出がないと単位認定はできないので注意してください。
----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもつてのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室） 学習支援センター
----------	------------------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F G
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成と要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック 要約の復習	課題 1 のフィードバック 要約の復習をする	課題 1 を見直す
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
8	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
10	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告するをする	報告文の準備
14	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	DE
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	前回の復習
3	レポートの書き方②	レポートの構成について再確認する	前回の復習
4	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意表現①	敬語表現の基本を確認する	前回の復習
6	敬意表現②	尊敬語と謙譲語の使い分けを身につける	前回の復習
7	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	前回の復習
8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	前回の復習 テーマの下調べ
9	ディスカッション②	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	プレゼンテーション①	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
11	プレゼンテーション②	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	課題②	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
13	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	授業の総括	これまでの授業の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題(60%)、授業への取り組みなど(40%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	F G
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方	授業の目的、進め方の説明 レポートの構成、資料の引用の仕方を学ぶ	—————
2	レポートの書き方	資料引用の復習 考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	前回の復習
5	手紙の書き方 敬語の復習	手紙の書き方を学ぶ 敬語の復習をする	前回の復習
6	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
7	課題1のフィードバック (1) ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッション用資料の要約などを行う	ディスカッションの準備
8	課題1のフィードバック (2) ディスカッション(1)	課題1のフィードバック グループ分けをして、ディスカッションをする	ディスカッションの準備
9	課題2のフィードバック (1) ディスカッション(2)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	課題2のフィードバック (2) ディスカッション(3)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
11	プレゼンテーション(1)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション(2)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告分の準備
14	敬語の復習	ロールプレイング形式で、敬語を使った会話の練習をする。	敬語の復習
15	小テストの復習テスト 電子メール	小テストの復習テスト 電子メールのマナーと書き方を学ぶ	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語文法F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目 日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準) 発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)

学生へのメッセージ 実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましよう。

担当者の研究室等 国際交流センター教員控室 (3号館4階)

備考 事前事後学習時間の目安は計60時間。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
	2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
	9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目 日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光 徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準) 発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)

学生へのメッセージ 実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましよう。

担当者の研究室等 国際交流センター教員控室 (3号館4階)

備考 事前事後学習時間の目安は計60時間。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>経済は決して専門分野ではなく、日常生活と密接に結びついているのです。企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。</p> <p>この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。</p> <p>授業計画は進度によって変わる場合があります。</p>
到達目標	<p>この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。</p> <p>毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。</p> <p>リスニングとライティングを中心に日常生活に必要な英語の語彙力、表現力、理解力をつける事を目標とする。</p> <p>又、並行して英語の資格、検定の練習問題を用いて文法事項の復習及び弱点補強も行う。</p> <p>これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。</p>
授業方法と留意点	<p>単なる聞き取りのみならず、理解力を上げるために英文に隠れているアメリカと日本の違いについても色々学んでいきたい。新出単語や学んだ内容を繰り返して覚えるのが上達への早道！</p> <p>原則として、4回以上休んだ場合（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。テキスト（教科書）を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものと扱います。</p> <p>その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>
科目学習の効果（資格）	基本的文法の復習、リスニング、語彙力、英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。	どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。	Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。
	2	お金の機能について	I-1 Money has three functions.	Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。
	3	お金を借りたら利息がつく。	When you borrow money, you have to pay interest.	Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。
	4	銀行に預けたお金はどうなるのか。	What happens to money you deposit in a bank?	Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions.
	5	銀行が唯一の金融機関ではない。	Banks aren't the only financial institutions.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。
	6	価格は需要と供給によって決まる。	Prices are set according to the principle of supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。
	7	海外貿易は二方向。	Foreign trade is a two-way street.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。
	8	為替レートも需要と供給。	Exchange rates also vary according to supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。
	9	通貨の強弱。	Currencies continuously strengthen and weaken against one another.	Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。
	10	株式会社はどう生まれたか。	Joint-stock companies: how they came about?	Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。
	11	企業は株主と利益を分配する。	Companies share their profits among their shareholders.	Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has become a full-fledged market. を読んでくる。
	12	株式の取引は本物の市場になった。	Trading in Stocks has become a full-fledged market.	Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。
	13	E-trading は株式の取引を根本的に変えた。	E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.	Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。
	14	企業は株主のものだけではない。	A company doesn't belong only to its shareholders.	これまでのまとめ。
	15	総復習。	これまでのまとめ。	期末テストへの注意と解説。

関連科目 他の英語関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、出席 10%の割合で評価する。
学生への メッセージ	出席と予習を含む宿題を重視。 授業態度を重んじるので受講生はきちんと授業に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	<p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 201~400 までを最低一巡は終わるようにしてください。 <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書を必ず持参してください。 <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。 大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。 これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。
到達目標	この授業ではリスニングとライティングを中心に、英語の4技能の強化を図ります。 到達目標：日常生活で必要とする基礎的な英語の理解力・表現力を身につける。 ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。
授業方法と留意点	授業に出席しても、授業活動に参加しない学生には単位は与えません。 しっかり予習して授業に臨み、積極的に授業参加してください。 原則として、4回以上休んだ場合（正式な証明が可能な公休および大学指定の感染症による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。 テキスト（教科書）を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものととして扱います。その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。 受講予定者は必ず出席してください。
科目学習の効果(資格)	リスニング・ライティングの訓練を継続的に行えば、半年でかなりの実力が付きます。 最初は難しいと感じても、根気よく続けてください。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。	各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。	Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習
	2	経済は周期的に変動する。	The economy fluctuates in cycle.	Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways countries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習
	3	経済を活性化する2方法。	There are two basic ways countries can stimulate their economics.	Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習
	4	経済はときには強すぎる。	Sometimes an economy can become too robust.	Chapter III: The State of the Economy の In extremis, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習
	5	経済は泡のように膨らむ。	In extremis, the economy can grow like a bubble.	Chapter v: Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習
	6	今日の2つの経済システム。	There are two main economic systems in operation today.	これまでの復習。
	7	Review, Midterm Exam	復習、期間外試験1	Chapter v: Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。 指定単語の学習
	8	社会主義の失敗。	Socialism largely ended in failure.	Chapter v: Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習
	9	グローバリゼーションの良い点と悪い点。	Globalization has its good points and its bad.	Chapter v: Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習
	10	新自由主義はビジネスを変える。	Neo-liberalism is changing the way business done.	Chapter v: Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習
	11	経済政策は自然環境の保護に役立つ。	Economic policies can serve to protect the natural environment.	プリントを用意する。 指定単語の学習
	12	食物アレルギー	Food allergies	Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習
	13	食物アレルギー	Food allergies	プリントを用意する。 指定単語の学習
	14	青色発光ダイオード	Blue LED	Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習
	15	青色発光ダイオード	Blue LED	期末テストの注意と重点項目。

関連科目	英語関連科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、 授業態度 10% (授業中の発表)、出席 10%の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p>			
学生への メッセージ	<p>英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。 週に一日だけ 1 時間勉強するよりも、毎日 15 分勉強するほうがはるかに効果が上がります。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。 授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	<p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 600~800 までを最低一巡は終わるようにしてください。 <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書を必ず持参してください。 <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>			

科目名	ビジネス中国語基礎 a	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	事前にテキストを目を通す。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書くなど、復習をする。
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をする。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をする。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をする。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	事前に、テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」、疑問詞疑問文, 名前の言い方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」、副詞「都」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」、反復疑問文, 疑問詞「誰」、指示代名詞。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」、省略疑問文。	事前に、テスト (第1~2課) の準備。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」、動詞の重ね型, お金の言い方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
12	第4課 おいくら?	「二」と「両」、「不太」、所有の「有」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
13	第5課 どの先生が好き?	☆単元テスト3 前置詞「和」、名詞述語文。	事前に、テスト (第3~4課) の準備。 授業後、練習問題を解答し、会話を繰り返して読む。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話を読み、覚える。 テスト (第5課) の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4 ・総復習の方法と範囲について。	事前にテスト (第5課) の準備。 授業後、前期の総復習をする。

関連科目 「ビジネス中国語基礎 b」(前期)、「ビジネス中国語基礎 c」(後期)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	撰南大学 中国語入門	撰南大学外国語学部編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法 (基準)	小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	7号館3階 兪研究室
備考	

科目名	ビジネス中国語基礎 b	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1課 こんにちは	発音 1, 中国語の音節, 声調。	事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読む。
2	第2課 おはようございます	発音 2, 単母音, 複母音。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読む。
3	第3課 お久しぶりです	発音 3, 子音 1。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読む。
4	第4課 お掛けください	発音 4, 子音 2。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読む。
5	第5課 どの国の人ですか	動詞「是」の使い方, いろいろな疑問文。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
6	第6課 お名前は何ですか	姓の言い方と尋ね方, フルネームの言い方と尋ね方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
7	第7課 何を食べますか	動詞文, 選択疑問文。 △復習 (第 5~7 課)	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
8	第8課 図書館に行きたいです	☆単元テスト 1 連動文, 助動詞「想」。	事前に、テスト 1 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
9	第9課 キャンパスに銀行はありますか	動詞「有」, 動詞「在」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
10	第10課 今日は何曜日ですか	年月日、曜日の言い方, 助動詞「得」と「要」。 △復習 (第 8~10 課)	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
11	第11課 中国語は難しいですか	☆単元テスト 2 形容詞述語文, 時間の言い方。	事前に、テスト 2 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
12	第12課 いくらですか	お金の言い方, 量詞。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
13	第13課 彼女は今年 18 歳です	年齢の言い方と尋ね方, 前置詞「在」。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
14	第14課 動物園に行きました	文末の「了」, 動詞の重ね型。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
15	復習	△復習 (第 11~14 課) ☆単元テスト 3 ・総復習の方法と範囲について。	事前に、テスト 3 の準備をする。授業後、いままで習った部分の総復習をする。

関連科目	ビジネス中国語基礎 a(経 S) ビジネス中国語基礎 a(経 D)
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いま始めよう! アクティブラーニング 初級中国語	陳淑梅・張国ろ	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>単元テスト 80%</p> <p>授業参加や提出物 20%</p> <p>出席回数は10回以上；単元テストの平均点が60点を越えていることを単位認定の基準とします。 音読発表は随時行いますが、その成績も平常評価として重視します。</p>			
学生への メッセージ	<p>教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階（小都研究室）			
備考				

科目名	ビジネス中国語基礎 c	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樂 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」, 時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」, 時刻の言い方, 意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」, 連動文, 前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」, 文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第6-7課) の準備。
5	第8課 小説は好きなの?	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」, 時量補語とその語順, 文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」, 強調の「是」, 副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」, 副詞「才」, 動詞の「要」, 前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」, 文型「一・・・就・・・」, 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第8-9課) の準備。
9	第10課 北京ダックを食べたことある?	☆単元テスト2 助詞「過」, 助動詞「要」, 「想」, 「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」, 副詞「別」, 「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文, 助動詞「会」, 構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」, 比較の「没有」, 禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第10-11課) の準備。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	☆単元テスト3 仮定表現「要是～」, 助動詞「能」, 可能性の「会」, 比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」, 方向補語「～来/去」, 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第12課) の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。

関連科目	「ビジネス中国語基礎 a」(前期)、「ビジネス中国語基礎 b」(後期)
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	撰南大学	中国語入門	撰南大学外国語学部編
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「ビジネス中国語基礎 a」を履修したうえ、「ビジネス中国語基礎 c」を履修するのが望ましい。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	ビジネス中国語基礎 d	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 15 課 四川料理を食べたことはありますか	経験を表す助詞「過」、比較の前置詞「比」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 16 課 二胡を弾けますか	助動詞、二重目的語構文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 17 課 みかんを味見してもいいですか	助動詞「可以」、「有点兒」と「一点兒」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 18 課 中国語はお上手ですね	様態補語、期間を表す言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	復習 (第 15～18 課)	単元テスト 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 19 課 もう一度言ってください	結果補語、回数の言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 20 課 いつ失くしましたか	「是～的」構文、禁止の言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 21 課 中で食べましょう	方向補語、完了の助詞「了」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 22 課 何をしていますか	進行を表す表現、可能補語。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	復習 (第 19～22 課)	単元テスト 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 23 課 横浜は東京から遠いですか	前置詞「離」「從」「到」、程度補語。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 24 課 彼は来られません	助動詞「能」、助動詞「会」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 25 課 彼をスーパーへ買い物に行かせました	使役表現、主述述語文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 26 課 早く窓を閉めてください	「把」構文、存現文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	復習 (第 23～26 課)	単元テスト 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 c(経 S) ビジネス中国語基礎 c(経 D)
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いま始めよう! アクティブラーニング 初級中国語	陳淑梅・張国ろ	朝日出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元テスト 80% 授業参加や提出物 20% 単元テストの平均点が 60 点以上; 出席回数が 10 回以上であることが単位認定の最低条件となります。 音読発表も随時行いますが、その成績も平常点として重視します。
-----------	---

学生へのメッセージ	使用教科書は前期と同じなので、前期購入者は後期購入する必要はない。但し、後期から新しく登録したものは教科書の購入が必要である。私語を慎むように。他の受講生の迷惑になります。 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。出席は 10 回以上ないと単位が認定できない。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (小都研究室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	保健論	科目名(英文)	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉川 万紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	健康に関する問題や情報が溢れる現代社会において、正しい情報を選択ことが重要である。 そのため本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を実行するための知識を学ぶ。
到達目標	①現代の健康問題について理解できる。 ②様々な健康に関する情報を知り、自身の健康に対する考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果(資格)	健康維持・増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	健康とは	健康の定義 平均寿命・健康寿命	健康の定義について復習すること
3	体の構造と機能	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能についての復習をしておくこと
4	肥満とは	肥満の要因 ダイエット	肥満の要因について復習すること
5	生活習慣病①	メタボリックシンドローム 生活習慣病、内臓脂肪、診断基準	メタボリックシンドロームの診断基準について復習すること
6	生活習慣病②	高血圧症、糖尿病、脂質異常症、コレステロール、心疾患、脳卒中	高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの疾患について復習すること
7	高齢者の健康問題	サルコペニア ロコモティブシンドローム 寝たきり	現在問題となっている、高齢者の健康問題について理解する
8	7回までのまとめ	7回までの授業の振り返り 中間テストの実施	中間テストのなおしをしておくこと
9	健康づくりのための運動基準	身体活動量 メッツ 健康日本21	健康づくりのための運動基準について復習すること
10	自身の健康チェック	除脂肪体重 体脂肪 BMI	自身の身長・体重を測定してくること
11	運動トレーニング	運動・スポーツ トレーニングの原理・原則 筋力トレーニング	トレーニング方法について復習すること
12	健康に関わる食事	健康な食生活の形成 朝食の必要性	適切な食事について復習すること
13	睡眠と健康	レム睡眠・ノンレム睡眠 睡眠障害 不眠症	健康づくりのための睡眠について、復習すること
14	健康増進計画作成	受講者自身の運動維持・増進のための運動計画を、今までの知識を活用して作成する。	9回から13回までの授業内容を復習してくること
15	保健論まとめ	14回までの授業内容の復習	これまでの授業の復習をすること

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点評価 30%、期末テスト 70%の割合で評価を行う
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、研究室あるいは総合体育館事務室に来ること
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館1階 内部講師室
----------	---------------

備考	
----	--

教 養 科 目

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井 英子, 西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。 																
授業方法と留意点	<p>研修先として美術館 (ホテル、レストラン併設)、PPLH (NPO)、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校、マングローブセンター等を予定しています。</p> <p>研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習 10日を予定。現地での各自の研修内容の事前準備 (プレゼン等) が完了するまで行う。</p> <p>ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動</p> <p>2日目 環境学習 マングローブセンター、PPLHにて実習</p> <p>3日目 各研修先へ移動、ガイダンス</p> <p>4日目～8日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施</p> <p>9日目 現地視察</p> <p>10日目 移動日</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、毎日研修内容の報告書を作成する。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する)</p> <p>報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 20%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン 10%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 佐井研究室 11号館8階 西の坊研究室																
備考	共同担当者 西の坊 准教授																

科目名	科学技術教養 (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	不妊のしくみ	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)

	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
関連科目	科学技術教養 V2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	80%以上の出席を前提とした上で、講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお、30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。			
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。			
担当者の研究室等	1 号館 9 階 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場研究室			
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間			

科目名	科学技術教養 (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
	2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
	3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
	4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
	5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
	6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
	7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
	8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
	9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
	10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
	11	微生物酵素を用いる物質生産システム～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への	配布資料を復習する。

			応用を可能にする酵素利用技術(固定化酵素など)と酵素改変技術(分子進化工学、逆進化工学、タンパク質工学など)の現状と将来について概観する。	
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動植物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。
	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。
関連科目	科学技術教養V1			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業態度20%、受講メモ40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題40%の総合点で評価する。			
学生へのメッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。			
担当者の研究室等	1号館8階 環境分析学研究室(青笹)			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。			

科目名	科学技術教養 (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 巧
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることが出来る。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおける対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内での問題や対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人の関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R1) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義メモ・課題・小テストなど100%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回1時間程度と考えてください。

科目名	科学技術教養 (R2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 巧
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	(オリエンテーション) 住まいと生活	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中で新しい住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う。
	2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	3	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	4	住環境と考現学	私たちの身の回りにおける住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	5	大規模災害時の避難生活環境	阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	13	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	14	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	15	居住地域を把握するー社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標とよばれる各種のデータを用いて表現する手法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R2) 住環境デザイン学科 教科書	理工学部住環境デザイン学科	
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	講義メモ・課題・小テストなどを100%で評価する。 期末試験は行わない。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
----------	------------------

備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回1時間程度とすること。
----	---

教養科目

科目名	科学技術教養 (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
6	建築の内装	インテリア、家具・内装	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
7	建築の外装・外構	外装材とはエクステリア、造園	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
8	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	各回の演習課題 50%、講義メモ 50%を総合して評価する。期末試験は行わない。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	事前・事後学習にかかる学習時間はテキストの予習復習や演習問題の復習を含めて、毎回1時間程度として下さい。 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。(出席率80%以上を成績評価の対象とするなど)
----	--

教養科目

科目名	科学技術教養 (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	住む建築	住宅、住むことの工夫	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着眼し、建築の公共性について考える。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	各回の演習課題 50%、講義メモ 50%を総合して評価する。期末試験は行わない。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	事前・事後学習にかかる学習時間はテキストの予習復習や演習問題の復習を含めて、毎回1時間程度として下さい。 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。(出席率80%以上を成績評価の対象とするなど)
----	--

科目名	科学技術教養 (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートに丁寧にまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史;ヒトの手の動作を補助道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	マイクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	マイクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	マイクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか?日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか?近未来にどのような乗り物が実現されているのか?等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	担当教員の居室[1号館の3階・4階・5階]
----------	-----------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

科目名	科学技術教養 (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと
	2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
	3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
	4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン(ガソリン等)、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
	5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと
	6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと
	7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
	8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
	9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
	10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
	11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは? ・調速機、結果を見て制御する(フィードバック)	配付資料に目を通しておくこと
	12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
	13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコフグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
	14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
	15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ (50%), 講義内容に対する理解と考察を問うレポート (50%) で評価する。</p>			
学生への メッセージ	<p>機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどのような乗り物が実現されているのか？ 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。</p>			
担当者の 研究室等	<p>担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]</p>			
備考	<p>出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。</p>			

科目名	科学技術教養 (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにおける電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどのようなしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
8	モース通信から携帯電話へ	モース通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講メモ50%、小テスト50%の総合点で評価する。
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学教員室
----------	--------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

教養科目

科目名	科学技術教養 (E2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態—プラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。
担当者の 研究室等	1号館4階・5階電気電子工学科教員室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。
-----------	---

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
-----------	--

担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
----------	--------------------

備考	事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。
----	---

科目名	科学技術教養 (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法(基準) 受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。

担当者の研究室等 講義担当者居室 1号館3階および4階

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	課題・レポート
	2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	課題・レポート
	3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	課題・レポート
	4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	課題・レポート
	5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	課題・レポート
	6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	課題・レポート
	7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	課題・レポート
	8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	課題・レポート
	9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返り現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	課題・レポート
	10	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	課題・レポート
	11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	課題・レポート

教養科目

	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	課題・レポート
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	課題・レポート
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	課題・レポート
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	課題・レポート
関連科目	数学・物理の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T1		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館2階, 3号館3階, 8号館2階]			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。			

科目名	科学技術教養 (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライプニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ:無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから)F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v. s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T2		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

教養科目

	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%, レポート 50%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養 I～IV (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)

	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)																
関連科目	科学技術教養 V2																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	80%以上の出席を前提とした上で、講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお、30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。																			
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。																			
担当者の研究室等	1 号館 9 階 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場研究室																			
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間																			

科目名	科学技術教養 I～IV (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
	2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
	3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
	4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
	5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
	6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
	7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
	8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
	9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
	10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
	11	微生物酵素を用いる物質生産システム～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への	配布資料を復習する。

教養科目

			応用を可能にする酵素利用技術(固定化酵素など)と酵素改変技術(分子進化工学、逆進化工学、タンパク質工学など)の現状と将来について概観する。																	
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動植物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。																
	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養V1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	授業態度20%、受講メモ40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題40%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。																			
担当者の研究室等	1号館8階 環境分析学研究室(青笹)																			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。																			

科目名	科学技術教養 I～IV (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 巧
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎知識を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおける対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内での問題や対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人の関わりのはなしから、香りの人への心理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R1) 住環境デザイン学科 教科書	撰南大学理工学部住環境デザイン学科	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなど 80%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回1時間程度と考えてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (R 2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 巧
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	(オリエンテーション) 住まいと生活	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中で住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う。
	2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	3	住宅とまちの関係	事例紹介に沿って住環境としてのまちなみの個性と課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	4	まちのにぎわい	自然発生的建築の多義性、多様性を解説し、現代における住環境の空間デザイン論を語る。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	5	福祉住環境のデザイン	今までに携わってきた事例を紹介しつつ、住の延長としての医療福祉系住環境の課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	13	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現状を再考し、今後の暮らしのあり方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	14	暮らしの中の太陽エネルギー利用	太陽光発電システムと太陽熱利用システムをとりあげ、暮らしの中の太陽エネルギー利用について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	15	居住地域を把握するー社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標とよばれる各種のデータを用いて表現する手法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R 2) 住環境デザイン学科 教科書	理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80% で評価する。 期末試験は行わない。
-----------	---

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回1時間程度とすること。

科目名	科学技術教養 I～IV (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・ 地域からみた多様性	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	8	建築のUD	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築の材料	構造と仕上げ材料	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	14	建築と防災	災害、避難、防災教育	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	各回の演習課題 50%、講義メモ 50%を総合して評価する。期末試験は行わない。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	事前・事後学習にかかる学習時間はテキストの予習復習や演習問題の復習を含めて、毎回1時間程度として下さい。 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。(出席率80%以上を成績評価の対象とするなど)
----	--

科目名	科学技術教養 I～IV (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	住む建築	住宅、住むことの工夫	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着眼し、建築の公共性について考える。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。
	15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	事前に教科書を通して扱うテーマを把握し、事後学習として当該テーマについて社会で起こっている状況への理解をはかる。

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	各回の演習課題 50%、講義メモ 50%を総合して評価する。期末試験は行わない。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	事前・事後学習にかかる学習時間はテキストの予習復習や演習問題の復習を含めて、毎回1時間程度として下さい。 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。(出席率80%以上を成績評価の対象とするなど)
----	--

教養科目

科目名	科学技術教養 I～IV (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートに丁寧にまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史;ヒトの手の動作を補助道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか?日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか?近未来にどのような乗り物が実現されているのか?等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	担当教員の居室[1号館の3階・4階・5階]
----------	-----------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配付資料に目を通しておくこと
	2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
	3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
	4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン(ガソリン等)、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
	5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと
	6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと
	7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
	8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
	9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
	10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
	11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは? ・調速機、結果を見て制御する(フィードバック)	配付資料に目を通しておくこと
	12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
	13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコフグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
	14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
	15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ (50%), 講義内容に対する理解と考察を問うレポート (50%) で評価する。</p>			
学生への メッセージ	<p>機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているのか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。</p>			
担当者の 研究室等	<p>担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]</p>			
備考	<p>出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。</p>			

科目名	科学技術教養 I～IV (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)			

教養科目

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどのようなしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
	2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
	3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
	4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
	5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
	6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
	7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
	8	モース通信から携帯電話へ	モース通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
	9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
	10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
	11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
	12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
	13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
	14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
	15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 受講メモ50%、小テスト50%の総合点で評価する。

学生へのメッセージ 身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。

担当者の研究室等 1号館4階・5階の電気電子工学教員室

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 I～IV (E 2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどのようなしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態ープラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。
担当者の 研究室等	1号館4階・5階電気電子工学科教員室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 I～IV (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。
----------	---

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界でも最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
-----------	---

担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
----------	--------------------

備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー(DP)			

教養科目

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

評価方法(基準) 受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。

担当者の研究室等 講義担当者居室 1号館3階および4階

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	課題・レポート
	2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	課題・レポート
	3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	課題・レポート
	4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	課題・レポート
	5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	課題・レポート
	6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	課題・レポート
	7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	課題・レポート
	8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	課題・レポート
	9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返り現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	課題・レポート
	10	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	課題・レポート
	11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	課題・レポート

	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	課題・レポート
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	課題・レポート
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	課題・レポート
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	課題・レポート
関連科目	数学・物理の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T1		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館2階, 3号館3階, 8号館2階]			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。			

科目名	科学技術教養 I～IV (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライプニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ:無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから)F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力Fを使って、なんだか良くわからない質量mを定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v. s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

関連科目 数学・物理の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T2		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%, レポート 50%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	環境と現代社会	科目名(英文)	Environment and Modern Society
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 尚之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義は、経営学の一分野である、環境経営について学習する。環境経営とは「事業活動に投入される資源・エネルギー・化学物質などの使用から生ずる環境負荷を低減して環境保全を意図的に行いながら、経済価値の創造を同時に追求する経営活動」のことである。これは換言すればCSR（企業の社会的責任）でもある。この環境経営について具体例を交えながら分かり易く解説する。
到達目標	環境経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。
授業方法と留意点	授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。
科目学習の効果(資格)	環境経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業のCSR部門における必須知識の獲得を目指す。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1回 経済学では環境をどうとらえてきたか?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	2	第2回 ハーマン・デイリーの法則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	3	第3回 ファクター10	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	4	第4回 環境クズネット曲線	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	5	第5回 時代はCSRからCSVへーマイケル・ポーターの考え方	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	6	第6回 3Rそして4Rへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	7	第7回 ゼロエミッション	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	8	第8回 グリーン購入・グリーン調達	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	9	第9回 エコデザイン	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	10	第10回 ライフサイクル・アセスメント(LCA)	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	11	第11回 環境会計	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	12	第12回 環境効率	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	13	第13回 環境イノベーション	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	14	第14回 エコファンダ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。
	15	第15回 排出量取引制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。 復習：その日の講義の板書を整理する。

関連科目	環境マネジメントシステムⅠ、環境マネジメントシステムⅡ
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	積極的授業参加と発表が45%、定期試験が55%
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。
-----------	---

担当者の研究室等	
備考	

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一・伊藤 謙・尾山 廣・鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	北河内地域に関する事前学習 9月29日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	北河内地域に関する講演 9月29日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション 9月29日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
5	北河内地域に関する事前学習 10月20日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
6	北河内地域に関する講演 10月20日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション 10月20日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
8	北河内地域に関する事前学習 11月17日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	北河内地域に関する講演 11月17日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション 11月17日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	北河内地域に関する事前学習 12月1日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	北河内地域に関する講演 12月1日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション 12月1日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク 12月15日(土)	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション 12月15日(土)	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。
----------	---

学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？
担当者の 研究室等	荻田喜代一（薬学部・副学長室）、鶴坂貴恵（経営学部・経営情報学科）、尾山廣（理工学部・生命科学科）、伊藤譲（理工学部・都市環境工学科）、喜多大三
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

科目名	近代文学から学ぶ	科目名(英文)	Modern Literature
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的
日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。

到達目標
作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。

授業方法と留意点
毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。学生の関心によって、取り上げる作家、作品がシラバスとは変更する可能性もある。

科目学習の効果(資格)
文学に対する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	明治の文学	近代社会へ 言文一致運動	配布したプリントを読み、理解しておく
2	明治の文学	夏目漱石の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
3	明治の文学	谷崎潤一郎の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
4	明治の文学	森鷗外の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
5	大正の文学	佐藤春夫の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
6	大正の文学	志賀直哉の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
7	大正の文学	菊地寛の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
8	大正の文学	小川未明の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
9	大正の文学	芥川龍之介の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
10	昭和前期の文学	横光利一の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
11	戦時下の文学	中島敦の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
12	戦時下の文学	太宰治の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
13	戦争の文学	原民喜の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
14	現代文学へ	安部公房の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
15	近代の詩を読む	高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	配布したプリントを読み、理解しておく

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
毎回最後に提出する、要点のまとめと考察(100%)
場合によっては、追加の課題を出す。

学生へのメッセージ
活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。この機会に、小説好きにならしましょう。専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。

担当者の研究室等
橋本研究室(7号館4階)

備考
事前事後学習時間の目安 60時間。
提出された考察に対して、次の授業でフィードバックします。

科目名	くらしと経済	科目名(英文)	Life and Economy
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本を含め世界経済はダイナミックな変化の過程にある。例えば、先進国の経済成長率が鈍化する一方、新興国は世界経済の動力源として機能しつつある。ここで重要なのは、これらは私たちのくらしと決して無縁ではなく、むしろ私たちはこれら経済問題を積極的に理解し、自らの力で対処しなければならない、ということである。本講義では、経済に関する考え方や事例を私たちの身近なものから取り上げ説明し、できるだけ学生と対話しながら進めたい。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果(資格)	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等		事前・事後学習課題
		内容	方法	
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、「くらしと経済」で何を考え学ぶのかを解説する。新聞の読み方についても解説する。		復習すること
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。		教科書第1章を予習復習のこと
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。		教科書第2章を予習復習のこと
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。		教科書第3章を予習復習のこと
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。		教科書第4章を予習復習のこと
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。		教科書第5章を予習復習のこと
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。		教科書第6章を予習復習のこと
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。		復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。		教科書第7章を予習復習のこと
10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。		教科書第8、9章を予習復習のこと
11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。		教科書第10章を予習復習のこと
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。		教科書第11章を予習復習のこと
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。		教科書第12章を予習復習のこと
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。		教科書第13章を予習復習のこと
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。		教科書第14章を予習復習のこと

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	中間試験(50%)+期末試験(50%)+発言点をもとに評価する。中間・期末双方の試験を受験しなければ評価の対象とならない。私語は減点の対象となる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本准教授室)
備考	

教養科目

科目名	グローバルな視点から多文化共生を考える	科目名 (英文)	Realizing the Importance of Cultural Diversity -from the Glo
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	糟谷 英之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: AI○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>摂南大学が加盟する国連アカデミックインパクトの原則10「異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く」を実施するため、移民・難民・マイノリティーの問題など人権問題を考えることによってグローバルな人材を育成することを目的とします。</p> <p>現在では海外で活動する場合に限らず、地方自治体などを含め地域社会で活動する際にも国際的な人権感覚を身につけることが重要であると考えます。</p> <p>こうした目的を達成するため 授業では、次の二つの課題を実行します。</p> <p>①国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携し、学校パートナーズとして映画祭や講演会の企画運営をします。</p> <p>②タイでの海外研修を行います。</p> <p>*2018年度については、①は、10月、②は、2019年2月に実施予定。</p>																		
到達目標	<p>学校パートナーズとして UNHCR 難民映画祭の企画運営への参加、およびタイでの海外研修を通じて、移民・難民・マイノリティーの問題を自分自身の問題として捉え直し、グローバルな人材として必要な人権感覚を身につけます。</p> <p>さらに企画運営能力や問題解決能力およびコミュニケーション能力の開発を目指します。</p>																		
授業方法と留意点	<p>集中講義の形式をとり、通常の講義とは異なり毎週授業があるわけではありません。しかし UNHCR 難民映画祭・学校パートナーズ企画および海外研修のため事前及び事後に不定期に集まります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>先の目的を実現するため本講義では次の二つの課題を実行します。</p> <p>①まず国連アカデミックインパクト加盟大学の取り組みの一環として、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携して映画祭や講演会の企画運営を目指します。これによって受講生の国際的人権意識を高めるとともに企画運営能力、コミュニケーション能力などを開発します。情宣活動を通じて大学構成員全体の国際的人権意識をも高めることにもなるでしょう。</p> <p>①の実施に当たり、</p> <p>(1) 寝屋川市国際交流協会などと連携して宣伝活動を行い、一般市民へのアピールを行います。</p> <p>(2) 大学祭中の開催を計画し、大学の学生・教職員にもせっきょくにかかわってもらいます。</p> <p>(3) 開催後、実施報告書やアンケート結果などをもとに検証を行い次年度の参考にする。</p> <p>②次にタイでの海外研修を通じ、移民、難民・マイノリティー問題をあらためて考えます。現地での語学研修、さらに現地の国際的機関や NGO などの人々へのインタビューなどを通じ多文化共生とは何かを体感したいと思います。現地での体験が①で身につけた知識、企画運営能力、問題解決能力およびコミュニケーション能力を真に生きたものにするでしょう。</p> <p>②の海外研修実施に当たり、</p> <p>(1) 事前の打ち合わせにおいて、現地の情報収集と危機管理の講習を行います。</p> <p>(2) 研修の目標を各人が設定するため事前のアンケートを採ります。</p> <p>(3) 現地では、研修ノートを取り、それを基に最終レポートを作成してもらいます。</p> <p>最終的には、提出されたレポートを基礎にして報告会を持ちたいと思います。</p>																		
関連科目	国際人権法、法律英語、グローバル社会論、国際ボランティア論など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	二つの課題①②の事前打ち合わせへ積極的参加 (20%)、①②の研修参加態度 (60%) および検証報告 (20%) の内容を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	<p>いま私たちが住む世界は今までにない大きな変化を経験しています。これからは外国人を含めさまざまな人々と共に生きていく時代です。こうした社会で生きていくために我々一人ひとりにとって何が必要であるかを講義を通じて是非感じ取ってください。</p> <p>海外研修を通じて異文化を体験してください。それだけでも君たちにとって大きな意味があると思います。</p>																		
担当者の研究室等	11号館10階 糟谷研究室 E-mail: kasutani@law.setsunan.ac.jp																		
備考	<p>*海外研修期間は、2019年2月中旬を予定しています (都合により若干変更する場合があります)。</p> <p>*また法学部学生は、前期科目の「法律英語」を予定していますできれば受講してください。</p> <p>*UNHCR 難民映画祭や海外研修の具体的内容については、ガイダンスで紹介いたします。</p> <p>*海外研修への参加費は基本的には自己負担となりますので注意してください。</p>																		

科目名	現代韓国事情	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな隣国である韓国。そのような韓国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識 (1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	近現代韓国の基礎知識 (2)	韓国近現代史概説: 軍事政権の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	近現代韓国社会への理解 (1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	近現代韓国社会への理解 (2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	近現代韓国社会への理解 (3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	近現代韓国社会への理解 (4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	現代韓国に向き合う (1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	現代韓国に向き合う (2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。			

科目名	現代ビジネス論	科目名(英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本の経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化的方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向(interactive)の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果(資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業NUMMIがなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成モデルの紹介。人材育成モデルの提案。	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
10	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。(6~10回までのレポート提出)	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
11	自分はどうなるか 事例1. 二宮尊徳	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。3人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例2 本田技研創業者藤沢武夫の紹介	本田の実質的な経営者の追求したマネジメントの実態に迫る。	11回参照
13	事例3 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	11回参照
14	君たちはどのようなリーダーを目指すか	自由討議 10人ぐらいのチームに分け、討議・各グループの発表。	事例紹介のうちどの点がすごいと思ったか事前に考えておく。
15	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社
2	マネジメント入門	スティーン P. ロビンズ	ダイヤモンド社

	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	公衆衛生学	科目名(英文)	Public Health Science
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。また、人の健康が環境から受ける影響などについても取り上げる。
---------	---

到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。
------	--

授業方法と留意点	講義中心。最新的话题を随時取り入れる。視聴覚教材も用いる。
----------	-------------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
2	人口転換と疫学転換	人類史と健康	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
3	保健統計(1)	日本の人口	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
4	保健統計(2)	健康指標	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
5	疫学(1)	疫学の歴史と考え方	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
6	疫学(2)	集団の疾病をとらえる方法	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
7	疾病予防	予防医学の考え方	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
8	感染症(1)	感染症の疫学	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
9	感染症(2)	感染症と予防	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
10	慢性疾患(1)	慢性疾患の疫学	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
11	慢性疾患(2)	慢性疾患と予防	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
12	環境保健(1)	環境が健康に及ぼす影響	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
13	環境保健(2)	地球規模の環境問題と取り組み	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
14	国際保健	世界の健康・日本の健康	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること
15	移民と健康	在日外国人の健康	事前学習では最新ニュースに留意、事後学習では授業内容を復習すること

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2018	鈴木庄亮	南江堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。
----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3階 24
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	Conflict の表象－20 世紀マンガ・アニメの文化誌－	科目名 (英文)	How are "conflicts" culturally represented in 20th century Japanese manga and animation?
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 赤澤 春彦, 有馬 善一, 上田 達, 小山 裕樹, 住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		

授業概要・目的	conflict とは con (共に) flict (衝突する) こと。対立や争い、矛盾、葛藤を意味する。戦後の日本は「平和」が続いてきたように語られるが、直接戦争に関わらなかつただけで、そこには様々な矛盾や軋轢が内包されてきた。これらの conflict を描き出してきた媒体の一つが、20 世紀日本のマンガ・アニメである。それゆえに日本のマンガ・アニメは現代社会の普遍的なテーマを扱うものとして、一部のファンだけではなく、世界中の人々に影響を与え続けてきたのである。この講義では、特に影響が大きく、メディアミックスとして展開した数本の作品を取り上げ、多様な視点から分析を試みたい。
到達目標	マンガやアニメを娯楽的に享受するだけでなく、そこに現代の価値観・世界観を読み取るための論点を見出し、考えることができる。

授業方法と留意点	6 名の教員が担当する。 毎回作品を決め、1 名の教員がテーマを設定し、論じる。受講生はコメントペーパーを提出する。 それぞれの作品について、受講生は講義の内容も踏まえて考察し、レポートを提出する。 受講生は必ず前週に指定された事前学習に取り組んでくること。 ※授業以外の学習時間の目安は、約 60 時間。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	20 世紀日本のマンガ・アニメ	代表的な作品を取り上げ、マンガ・アニメの果たしてきた役割を考える (担当: 橋本)	----
	2	機動戦士ガンダム 1	ガンダム作品における家族や子育ての描かれ方について考える (担当: 小山)	劇場版『機動戦士ガンダム』をみる
	3	機動戦士ガンダム 2	ガンダム作品における女性の描かれ方について考える (担当: 住吉)	劇場版『機動戦士ガンダム II 哀・戦士編』をみる
	4	機動戦士ガンダム 3	ガンダム作品におけるシャア・アズナブルの位置づけについて考える (担当: 赤澤)	劇場版『機動戦士ガンダム III めぐりあい宇宙編』をみる
	5	機動戦士ガンダム 4	モビルスーツ (モビルアーマー) について受講者ととともに議論する (担当: 赤澤・小山・住吉)	モビルスーツに関するレポートをまとめる
	6	風の谷のナウシカ 1	テーマの概説、アニメ版、漫画版の概要と違いについて (担当: 有馬)	アニメ『風の谷のナウシカ』を見る
	7	風の谷のナウシカ 2	「風の谷」から「中心」と「周辺」について考える (担当: 上田)	コミック『風の谷のナウシカ』1・2・3 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
	8	風の谷のナウシカ 3	「皇弟」と「蟲使い」から「おぞましいもの」の描かれ方について考える (担当: 橋本)	コミック『風の谷のナウシカ』4・5 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
	9	風の谷のナウシカ 4	「巨神兵」の謎と多義性について考える (担当: 有馬)	コミック『風の谷のナウシカ』6・7 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
	10	ジョジョの奇妙な冒険 1	ジョジョの奇妙な表現力 (担当: 赤澤)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物について確認する
	11	ジョジョの奇妙な冒険 2	ジョジョの奇妙な想像力 (担当: 上田)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物やスタンドについて確認する
	12	ジョジョの奇妙な冒険 3	ジョジョの奇妙な人間性 (担当: 小山)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物について確認する
	13	攻殻機動隊 1	「コピー」と「多様性」について考える (担当: 住吉)	押井守『GHOST IN THE SHELL』を見る
	14	攻殻機動隊 2	「脳が支配されること」の描かれ方について考える (担当: 橋本)	士郎正宗『攻殻機動隊』1 巻を読む 「人形使い事件」について確認する
	15	攻殻機動隊 3	「タチコマ」に見られる AI の「個性」、さらに、AI と人間との関係性について考える (担当: 有馬)	『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX The Laughing Man』を見る

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	各作品のレポート 60% (15%×4)、授業への参加度 (毎回のコメントペーパー) 40%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 (赤澤・有馬・小山・住吉・橋本) 7 号館 5 階 (上田)
----------	--

備考	
----	--

教養科目

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通じて自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
7	II. 多様な日本の自然 2	植生	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に

教養科目

				目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
	14	IV. 環境と私たち 1	地球温暖化や砂漠化	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
	15	IV. 環境と私たち 2/総括	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各トピック(I?IV)ごとに講義内容を要約したレポートを提出し、それをもとに評価する(レポート：100%)			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。			

科目名	社会学 I	科目名 (英文)	Sociology I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田 祐佳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念 (=キーワード) と社会的なものの方について解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」一他者から影響をうけ、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解説する「社会的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は1回完結のオムニバス形式でおこないます。毎回、レジュメを配布し、時には視聴覚資料を用いることもあります。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。
科目学習の効果 (資格)	社会的なものの方の見方を学ぶことによって、これまであたりまえだと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (1) 一社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
3	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (2) 一ジェンダー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
4	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (3) 一役割	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
5	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (4) 一自己	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
6	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (5) 一再社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
7	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (6) 一感情	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
8	社会学における基礎的な知識と発想	社会的存在としての人間 (7) 一小括	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
9	社会学における基礎的な知識と発想	集団のなかの個人	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
10	社会学における基礎的な知識と発想	組織のなかの個人	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
11	社会学における基礎的な知識と発想	社会的逸脱	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
12	社会学における基礎的な知識と発想	行為の意図せざる結果 (1) 一予言の自己成就	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
13	社会学における基礎的な知識と発想	行為の意図せざる結果 (2) 一社会的ジレンマ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
14	社会学における基礎的な知識と発想	社会学の古典から一自殺と社会	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目	社会学 II
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験…80%、授業参加度 (リアクション・ペーパー・課題の内容を評価) …20%
-----------	--

学生へのメッセージ	「社会学」は小中高にはないカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえとっていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。 なお、授業中の私語には厳しく対処します。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	リアクション・ペーパーや課題のフィードバックを授業中に行う。 質問などについては、授業終了後に対応する。
----	---

科目名	社会学Ⅱ	科目名(英文)	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、家族と子ども、政治、宗教、社会意識といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	受講生が社会学の知識・考え方を身につけ、自らが直面する問題について社会的な発想に基づいて多面的に理解し考察できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	テーマに関連するデータ資料や視聴覚教材をもちいる。
科目学習の効果(資格)	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
	2	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	3	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	4	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	5	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	6	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	7	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	8	中間テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習
	9	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	10	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	11	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	12	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	13	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	14	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習

関連科目	社会学Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加度10%、試験(中間、期末)90%で評価する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なことは「正解のない問題」に向きあう際の姿勢です。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階 山本准教授室
----------	---------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
備考	

教養科目

科目名	人文地理学	科目名(英文)	Human Geography
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	窓の外にひろがる風景、大学が立地する町並み、人びとが抱くイメージなど。これらをどのように捉えることができるのか、また、どのように捉えてきたのか。それが本講義のテーマである。 言い換えると、本講義は地理学史の流れに沿いながら、＜地理学的なものの方・考え方＞について幅広く解説するものである。この見方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実はわたしたちの生活のさまざまなところに活用されている。本講義を通して、身近な問題を新たな視点から捉え直すきっかけを提供したい。
到達目標	＜地理学的なものの方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。
科目学習の効果(資格)	＜地理学的なものの方・考え方＞の学習・理解を通じて、ひとつとは違った視点から身近な問題を捉えられるようになる。なお、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許取得を目指す学生にとっては必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理と地理学	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	高校までの「地理」の学習内容を振り返る(事後学習)
	2	地図とスケール1	地図の歴史と思想について	紹介した参考文献を読む(事後学習)
	3	地図とスケール2	スケール設定の意味について	「面白い」地図に関する課題に取り組む(事後学習)
	4	地誌の歴史と役割	地誌が各時代に果たした役割について	紹介した参考文献を読む(事後学習)
	5	人間と環境の関係	環境論について	環境論的思考の実例を探してみる(事後学習)
	6	農業はどのように立地するか	農業立地論について	身近な地域の農地の分布を調べる(事後学習)
	7	大都市と中小都市の関係	中心地理論について	分布図の課題に取り組む(事後学習)
	8	知識や技術の広がり方・伝わり方	空間的拡散・空間的相互作用論について	ある「イノベーション」に注目して、その拡散過程を調べる(事後学習)
	9	空間の捉え方は人によってどう異なるのか	メンタルマップのうち、空間認知研究について	手描き地図の課題に取り組む(事後学習)
	10	場所イメージはどのように作られるのか	メンタルマップのうち、場所イメージ研究について	身近な地域のマンション・アパート名を調べる(事後学習)
	11	場所への愛着	人文主義地理学について	「ふるさと」に関する課題に取り組む(事後学習)
	12	景観と風景	景観論と風景論について	紹介する参考文献を読む(事後学習)
	13	時間と空間からみた人間の行動	時間地理学について	日常の行動とその制約について考えてみる(事後学習)
	14	「男性」/「女性」にとっての空間	ジェンダー地理学について	身の周りにある「ジェンダー化された空間」を探してみる(事後学習)
	15	地理教育の役割	近代国家と地理教育の関係について	期末レポートを作成する(事後学習)

関連科目 「自然地理学」「地誌学」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	人文地理学—その主題と課題—	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
	3	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店

評価方法(基準)	期末レポート 60%、授業中課題 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室
備考	

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	前回の授業での VTR について課題を提出する。実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	前回の授業の課題を提出する。実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	前回の授業で紹介した VTR についてまとめ、提出すること。
5	社会的学習 (1)	学習とは学校での勉強のことではなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
6	社会的学習 (2)	子どもたちは様々な社会・環境から影響を受け経験を積んでいく。事実に基づいた出来事を紹介し、社会的学習について考察する。	VTR について自分なりの考えをまとめ、提出すること。
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
8	動機づけ (1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	動機づけ (2)	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えを A4 用紙にまとめ提出する。
10	動機づけ (3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響を受ける動機について事例や実験を通して解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
11	パーソナリティ (1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	パーソナリティについての課題を提出すること。
12	パーソナリティ (2)	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
13	パーソナリティ (3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	パーソナリティ (4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	パーソナリティテストの結果について自分なりに解釈し A4 用紙にまとめ提出する。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考えておく。

関連科目	心理学 II と併せて履修することが望ましい。
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。 【定期試験 50%、レポート課題 30%、小テスト 20%】
-----------	---

学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合があります。
-----------	--

担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部事務室)
備考	授業の中で、QRコードを利用した質問に回答を求め、その場で心理学の問題について解説する場合があります。携帯にQRコードを読み取るアプリを入れておいて下さい(LINEのQRで読み込めます)。携帯を忘れた場合、ガラケーの方の場合でも紙での回答ができます、安心して下さい。その場合、申し出て下さい。 QRによる回答を求める場合、後日QRにより課題を提出する場合、また紙によるレポート提出などがありますので、指示に従い回答、提出して下さい。

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、社会的現実と対比した日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人の関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTR等を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学とは何か、社会、集団の中でおこる心理	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。	VTRについて自分なりの考えをまとめA4用紙により提出する。
2	知覚(1)	人間理解につながる「見えのしくみ」について概説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	知覚(2)	知覚の種類や見えに及ぼす社会的影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	知覚(3)	心理学の基礎実験の1つである「ミュラーリヤーの錯視」実験を実施する。心理学におけるデータの取り扱い方、考え方や人間の知覚行為についての理解を深める。	授業で指示された課題について回答を行うこと。
5	対人関係(1)	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
6	対人関係(2)	人はどのような事をきっかけに親しくなっていくのか、実験によって科学的に証明された「対人魅力」について説明する。	授業で指示された課題について回答を行うこと。
7	対人関係(3)	「対人魅力」について説明する。親しくなっていく要因について更に解説する。また好きと愛の行動パターン、自己の愛のタイプについて実際に考えてみる。	授業で指示された課題について回答を行うこと。
8	集団(1)	リーダーシップについて説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	集団(2)	集団について理解を深める。集団のもつ持つ影響力として「同調」について説明する。	授業で指示された課題について回答を行うこと。
10	集団(3)	集団について理解を深める。集団のもつ持つ影響力として「服従」について説明する。	授業で体験した伝達現象について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
11	集団(4)	ジンバルドーが行った「監獄実験」について説明する。	VTRについて自分なりの考えを指示に従ってまとめ提出する。
12	うわさ	うわさによるパニック行動、うわさの分類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	授業で指示された課題について回答を行うこと。
13	援助行動(1)	援助行動の形成や発達の仕方について、また援助行動が行われる状況、行われない状況とはどのような状況か、意思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	援助行動(2)	援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。ソーシャルサポートの重要性について解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考える。

関連科目	心理学Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。 【定期試験50%、レポート課題30%、小テスト20%】
----------	--

学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合があります。
担当者の研究室等	11号館6階(経営学部事務室)
備考	授業の中で、QRコードを利用した質問に回答を求め、その場で心理学の問題について解説する場合があります。携帯にQRコードを読み取るアプリを入れておいて下さい(LINEのQRで読み込めます)。携帯を忘れた場合、ガラケーの方の場合でも紙での回答ができます、安心して下さい。その場合、申し出て下さい。QRによる回答を求める場合、後日QRにより課題を提出する場合、また紙によるレポート提出などがありますので、指示に従い回答、提出して下さい。

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大高 和香・大谷 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。また、「リノベーション」の実習を体験し、初歩的な知識と技術を修得する。
到達目標	将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。

授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
----------	---------------------

科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。
--------------	-----------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	インテリアの常識	身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	インテリアの構成要素	住空間を構成する主な要素について学び、知識を深める。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	デザインスタイルの基礎	第5回目から第7回目までの授業の前段としてデザインスタイル全般について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	デザインスタイルの分類 (1)	モダン系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	デザインスタイルの分類 (2)	ナチュラル系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	デザインスタイルの分類 (3)	クラシック系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	j実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(1)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーションを作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(2)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーション作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	「団地のリノベーション」作品講評会 (1)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	「団地のリノベーション」作品講評会 (2)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	「団地のリノベーション」作品講評会 (3)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	住まいの色彩計画	色彩計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	住まいの照明計画	照明計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う	試験に備えて、これまでの復習をしておくこと

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義まとめテスト: 60%、受講態度 (出席・講義メモ・課題・小テストなど): 40%を、合わせて評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	自分の周りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。きっと新しい発見があることでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	12号館7階、8号館3階 大谷教授室
----------	--------------------

備考	出欠・遅刻に関する規定は、理工学部に準ずる。
----	------------------------

科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Politics I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、皆さんは政治に参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	学生の皆さんが政治と政治学についての基本的な知識を獲得できるとともに、政治に積極的に参加しようという感情を育み、自分自身でいかなる政策、政党、候補者がよいのかを考えて意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治に参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識を獲得することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と政治・政治参加の必要性について授業します。	予習・復習：政治・政治参加の必要性を理解し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	政治と権力①～政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	政治と権力②～正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、デモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	国際政治の二つの観点②～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～湾岸戦争とその結果	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くことになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の社会学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、リアクションペーパーと予習・復習テスト 40% 正当な理由がなく出席が規定回数に満たない学生は、単位を取得できないことがあります（10回以上は出席すること。出欠管理システム以外の出席は認めません）。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治や政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館 10階 和田講師室			
備考				

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

教養科目

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、皆さんは政治に参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、日本政治史、地方自治、政治哲学にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	学生の皆さんが政治と政治学についての基本的な知識を獲得できるとともに、政治に積極的に参加しようという感情を育み、自分自身でいかなる政策、政党、候補者がよいのかを考えて意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治に参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識を獲得することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	戦前日本の政治体制①～大日本帝国憲法の問題点	戦前の日本の政治システムを考えるうえで必要な、大日本帝国憲法の重要箇所について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
2	戦前日本の政治体制②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
3	戦後日本の政治体制①～GHQによる占領と日本国憲法の成立	GHQによる日本占領政策の開始と日本国憲法の成立過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
4	戦後日本の政治体制②～戦後復興の諸問題	激しいインフレと食糧難に苦しむ戦後日本の経済状況と政府の経済政策について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
5	戦後日本の政治体制③～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化と激しいインフレにともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
6	戦後日本の政治体制④～独立と55年体制の成立	吉田政権の外交政策と55年体制について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
7	戦後日本の政治体制⑤～岸内閣と安保闘争	岸内閣における60年安保闘争と新日米安全保障条約の内容について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
8	戦後日本の政治体制⑥～沖繩編入問題と田中派の隆盛	佐藤内閣の沖縄返還、ならびに自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
9	戦後日本の政治体制⑦～80年代の日本政治	「戦後日本の総決算」と豪語した中曽根政権を中心に、80年代の日本政治の経過について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
10	戦後日本の政治体制⑧～政治改革と55年体制の崩壊	90年代の政治改革、ならびに55年体制が崩壊していった背景や理由、その結果について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
11	戦後日本の政治体制⑨～自公連立政権から民主党政権へ	村山談話や行政改革、郵政民営化など、55年体制崩壊から現在の安倍政権までの各政権の重要政策の特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
12	地方自治～地方自治の本旨と地方分権改革	日本の地方自治の特徴と今世紀の地方分権計画について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
13	古代の政治学～プラトンとアリストテレス	古代の政治学の目的とその特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
14	社会契約論～ホッブズ、ロック、ルソー	古代の政治学のテーゼに反論しつつ展開された社会契約論者の基本的な特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめてお

					く。
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、倫理、日本史、世界史など。大学の社会学、倫理学、国際政治など。				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで	仲正昌樹編	法律文化社	
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	
	3				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、リアクションペーパーと予習・復習テスト 40% 正当な理由がなく出席が規定回数に満たない学生は、単位を取得できないことがあります (10 回以上は出席すること。出欠管理システム以外の出席は認めません)。				
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治や政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。				
担当者の 研究室等	11号館 10階 和田講師室				
備考					

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、ささみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	History of the World
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

教養科目

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。			
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。			
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。			
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	歴史を学ぶにあたって(1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
	2	歴史を学ぶにあたって(2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	3	歴史を学ぶにあたって(3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	4	都市を窓に世界史をみる(1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	5	都市を窓に世界史をみる(2)	都市は文明とともにあった、世界史的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	6	都市を窓に世界史をみる(3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	7	中国都市(1)	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	8	中国都市(2)	1000年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	9	中国都市(3)	近現代を先取りしたウォーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
	10	中国都市(4)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	11	中国都市(5)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	15	ヨーロッパ都市	小さな都市への帰帰、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
関連科目	特になし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。			
学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体 (すさみ町役場地域未来課) と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有 (昨年度までの成果の説明) と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性化とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。</p> <p>今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果 由良町の抱える問題について学びます。</p> <p>3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。</p> <p>4. 商品開発についての調査</p> <p>5. 商品開発のアイデア出し</p> <p>6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など)</p> <p>7. 商品完成後の取組(販売促進活動)</p> <p>8. ふりかえり</p> <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山県由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなします。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣. 川上 比奈子. 松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要と基本方針の説明 プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定 プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行 アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む) 体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやルブリック評価表などで総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生な学生を中心に募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 鶴坂 貴恵. 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト> 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。 <開発プロジェクト> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。</p> <p><企画プロジェクト> 1. 情報分析および情報収集を行う。 2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。 3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する。 4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。</p> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 釣本 聖司
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法 (基準)	汎用的能力 (40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決 (30%)、貢献度 (30%) について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動の中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か?そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 鶴坂 貴恵, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校区域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校区域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション(アイスブレイキング、グループワーク) ②フィールドワークⅠ(例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場) ③フィールドワークⅡ(例えば、地元運動団体、地元商店街) ④フィールドワークⅢ(例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等) ⑤学習会(例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける) 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示(中間報公開を兼ねる) ※小学生・保護者・協働協議会会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループブック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例:寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。 読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。 																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。 紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。 答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がよくなると思います。 プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明） 学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築に関する講義（担当教員による）、意見交換） 学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有） 学内研修③（同上） 紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有） 学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討） 学内研修⑥（同上） 紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内研修⑦（中間報告会準備） 11. 中間報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内研修⑧（最終報告会準備） 学内研修⑨（最終報告会準備） 学内研修⑩（最終報告会準備） 最終報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ＆エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 ・活動全体の評価</p> <p>【年間計画（予定）】 4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習（座学による） ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備（ポスター、観戦ガイド、PV等の制作） ホームゲーム観戦促進活動、ホームゲーム戦運営補助、枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体 (すさみ町役場地域未来課) と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有 (昨年度までの成果の説明) と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性化とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー (学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開 (寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント (枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント (茨木市)、スポーツ教室運営 (門真市)、地域のITスキル測定と教育 (摂津市)、歴史資産の展覧会企画 (河南町) などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。</p> <p>今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果 由良町の抱える問題について学びます。</p> <p>3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。</p> <p>4. 商品開発についての調査</p> <p>5. 商品開発のアイデア出し</p> <p>6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など)</p> <p>7. 商品完成後の取組(販売促進活動)</p> <p>8. ふりかえり</p> <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山県由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなします。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣・川上 比奈子・松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要と基本方針の説明 プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定 プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行 アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む) 体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやルブリック評価表などで総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生な学生を中心に募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 鶴坂 貴恵. 船越 英資
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト> 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><企画プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報分析および情報収集を行う。 2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。 3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する 4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 釣本 聖司
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法 (基準)	汎用的能力 (40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決 (30%)、貢献度 (30%) について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動の中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か?そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 鶴坂 貴恵, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校区域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校区域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション (アイスブレイキング、グループワーク) ②フィールドワークⅠ (例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場) ③フィールドワークⅡ (例えば、地元運動団体、地元商店街) ④フィールドワークⅢ (例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等) ⑤学習会 (例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける) 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示 (中間報公開を兼ねる) ※小学生・保護者・協働協議会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	企画書 (15%)、活動報告書 (15%)、取り組み姿勢 (50%)、ループブック (20%) を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例:寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。 読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。 																		
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明） 学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築に関する講義（担当教員による）、意見交換） 学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有） 学内研修③（同上） 紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有） 学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討） 学内研修⑥（同上） 紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内研修⑦（中間報告会準備） 11. 中間報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内研修⑧（最終報告会準備） 学内研修⑨（最終報告会準備） 学内研修⑩（最終報告会準備） 最終報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B○, C科：II◎, L科：DP2◎, DP5△, DP6△, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科：DP1◎, DP7◎, N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ&エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 ・活動全体の評価</p> <p>【年間計画（予定）】 4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習（座学による） ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備（ポスター、観戦ガイド、PV等の制作） ホームゲーム観戦促進活動、ホームゲーム戦運営補助、枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。</p>																
担当者の研究室等	<p>吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 小川 宣子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修: 自己紹介の原案を考える。 ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修: 企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修: NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修: 問題プリント①を解く。 ・事後学修: 問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修: CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニングー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修: 自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案するためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から行う(とくにCSRに関するもの)。	・事前学修: 各自がテーマを見つける。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修: グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修: プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修: 最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	大学教養入門	科目名(英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一・石井 三恵・伊藤 謙・大塚 正人・寺内 睦博・藤林 真美・水野 武・柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	この科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。 (2)ABDによる読書法を身に付けている。 (3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)国連アカデミックインパクトについて討議することができる。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。 (6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。ABD法等の協働学習の方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が見につくのか グループワーク「教養とは何か?」	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	2	教養入門：「大人の教養」第7章 日本と日本人	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第7章 日本と日本人」	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	3	教養入門：第1章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	4	教養入門：第2章 宇宙	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	5	教養入門：第3章 人類の旅程	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	6	教養入門：第6章 歴史	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	7	教養入門：中間成果発表1	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	振り返りレポート1
	8	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」第1章 アドラーとはどんな人であったのか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	9	自分を知る教養：第2章 アドラー心理学の育児と教養	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	10	自分を知る教養：第3章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	11	自分を知る教養：第5章 人生の意味を求めて	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し
	12	自分を知る教養：中間成果発表2	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	振り返りレポート2
	13	世界を知る教養：国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 協働学習(チームの提案) 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習：チーム学習の振り返り
	14	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 協働学習(チームの提案) 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習：チーム学習の振り返り
	15	大学教養入門	グループワーク「教養とは何か?」 事後アンケート	振り返りレポート3
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム: 30%) ・ポスター/発表 (チーム: 30%) ・振り返りレポート 3回 (個人: 30%) ・理解度確認クイズ (個人: 10%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。</p>			
担当者の 研究室等	<p>荻田喜代一 (薬学部・枚方キャンパス 1号館 6F、副学長室)、伊藤謙 (1号館 3F)、柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F)、藤林真美 (総合体育館 1F)、久保貞也 (11号館 7F)、寺内睦博 (11号館 10F)、石井三恵 (7号館 5F)、水野武 (7号館 3F)、喜多大三 (7号館 8F)、上野山裕土 (7号館 3F)</p>			
備考	<p>この科目はアクティブラーニング入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。</p>			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について考える。 ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成をする。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめる。
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
7	性役割の形成②	・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成する。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
10	中間プレゼンテーション	・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する	・事前学修: 調査考察し、発表準備をする。 ・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習する。
11	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修: アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修: アサーティブに話す練習をする。
12	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: 企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修: 興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成する。
14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修: 事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習する。 ・事後学修: 事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習する。
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修: ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修: ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目 「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。																																																										
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内で役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																																																										
授業方法と留意点	・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。																																																										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきますが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。 月に1度程度のミーティングは、木曜日6時間目に設定しています。 <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月19日</td> <td>オリエンテーション①</td> <td>プロジェクト内容や進め方の説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4月26日</td> <td>オリエンテーション②</td> <td>マネー研修</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>5月24日</td> <td>集合日①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>6月21日</td> <td>集合日②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>7月19日</td> <td>集合日③</td> <td></td> </tr> </table> <p>夏期休業期間：各グループで調査研究活動を進める。</p> <table border="0"> <tr> <td>第6回</td> <td>9月20日</td> <td>集合日④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>9月27日</td> <td>集合日⑤</td> <td>中間発表</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>10月25日</td> <td>集合日⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>11月8日</td> <td>集合日⑦</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>11月22日</td> <td>集合日⑧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>12月6日</td> <td>集合日⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>12月13日</td> <td>集合日⑩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>12月26日</td> <td>最終報告会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>同</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月19日	オリエンテーション①	プロジェクト内容や進め方の説明	第2回	4月26日	オリエンテーション②	マネー研修	第3回	5月24日	集合日①		第4回	6月21日	集合日②		第5回	7月19日	集合日③		第6回	9月20日	集合日④		第7回	9月27日	集合日⑤	中間発表	第8回	10月25日	集合日⑥		第9回	11月8日	集合日⑦		第10回	11月22日	集合日⑧		第11回	12月6日	集合日⑨		第12回	12月13日	集合日⑩		第13回	12月26日	最終報告会		第14回	同	まとめ	
第1回	4月19日	オリエンテーション①	プロジェクト内容や進め方の説明																																																								
第2回	4月26日	オリエンテーション②	マネー研修																																																								
第3回	5月24日	集合日①																																																									
第4回	6月21日	集合日②																																																									
第5回	7月19日	集合日③																																																									
第6回	9月20日	集合日④																																																									
第7回	9月27日	集合日⑤	中間発表																																																								
第8回	10月25日	集合日⑥																																																									
第9回	11月8日	集合日⑦																																																									
第10回	11月22日	集合日⑧																																																									
第11回	12月6日	集合日⑨																																																									
第12回	12月13日	集合日⑩																																																									
第13回	12月26日	最終報告会																																																									
第14回	同	まとめ																																																									
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価方法 (基準)	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%																																																										
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！																																																										
担当者の研究室等																																																											
備考																																																											

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵、石井 三恵、稲地 秀介、上野山 裕士、久保 貞也、田中 結華、藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月14日(土)	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4月21日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
3	自己の探求 4月22日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
4	今、地域で何が起きているか 5月19日(土)1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月19日(土)2限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月19日(土)3限	大都市周辺市街地と地方農山村部とでは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 6月2日(土)1限	地域とスポーツとの関連:「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには?ー 6月2日(土)2限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (田中・上野山)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
9	事前学習① 由良町関係者の講演 6月2日(土)3限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
10	事前学習② グループワーク 6月16日(土)1、2限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。

	11	体験学習 (和歌山県由良町) 6月30日(土)終日	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	12	プレゼンテーション講座 7月7日(土)1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。																
	13	事後学習① グループワーク 7月7日(土)2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② 成果発表会 7月21日(土)1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
	15	事後学習③ ふりかえり 7月21日(土)3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																			
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかりと身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																			
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																			
備考																				

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導 1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前指導 2 マナー講座・小中学校の教育現場について</p> <p>事前指導 3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動 1~25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について</p> <p>事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。																		

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何かを理解する	本科目のシラバスを精読すること。
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク(予定) ・チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	チームでの提出物20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート30%、最終レポート50%で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
----------	------------------------

備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。
----	---------------------

教養科目

科目名	地誌学	科目名(英文)	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中山 穂孝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義の目的は、地誌学の学習を通して、地理学的(空間的)な視点を用いて、世界各地の諸問題や地理的現象を把握する能力を身に付け、地域的な特徴や地域が抱える問題点を的確に理解することである。これらの理解を通じて、中学校・高等学校の教育現場で生徒たちにわかりやすく地理を教える能力が養われることも期待できる。本講義では、世界各地の地誌について学習しながら、上記の能力の習得を目指していく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地誌学の特徴を理解し、地理学的(空間的)な視点を身につける。 ・世界各地の諸問題や人々の生活などの特徴を理解する。 ・世界各地の地理的事象とその特徴や構造について理解する。 ・中学校社会科・高等学校地歴科の教員を目指す者が、中学校・高等学校で授業をするための技術・手法を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、パワーポイントで実施し、必要に応じて、映像資料や資料を配布する。 ・毎回パワーポイントを印刷したレジュを配布する。
科目学習の効果(資格)	中学社会・高校地理歴史教員職員免許

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方、地誌学の概要	事後に講義内容を復習する
2	アジア地誌(1)	日本の地域問題(都心回帰・買ひ物難民)	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
3	アジア地誌(2)	中国の人口政策とその影響	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
4	アジア地誌(3)	アジアの民族・宗教問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
5	アフリカ地誌(1)	人口爆発とその対策	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
6	アフリカ地誌(2)	アフリカの都市成長と都市問題の発生	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
7	アフリカ地誌(3)	アフリカの民族問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
8	中東地誌(1)	民族・宗教対立の根源と現状 レポート課題の説明	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
9	ヨーロッパ地誌(1)	ヨーロッパの統合	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
10	ヨーロッパ地誌(2)	移民・難民の増加と社会問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
11	ヨーロッパ地誌(3)	ヨーロッパの民族・独立運動	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
12	アメリカ地誌(1)	銃社会アメリカ	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
13	アメリカ地誌(2)	貧困とその弊害	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
14	アメリカ地誌(3)	ブラジルの日系人社会	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
15	オセアニア地誌(1)	オーストラリアの成り立ち、アボリジニの歴史と生活	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図説 世界の地域問題	漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編	ナカニシヤ出版
2	世界地誌シリーズ3 EU	加賀美雅弘編	朝倉書店
3	世界地誌シリーズ4 アメリカ	矢ヶ崎典隆編	朝倉書店

評価方法(基準)	期末テスト70%、レポート課題30%(8回目の授業で説明予定) 教職科目であるため、評価は厳しくなる。
学生へのメッセージ	大学で学ぶ地誌学は暗記科目ではありません。すべての地理的な事象には、プロセスや背景があります。これらのプロセスや背景について考えながら、講義を受けるようにしてください。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 ・授業内容を変更することがあります。

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
7	II. 多様な日本の自然 2	植生	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に

教養科目

				目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
	14	IV. 環境と私たち 1	地球温暖化や砂漠化	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
	15	IV. 環境と私たち 2/総括	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各トピック (I?IV) ごとに講義内容を要約したレポートを提出し、それをもとに評価する (レポート：100%)			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。			

科目名	地理学Ⅱ	科目名(英文)	Geography II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	窓の外にひろがる風景、大学が立地する町並み、人びとが抱くイメージなど。これらをどのように捉えることができるのか、また、どのように捉えてきたのか。それが本講義のテーマである。 言い換えると、本講義は地理学史の流れに沿いながら、＜地理学的なものの方・考え方＞について幅広く解説するものである。この方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実はわたしたちの生活のさまざまなところに活用されている。本講義を通して、身近な問題を新たな視点から捉え直すきっかけを提供したい。
到達目標	＜地理学的なものの方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。
科目学習の効果(資格)	＜地理学的なものの方・考え方＞の学習・理解を通じて、ひとつとは違った視点から身近な問題を捉えられるようになる。なお、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許取得を目指す学生にとっては必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理と地理学	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	高校までの「地理」の学習内容を振り返る(事後学習)
	2	地図とスケール1	地図の歴史と思想について	紹介した参考文献を読む(事後学習)
	3	地図とスケール2	スケール設定の意味について	「面白い」地図に関する課題に取り組む(事後学習)
	4	地誌の歴史と役割	地誌が各時代に果たした役割について	紹介した参考文献を読む(事後学習)
	5	人間と環境の関係	環境論について	環境論的思考の実例を探してみる(事後学習)
	6	農業はどのように立地するか	農業立地論について	身近な地域の農地の分布を調べる(事後学習)
	7	大都市と中小都市の関係	中心地理論について	分布図の課題に取り組む(事後学習)
	8	知識や技術の広がり方・伝わり方	空間的拡散・空間的相互作用論について	ある「イノベーション」に注目して、その拡散過程を調べる(事後学習)
	9	空間の捉え方は人によってどう異なるのか	メンタルマップのうち、空間認知研究について	手描き地図の課題に取り組む(事後学習)
	10	場所イメージはどのように作られるのか	メンタルマップのうち、場所イメージ研究について	身近な地域のマンション・アパート名を調べる(事後学習)
	11	場所への愛着	人文主義地理学について	「ふるさと」に関する課題に取り組む(事後学習)
	12	景観と風景	景観論と風景論について	紹介する参考文献を読む(事後学習)
	13	時間と空間からみた人間の行動	時間地理学について	日常の行動とその制約について考えてみる(事後学習)
	14	「男性」／「女性」にとっての空間	ジェンダー地理学について	身の周りにある「ジェンダー化された空間」を探してみる(事後学習)
	15	地理教育の役割	近代国家と地理教育の関係について	期末レポートを作成する(事後学習)

関連科目	「自然地理学」「地誌学」
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	人文地理学—その主題と課題—	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
	3	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店

評価方法(基準)	期末レポート 60%、授業中課題 40%
----------	----------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室
----------	-------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

【授業全体のあらまし】
「哲学」と聞くと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。「難しそうだな」と思うでしょうか。それとも「面白そう」とか、「深い話が聞けるかもしれない」と思う人もいるでしょうか。
辞書で「哲学」と調べると、たいてい、次の二つの意味が載っています。
一つ目は「自分自身の経験などから作り上げた人生観・世界観」というものです。このような意味での「哲学」は、「人生哲学」といったほうが正確かもしれませんが。何かの分野で成功した人や、興味深い人生観を持つ人が、このような意味での「哲学」について講演したり、本を出版することがあります。このような「哲学」を、この授業に期待してくれている人もいるかもしれません。
もう一つの意味は「世界や人間の究極の根本原理を理性的に追求する学問」というものです。これはたとえば、「タレス」という哲学者は、世界の「根本原理」を「水」と考えたとか、「プラトン」という哲学者にとっては、「根本原理」は「善のアイデア」である、とか、そのような仕方で説明されることがあります。こちらの「哲学」は、もしかすると、私たちの日常生活からかけ離れた、空想めいた話のように聞こえてしまうこともあるかもしれません。「タレス」という人が、根本原理は「水」だと言ったからといって、それと自分の人生に一体何の関係があるのだ、私たちがそのことを学ぶメリットが一体どこにあるのか、と疑問に思う人もいるかもしれません。
今挙げた「哲学」の様々な特徴?難しそうとか、でも何か深いことを言っているのではないかと、人生の大事な指針になるのではないかと、いや、単に空想めいた、日常生活からかけ離れたことにすぎないのではないかと、ということ?は、おそらく、すべて当たっているところがあると思います。その中で、私としては、できるだけ哲学の「日常生活からかけ離れた」要素は少なくして、皆さんの人生に深くかかわる可能性がある部分を集中的に扱いたいと思います。
歴史上、現代まで伝えられてきた哲学者がいます。その人たちは、死後何百年、人によっては何千年も経っているのに、まだ忘れ去られることなく、「その人の考えは今生きている私たちの参考になる」と、ずっと思われ続けてきた人々です。どこかの時代の人が「もうこの人は何の参考にもならない」と思ったとしたら、現代にまで伝わっていないかもしれません。
この授業では、このような人々の何人かを選んで、その人たちが言っていることなかで、現代を生きる私たちの参考になりそうなことを、皆さんと一緒に探っていきたいと思います。このような人々の哲学は、世界の根本原理の説明から、人生どのように生きるべきか、他者や自己とどのように付き合うべきか等、様々な要素を含んでおり、しかもそれらが密接に繋がって、一つの大きな、言わば（世界の見方）を作っています。皆さんは、その中で「これはなかなかいいな」とか「これはあまりよいとは思わないな」などと、自由な感性で考えてもらおうのがよいと思います。ただし、その際に、「なぜ自分はそう思ったのだろうか」とさらに踏み込んで考えてもらおうと、これらの人々のことも、自分自身のこと、さらに深く理解できるようにするのではないかと思います。
授業では、西洋哲学史上の著名な哲学者を十数名扱う予定です。しかし、一部変更がある可能性がありますので、その際はご承知願いたいと思います。

【各学部・学科の教育目的に基づいた位置づけ】
本授業は、本学経営学部経営学科のDP（ディプロマ・ポリシー）1における「社会人として必要な教養」と、CP（カリキュラム・ポリシー）①における「企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野」の涵養の一環に位置付けられます（経営学部経営学科のDP、CPについての詳細は <http://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/keiei/keiei.html> を参照してください）。

到達目標

(1) 授業で扱う西洋哲学史上の人物について、①彼らの置かれた時代的背景や常識、②彼らの考えの要点（世界の見方、人はどう生きるべきか、等）、③後の時代に与えた影響の3点を、自分の言葉で他者に説明することができる。

(2) 授業で扱う西洋哲学史上の人物の考え（1の②）と、自分自身の考えを比較することで、自分自身が知らず知らずのうちにそれに根ざして行動している原理を自覚し、それを自身の言葉で他者に説明することができる。

授業方法と留意点

【授業形式】
講義を中心とする。しかし、特定のテーマについてピア・ディスカッション（机の隣のひととの議論）をしてもらうことがある。また、授業内容に関する小問題を授業中に解いてもらうことがある。

【講義時間内のスケジュール（予定）】
前回のコメントシートへの返答、前回の小問題の解説（10分?20分）
コメントシート（小問題が付く場合がある）配布、今回の講義のポイント解説（10分?20分）
講義（50分程度）
コメントシート（小問題が付く場合がある）提出（5分）

科目学習の効果（資格）

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	オリエンテーション	講義の説明
授業計画	2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（1）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	3	古代ギリシアの哲学（2）	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	4	古代ギリシアの哲学（3）	ストア派の思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	5	中世の哲学（1）	キリスト教と哲学のかかわりと、アウグスティヌスの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	6	中世の哲学（2）	キリスト教と哲学のかかわりと、トマス・アクィナスの思想の概要を扱う予定である（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	7	近代の哲学（1）	デカルトの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	8	近代の哲学（2）	スピノザ、ライプニッツの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	9	近代の哲学（3）	ヒュームの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	10	近代の哲学（4）	カントの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	11	近代の哲学（5）	ヘーゲルの思想の概要を扱う予定である	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	12	近代の哲学（6）	キルケゴールの思想の概要を扱う予定	予習：適宜指示する。

		である	復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	13	近代の哲学（7）	ニーチェの思想の概要を扱う予定である 予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	14	近代の哲学（8）	ハイデガーの思想の概要を扱う予定である 予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
	15	まとめ	予習：適宜指示する。 復習：講義内容を自分の言葉でまとめなおすこと。
関連科目	哲学 I I		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	定期試験（下の小問題を解くことができれば、解くことのできる問題を出題する） 55% コメントシートに付属する小問題 45% ※ 出席は評価方法には入らない		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室		
備考	<p>参考書等は授業時に適宜紹介します。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。</p> <p>連絡先： 貫井隆 nukui.takashi.54n★kyoto-u.jp ★は@に変えてください</p>		

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。</p> <p>この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。</p>
到達目標	<p>(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。</p> <p>(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。</p> <p>(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。</p>
授業方法と留意点	<p>講義形式</p> <p>授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。</p> <p>前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。</p> <p>授業期間中に授業の理解度を試す小テスト、小レポートを実施する。</p>

科目学習の効果(資格)	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「知」の可能性——哲学の端緒(1)	古代ギリシアの思想を通して「知」の可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
3	「知」の探求——哲学の端緒(2)	ソクラテスの思想を通して「知」の探求の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
4	近代科学の方法と哲学(1)	西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
5	近代科学の方法と哲学(2)	近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
6	近代的自我の確立——デカルト(1)	デカルトの思想を紹介し、近代的自我の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
7	合理主義の世界観——デカルト(2)	デカルトの思想から、哲学における「神」と「世界」の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
8	経験主義の認識論(1)	ロックの思想から、確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
9	経験主義の認識論(2)	ヒュームの認識論を取り上げ、人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか、という問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
10	啓蒙と理性	啓蒙主義における人間の理性への確信と、その限界について	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
11	経験主義と合理主義の総合——カント(1)	カントによる認識論の「コペルニクス的転回」を紹介し、人間の認識の限界について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
12	理性の二律背反——カント(2)	カント哲学における自然と自由の二元論と、それに基づく人間観について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
13	「ことば」とは何か(1)	ソシュールの思想を通して、言語の創造的機能について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
14	「ことば」とは何か(2)	言語と認識の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。

関連科目	哲学Ⅰ、社会学、経済倫理、社会と人権
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での小レポート等を40%、期末レポートを60%として、総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室（授業日のみ入室）
備考	<p>授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp</p> <p>提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせには、授業時間の前後に対応することができる。授業時間外での質問等は出講時に非常勤講師室にて対応することができる。</p> <p>授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回1時間程度とする。</p>

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	The Japanese Constitutional Law
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
2	憲法とは2	日本国憲法の基本原理、民主主義の原理、平和主義の原理 (第9条) について説明します。	事前に教科書19頁、217から229頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
3	基本的人権の保障1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書21頁から30頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
4	基本的人権の保障2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書31頁から40頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
5	幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権の性格と範囲、新しい人権、「法の下での平等」の意味、平等違反の違憲審査基準について説明します。	事前に教科書49頁から70頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
6	信教の自由と政教分離の原則	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の分離の限界などについて説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
7	表現の自由	表現の自由の保障の範囲と限界、表現の自由の優越的地位と二重の基準の理論について説明します。	事前に教科書83頁から94頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
8	検閲と事前抑制	表現活動を規制する方法、検閲とは何か、裁判所による表現行為の事前抑制は許されるかなどについて説明します。	事前に教科書95頁から104頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制をなどについて説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
10	社会権	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
11	刑罰と刑事手続	犯罪と刑罰、憲法と罪刑法定主義などについて説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
12	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会の権能などについて説明します。	事前に161頁から172頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
13	内閣	議院内閣制、内閣の組織と権能などについて説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立などについて説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
15	地方自治	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書207頁から216頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての憲法学 (第3版)	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、小テスト (40%) の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
-----------	--

教養科目

学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高木 純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義では、日本の歴史を概観しつつ、とくに現代の私たちが“伝統的”と観念しているような日本の諸要素について、その形成過程や歴史の実態を提示する。その際、私たちがそれらに対して抱いているイメージとのギャップに注意し、何となく“日本の伝統(的なもの)”だと思われている諸要素が、その歴史の実態において、私たちの認識とは相当程度かけ離れたものであったことを明らかにする。 半期という限られた期間であるため、ある程度日本通史を兼ねることが可能で、かつ最も重要な要素として、とくに【天皇・宗教・武士・村社会・景観】という五つのテーマを取り上げる。基本的にはテーマごとに時系列に沿って講義を進めるが、各時代の比重は必ずしも同等ではなく、テーマに応じて異なってくるはずである。
到達目標	・日本史の大まかな流れを理解し、最低限の認識・知識を身につける。 ・現代とは相当異質な社会がかつて存在したことを知ることで、現代社会を相対化する。 ・“日本の伝統(的なもの)”だと思われていた諸要素が、その歴史の実態において、私たちの認識とは相当程度異なるものであったことを理解し、そうした無理解はときに大きな危険性をもたらすことを学ぶ。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。レジュメとパワーポイントを主に使用する。 教科書はとくになし。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法などについて説明する。併せて、単なる基礎教養・知識にとどまらない歴史を学ぶことの意義や、「日本史学」という学問の特質を提示する。	シラバスを一読してくる。
2	天皇(1):天皇と「日本」の起源	日本における国家形成とその特質について、とくに大陸との関係性を意識しつつ、天皇制や「日本」という国号の成立を中心に概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
3	天皇(2):創られた近代天皇制	前回講義をふまえつつ、近代の天皇制について、前期代とは相当程度断絶した「創られた伝統」という性格に注目して考察する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
4	宗教(1):仏教伝来と神仏習合	日本における諸宗教の成立・伝来や相互の関係について、とくに「神仏習合」という観点からその特質を述べる。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
5	宗教(2):キリシタンと葬式仏教	現代に続いていくような日本的な宗教のあり方の起源や、「無宗教」と目認して顧みることのない現代の我々の心性の淵源について考える。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
6	宗教(3):国家神道とは何か	とくに国家神道を取り上げ、戦争への道を歩んでいく近代日本の宗教的・思想的状況を概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
7	武士(1):「武士」の成立	武士と貴族の意外な親近性、「武士」の身分的性格などの指摘により、従来型の武士の成立論に再検討を加える。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
8	武士(2):戦国大名の実像	とくに織田信長・今川義元を取り上げ、今でも絶大な人気を誇る「戦国大名」なる存在の歴史の実像に迫る。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
9	武士(3):武士道という幻想	「武士道」と言われて現代の私たちが想起する思想の淵源、歴史の諸段階における「武士道」なる思想の内容を概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
10	村社会(1):「村社会」日本の成立	現代に続くような村落(永続的な村、自律的・自立的な村)の成立について、中世の時代環境からのそれを説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
11	村社会(2):日本の家と村	成立した村を構成する家や、日本人の名前について、氏・姓・苗字といったものの違いにも留意しつつ概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
12	村社会(3):刀狩りと百姓一揆	「竹槍藩旗」に代表される武器を剥奪された近世民衆イメージを問い直し、日本社会の非暴力化・平和化への歴史的道の	予習:高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。

			りを示す。	復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
	13	景観(1)：里山・棚田・松原	「日本の原風景」として語られる里山・棚田・松原（いわゆる「白砂青松」）の歴史的形成過程や実態や、前近代の植生景観について考察を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
	14	景観(2)：「鎮守の森」	同じく「日本の原風景」とされる「鎮守の森」について、とくに近代的改変を意識しつつその歴史的成立や実態を明らかにする。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
	15	本講義のまとめ	本講義で述べてきたことを時系列に即して再構成しつつ、全体を総括する。	予習：これまでのレジュメ・ノートをもとに、講義をふり返しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 60%：授業内で感想・疑問などを記入したコメントペーパーを提出してもらう。 レポート 40%：授業で配付する課題文献リストから一つを選び、それについて 2000 字程度の書評レポートを提出してもらう。			
学生への メッセージ	主体的に学習する意志を持つ学生の受講を期待します。			
担当者の 研究室等	連絡先：jun01.tkg@gmail.com			
備考	自身が使用した高校・中学校日本史教科書を持参することが望ましい。 すでに捨てた、手元がないなどの場合は『もういちど読む山川日本史』等を購入して対応すること。 百科辞典・歴史辞典の収録された電子辞書の持参も推奨。 私語・携帯電話の使用等は厳禁。これを守れない場合には受講を認めない場合がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	脳の情報処理	科目名(英文)	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	講義内でのミニツペーパー、復習のための課題レポートの提出を必要とする。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	課題レポートを仕上げる
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたしている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			

評価方法(基準)	ミニツペーパー等の活動を含めた授業態度 20%、課題レポート 40%、試験 40% を総合して判断する。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 寺内研究室
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の回数を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・方が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット） ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> ・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> ・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 ・被告人質問と意見陳述 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	遺族による法廷への遺影の持ち込みをめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事前: 前回までの復習 事後: 重要事項をまとめる
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間 	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害 高齢者に対する虐待	<ul style="list-style-type: none"> ・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策 ・高齢者虐待の原因論 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・試験の成績による。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回1,5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																			

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCAについて調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客対応プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書①をする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

教養科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2○, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことや興味・関心の高いものを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿をカメラ等で撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義と語源	・事前学修: プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修: 初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間的要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修: コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修: プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修: 初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修: 自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修: 評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修: 評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修: 修正した自己紹介プレゼンをさら練習する。 ・事後学修: グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修: 評価表作成を行う。 ・事後学修: グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修: 評価表を完成させる。 ・事後学修: フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修: 紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修: 個人プレゼンを完成させる。
14	フィードフォワード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修: 個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修: 個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プレゼンテーション ZEN	ガー・レイノルズ	阪急コミュニケーションズ
	2	TED トーク 世界最高のプレゼン術	ジェレミー・ドノバン	新潮社
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の 60% で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館 5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名 (英文)	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	サービスデザインの構築による新事業をいかに創造するか、そのプロセスの概観を学習する。新商品・サービスの企画段階では、提供者（企業）、利用者（消費者）の発信する情報をいかに融合させて価値を示すのかが課題である。本授業は、Webサービスの普及において、企業・消費者等の叡智を融合する『デザイン思考 (Design Thinking)』の手法により、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのかを学ぶ。デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービスの発想の有形化を行う手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアの活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、提案活動の体験をとおして、提案を支援する思考リテラシーとコミュニケーション力を育成する。 1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのかを思考する。 2. 共創 (コラボレーション) 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを融合させ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案 共創のアウトプット (結果) を整理し、アウトカム (成果) としてまとめて、プレゼン等で発信する。 プロポーザル・デザインにかかわる、①e-Sales 商材開拓、②e-Promotion SNS 活用広報、③e-Marketing 事業推進 の課題を指定する。(これらの事業に係る企業やNPO 法人からのゲスト講演の受講機会あり。)
授業方法と留意点	授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表 (4~5名/グループ) から構成される。毎回、グループワーク・発表 (プレゼンテーション) を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。 デザイン思考は、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援手法で、異なる価値観を有する人との間で、共創活動をおして成果を導き出す狙いがある。異分野交流を期待する人に向けた領域である。
科目学習の効果 (資格)	・新聞やWeb が提供する Web デザイン関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 ・異分野の者の間のグループワークによる交流・親交の機会に接する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	サービスデザインの科学	・サービスデザイン ・Web サービスと人間系サービス ・人間中心のデザイン (Human-Centered Design) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	ケーススタディ 1	・サービスにおける人間系要素 ・メンタルマトリックス ・Web サービスの特質 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	サービスの市場	・『市場 (Market)』とは何か ・プロポーザルフレームワーク ・提案の視点 ・提案を取り巻くステークホルダー ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	『デザイン思考 (Design Thinking)』の概観	・『デザイン思考』の視点 ・デザイン思考とシステム思考 ・デザイン思考の位置づけ ・個人発表 (プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	ケーススタディ 2	・ユーザーエクスペリエンスデザイン (User Experience Design) ・カスタマーエクスペリエンスデザイン (Customer Experience Design) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	『デザイン思考 (Design Thinking)』の手順	・デザイン思考の標準ステップ ・発見 (Discover) / 定義 (Define) / 発想 (Ideate) / 実証 (Prototype) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	『デザイン思考 (Design Thinking)』の視点	・サービス提供者 (企業) と利用者 (消費者) の関係性マネジメント ・RAD (Rapid Application Development) ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	ケーススタディ 3	・プロトタイピング ・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO (chief marketing officer)、利益団体 (Interest Group) ・個人発表 (プレゼンテーション)	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	『デザイン思考 (Design Thinking)』と提案 (Proposal) 活動	・提案 (Proposal) 活動の骨子 ・ワークショップ適用事例 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	ケーススタディ 4	・B2C とデザイン思考 ・B2B とデザイン思考 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	ケーススタディ 5	・思考の発散と収束 ・演繹法と帰納法	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

			・グループワーク・発表	
	13	ケーススタディ 6	・B2B2C デザイン思考 ・ゲスト講演聴講	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	14	ケーススタディ 7	・オープンデザイン ・ビジネス実践事例 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	15	まとめ	・総合課題 ・総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考の教科書	ファン・ブイエン, アネミック/ ダールハウゼン, ヤープ/ザイル ストラ, イェル/ファンデル・ス コール, ロース	日経 BP 社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
	2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
	3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル, バス/エバズ, ルーカス/クラーセン, ロエル/ トクスター, ビーター	オライリージャパン
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、個人レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト (毎回、不定期)、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めているデザイン思考は、多様な視点で共創型の提案を進め、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論です。異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをととして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	文学から学ぶ	科目名(英文)	Literature
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。		
到達目標	作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。		
授業方法と留意点	毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。学生の関心によって、取り上げる作家、作品がシラバスとは変更する可能性もある。		
科目学習の効果(資格)	文学に対する関心と知識が深まる。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	明治の文学	近代社会へ 言文一致運動 配布したプリントを読み、理解しておく
	2	明治の文学	夏目漱石の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	3	明治の文学	谷崎潤一郎の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	4	明治の文学	森鷗外の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	5	大正の文学	佐藤春夫の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	6	大正の文学	志賀直哉の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	7	大正の文学	菊地寛の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	8	大正の文学	小川未明の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	9	大正の文学	芥川龍之介の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	10	昭和前期の文学	横光利一の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	11	戦時下の文学	中島敦の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	12	戦時下の文学	太宰治の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	13	戦争の文学	原民喜の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	14	現代文学へ	安部公房の短編を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
	15	近代の詩を読む	高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む 配布したプリントを読み、理解しておく
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	毎回最後に提出する、要点のまとめと考察(100%) 場合によっては、追加の課題を出す。		
学生へのメッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きにならしましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。		
担当者の研究室等	橋本研究室(7号館4階)		
備考	事前事後学習時間の目安 60時間。 提出された考察に対して、次の授業でフィードバックします。		

科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的
 法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法律的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることにもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。

到達目標
 ①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。
 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。

授業方法と留意点
 講義方式を採ります。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を随時配付します。

科目学習の効果(資格)
 公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。
 また、法律や政治に関する時事問題が理解し易くなります。
 さらに、法律的なものの考え方が理解できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する
2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する
3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する
4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する
5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する
6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する
7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する
8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する
9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する
10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する
11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する
12	契約と法(Ⅲ)	契約各論(続き)	随時資料を配付する
13	行政と法	行政機関の仕事	随時資料を配付する
14	紛争解決と法	争訟制度	随時資料を配付する
15	まとめ	授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。

関連科目
 憲法、民法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 定期試験の結果で評価します。

学生へのメッセージ
 学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。

担当者の研究室等
 11号館10階 小島研究室

備考
 講義の内容は、憲法と民法を中心とする基本的なものですから、ご自分に合った入門書を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読み、予習・復習を心がけるようにして下さい。これらに要する時間は通算20時間を目安として下さい。ただし、講義は入門書に書いていない事柄も少なからず含まれますので、特に講義内容の復習を欠かさずに行ってください。

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	6	マーケティングのSTPAアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
	2	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房
	3			

評価方法 (基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すぎがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験70%、講義毎回の確認ペーパー30%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでいいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。																			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	これから就職活動が始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。擴大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1~8回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月19日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月26日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月10日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月17日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5月24日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月31日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	----
8	品質教育② 6月7日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月14日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
10	原価・コスト教育② 6月21日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
11	原価・コスト教育③ 6月28日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 7月5日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
13	課題解決教育② 7月12日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
14	プレゼンテーションの方法 7月19日(木)	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7月26日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行う。
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する(7/12(木), 7/19(木)6限目)。 パナソニック講師:佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦・木多 彩子・檜橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要, 英語コミュニケーション1	パスポート, チケット予約(航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備, 英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目	ものづくり海外インターンシップ
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階 諏訪教授室
----------	-------------

備考	【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度 【共同担当者】 諏訪教授 (M科), 石田准教授 (C科), 川野教授 (M科), 理工学部インターンシップ委員会委員
----	--

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。			
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。			
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック (株) 人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/19 (木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/26 (木) 6限目 <p>宿泊実習 (パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1~3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・4~5日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得 (設計~生産) し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月1日 (土) 1~4限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会 (2回目) ・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 			
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	実習成果 40%、研修成果報告会 (2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。			
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。			

教養科目

担当者の 研究室等	奥野教授室 (1号館4階)
備考	<p> 期間：2018年8月27日(月)～8月31日(金)、9月3日(月)～9月4日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月1日(土)には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。 </p> <p> 【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。 </p> <p> 【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫 </p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	諏訪 晴彦・木多 彩子・楠橋 祥一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																
到達目標	(1) グローバル企業の現状が理解できる。(2) 英語による基本的なコミュニケーションができる。(3) 海外でのものづくりの工程を体験できる。(4) チームワークを体験できる。(5) 国際的視野を広げられる。(6) 研修成果が発表できる。																
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン1箇所とタイ1箇所を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	海外現地研修 60% (実習記録簿 20%, 実習・授業態度 20%, 実習成果プレゼン 20%), 実習前後の学習 5%, 実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会(2回) 15%として評価を行う。																
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																
担当者の研究室等	1号館4階 諏訪教授室、川野教授室、 1号館3階 石田准教授室																
備考	【注意事項】研修予定期間: 2017年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間: 20時間程度 【共同担当者】石田准教授、川野教授、理工学部インターンシップ委員会委員																

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p>
到達目標	<p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着ける。</p> <p>この講義は、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> <p>諸君としては、講義に漫然と出席して教科書を開いているだけでは目標に到達することなどあり得ず、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。</p> <p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。</p> <p>② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。</p> <p>③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。</p> <p>但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。</p> <p>但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
	2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政
	3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
	4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
	5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
	6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金
	7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
	8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価
	9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品

				・デリバティブ テキスト<P117~123> ・預貯金 ・信託 ・債券																
	10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	テキスト<P105~117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格																
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P136~153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資																
	12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト<P58~67> ・ライフプランニング																
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P68~78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題																
	14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイアメント資金」	全体レビュー																
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎</td> <td></td> <td>金融知力普及協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。) ・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。) ・平常点 : 30% (全員の受講状況と態度、質疑応答、課題・討議などを評価します。出席点ではありません。) <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。</p> <p>講義の中で提示した課題については、当日の講義中または次回の講義で検討と解説を行ないますので、知識の確認に適宜役立ててください。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行ってください。</p>																			
学生への メッセージ	<p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身につけてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p>																			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）																			
備考	<p>「事前・事後学習課題」について 予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：30分程度 復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：30分程度</p> <p>質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。 興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。</p> <p>この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>																			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭. 青笹 治. 井尻 貴之. 居場 嘉教. 尾山 廣. 川崎 勝己. 木村 朋紀. 中嶋 義隆. 長田 武. 西村 仁. 船越 英資. 丸山 如江. 宮崎 裕明. 村田 幸作. 吉岡 泰秀
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	食品微生物学(村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	細胞生命生理学(宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学(丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学(吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目 生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。

学生へのメッセージ 不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。

担当者の研究室等 1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全専任教員)

備考

科目名	倫理学	科目名(英文)	Ethics
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	いわゆる日本の高度成長期には「消費は美德」という言葉が流行した。「大量生産/大量消費社会」を賛美したものである。しかし、現在ではこれはもはや死語である。代わって、時代をリードしているのは「Mottainai」(もったいない)であるが、現代社会は本当にエコロジーを軸に転換することに成功しているだろうか。この講義では、20世紀の半ば以降、今日に至るまで社会を動かしている経済のシステムを理解した上で、それを変革するための道を探る。
到達目標	資本主義の精神的基盤について理解する。 古典的資本主義の限界と現代資本主義の特徴を理解する。 現代資本主義の限界、特に「外部問題」について理解する。 「成長の限界」において何が問われているのかを理解する。 資本主義に代わる社会のあり方について、自分なりの考えをまとめる。
授業方法と留意点	テキストを用いない「ノート講義」方式。適宜プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	現代社会の根幹をなす資本主義を理解することによって、自分たちが混沌の時代に生きていること、また、これにどう対処すべきかのヒントが得られるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	・現代=近代の特徴とは何か ・(熱い)社会と(冷たい)社会(レヴィ・ストロース) ・資本主義と成長の「神話」	事後学習 現代社会の特徴と問題点を自分なりに考えてみる。
2	資本主義社会の成立(1)	・冒険商人と資本家 ・「倫理」としての資本主義(マックス・ウェーバー)	事前学習 配付資料について自分なりの考えをまとめる。
3	資本主義社会の成立(2)	・恋愛と贅沢と資本主義(ゾンバルト) ・禁欲的生産と享楽的消費の関係	事後学習 ウェーバーとゾンバルトの着眼点の違いを整理して、現代の商品開発に当てはめてみる。
4	古典的資本主義の限界と現代資本主義	・資本主義の帰結としての恐慌と帝国主義 ・現代資本主義の登場(フォードとGMの経営戦略)	事前学習 『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
5	現代資本主義社会の特徴	・大量生産/大量消費社会 ・情報化/消費化社会におけるゆたかさ	事前学習 『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
6	産業の文明論的進化と情報化社会	・梅棹忠夫の「情報産業論」 ・情報化と脱工業化 ・情報化と消費化	事前学習 『情報の文明学』の該当箇所を読んでおく。
7	情報化と人間社会	・インターネットの発達とコミュニケーションの変質 ・ネット社会の光と影	事前学習 ネット社会の問題点を自分なりに考えてくる。
8	大衆社会と消費文化	・社会の大衆化と文化としての消費 ・情報の消費としてのマス・コミュニケーション ・消費と消尽(バタイユ)	事後学習 社会の大衆化によって形成されてきた消費文化の事例を考えてみる。
9	現代社会の「外部問題」(1)	・経済システムと物理システム ・資源・エネルギーと環境の経済的「価値」	事前学習 『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
10	現代社会の「外部問題」(2)	・貨幣の謎とエントロピー ・エコロジー経済学の可能性	事前学習 エントロピー概念についての資料を理解する。
11	現代社会の「外部問題」(3)	・社会システムの限界としての「共有地の悲劇」 ・外部問題としての南北問題 ・途上国の人口爆発と先進国の少子高齢化	事前学習 「共有地の悲劇」について調べてくる。
12	「成長の限界」をめぐって(1)	・『成長の限界』の予測とそれに対する様々な評価 ・エネルギー・資源の限界と「2050年問題」	事前学習 「算術級数的増加」と「幾何級数的増加」の意味について調べてくる。
13	「成長の限界」をめぐって(2)	・成長神話からの脱却 ・江戸時代における循環型社会 ・循環型社会の構築のための条件	事前学習 フローとストックについて調べてくる。
14	グローバル化と自由主義	・グローバル化の様々な局面 ・市場主義と経済の自由 ・リバタリアンとコミュニタリアン	事後学習 グローバル化の事例について調べてみる。
15	まとめ	・講義全体のまとめ	事前学習 これまでの講義ノートをまとめておく。

関連科目	環境倫理II
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の(精神)	M・ウェーバー	岩波文庫

	2	情報の文明学	梅棹忠夫	中公文庫
	3	現代社会の理論	見田宗介	岩波新書
評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%)、授業後のレポート、期末試験 (60%)			
学生への メッセージ	環境問題の解決のためには現代社会全体の変革が必要です。21世紀のあるべき企業の姿もそこに重なっていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階			
備考	事前・事後学習におよそ60時間必要。			

キャリア形成科目



科目名	インターンシップ基礎	科目名(英文)	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考え、3年次にビジネスインターンシップを履修するまでに実践する。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等と考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	【事前学習】なぜ仕事をするのかを考え、400字以上でまとめる。 【事後学習】配布したレジュメを熟読する。
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材したレポート」を基にグループ討議とプレゼンテーション	【事前学習】働く人を取材し、レポートを作成する。 【事後学習】グループ討議からわかったことを400字以上でまとめる。
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い事例を知る ・業界/業種とは何かを理解する ・川上～川下の概念を理解する	【事前学習】業界とは何かを調べる。 【事後学習】配布レジュメを熟読すること。
5	社会を知る④	・会社組織とは何かについて理解する ・職種について理解を深める	【事前学習】職種とは何かを調べる。 【事後学習】配布レジュメを熟読すること。
6	グループ課題の提示 ビジネスマナーを学ぶ	・グループワークの目的を理解する ・グループ課題の工程管理・学外に出て学ぶ際に必要なビジネスマナーを学ぶ	【事前学習】前期のグループ活動を振り返り、改善点を見つける。 【事後学習】学んだことを、日常生活で活かすとともに、グループの中での役割を見出す。
7	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	【事前学習】自己PRを考える。 【事後学習】配布レジュメを熟読すること。
8	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	【事前学習】自己PRを書く。 【事後学習】配布レジュメを熟読すること。
9	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	【事前学習】自分の生活習慣を見直す。 【事後学習】講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考える。
10	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	【事前学習】リーダーシップとは何かを調べる。 【事後学習】講義の内容を日常生活で実践する。
11	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	【事前学習】生活習慣に関する発表の準備をする。 【事後学習】習慣の継続かを図る。
12	グループプレゼンテーション①	・グループ課題の発表	【事前学習】プレゼンテーションの準備をする。 【事後学習】改善点を発見し、活かす。
13	グループプレゼンテーション②	・グループ課題の発表	【事前学習】プレゼンテーションの準備をする。 【事後学習】改善点を発見し、活かす。
14	グループプレゼンテーション③	・グループ課題の発表	【事前学習】プレゼンテーションの準備をする。 【事後学習】改善点を発見し、活かす。
15	授業のおさらい	・講義のおさらいと期末レポートの振り返り	【事前学習】課題の出し忘れ等がないか確認、未提出分は作成する。 【事後学習】2年生からでも参加できるインターンシップはないか確認し、参加する準備をする。

関連科目	キャリアデザイン、ビジネスインターンシップⅠ・Ⅱ、職業能力開発、キャリアプラン
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	グループワーク(10%)、提出物(40%)、レポート(50%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)
----------	---------------------

備考	
----	--

キャリア形成科目

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment design I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。</p> <p>この活動により、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。</p> <p>また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解する。</p>
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることで、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2018年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかわかるといふことについて考える契機となる。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な3つのこと～ (担当：地域連携センター 古屋豊吾)	<ul style="list-style-type: none"> ・みなさんと同じ撰大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力を関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：講義を振り返る
3	学生生活② チャンスだらけの撰南大学- 学生時代に飛躍する方法- (担当：経営学部 准教授 久保 貞也)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 撰南大学をうまく活かした先輩たち (事例紹介) (2) チャンスを失う典型的な学生 (注意喚起) (3) 撰大でチャンスを得る方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：講義を振り返る
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた10のこと (担当：教務課 池田 有紀)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の話や聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：講義を振り返る
5	学生生活④ 講義の中間まとめ (担当：キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けの実施 ・講義2回から4回のまとめ ・レポートの書き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：グループワークを振り返る/第1回「学生生活」に関するレポートを作成する
6	キャリアパス① 個別ワーク「私がNO.1プロジェクト」	<ul style="list-style-type: none"> ・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」為の計画を立て、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：設定した課題を第10回目の講義まで実践する
7	キャリアパス② 「私のキャリア」 キャリアアップを考える (担当：経済学部 教授 持永 政人)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：講義を振り返る
8	キャリアパス③ 「NO.1 プロジェクト」途中経過の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・講義6で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：講義を振り返る /グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること
9	キャリアパス④ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか？ (担当：スポーツ振興センター 准教授 藤林 真美)	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の失敗（しかし、将来への原動力につながる）から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就けるor起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：担当講師からの課題について考える ・事後学習：講義を振り返る
10	キャリアパス⑤ 講義の中間まとめ (担当：キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスの回のまとめ ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：第2回課題「キャリアパス」に関する課題を作成する
11	学修① 学修の回のオリエンテーション (担当：キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> ・学修の回のオリエンテーション ・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：グループで課題に取り組む
12	学修② 法律とスポーツと将来の職 (担当：法学部 教授 石井 信輝)	<ul style="list-style-type: none"> ・法とスポーツとの関係性は見出しにくいですが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：講義を振り返る
13	学修③ 講師のキャリア事例から「キャリア」を考える (担当：経営学部 講師 西之坊 穂)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んできた「キャリア」は何か、キャリアについてあらためて考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：講義を振り返る
14	学修③	<ul style="list-style-type: none"> ・講義11で取り組んだ課題をグループ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：グループワークを振り返る/グループ

	課題「グループで課題研究」の発表	ごとに発表する。	課題を提出	
15	講義のまとめ(担当:キャリア教育推進室)	・エンプロイメントデザインIの振り返り	・事後学習:講義を振り返る/第3回課題「講義の最終レポート」を作成する	
関連科目	キャリアデザイン・インターンシップ基礎・エンプロイメントデザインII			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	毎回のミニッツペーパー(15%)、グループワーク(15%)、グループ課題(10%)、レポート3回(60%)、を総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	学生生活4年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の研究室等	7号館5階キャリア教育推進室(石井) 7号館3階キャリア教育推進室(水野)			
備考	教科書:各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書:各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment design II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵, 上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 また、さまざまな職業についての理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション(キャリア教育推進室)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・事後学習: 講義の感想を提出
	2	「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」(商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学習: 講義の感想を提出
	3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介するDVDの上映も行います。	・事後学習: 講義の感想を提出
	4	ソフトウェアエンジニア、起業、NPO活動、海外へ行って仕事をする、常に目標を持ち続けること(ICT開発/代表)	キャリアデザインの一つの参考事例として、これまで歩んできたキャリアパスをお話しします。 ソフトウェアエンジニアとして仕事を始め、インターネット時代の到来とともに起業、その後の仕事の考え方、10年間取り組んだNPO活動「子どもサポートプロジェクト」、そして現在取り組んでいる台湾への仕事の展開をお話しします。	・事後学習: 講義の感想を提出
	5	プログラマーを目指して摂南大学に入学してからNPO代表になるまで(摂大OB/NPO法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器にNPO法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学習: 講義の感想を提出
	6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学習: 講義の感想を提出
	7	金融業界と銀行業務について(金融)	金融業界と銀行業務について、自分のキャリアをも含め、詳しくお話しします。	・事後学習: 講義の感想を提出
	8	新卒での就職活動で全てが決まる!? (摂南大学OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・事後学習: 講義の感想を提出
	9	信用金庫の歴史と社会的使命(金融/人材開発)	・信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。	・事後学習: 講義の感想を提出
	10	中間まとめ(キャリア教育推進室)	講義の中間まとめを行います。	・事後学習: 中間レポートを作成する(提出期間は概ね2週間)/ここまでの講義から最も印象を受けたゲストのお話を振り返る
	11	中間まとめのグループワーク	・グループワークを実施します。	・事前学習: 次週のグループワークの準備をする ・事後学習: グループ課題について振り返る
	12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・事後学習: 講義の感想を提出
	13	今求められる公務員像(摂南大学OB/市役所職員)	・あるべき姿からありたい姿へ職業としての公務員-経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・事後学習: 講義の感想を提出
	14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学習: 講義の感想を提出
	15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事後学習: 最終レポートを作成する

関連科目: キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

キャリア形成科目

	3		
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (60%)、グループ課題 (10%) を総合的に判断する。		
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。		
担当者の 研究室等	7号館5階キャリア教育推進室 (石井) 7号館3階キャリア教育推進室 (水野)		
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。		

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて、考える ・公と私について考える	【事前学習】自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること。 【事後学習】「公と私」について、学び、考えたことを400字でまとめる。
2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	【事前学習】大学で学ぶ意味について考えること。 【事後学習】大学で学ぶことについて、考えたことを400字でまとめる。
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く	【事前学習】摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解するために、大学のHPを見てくること。 【事後学習】大学の中にある「機会」の活用の仕方を考え、何に挑戦してみたいか、400字でまとめる。
4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	【事前学習】学生生活の目標を考えてくる。 【事後学習】設定された個人ワークに取り組む。
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	【事前学習】社会人としてのマナーとはどのようなものかを考える。 【事後学習】チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考える。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	【事前学習】社会で求められる人材について考える。 【事後学習】社会で求められている力とは何か、400字以上でまとめる。
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	【事前学習】GDPについて調べ、まとめる。 【事後学習】経済・金融と私たちの生活の結びつきについて、400字以上でまとめる。
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	【事前学習】配布資料を熟読すること。 【事後学習】ディスカッションから、社会問題の一つを選択し、自分の意見を400字以上でまとめる。
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	【事前学習】自分のよいところを100挙げてくる。 【事後学習】自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴いた結果を400字以上でまとめる。
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	【事前学習】大学へ入学した目的を再度思い起こしておく。 【事後学習】学生としての自分の目標を再確認し、400字以上でまとめる。
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	【事前学習】社会人基礎力とは何かを調べてくる。 【事後学習】社会人基礎力を実践する方法を考え、400字以上でまとめる。
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	【事前学習】他者に紹介したい本を選び、発表練習をする。 【事後学習】ビブリオバトルを振り返り、自分の改善点を400字以上でまとめる。
13	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	【事前学習】グループプレゼンテーションの準備を行う。 【事後学習】自分のグループの改善点を確認する。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	【事前学習】グループプレゼンテーションの準備を行う。 【事後学習】自分のグループの改善点を確認する。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	【事前学習】夏休み以降の大学生活の目標を考える。 【事後学習】目標に沿った生活を心がける。

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

キャリア形成科目

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	必要に応じて授業内でレジユメを配布する。			

科目名	キャリアプラン	科目名(英文)	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果(資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・事前学習：就職サイトなどでどんな業界があるのかを調べること。
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・事前学習：就職サイトなどでどんな会社があるのかを調べること。
4	ビジネス研究③	企業の多様なビジネスの事例を知る	・事後学習：ビジネス誌や新聞などを使ってビジネスモデルについて調べること
5	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・事後学習：自分のワークスタイルを考えること。
6	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・事後学習：グループで課題を作成すること。
7	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと
9	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・事後学習：講義で扱ったワークを元に自分の未来について考えること。
10	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・事後学習：講義で扱ったワークを元に自分について振り返ること。
11	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・事後学習：講義で扱ったワークを元に自分の特性について考えること。
12	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・事前学習：エントリーシートを作成する準備をしておくこと。
13	グループでのコミュニケーション	・グループディスカッションを学ぶ	・事後学習：自らのグループディスカッションの参加の仕方を省察すること
14	面接における対人コミュニケーション①	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・事後学習：面接時に面接官に伝えたい事柄を整理しておくこと
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・事前学習：提出物など、出し忘れが無いか確認すること。 ・事後学習：講義全体を振り返り、きたるべく就職活動の準備をしておくこと

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教養的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義での提出物と授業態度(30%)、期末レポート(50%)、授業での課題(20%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井研究室) 7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名(英文)	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。これはまた、本格的に社会生活を始める前に経験する「就職活動」においてもポイントとなるスキルです。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
授業方法と留意点	毎回、個人ワーク・グループワーク等演習を中心に進行します。主体性を持って積極的に参加することで一層の学習効果が期待できます。
科目学習の効果(資格)	双方向のコミュニケーションをとる上で必要な非言語的要素と言語的要素を体得できます。会話、文章において論理的思考で組み立てることができるようになります。ダイバーシティを考えた効果的なコミュニケーションについて理解が深まります。(対応した資格などは特にありませんが、実社会において役立つ科目です)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	(事前) シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	話す、聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。	(事後) 講義内容を復習しておく
3	言語能力開発①	正しい日本語の基礎を学ぶ。(語彙・文章について)	(事後) 講義内容を復習しておく。
4	言語能力開発②	正しい日本語の基礎を学ぶ。(敬語について)	(事後) 講義内容を復習しておく。
5	ダイバーシティコミュニケーション	多様な方々とのコミュニケーションを学ぶ。	(事後) 講義内容を復習しておく。
6	ロジカルシンキング①	論理的思考法の基礎、概要を学ぶ。	(事後) 講義内容をまとめておく。
7	ロジカルシンキング②	論理的思考法を用いて、文章を構築する。	(事後) 自己PRを完成させる。
8	中間テスト	言語表現能力(日本語力/語彙力、文章構築力)を問う。	中間テスト
9	プレゼンテーション①	論理的思考法を用いて構築した文章を効果的に伝える方法を学ぶ。	(事後) 講義で学んだことを実践する。
10	プレゼンテーション②	論理的思考法を用いて構築した文章を効果的に伝える方法を学ぶ。	(事後) 講義で学んだことを実践する。
11	グループディスカッション①	ディベート型ディスカッションを体験する。	(事後) 講義で学んだことを実践する。
12	グループディスカッション②	問題解決型ディスカッションを体験する。	(事後) 講義で学んだことを実践する。
13	面接演習①	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	(事前・事後) 自己PRやアピールポイントなどを整理しておく。
14	面接演習②	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	(事前・事後) 自己PRやアピールポイントなどを整理しておく。
15	講義の振り返り	全体のまとめとレポート作成	(事後) 全ての範囲を確認しておく。

関連科目: キャリアデザインⅡ、数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準): 平常点40% テスト&授業期末レポート30%、中間テスト15%、プレゼンテーションなど15%

学生へのメッセージ: 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかなければなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」です。ビジネスにおいても同様です。社会を形成する一要素がビジネスなのだから当然ですね。だから「学生に一番求める能力は？」というアンケートで、コミュニケーション能力は10年以上もずっと1位であり続けるのです。さあ、その能力を、今から一緒に磨いて行きましょう！

担当者の研究室等: 出講日は7号館2階の非常勤講師室にいます。

備考: 決まった居室はありません。授業外で質問がある際は、授業前後の時間に受け付けます。(但し、毎回対応できるとは限りません)。できるだけ授業内で質問をするようにしてください

キャリア形成科目

科目名	職業能力開発	科目名(英文)	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>【目的】 社会生活およびビジネスに必要な社会的基礎力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的基礎力<論理的な思考力、新しいアイデアを生み出す発想力、チームワーク力>の向上を目指す。</p> <p>【概要】 日本の産業の変遷の視点からビジネスパーソンに求められる能力の変化について理解し、その能力の獲得方法について考える。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の産業の変遷を理解する ビジネスにおいて求められる力を理解し、その獲得のために行動変容を起こせるようになる チームで成果物を創出する 自らのやる気の源泉を考えられるようになる
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて講義を行う。授業ではグループワークを多用するので能動的に自ら考えて答えを出すように心掛けてください。
科目学習の効果(資格)	ビジネス社会で必要な能力を習得し、活用することができる。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。 職業の定義を知る 	事後学修:講義の内容、進行方法を理解する
2	日本の職業指導の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 日本の作業の変遷と求められた能力の変化を知る 	事後学修:配布レジュメを熟読し、日本の産業の変遷について復習すること
3	情報編集能力を磨こう	情報編集能力を高めるワーク	事後学修:学んだことを日常生活で活用してみる
4	グループワークの提示	<ul style="list-style-type: none"> グループワークのインストラクション グループの工程管理を考える 	事後学修グループで課題に取り組むこと
5	日本の就職活動について	<ul style="list-style-type: none"> 日本の就職活動の歴史的経緯を知る 日本標準職業分類・産業分類について 	事後学修:配布レジュメを熟読する
6	営業力向上計画	「営業力とは何か」について個々で考える	事後学修:配布資料を熟読する
7	取材力向上計画	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングマインドを理解する 取材力向上を意識したワークを実施する 	事後学修:学んだことを日常生活で活用してみる
8	グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> 講義④の課題のグループ発表 	発表の準備をしておく
9	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ①	<ul style="list-style-type: none"> ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る 	事後学修:講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考える
10	ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ②	<ul style="list-style-type: none"> ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る 	事後学修:講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考える
11	問題解決の事例を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 実社会で起こった問題の解決事例とその対処について知る 	事後学修:講義で扱った内容以外でも実ビジネスの事例を収集すること
12	グループで創出する①	グループで課題に取り組み、課題解決策を考える	事後学修:グループでの取り組みを内省すること
13	グループで創出する②	グループで課題に取り組み、課題解決策を考える	事後学修:グループでの取り組みを内省すること
14	内省する技術	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学生生活を振り返って今後活かす方法を知る 	事前学修:今までの学生生活を振り返り、他者に伝えられるようにまとめておく
15	講義のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 講義の振り返り 	提出物等、出し忘れが無い確認すること

関連科目 キャリア能力の向上を目指す科目と連動する。自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業での提出物(40%)、グループワーク(20%)、期末レポート(40%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。皆さんの就業力を伸ばす方法を一緒に考えましょう。

担当者の研究室等 7号館3階キャリア教育推進室 水野研究室

備考 講義に関する質問には積極的に対応します。

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『キャリアのための数的思考』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『キャリアのための数的思考』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアのための数的思考	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 小テスト: 40%、中間テスト・最終テスト: 50%、SmartSPI: 10%

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること。

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアのための数的思考	キャリアラボ	キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考
 授業では『キャリアのための数的思考』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。また Smart SPI も利用します。

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	資料収集の方法 フィードバック	文献の検索について学ぶ 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階（非常勤講師室）
----------	----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポート計 3 回の提出は必須。場合によっては再提出も求める。このうち 1 回でも提出がないと単位認定はできないので注意してください。
----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもつてのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室） 学習支援センター
----------	------------------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	GH
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成と要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック 要約の復習	課題 1 のフィードバック 要約の復習をする	課題 1 を見直す
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
8	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前で適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	10	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告するをする	報告文の準備
	14	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	前回の復習
3	レポートの書き方②	レポートの構成について再確認する	前回の復習
4	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意表現①	敬語表現の基本を確認する	前回の復習
6	敬意表現②	尊敬語と謙譲語の使い分けを身につける	前回の復習
7	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	前回の復習
8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	前回の復習 テーマの下調べ
9	ディスカッション②	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	プレゼンテーション①	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
11	プレゼンテーション②	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	課題②	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
13	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	授業の総括	これまでの授業の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	課題(60%)、授業への取り組みなど(40%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	1年	クラス	GH
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 レポートの書き方	授業の目的、進め方の説明 レポートの構成、資料の引用の仕方を学ぶ	———
	2	レポートの書き方	資料引用の復習 考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	前回の復習
	5	手紙の書き方 敬語の復習	手紙の書き方を学ぶ 敬語の復習をする	前回の復習
	6	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	7	課題1のフィードバック (1) ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッション用資料の要約などを行う	ディスカッションの準備
	8	課題1のフィードバック (2) ディスカッション(1)	課題1のフィードバック グループ分けをして、ディスカッションをする	ディスカッションの準備
	9	課題2のフィードバック (1) ディスカッション(2)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	10	課題2のフィードバック (2) ディスカッション(3)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	11	プレゼンテーション(1)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション(2)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告分の準備
	14	敬語の復習	ロールプレイング形式で、敬語を使った会話の練習をする。	敬語の復習
	15	小テストの復習テスト 電子メール	小テストの復習テスト 電子メールのマナーと書き方を学ぶ	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

キャリア形成科目

科目名	ビジネスインターンシップ I	科目名 (英文)	Business Internship I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学習：インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事後学習：ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事後学習：業種の分類を理解し、インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事後学習：プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学習：第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。 ・事後学習：自らのプレゼンテーションを省察すること
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事後学習：講義の内容を踏まえ、マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事後学習：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事後学習：マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学習：履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学習：グループ内の自分の役割を考えておくこと。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学習：グループの最大の力を出すために、自分に何が出来るかを考え、プレゼンテーションの準備をすること
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事後学習：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学習：プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学習：プレゼンテーションの準備をすること。 ・事後学習：自分以外の発表者のプレゼンを振り返ること
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事後学習：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準) 発表(40%)、レポート等の提出物(30%)、授業態度(30%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ インターシップの流れは以下のとおりである。
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の研究室等 7号館5階 キャリア教育推進室(石井)
7号館3階 キャリア教育推進室(水野)

備考 教科書・必要に応じてレジュメを配布
参考書・必要に応じて推薦図書を提示
インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。
なお、事前事後学習には毎回1時間以上かけること。

科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名(英文)	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月16日(土) 2限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事後学習：マナーについて考えること。
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事後学習：実習中は毎日日誌をつけること。
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事後学習：実習中は毎日日誌をつけること。
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事後学習：実習中は毎日日誌をつけること。
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学習：事前に立てた目標について省察を行うこと
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事前学習：伝達していた通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。提出期限を厳守すること。
8	事後学修① 9月22日(土) 1限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
9	事後学修② 9月22日(土) 2限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
10	事後学修③ 9月29日(土) 1限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
11	事後学修④ 9月29日(土) 2限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
12	事後学修⑤ 10月13日(土) 1限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習：実習記録簿を見直してくること。
13	事後学修⑥ 10月13日(土) 2限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事前学習：実習記録簿を見直してくること。
14	事後学修⑦ 10月20日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学習：学生代表者はパワーポイントで10分で報告できるように準備すること。
15	事後学修⑧ 10月20日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	・事後学習：発表者の内容及び講演者の話から自らのキャリア形成について考えること

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	1. 「ビジネス・インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「ビジネス・インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
----------	---------------------

備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際はスーツを着用してくること。
----	---

キャリア形成科目

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manners I
学部	経営学部	学科	経営情報学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な対応から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社外文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

キャリア形成科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

教 職 科 目



科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを1冊準備してください。授業でレジュメを配布予定としていますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史の変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史の変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新教育課程ライブラリ (Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2			
3			

評価方法(基準) 出席(全15回出席が当たり前、少なくとも8割以上出席必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(実施予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(グループでの発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ 以下の項目、必ず守ってください。
1. 第一回目の授業は必ず出席すること。
2. 欠席・遅刻はしない。
3. 授業中、むやみやたらに入ったり、私語、飲食はしない。
4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む(グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない)。

	<p>5. 毎回授業内容の復習をする。</p> <p>6. テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。</p> <p>7. 授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に行くこと。</p>
担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	<p>2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 テキストに代わる配布資料 (『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい) を使用予定) については事前に該当箇所を配布します。</p>

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。これを通して、私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について考え、理解を深めます。
到達目標	例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが見えてくるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
	2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。
	3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
	4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
	5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。
	6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
	7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。
	8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき	テキスト第3部を読んでくる。
	9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
	10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。
	11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。
	12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・サービス管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
	13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。
	14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
	15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることが目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。とはいえ、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考察する。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについても一度考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要素である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史的变化と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変化してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史的变化を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へとという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西洋教育思想史	眞壁宏幹	慶應義塾大学出版会
	2			
	3			

教職科目

評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーの内容 (30%) や、学期末試験の結果 (70%) をもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をします (マイナス点やペナルティも課されます) ので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・小山 裕樹・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教育実習への準備と心がまえ等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
3	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
4	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
5	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
6	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
7	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
8	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
9	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
10	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
14	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
15	まとめ		

関連科目 教職課程で学んだ全科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。

学生へのメッセージ 教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。

担当者の研究室等 吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室(7号館3階)
小山研究室(7号館4階)

備考 教育実習体験発表会(10月末土曜日)、教育実習総括講義(11月末土曜日)には原則として必ず出席すること。
ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。
担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(小山研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(小山研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ向向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももります(授業時間外に実施する場合もある)。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておく。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。

科目学習の 効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。	事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。
3	マイノリティと教育I	マイノリティ体験ワークショップの実施。	事前課題: 小テスト対策
4	マイノリティと教育II	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考える。	事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。
5	マイノリティと教育III	予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)による学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりの実施。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
6	教育格差・学力格差問題I	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。
7	教育格差・学力格差問題II	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞(予定)	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
8	教育格差・学力格差問題III	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。	事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
9	学校教育の現場を知るI	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
10	学校教育の現場を知るII	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
11	学校教育の現場を知るIII	前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、小グループに分かれ発表する。	事前課題: 小テスト対策、発表資料の準備をしてくる。
12	ジェンダーと教育I	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークの実施。	事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
13	ジェンダーと教育II	ジェンダー問題を扱った映画鑑賞(予定)。	事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
14	ジェンダーと教育III	ジェンダーにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら考える。	事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。
15	総括	まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題: 小テスト対策、教科書の第10章の要約。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習I」「教職実践演習」「各教科教育法」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない長期、短期の無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは今後する予定、過去に経験したことがある）ことが必須条件とします。学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)………道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	教育原理, 教育相談
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	・授業内で、moodleを使用することがあります。利用できるようにしておいてください。 ・定期テストは希望者に返却します。

教職科目

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目 教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	グループ発表 50% 期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。

教職科目

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得、および、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの体験により構成する。授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを経験する。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教育方法学の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	授業をどうデザインするか(計画論) チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	教育の道具・素材・環境(教材論) チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	何をどう評価するか(評価論) 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① 第5・6グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	12	ICTを活用した授業をつくる ② 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	13	インクルーシブな授業をつくる チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	15	まとめ〜学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教育の方法	佐藤学	左右社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考																				

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・小山 裕樹・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目(教職実践演習を除く)の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・3回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を問い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。

	10	「甘え」と「自律」の教育学入門①	従来の常識的な見方では、「甘え」を脱して「自律」に至ることが「教育」の理想とされてきた。本講義では、この常識的な見方に対して、様々な角度から再検討を加えていく。第一回目は、特に子どもの「甘え」について教育学的に考える。	(事前) 子ども「甘え」や自分自身の「甘え」について改めて考え直しておく。 (事後) 講義内容を踏まえたうえでの小レポートを提出する。																
	11	「甘え」と「自律」の教育学入門②	第一回目の講義内容を踏まえつつ、第二回目は、特に子どもの「自律」について教育学的に考える。まさに大人へと「自律」しようとしている大学生諸氏とともに探究してみたい。	(事前) 子どもの「自律」や自分自身の「自律」について改めて考え直しておく。 (事後) 二回分の講義内容を踏まえたうえでの論述試験を課す。																
	12	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	13	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(小山)																			
備考																				

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%

学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	出席(全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。)、課題・レポート(提出の締め切りは厳守すること)、平常点(授業への貢献度、模擬授業等)、及び、小テストや最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席扱いとするので注意すること。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さん自身が授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。また、毎時間、講義開始時に社会科の教員としての知識を問う小テストを行う予定です。詳細については第一回目の授業で説明し、資料等も配布します。第一回目の授業を休まれる方にはそれら一切お渡ししません。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育のあり方が問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(主権者教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 (4) 政治教育、主権者教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項:各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学:社会科、高校:公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1):ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2):ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1):ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1):各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2):ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2):各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(主権者教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育(主権者教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括-社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席(全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。)、課題・レポート(提出の締め切りは厳守すること)、平常点(授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験(予定)により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します(前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし)。			

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名(英文)	Geography and History Education MethodⅠ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井上 正英
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。	事後 授業終了時に指示する。
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。	事後 授業終了時に指示する。
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。	事後 授業終了時に指示する。
4	学習指導案の作成について1	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
5	学習指導案の作成について2	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。	事後 授業終了時に指示する。
6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。	事後 授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。	事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅱ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館 1階 教務課
----------	-------------

備考	
----	--

教職科目

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	井上 正英
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討議する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出	

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館 1階 教務課
備考	

科目名	商業科教育法	科目名(英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	久井 孝則
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期は、商業高校の教育課程の特徴について理解を深める。そのために、学習指導要領に示された「商業科」の科目について、その目指す学力観及び指導内容と留意点を明らかにしていく。また、商業教育の課題と展望を通して、次代を担う教員としてどのような教育を行うべきかを考察する。 後期は、模擬授業を中心に行い、お互いに評価をし合うことにより、発表者の授業に対する教材研究、教材提示、板書法や教育姿勢などについて考察する。
到達目標	①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。 ②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。 ③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式の授業だけではなく、模擬授業などの実践授業を取り入れ課題や調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行う。 あらかじめ学習資料を渡すので、必ず事前学習をしてもらうこと。特に学習指導計画案の作成や模擬授業では、綿密な資料研究が必要である。
科目学習の効果(資格)	本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目である。商業高校では、様々な分野の専門科目を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができる。

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	商業教育の必要性和意義	(1)高等学校における商業教育の必要性 (2)商業教育の意義	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
3	わが国の商業教育の歩み	(1)新制商業教育の開始まで (2)学習指導要領(試案)から平成11年の改訂まで	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
4	学習指導要領(平成21年3月告示)とその理解	(1)教育課程の編成方針 (2)教科[商業]の理解 (3)「総合的な学習の時間」の理解	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
5	各科目の学習内容とそのねらい(基礎的科目「ビジネス基礎」)	(1)目指す学力観 (2)指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
6	各科目の学習内容とそのねらい(マーケティング分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「マーケティング」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
7	各科目の学習内容とそのねらい(ビジネス経済分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「ビジネス経済」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
8	各科目の学習内容とそのねらい(会計分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「簿記」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
9	各科目の学習内容とそのねらい(ビジネス情報分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「情報処理」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
10	各科目の学習内容とそのねらい(総合的科目)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)「ビジネス実務」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
11	指導計画と授業展開①	(1)教育課程と学習指導 (2)指導計画 (3)指導形態と指導方法	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
12	指導計画と授業展開②	(1)年間指導計画作成の実際 (2)学習指導案作成の実際 (3)プレゼンテーションと授業	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
13	「商業教育と人間形成」と「商業科教師への期待」	(1)商業教育と進路指導・キャリア教育 (2)新しい時代における教師のあり方	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
14	商業教育の課題と展望	(1)魅力ある商業教育を目指して (2)確かな学力の育成 (3)商業教育の理解と啓発	〔事前〕教科書の当該章を熟読しておくこと
15	前期のまとめ		
16	後期のガイダンス「模擬授業演習に向けて」	学習指導計画案のモデル作成	
17	基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導計画案の作成	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと
18	基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておくこと
19	ビジネス情報分野「情報処理」の学習指導計画案の作成	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと
20	ビジネス情報分野「情報処理」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておくこと
21	会計分野「簿記」の学習指導案の作成①	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと
22	会計分野「簿記」の模擬授業①	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしておくこと

	23	会計分野「簿記」の学習指導案の作成②	(1) 次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2) 板書計画案の作成	〔事前〕 模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと																
	24	会計分野「簿記」の模擬授業②	(1) 模擬授業 (2) 評価表・自由感想表の作成 (3) 発表	〔事前〕 模擬授業のシミュレーションをしておくこと																
	25	ビジネス経済分野「ビジネス経済」の学習指導計画案の作成	(1) 次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2) 板書計画案の作成	〔事前〕 模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと																
	26	ビジネス経済分野「ビジネス経済」の模擬授業	(1) 模擬授業 (2) 評価表・自由感想表の作成 (3) 発表	〔事前〕 模擬授業のシミュレーションをしておくこと																
	27	マーケティング分野「マーケティング」の学習指導計画案の作成	(1) 次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2) 板書計画案の作成	〔事前〕 模擬授業の範囲の内容について、予習しておくこと																
	28	マーケティング分野「マーケティング」の模擬授業	(1) 模擬授業 (2) 評価表・自由感想表の作成 (3) 発表	〔事前〕 模擬授業のシミュレーションをしておくこと																
	29	総合的科目「総合的科目の教育の進め方」	(1) 課題研究 (2) 総合実践	〔事前〕 配布された資料を熟読しておくこと																
	30	後期のまとめ																		
関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力がある。簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教職必修最新商業科教育法</td> <td>日本商業教育学会</td> <td>実教出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教職必修最新商業科教育法	日本商業教育学会	実教出版株式会社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教職必修最新商業科教育法	日本商業教育学会	実教出版株式会社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 商業編</td> <td>文部科学省</td> <td>実教出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 商業編	文部科学省	実教出版株式会社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 商業編	文部科学省	実教出版株式会社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	小テスト・レポート50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等) 50%とし、総合的に判断して評価する。																			
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。																			
担当者の 研究室等																				
備考	最初の授業に自分の出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。																			

科目名	情報科教育法	科目名 (英文)	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	高等学校の共通教科「情報」の目標や授業方法についての理解を深め、授業研究、教材設計、指導計画、評価方法について、ディスカッションや模擬授業などの演習を行いながら、実践的な教育方法を修得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、プロジェクターを用いて講義を行う。教員免許に関する科目であり、指導案の作成、模擬授業などの実習を行いながら進めるため、無断欠席は厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
2	情報教育の意義と役割	情報教育の実践と教育の情報化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
3	共通教科「情報」と専門教科「情報」の構成	共通教科「情報」の内容構成、専門教科「情報」の内容構成	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
4	共通教科「情報」における各科目の内容	「社会と情報」「情報の科学」の学習目標、内容、教育方法	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
5	専門教科「情報」における各科目の内容	専門教科「情報」の科目群の学習目標、内容、教育方法	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
6	共通教科「情報」の指導方法 (1)	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
7	共通教科「情報」の指導方法 (2)	課題分析の方法、進め方	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
8	共通教科「情報」の指導方法 (3)	評価の目的と対象、評価対象の具体化	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
9	共通教科「情報」の指導方法 (4)	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
10	模擬授業 (1)	教育目標の明確化	模擬授業の教育目標を立てる (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
11	模擬授業 (2)	年間指導計画、学習指導案の書き方	指導計画書、学習指導案を作成する (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
12	模擬授業 (3)	教材研究の方法	教材研究の準備をする (120分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
13	模擬授業 (4)	授業分析、授業評価	模擬授業の準備をする (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
14	学習環境の整備と情報教員の役割	電子黒板、デジタル教材、教育環境の整備	課題に基づいて教材設計を行う (120分)	配付資料の該当箇所を読んでおく (30分)
15	前期のまとめと学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前期の内容を整理する (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
16	学校教育と著作権	教材開発の方法と教育現場での著作権	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
17	情報教育の実践例 (1)	情報とコンピュータの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
18	情報教育の実践例 (2)	アルゴリズムとプログラムの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
19	情報教育の実践例 (3)	モデル化とシミュレーションの指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
20	情報教育の実践例 (4)	問題解決の指導例	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)	配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (60分)
21	魅力ある授業の展開 (1)	学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け	配付資料の該当箇所を見直しておく (60分)	配付資料の該当箇所を見直しておく (60分)

	22	魅力ある授業の展開 (2)	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	配付資料の該当箇所を見直しておく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
	23	魅力ある授業の展開 (3)	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	配付資料の該当箇所を見直しておく (60分) 次回の内容を確認する (30分)
	24	模擬授業の展開 (1)	「社会と情報」の指導計画、学習指導案の作成	指導計画書、学習指導案を作成する (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	25	模擬授業の展開 (2)	「社会と情報」の模擬授業、相互評価	模擬授業の準備をする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	26	模擬授業の展開 (3)	模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	27	模擬授業の展開 (4)	「情報の科学」の指導計画、学習指導案の作成	指導計画書、学習指導案を作成する (120分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	28	模擬授業の展開 (5)	「情報の科学」の模擬授業、相互評価	模擬授業の準備をする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	29	模擬授業の展開 (6)	模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする (60分) 配付資料およびテキストの該当箇所を読んでおく (30分)
	30	全体のまとめと学力診断テスト	全体のまとめと確認テスト、これからの教師に求められる授業力	全体の内容を整理しておく (120分)
	関連科目	情報関連科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社情 311 最新社会と情報 新訂版	監修：山極隆	実教出版
	2	最新社会と情報新訂版(社情 311) 準拠 社情 311 最新社会と情報 新訂版 学習ノート	実教出版編修部	実教出版
	3	高等学校学習指導要領解説 情報編	文部科学省	開隆館出版販売
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート課題、授業中の成果物等 (30%)、模擬授業 (40%)、小テスト (20%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価する。演習が中心となるため、欠席・遅刻は授業内容や成績評価に影響します。			
学生へのメッセージ	学習者に対して授業を行うためには、周知な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に講義に参加して下さい。			
担当者の研究室等	11号館8階(栢木教授室)			
備考	必要に応じて資料を配布する。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見直しについて考えること。
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
9	「労働すること」を考える	・仕事をする事の意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	レポート提出の準備をすること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。
また、前期最終時にレポートを実施します。

学生へのメッセージ
「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。

担当者の研究室等
7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)

備考

教職科目

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	本科目のシラバスを熟読すること。
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	・提示する資料を熟読すること。
5	フリーター・ニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、発表できるよう準備
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	自らの節目について考えて下さい
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	就業力育成のための企画を考えること。自らの適性の活かし方について考えること。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	・発表の準備をすること。
12	就業力向上計画立案②	11回目で考えた内容を発表する	・発表の準備をすること。
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読すること。
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	配布資料を熟読すること。
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。

学生へのメッセージ 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 キャリア教育推進室(水野)

備考

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
	2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
	3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
	4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
	5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
	6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
	7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
	8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
	10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
	11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 80%、レポート 20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
----------	---

学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
----------	-------------

備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポート課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。
----	---

科目名	道徳教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加えたいうえで、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたいうえで、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行いますが、「道徳科」の学習指導案を書く演習等も適宜取り入れます。また、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道徳教育をどのように考えるか	①現在道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②道徳の読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道徳教育の内容①:自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐる、「自我」(＝「私」)について道徳教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②:他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐる、道徳教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐる、道徳教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」をめぐる、道徳教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道徳教育について再考する。
10	道徳教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐる、道徳教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグによる道徳性の発達理論(およびギリガンによるその批判)について検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道徳教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳科」の位置づけについて考える。	授業時に指示する。

			②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。																	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性</td> <td>下司晶</td> <td>世織書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、課題として作成してもらう「道徳科」の学習指導案の内容(4%)、学期末試験の結果(66%)をもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をします(マイナス点やペナルティも課されます)ので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動（児童会活動）、学校行事について、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流する。
到達目標	子どもたちが、さまざまな集団活動に自主的、実践的に取り組み、多様な他者と協働し、互いのよさを認め合い、発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決するために必要な資質・能力を育成する育成できるよう、また、自己の生き方について考えていくための資質・能力を育成できるよう、実践的な指導ができる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	特別活動の目的・内容・方法 ワーク①「キャラ」をめぐる	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動（ホームルーム活動）その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動（ホームルーム活動）その2 ワーク③学級活動（係・班・当番・委員）の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動（児童会活動）・学級行事 ワーク④学校行事（運動会・体育祭・文化祭等）の思い出	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①いじめ（その1）	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②不登校	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③暴力	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 即興劇・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
10	特別活動における評価 グループワーク④インクルーシブ教育（外国にルーツ）	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。学習事項を整理する。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤進路指導・キャリア教育	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 即興劇・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥インクルーシブ教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	特別活動とキャリア教育 グループワーク⑦ジェンダー	特別活動におけるキャリア教育の位置づけ、進路選択支援の課題 即興劇・交流	教科書第14章を読んでおく。学習事項を整理する。
14	学習指導要領（特別活動）について グループワーク⑧いじめ（その2）	現行学習指導要領の特徴、次期学習指導要領改定の要点 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。学習事項を整理する。
15	特別活動の指導計画・指導案の作成と全体のまとめ	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 集団的な自尊感情を育むことの重要性について	配布プリントを読んでおく。 全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、中間レポート (30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力することに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				

発行 2018年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室】

